

情報とデータサイエンス I a・b・c

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 横溝一浩

科目コード：INF101

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習と講義

単位数：2 単位

概要 パソコンによる情報処理操作の基本および IT の動向、AI やデータサイエンスの理解と活用について学ぶ。情報を発信するためのプレゼンテーション能力や処理リテラシーを身につけるとともに、データの取り扱い・読み解くための基本的なデータサイエンスの 基本を学び、society5.0 に対応できるようにする。

到達目標 パソコン操作に必要な OS やファイルの扱い方を理解し、コンピュータサイエンスの基本を学び、各種アプリケーションの操作を通して情報リテラシーの基本を修得する。また、データ（文字・数値・図形）の基本的操作を習得しつつデータサイエンスの基本を学び、現在及び将来に有益な IT 利活用能力を高める。

授業計画		
第 1 回	履修上の注意、授業計画、履修申告方法の説明。 情報化社会（society5.0）とは何か、ICT で変わる教育現場（GIGA スクールについて）	事前 ICT、GIGA スクールなどの言葉を調べ、自分なりに理解をする。 事後 授業の目的、心構えを再確認する。
第 2 回	PC の基本 Windows へのサインイン・基本操作・終了操作、その他の OS について	事前 第 1 章を読んで理解しておく。 事後 授業の操作の復習をする。
第 3 回	文字入力 テキストエディタ（メモ帳）を使った文字入力、キーボードの機能と日本語の入力	事前 第 2 章を読んでおく。可能であれば操作してみる。 事後 授業の操作の復習をする。
第 4 回	ペイントソフトとファイル操作・メール操作 クラウドストレージの使い方（クラウドサービスの種類）、フォルダの探索	事前 第 3 章、第 4 章を読んでおく。可能であれば操作してみる 事後 授業の操作の復習をする。
第 5 回	Word による文書の作成・表の作成	事前 第 5 章を読む。可能であれば操作してみる。 事後 授業の操作の復習。課題ファイルの作成・確認
第 6 回	Word 以外のワープロソフト ドキュメント、 Pages の操作	事前 ドキュメント、Pages を起動し、可能であれば操作してみる。 事後 授業の操作の復習。課題ファイルの作成・確認
第 7 回	Excel の基礎 表計算のしくみと簡単な計算	事前 第 6 章を読む。可能であれば操作してみる。 事後 授業の操作の復習をする。
第 8 回	Excel の応用① 関数・グラフ・データ操作	事前 第 6 章を読む。可能であれば操作してみる。 事後 授業の操作の復習をする。
第 9 回	Excel の応用② 成績処理	事前 第 6 章を読む。可能であれば操作してみる。 事後 授業の操作の復習をする。
第 10 回	Excel 以外の表計算ソフト スプレッドシート、Numbers 等	事前 スプレッドシート、Numbers を起動し、可能であれば操作してみる。 事後 授業の操作の復習をする。
第 11 回	コンピュータとネットワーク 情報とセキュリティ	事前 第 9 章、第 10 章を読む。 事後 授業の復習と各自で所有する P C、タブレット、スマホのスペックを確認する。
第 12 回	PowerPoint の基本操作 PowerPoint 以外のプレゼンテーションソフト（スライド、Keynote 等）	事前 第 7 章を読む。可能であればスライド、Keynote を起動し操作してみる。 事後 AI 時代の心構え、データサイエンスの方法について理解を深める。
第 13 回	PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成①	事前 第 7 章を読んで要領を理解しておく。 事後 スライドの作成要領と描画の復習。
第 14 回	PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成②	事前 第 7 章を読んで要領を理解しておく。 事後 スライドのデコレーションと仕上げの復習。
第 15 回	PowerPoint を用いたプレゼンテーション発表	事前 前回作成したファイルの確認と発表練習。 事後 発表の振り返りと他者評価のまとめ

フィードバック 必要時、提出課題等についてコメントを付けフィードバックする

成績評価 提出課題・小テスト等 50%、発表 40%、主体的な授業への関わり 10%

テキスト 森本 尚之 著、奥村 晴彦 著『[改訂第 5 版] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社(ISBN:978-4297137656)

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する

アクティブ・ラーニング 自己紹介スライドをプレゼン発表し、自己表現能力の確認と気づきを能動的に得る。

備考 事前事後学習の際には、座学に加え、パソコン実機による操作を行うことを推奨する

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□	□	☑	□	☑	☑

情報とデータサイエンスⅡ	
非常勤講師 横溝一浩	科目コード：INF201
専門／学年：全専門／2 年次	
形態：演習と講義	単位数：2 単位
概要	情報とデータサイエンスⅠで学んだ知識・技能をさらに深め、今後 Society 5.0 において必要となる、データ（数値・文字）に基づく的確な判断や意思決定を行うための知識・技能を養う。講義の中では、定量分析では教育現場における評価、定性分析では歌詞の分析に焦点を当て進めていく。
到達目標	IT を活用したデータマイニングやテキストマイニングの基礎知識を身につけ、数学的な計算ではなく処置結果の意味を理解する力を養う。データサイエンスの考え方や活用方法を理解し、DX（デジタル技術による変革）に対応できる実践的な問題解決能力を高める
授業計画	

第 1 回	履修上の注意、教室の PC 環境について、授業計画の説明 データドリブン社会への移行とデータサイエンス ～AI 活用への道のり～	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 学修した知識や機能を復習し、データサイエンスを学ぶ理由について説明ができる	135 分 135 分
第 2 回	文字データの取り扱い① 基本的な文書の作成、表やオブジェクトの挿入	事前 情報とデータサイエンスⅠで学んだ Word の基本操作について理解しておく 事後 授業の内容を振り返り、基本的な Word の操作について復習する	135 分 135 分
第 3 回	文字データの取り扱い②（複数ページの文書、レポート・論文などの作成） ヘッダー・フッターの挿入と編集。段組み、目次の作成、脚注について	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、文書の完成形を理解しておく 事後 授業の内容を振り返り、学修した知識や機能（メニューの操作）を復習する	135 分 135 分
第 4 回	データリテラシーの基礎 データの収集と抽出方法 母集団と標本、尺度、図表による要約 ～データから何を読み解くか～	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、母集団・標本・尺度の言葉の意味を調べる 事後 後 授業の内容を振り返り、母集団からのデータの抽出方法を復習する	135 分 135 分
第 5 回	データリテラシー① 代表値（平均値・中央値・最頻値）からデータの意味を読み解く	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、代表値の意味を理解しておく 事後 業の内容を振り返り、代表値のそれぞれの特徴について理解しておく	135 分 135 分
第 6 回	データリテラシー② いろいろな平均（平均、トリム平均、調和平均）が持つ意味	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、平均にはどのような種類があるか調べる 事後 授業の内容を振り返り、平均とトリム平均の違いについて整理する	1135 分 135 分
第 7 回	データリテラシー③ データの散らばりを見る（四分位偏差、分散、標準偏差、偏差値）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業の内容を振り返り、データの集団の捉え方を整理する	135 分 135 分
第 8 回	データリテラシー④ 2つのデータの関係を見る（相関、共分散、回帰、因果関係）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 2つのデータの取り扱いとして相関関係と因果関係の違いについて理解する	135 分 135 分
第 9 回	データリテラシー⑤ 標本の特徴から母集団の性質を推測する（統計的検定）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業の内容を振り返り、統計的検定の限界についても理解する	135 分 135 分
第 10 回	回 テキストマイニング①文章（歌詞や小説等の）の基本 単語出現頻度(TF-IDF 法)、共起キーワード、2次元マップなどテキストマイニング	事前 AI テキストマイニングツールのサンプルデータで文章を分析する 事後 授業の内容を振り返り、文章の分析方法を整理する	135 分 135 分
第 11 回	テキストマイニング②文章（歌詞や小説等の）の分析 感情分析、ボジネガ分析、AI による文章要約	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業の内容を振り返り、学修した知識や機能を復習する	135 分 135 分
第 12 回	プレゼン資料の作成①	事前 分析したい文章 1（小説や歌詞など）を準備する 事後 分析結果を整理する	135 分 135 分
第 13 回	プレゼン資料の作成②	事前 分析したい文章 2（小説や歌詞など）を準備する 事後 分析結果を整理する	135 分 135 分
第 14 回	プレゼン資料の作成③	事前 AI による文章要約と感情分析を比較する 事後 プレゼン資料をまとめる	135 分 135 分
第 15 回	プレゼンテーション（発表会）	事前 プレゼンテーションの準備をする 事後 発表の振り返りと他者評価を行う	135 分 135 分

フィードバック 必要時に、提出課題等についてコメントを付けフィードバックする

成績評価 提出課題等 70%、発表会 20%、授業態度 10%を目安に総合的に評価する

テキスト テキスト
適宜資料を配布する

参考図書
1. 笛田薫,松井秀俊 著『Society 5.0 を生き抜くための必須教養 Excel で学べるデータサイエンス入門講義』日経 BP (ISBN:978-4296200146)
2. 岡田 朋子 著『エクセルで学習するデータサイエンスの基礎 統計学演習 15 講』近代科学社 (ISBN :978-4764960565)
3. 牛澤 賢二 著『やってみよう テキストマイニング ―自由回答アンケートの分析に挑戦!』朝倉書店 (ISBN: 78-4254122619)

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する

アクティブ・ラーニング テーマに沿ったスライドの作成とプレゼンテーションにより、自己表現能力の確認と気づきを能動的に得る

備考 事前事後学習の際には、パソコン実機による操作を行うことを推奨する

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	

文学

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：HUM201

専門／学年 全専門／2 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 文学の一形態であり、音楽をはじめとするさまざまな芸術のインスピレーションともなって来た総合芸術である演劇は、文化や世相を映す鏡でもある。この授業では、シェイクスピアから現代ミュージカルにまで至る英米演劇の代表的な作品をとりあげ、その日本語訳（およびその抜粋やあらすじ）を読み、映像のあるものは部分的に映像を視聴し、内容や背景を知り、より深く作品を理解することを目指す。

到達目標 英米演劇の各作品について知り、戯曲の読み方に慣れ、人の心の動きや歴史、文化などの背景知識を理解する。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション、演劇とは？ エリザベス朝演劇とシェイクスピア	事前 配布するプリントを読んでおくこと。 120 分 事後 エリザベス朝演劇とその地域、時代について整理する。 150 分
第 2 回	シェイクスピアの喜劇 1：『十二夜』（前半）	事前 『十二夜』の抜粋およびあらすじを読んでおくこと。 120 分 事後 シェイクスピアの喜劇について整理する。 150 分
第 3 回	シェイクスピアの喜劇 2：『十二夜』（後半） スキット	事前 『十二夜』の抜粋を声に出して読み、スキットとして演じてみる。 120 分 事後 教室で観る『十二夜』の映像について感想をまとめる。 150 分
第 4 回	シェイクスピアの恋愛劇：『ロミオとジュリエット』	事前 配布するプリントで『ロミオとジュリエット』のあらすじを読んでおくこと。 120 分 事後 シェイクスピアの作品を整理する。 150 分
第 5 回	シェイクスピアの悲劇 1：『マクベス』（前半）	事前 『マクベス』について調べておくこと。 120 分 事後 シェイクスピアの四大悲劇について整理する。 150 分
第 6 回	シェイクスピアの悲劇 2：『マクベス』（後半）	事前 配布するプリントで『マクベス』のあらすじおよび抜粋を読んでおくこと。 120 分 事後 『マクベス』について感想をまとめる。 150 分
第 7 回	シェイクスピアの悲劇 3：『ハムレット』（前半） あらすじ、オフィーリア「尼寺の場」	事前 配布するプリントで『ハムレット』のあらすじを読んでおくこと。 120 分 事後 『ハムレット』の「尼寺の場」の映像を YouTube 等で視聴する。 150 分
第 8 回	シェイクスピアの悲劇 4：『ハムレット』（後半） DVD 視聴、まとめ	事前 配布するプリントを読んでおくこと。 120 分 事後 『ハムレット』について感想をまとめる。 150 分
第 9 回	『アマデウス』 ビーター・シェーファー（1979）（前半）	事前 配布するプリントで『アマデウス』について読んでおくこと。 120 分 事後 『アマデウス』のあらすじを読む。 150 分
第 10 回	『アマデウス』 ビーター・シェーファー（1979）（後半） DVD 視聴	事前 モーツァルト（およびサリエリ）の生きた時代背景について調べる。 120 分 事後 『アマデウス』の抜粋を読む。 150 分
第 11 回	『わが町』 ソーントン・ワイルダー(1938) アメリカ コミュニティの理想と現実	事前 配布するプリントで『わが町』のあらすじを読んでおくこと。 120 分 事後 1900 年代からのアメリカの変化を調べる。 150 分
第 12 回	『ガラスの動物園』 テネシー・ウィリアムズ(1945) 追憶の劇	事前 配布するプリントで『ガラスの動物園』のあらすじを読んでおくこと。 120 分 事後 アメリカ演劇の展開について整理する。 150 分
第 13 回	ミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』 1 時代背景	事前 配布するプリントを読んでおくこと。 120 分 事後 オーストリア併合、第二次世界大戦等の時代背景を調べる。 150 分
第 14 回	ミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』 2 ストーリー・ミュージカルへ	事前 『サウンド・オブ・ミュージック』の実話について調べる。 120 分 事後 『サウンド・オブ・ミュージック』の感想をまとめる。 150 分
第 15 回	まとめ	事前 今学期の講義のノートを見直しておくこと。 120 分 事後 理解が不十分だった点について調べること。 150 分

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付けて返却する。

成績評価 成績の評価は、学期末に提出するレポート 50% と授業への取り組み方 50% とによる。

テキスト 必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

アクティブ・ラーニング 取り上げる戯曲の一部をスキットとして演じてみる。自分たちなりの解釈、演出を試みる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	現代社会における具体的な哲学の諸問題について取り上げる。ディベート形式によるテキストを読み解くことにより、哲学的な思考を養うことができる。また、哲学的な問題に踏み込み、議論することで、今まで気づけなかったことが見えるようになる。

到達目標	現代社会における哲学の諸問題を理解し、説明することができる。哲学の諸課題について自ら考え、自らの意見を言うことができる。
------	--

授業計画															
第 1 回	はじめに	—	哲学とは何か、カントの普遍的道徳、功利的快楽主義などについて学ぶ。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 2 回	人命	—	いかに産むべきか、日本における生殖医療の可能性について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 3 回	代理出産について	—	出自とプライバシー、出自を伝えるべきかを考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 4 回	ベビー・ビジネス	—	ベビー・ビジネスの市場のひろがり、代理母の権利について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 5 回	人権	—	どのように罰するべきか、被害者と加害者の人権、死刑の方法について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 6 回	死刑	—	応報主義と人道主義、死刑と文化について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 7 回	終身刑	—	正当防衛と予防主義、終身刑と国民感情について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 8 回	自由	—	何をしても許されるのか、自由と責任について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 9 回	メーガン法	—	性犯罪更生プログラムと行動療法、行動療法の効果について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 10 回	売春	—	自己主張とパターナリズム、自己決定権の意味、自己決定権の揺らぎについて考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 11 回	尊厳	—	いかに死すべきか、「最善の選択」とは何かについて考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 12 回	安楽死	—	安楽死の新たな基準、生命の質と安楽死について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 13 回	自殺	—	普遍的道徳とパターナリズム、文学者にとつての「死」と医学者にとつての「死」について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 14 回	文化	—	食べるとはどのようなことか、文化における「食」、文化相対主義の特徴について考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。										180 分
第 15 回	まとめ	—	生命の授業 哲学の授業を通じて、自らの人生観、世界観を確立する。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。										90 分
				事後	テキストを読み返し、自らの人生観、世界観を確立する。										180 分

フィードバック リアクションペーパー・課題に対し、次週の授業でコメントを行い、受講生の意見を共有し省察する。

成績評価 講義に対するリアクションペーパー(20%)やテーマごとの課題レポート(80%)により、総合的に評価する。

テキスト 高橋昌一郎『哲学ディベート』日本放送出版協会 （授業時に教科書として使用する）

オフィスアワー 質問などがある場合には、授業後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	□

到達目標

1. 日本国憲法に規定されている人権の基礎的な知識を習得する。前提として、憲法の精神を理解する。
2. 選挙制度について正しい知識を身に着ける。
3. 社会問題に興味を持ち、自身の見解を持つ。

授業計画				
第 1 回	導入：日本国憲法の制定経緯、位置づけ	事前	日本国憲法についての既存の知識をまとめる。	120 分
		事後	事前課題と講義の内容を比較し、講義内容を復習する。	150 分
第 2 回	法体系：憲法、法律、条例、省令、判例、契約	事前	憲法、法律、条令、省令、判例、条約の関係について考察する。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 3 回	憲法の規定事項：人権と統治	事前	日本国憲法の条文を確認する。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 4 回	基本的人権：幸福追求権と法の下での平等	事前	幸福追求権・平等権について、既存の知識をまとめる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 5 回	基本的人権：精神的自由（特に表現の自由）	事前	精神的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 6 回	基本的人権：経済的自由	事前	経済的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 7 回	基本的人権：身体的自由	事前	身体的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 8 回	基本的人権：社会権	事前	社会権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 9 回	基本的人権：参政権ほか	事前	参政権に関連する権利について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 10 回	統治：選挙制度	事前	選挙制度についてまとめる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 11 回	社会問題：非嫡出子、夫婦別姓、同性婚	事前	非嫡出子、夫婦別姓、同性婚について、問題となっている論点をまとめる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 12 回	社会問題：子供の権利、外国人の権利	事前	子供の権利、外国人の権利はどの程度保障されているか、検討する。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 13 回	社会問題：一票の較差	事前	一票の較差とは何かを調べ、現在の選挙に関する較差につき自身の見解を検討する。	120 分
		事後	講義レジュメを復習する。	150 分
第 14 回	社会問題：裁判員裁判	事前	裁判員裁判について調べておく。死刑制度についての自身の見解をまとめる。	120 分
		事後	講義レジュメを復習する。	150 分
第 15 回	講義の復習	事前	これまでの講義を振り返り、全体を復習する。	120 分
		事後	講義レジュメを復習する。	150 分

フィードバック

授業内での解説

成績評価

試験 50％、授業への積極的な参加度 50％

テキスト

レジュメを講義時に配布する。それ以外のテキストがあれば、講義内で指定する。

オフィスアワー

質問等は随時講義終了後又はメールにて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	□

心理学

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 佐藤典子

科目コード：NAT201

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	本科目は、心理学の基礎的な概念や理論、研究法を学び、心理学とはいかなる学問であるかを正しく理解することを目的とする。心理学の歴史や代表的な理論、研究者を紹介し、心理学の諸領域を基礎から応用まで広く概観していく。知覚、認知、学習、発達、社会、臨床、パーソナリティなど心理学の諸領域の代表的研究を紹介することを通して、心理学の全体像をつかんでいくことを目指す。
到達目標	1．心理学とはどのような特徴を持つ学問であるかについて、自分の言葉で簡潔に説明できるようになる。 2．人の心の仕組みと働きについて、基本的な心理学的知識の理解に基づいた説明ができるようになる。 3．心理学の諸領域の代表的な研究について理解した上で、自分の言葉で説明できるようになる。
授業計画	

第 1 回	オリエンテーション ～心理学とはなにか～	事前 シラバスに目を通し、この科目履修の目的を明確にする。 事後 この科目の学習計画を立てる。	40 分 60 分
第 2 回	心理学の歴史	事前 教科書第 1 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 3 回	学習心理学	事前 教科書第 2 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 4 回	生理心理学	事前 教科書第 3 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 5 回	知覚心理学	事前 教科書第 4 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 6 回	認知心理学	事前 教科書第 5 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 7 回	中間試験とまとめ	事前 授業ノート（前半）を見直しておく。 事後 試験後の解答について自分で確認・振り返る。	80 分 20 分
第 8 回	社会心理学	事前 教科書第 6 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 9 回	パーソナリティ心理学（1）～パーソナリティとは何か～	事前 教科書第 7 章第 1 節および第 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 10 回	パーソナリティ心理学（2）～パーソナリティの形成～	事前 教科書第 7 章第 3 節および第 4 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 11 回	臨床心理学（1）～臨床心理学とは何か～	事前 教科書第 8 章第 1 節および第 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 12 回	臨床心理学（2）～様々なアプローチ～	事前 教科書第 8 章第 3 節および第 4 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 13 回	発達心理学	事前 教科書第 9 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 14 回	神経心理学	事前 教科書第 10 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 15 回	最終試験とまとめ	事前 授業ノート（後半）を見直しておく。 事後 試験後の解答について自分で確認・振り返る。	80 分 20 分

フィードバック 授業内で行う課題については、次週の授業内において口頭でフィードバックを行う。

成績評価 試験の成績と授業への取り組みを総合しておこなう。授業への取り組みおよび小課題（30%）、中間試験の成績（35%）最終試験の成績（35%）

テキスト 板口典弘・相馬 花恵（編著）『心理学入門——こころを科学する 10 のアプローチ』講談社
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて対応する。

備考 この授業では心理学の基礎知識を学ぶことを中心の目的とするが、幅広い内容の学びは、自分や他者の客観的理解に役立つはずである。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 森田信一

科目コード: NAT202

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：講義

单位数： 2 单位

概要	音響学では、音楽を演奏する際や鑑賞する際に必要な音響的な知識を学びます。室内やホールでの楽器や歌の響き方を説明し、録音と処理の方法についても学びます。また歴史的に変化してきた音階の調律について数学的に説明します。弦楽器や管楽器のの発音の原理についても学びます。
----	--

到達目標	音階と調律の物理的な原理を理解すること。また、弦楽器やピアノ、管楽器などの発音の仕組みを理解すること。また、室内やホール の構造とその音の響き方を理解し、より良い演奏と鑑賞のための知識を習得することをねらいとする。
------	--

授業計画 楽器や各種オーディオ機器、オーディオ資料、ビデオ資料などを活用して理解を深めるように進めていく。

第1回	音響学とは	事前	音響学という用語について、音楽との関係について本やインターネットで調べておく。	140分
		事後	音響学で学ぶ項目について、授業で理解したことをまとめておく。	130分
第2回	音階の歴史	事前	西洋音楽の歴史の中で音階に着目して調べておく。	140分
		事後	授業で学んだ音階の種類についてまとめておく。	130分
第3回	音階と調律の歴史	事前	音階における調律とは何かということについて調べておく。	140分
		事後	調律の移り変わりについてまとめておく。	130分
第4回	音階と調律の成り立ち	事前	調律の種類について調べておく。	140分
		事後	音階、調律について学んだことをまとめてレポートを書く。	130分
第5回	楽器の発音の仕組み（弦楽器）	事前	楽器の種類とその分類について調べておく。	140分
		事後	弦楽器の発音原理について、学んだことをまとめておく。	130分
第6回	楽器の発音の仕組み（管楽器）	事前	管楽器の構造について本やインターネットで調べておく。	140分
		事後	管楽器の発音原理について、学んだことをまとめておく。	130分
第7回	楽器の発音の仕組み（打楽器）	事前	打楽器の構造について本やインターネットで調べておく。	140分
		事後	打楽器の発音原理について、学んだことをまとめておく。	130分
第8回	録音について	事前	電子楽器の構造について本やインターネットで調べておく。	140分
		事後	電子楽器の発音原理にと構造について、学んだことをまとめておく。	130分
第9回	録音と音響機器	事前	録音の歴史を調べておく。	140分
		事後	録音という技術が生まれて発展してきた歴史についてまとめておく。	130分
第10回	録音の処理などについて	事前	録音に使われる機器について調べておく。	140分
		事後	録音機器について学んだことをまとめてレポートを書く。	130分
第11回	室内の音響	事前	主な音楽ホールの大ささや収容人数、残響などについてインターネットで調べておく。	140分
		事後	色々なホールについてまとめておく。	130分
第12回	室内での録音	事前	音楽の演奏を録音する場合に使われるマイクについて調べておく。	140分
		事後	室内での適切な録音の方法をまとめておく。	130分
第13回	ホールの音響	事前	ホールの響きについて調べておく。	140分
		事後	ホールの音響の色々なパターンについてまとめる。	130分
第14回	ホールでの録音	事前	ホールに設置されているマイクについて調べておく。	140分
		事後	ホールにおいてどのように録音が行われているかをまとめる。	130分
第15回	全体のまとめ	事前	これまでの学習内容をまとめておく。	140分
		事後	調律、楽器、室内やホールの響きについて学んだことをまとめ、授業全体のまとめをする。	130分

フィードバック 各時間に書く小レポートについて、コメントをつけてフィードバックする。また、その内容について次の時間に復習として扱う。

成績評価 授業内での小レポートの評価を合計して成績評価とする。

テキスト 適宜プリントを配布する。
(参考資料) 楽器の科学 (日経サイエンス社, 1987), 楽器の音響学 (安藤由典, 音楽之友社, 1996)

オフィスアワー 集中講義のため、休み時間と授業終了後に教室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

音楽心理学

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 佐藤典子

科目コード：NAT101

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 この授業では、音楽心理学という研究領域で行われている幅広い研究内容についての基礎知識を身につけ、その中で使用されている方法論の理解を目指している。その上で、各自がこの研究領域の中で興味を持ったテーマについて、文献を調べ、自らの視点でレポートをまとめることで、人間生活の中での音楽についてより深く考える力を養うことも目標としている。

- 到達目標
- 1. 音楽心理学の諸研究についての基礎知識を身につける。
 - 2. この領域で用いられている研究方法を体験し、理解する。
 - 3. この領域の文献を読んで理解し、レポート作成に活用する。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーションへ講義の目的・内容・進め方などへ	事前 シラバスに目を通し、この科目履修の目的を明確にする。 事後 この科目の学習計画を立てる。 40 分 60 分
第 2 回	音楽心理学とは何か	事前 教科書第 1 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 3 回	音楽と音響	事前 教科書第 2 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 4 回	楽音の知覚	事前 教科書第 3 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 5 回	音楽の認知	事前 教科書第 4 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 6 回	音楽の記憶	事前 教科書第 5 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 7 回	音楽と他の認知能力	事前 教科書第 6 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 8 回	音楽と感情	事前 教科書第 7 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 9 回	音楽行動の発達	事前 教科書第 8 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 10 回	音楽と脳	事前 教科書第 9 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 11 回	演奏の心理	事前 教科書第 10 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 12 回	音楽の社会心理学	事前 教科書第 11 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 13 回	音楽心理学と音楽療法	事前 教科書第 12 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 14 回	産業音楽心理学	事前 教科書第 13 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。 60 分 40 分
第 15 回	最終試験とまとめ	事前 授業ノート全体を見直しておく。 事後 試験の解答を自分で確認・振り返る。 80 分 20 分

フィードバック 授業内で行う課題については、次週の授業内において口頭でフィードバックを行う。

成績評価 試験の成績と授業への取り組み等を総合しておこなう。授業への取り組みおよび小課題（25 点）、レポート（25 点）、最終試験（50 点）。

テキスト 星野悦子（編著）『音楽心理学入門』（誠信書房）

オフィスアワー 授業後、教室にて対応する。

備考 音楽心理学は人の心身と音楽の関係を探究する学問である。心は内部（脳・生理的基盤）と外部（環境・文化）から作られていることが、音楽を媒介にすることで明確に見えてくるはずである。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐

生理学																
非常勤講師　鈴木郁子												科目コード NAT102				
専門／学年：全専門／1 年次																
形態：講義												単位数　2 単位				
概要		人間の身体の仕組みについて、基礎を学習する。生体の恒常性を維持するための呼吸、循環、消化などの生理機能を理解すると共に、人間が自然環境や社会環境にどのように働きかけ、どのように適応しているかについて学習する。														
到達目標		人間と自然環境、脳・呼吸・循環・代謝などに関する基礎を学び、生体の恒常性を維持する仕組みについて理解できること、また人間の環境適応のメカニズムについて理解できることを到達目標とする。														
授業計画																
第 1 回	人間と自然環境、人間の特異性	事前	教科書の 1 章「地球環境と人間」を読み、概要をつかむ。										135 分			
		事後	「人間の特異性、命の循環」をまとめ、理解し、復習する。										135 分			
第 2 回	人間と植物・動物・微生物、変化する地球環境への対応	事前	教科書の 1 章「地球環境と人間」を読み、概要をつかむ。										135 分			
		事後	「人間と植物・動物・微生物、変化する環境への対応」をまとめ、理解し、復習する。										135 分			
第 3 回	命の誕生、心身の発達と環境、愛着	事前	教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。										135 分			
		事後	「人間らしさの発達と環境」をまとめ、理解し、復習する。										135 分			
第 4 回	呼吸の仕組み	事前	教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。										135 分			
		事後	「呼吸」をまとめ、理解し、復習する。										135 分			
第 5 回	血液	事前	教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。										135 分			
		事後	「体液」をまとめ、理解し、復習する。										135 分			
第 6 回	心臓の構造と働き、循環調節	事前	教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。										135 分			
		事後	「循環調節」をまとめ、理解し、復習する。										135 分			
第 7 回	消化吸収	事前	教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。										135 分			
		事後	「消化吸収」をまとめ、理解し、復習する。										135 分			
第 8 回	脳の働き	事前	教科書の 3 章「酸素とエネルギーに依存する脳」を読み、概要をつかむ。										135 分			
		事後	「酸素とエネルギーに依存する脳」をまとめ、理解し、復習する。										135 分			
第 9 回	体温調節とサーカディアンリズム	事前	教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。										135 分			
		事後	「体温調節とサーカディアンリズム」をまとめ、理解し、復習する。										135 分			
第 10 回	体性感覚・特殊感覚	事前	教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。										135 分			
		事後	「体性感覚・特殊感覚」をまとめ、理解し、復習する。										135 分			
第 11 回	自律神経系	事前	教科書の 4 章「ストレスと自律神経系」を読み、概要をつかむ。										135 分			
		事後	「自律神経系」をまとめ、理解し、復習する。										135 分			
第 12 回	内分泌系	事前	教科書の 4 章「ストレスと内分泌系」を読み、概要をつかむ。										135 分			
		事後	「ストレスと内分泌系」をまとめ、理解し、復習する。										135 分			
第 13 回	学習発表 1	事前	学習発表の準備をする。										135 分			
		事後	学習発表のまとめをする。										135 分			
第 14 回	学習発表 2	事前	学習発表の準備をする。										135 分			
		事後	学習発表のまとめをする。										135 分			
第 15 回	学習発表 3	事前	学習発表の準備をする。										135 分			
		事後	学習発表のまとめをする。										135 分			
フィードバック		授業内で質疑を行う。														
成績評価		レポート 3 0 %、学習発表 4 0 %、授業態度 3 0 %														
テキスト		教科書　　やさしい環境生理学　地球環境と命のつながり　錦房出版 2019、鈴木郁子編著 参考図書　自律神経の科学　講談社ブルーバックス 2023、鈴木郁子著														
オフィスアワー		授業終了後、講義室にて														
備考		「医学概論」を履修する学生は、「生理学」を履修しておくことが望ましい。														

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒

医学概論

非常勤講師 高橋保夫 科目コード：NAT203

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：講義 単位数 2 単位

概要 生理学的見地から、様々なストレスへの対応、内部・外部環境の変化による私たちの体に生じる変化と対応について基礎的知識をつける。これらの知識をもとに、音楽が私たちの体にもたらす効果について考察し理解を深める。

到達目標 ストレス全般及び生体のストレス対応について理解できることを目標とする。
現代社会の環境変化に直面する人間にとって音楽療法がどのような意義を持つかを考える力を養う。

授業計画

第 1 回	ストレスとは？ ストレスの定義と歴史	事前 教科書 4 章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。自身のストレス体験を思い出す。 60 分 事後 ストレス学説をまとめ、理解し復習する。 60 分
第 2 回	ストレスと自律神経系、内分泌系	事前 「ストレスへの対応」について自律神経系と内分泌系の箇所を読み、概要をつかむ。 60 分 事後 自律神経系と内分泌系におけるストレスへの対応について理解し復習する。 60 分
第 3 回	ストレスと脳、認知症	事前 「ストレスへの対応」について脳の箇所を読み、概要をつかむ。認知症について予習する。 60 分 事後 ストレスが脳に及ぼす影響と認知症について課題を理解し復習する。 60 分
第 4 回	心理・社会的ストレス、死へのストレス	事前 「ストレスへの対応」について心理・社会的ストレス、死へのストレスの概要をつかむ。 60 分 事後 心理・社会的、及び死へのストレスについて理解し復習する。 60 分
第 5 回	音楽と脳、音楽療法とストレス	事前 種々のストレス対応として音楽療法がもたらす効果について予習する。 60 分 事後 音楽療法が心と体に及ぼす効果について理解し復習する。 60 分
第 6 回	心拍・血圧計測の実習 1（運動負荷による体の変化）	事前 循環器の生理学について復習し、実習の準備をする。 60 分 事後 心拍・血圧が運動負荷によってどのように変化するか、理由を含めて理解しまとめる。 60 分
第 7 回	心拍・血圧計測の実習 2（音楽などによる心理的变化）	事前 計測機器の取り扱いに慣れ、実習の準備をする。 60 分 事後 心理的な変化による心拍・血圧などの変化を調べ、その効果について理解しまとめる。 60 分
第 8 回	生活環境と健康、健康と疾病	事前 教科書 5 章「生活環境と健康」について健康と生活習慣病について概要をつかむ。 60 分 事後 健康と種々の生活習慣病について理解し復習する。 60 分
第 9 回	生体の免疫反応、健康への有害物質	事前 「生活環境と健康」について生体の免疫反応について概要をつかむ。 60 分 事後 生体の免疫反応、有害物質について理解し復習する。 60 分
第 10 回	環境問題の歴史と現代生活における課題	事前 教科書 6 章「環境問題と人間」について環境問題の歴史と各論について概要をつかむ。 60 分 事後 環境問題の歴史から現代生活の課題を読み解き、理解し復習する。 60 分
第 11 回	環境問題と私たちの将来	事前 「環境問題と人間」について環境保全と将来の安全社会について概要をつかむ。 60 分 事後 将来の環境保全活動の在り方について理解し復習する。 60 分
第 12 回	生命倫理	事前 生命倫理について予習する。 60 分 事後 生命倫理の考え方と行いについて理解し復習する。 60 分
第 13 回	学習発表 1	事前 学習発表の準備をする。 60 分 事後 学習発表のまとめをする。 60 分
第 14 回	学習発表 2	事前 学習発表の準備をする。 60 分 事後 学習発表のまとめをする。 60 分
第 15 回	学習発表 3、総括	事前 学習発表の準備をする。 60 分 事後 学習発表のまとめをする。授業全体を総括する。 60 分

フィードバック 授業内で質疑を行う。

成績評価 授業内レポート 30%、学習発表 40%、授業態度 30%

テキスト 教科書 やさしい環境生理学 地球環境と命のつながり 錦房出版 2019、鈴木郁子編著
参考図書 やさしい自律神経生理学 命を支える仕組み 中外医学社 2015、鈴木郁子編著
自律神経の科学 講談社ブルーバックス 2023、鈴木郁子著

オフィスアワー 授業終了後、講義室にて

アクティブ・ラーニング ・プレゼンテーション、グループワーク
・生理学実習において、実習計画立案、実施、まとめをグループ毎に行う。
備考 「医学概論」を履修する学生は、1 年次の「生理学」を履修しておくことが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	□	☑	□	☑	☑

社会福祉

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 横溝一浩	科目コード：SOC202
------------	--------------

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：集中講義 単位数：2 単位

概要	社会福祉は、国民が健康で幸せな生活を営めるように、生活問題を解決するための取組みである。 社会福祉では個人を取り巻く、家族、地域、政策などの環境にも着目し、「個人」と「環境」の接点に介入することが必要であることを理解し、対人援助職としての音楽療法士に求められる、社会福祉の基礎知識と援助技術を学ぶ。さらに、今日におけるわが国の社会福祉の課題について考え、多様性の視点をもって、社会福祉の理解を深めていく。
----	--

到達目標	・社会福祉の基本概念・理念について理学び、基礎的知識を習得する。 ・社会福祉の制度や実施体系と、現在の課題についてミクローメゾーマクロの視点を持って理解することができる。
------	--

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション 社会福祉とは何か	事前 最近の福祉に関するニュースを調べておく 事後 教科書の pp1-25 を復習する 140 分 140 分
第 2 回	社会福祉の歴史 日本とイギリスを中心に	事前 科書の pp26-45 を予習、時間があれば映画「オリバーツイスト」も参考に 事後 教科書の pp26-45 を復習 140 分 140 分
第 3 回	社会福祉の法と行財政 福祉法制度、福祉の行政機関、財源について	事前 教科書の pp46-63 を予習 事後 教科書の pp46-63 を復習 140 分 140 分
第 4 回	最低生活保障と生活保護制度 相対的貧困と絶対的貧困	事前 教科書の pp80-98 を予習、日本国憲法の最低限度の生活とは何か調べる 事後 教科書の pp80-98 を復習 140 分 140 分
第 5 回	児童福祉から児童家庭福祉へⅠ 少子化の進行と児童家庭福祉の課題	事前 教科書の pp99-125 を予習 事後 教科書の pp99-125 を復習 140 分 140 分
第 6 回	児童福祉から児童家庭福祉へⅡ 社会的養護と児童福祉施設	事前 教科書の pp126-130 を予習 事後 教科書の pp126-130 を予習 140 分 140 分
第 7 回	障がい者（児）の自立と福祉Ⅰ 障がいとは、わが国における障がい者（児）の概況	事前 教科書の pp131-140 を予習 事後 教科書の pp131-140 を復習 140 分 140 分
第 8 回	障がい者（児）の自立と福祉Ⅱ 障害者総合支援法によるサービス、バリアフリーとユニバーサルデザイン	事前 教科書の pp143-156 を予習 事後 教科書の pp143-156 を復習 140 分 140 分
第 9 回	高齢者の生活と福祉Ⅰ 高齢者の生活課題、フレイルと廃用症候群	事前 教科書の pp157-169 を予習 事後 教科書の pp157-169 を復習 140 分 140 分
第 10 回	高齢者の生活と福祉Ⅱ 介護保険サービス	事前 教科書の pp170-192 を予習 事後 教科書の pp170-192 を復習 140 分 140 分
第 11 回	ソーシャルワークの理解と福祉専門職 パースティックの 7 原則について	事前 教科書の pp64-79 を予習 事後 教科書の pp64-79 を復習 140 分 140 分
第 12 回	地域福祉推進と地域共生社会への展望 地域をつなぐコミュニティワーク、NPO・ボランティア等の社会資源との連携	事前 教科書の pp193-209 を予習 事後 教科書の pp193-209 を復習 140 分 140 分
第 13 回	スウェーデンの社会福祉と音楽療法 リハビリテーションからハビリテーションへ	事前 配布されたプリントで予習 事後 配布されたプリントで復習 140 分 140 分
第 14 回	福祉レクリエーションと音楽療法 音楽レクリエーションや音楽療法の目的と役割	事前 配布されたプリントで予習 事後 配布されたプリントで復習 140 分 140 分
第 15 回	これからの社会福祉（行政福祉から福祉文化へ） レポート福祉が紡ぐ文化、文化が生み出す福祉、レポートの解説	事前 教科書の pp210-217 を予習 事後 理解不足箇所確認とその復習 140 分 140 分

フィードバック ワークシートや発表などについてコメントを付け、学習成果をフィードバックする

成績評価 レポート 60%、ワークシート 30%、発表・授業への積極的な取組 10%

テキスト 教科書
『新・社会福祉とは何か【第 4 版】』 大久保秀子著/中央法規
プリント等適宜配布

参考図書
『スウェーデンの社会福祉と音楽療法―音楽療法士・福祉職としての体験から』 大滝昌之著/音楽之友社
『福祉レクと音楽療法』 佐藤幸雄・幸絵美加著/遊戯社
『アクティビティ実践と QOL の向上（新・福祉文化シリーズ 2）』 日本福祉文化学会編集委員会（編集）/

オフィスアワー メールまたは授業後に教室にて

アクティブ・ラーニング ・グループワークを実施、グループ内のディスカッション内容の共有化

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☑	□	□	☑	☑	□	□	□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑	

健康とスポーツ

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 荒金幸子

科目コード：PHY101

専門／学年：全専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	様々なスポーツを楽しみながら実践することで一人ひとりに適した運動、安全に効果的に身体を動かすこと等の理解を深める。 生涯にわたって健康な身体、人生を築くために運動・スポーツに親しむ態度や能力の習得を目指す。

到達目標	・運動・スポーツの必要性和楽しさを実感する ・仲間づくりやコミュニケーションを高めるための運動・スポーツの役割について理解する
------	--

授業計画

第 1 回	オリエンテーション 手軽にできる体力・運動能力チェック	事前 初回授業に向けてケガをしないからだの準備をする 事後 疲労が感じられる部分のケアをする	120 分 120 分
第 2 回	健康維持のための運動	事前 1 週間の身体活動の記録をまとめる 事後 自分の身体活動時間を見直す	120 分 120 分
第 3 回	健康・体力づくりのための運動	事前 1 週間の身体活動の記録をまとめる 事後 生活の中に身体活動時間を増やす工夫を実践する	90 分 150 分
第 4 回	いつでも どこでも できる運動	事前 からだを動かし体調の管理をする 事後 疲労が残らないようにケアする	120 分 120 分
第 5 回	動いてみよう 動かしてみよう 身近なものを利用して	事前 からだを動かし体調の管理をする 事後 疲労が残らないようにケアする	120 分 120 分
第 6 回	動いてみよう 動かしてみよう レクリエーションダンス	事前 からだを動かし体調の管理をする 事後 疲労が残らないようにケアする	100 分 140 分
第 7 回	リズムにのって動いてみよう 動きを楽しもう	事前 グループワークに必要な準備をする 事後 疲労が残らないようにケアする	100 分 140 分
第 8 回	動いてみよう 動かしてみよう 縄	事前 縄を使った運動と効果について調べる 事後 疲労が残らないようにケアする	90 分 150 分
第 9 回	リズムにのって動いてみよう リズム縄とび	事前 縄跳びに必要な準備運動・体操を行う 事後 疲労が感じられる部分をケアする	90 分 150 分
第 10 回	ゲームを楽しもう ボール運動：基本	事前 ボールを使った運動と効果について調べる 事後 疲労が感じられる部分をケアする	100 分 140 分
第 11 回	ゲームを楽しもう ボール運動：応用	事前 ボール運動に必要な準備運動・体操を行う 事後 使った部分を中心にケアする・体調を整える	100 分 140 分
第 12 回	ゲームを楽しもう ラケットスポーツ	事前 ラケットスポーツについて調べる 必要な準備体操を行う 事後 使った部分を中心にケアをする 体調を整える	120 分 120 分
第 13 回	レクリエーションを企画しよう	事前 楽しくからだを動かせる内容を考える 提案準備をする 事後 楽しくからだを動かせる内容に工夫を加える	120 分 120 分
第 14 回	レクリエーションを実践発表しよう	事前 楽しくからだを動かせる内容の発表準備をする 事後 互いに発表した内容で取り入れられるものを実践する	140 分 100 分
第 15 回	自分にあった適切な運動・まとめ	事前 自分に必要な運動とは何かふりかえる 事後 自分にあった運動を理解する	120 分 120 分

フィードバック	授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	実技 50%、授業への取り組み 30%、提出物 20%とし総合的に判断する。
------	--

テキスト	必要に応じて資料を配布する。
------	----------------

オフィスアワー	授業前後に教室にて。
---------	------------

アクティブ・ラーニング	・少人数グループに分かれ、動きを創作する その後お互いに発表し評価しあいます ・グループワーク、プレゼンテーション
-------------	---

備考	・安全面・衛生面を考慮して、必ず運動着・運動靴を着用する ・運動制限のある学生は授業で申し出ること ・忘れ物をした場合や体調不良などで見学したい学生は、授業開始前に連絡し指示を受けること
----	---

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑	□	□	□	☑

英語 I -1

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG101

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	実用的な英語力と国際的な視野を持つ人材の養成を目指す。会話に必須の語彙、文法、興味深いトピックを取り上げて学ぶ。

到達目標 各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。

授業計画

第 1 回	Orientation 自己紹介、教科書紹介	事前	教科書を入手し、Unit 1 を予習する。	80 分
		事後	英語での自己紹介の仕方を練習する。	190 分
第 2 回	Unit 1 Cross-Cultural Understanding Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out 1/2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 3 回	Unit 1 Find Out 2/2, Check the Points, Reading Focus, Practice More, Say What You Think	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 4 回	Unit 2 Foods Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out 1/2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 5 回	Unit 2 Find Out, Check the Points, Reading Focus, Practice More, Say What You Think	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 6 回	Unit 3 Foreign Language Learning Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 7 回	Unit 3 Find Out 2/2, Check the Points, Reading Focus, Practice More, Say What You Think	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 8 回	Unit 4 Sports Warm Up, Key Vocabulary, Key Sentences, Let's Practice, Grammar, Exercises	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 9 回	Unit 4 Find Out 2/2, Check the Points, Reading Focus, Practice More, Say What You Think	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 10 回	Unit 5 Fashion Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out 1/2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 11 回	Unit 5 Find Out 2/2, Check the Points, Reading Focus, Practice More, Say What You Think	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 12 回	Unit 6 Living Things Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out 1/2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。	135 分
第 13 回	Unit 6 Find Out 2/2, Check the Points, Reading Focus, Practice More, Say What You Think	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 14 回	Wrap-up (Unit 1-6)	事前	教科書の該当箇所を復習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 15 回	Review (Unit 1-6) 理解度確認テスト	事前	確認テストの準備をする	135 分
		事後	理解不足の箇所を復習する	135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組み 50%】

テキスト VELC 研究会教材開発グループ Takaaki Kumazawa, Tetsuhito Shizuka, Masamichi Mochizuki, “AMBITIONS: Elementary” （金星堂）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	□		□

英語 I -2	
非常勤講師 山内あゆ子	科目コード：ENG102
専門／学年： 全専門／1 年次	
形態：講義	単位数：2 単位
概要	英語 I -1 に引き続き、実用的な英語力と国際的な視野を持つ人材の養成を目指す。会話に必須の語彙、文法、興味深いトピックを取り上げて学ぶ。
到達目標	各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。

授業計画				
第 1 回	Unit 7 Art Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out 1/2	事前	教科書の該当箇所を予習する	80 分
		事後	今日の授業内容を復習する	190 分
第 2 回	Unit 7 Find Out 2/2, Check the Points, Reading Focus, Practice More, Say What You Think	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 3 回	Unit 8 Global Issues Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out 1/2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。	135 分
第 4 回	Unit 8 Find Out 2/2, Check the Points, Reading Focus, Practice More, Say What You Think	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 5 回	Unit 9 Japanese Culture Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out 1/2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 6 回	Unit 9 Find Out 2/2, Check the Points, Reading Focus, Practice More, Say What You Think	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 7 回	Unit 10 Human Rights Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out 1/2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 8 回	Unit10 Find Out 2/2, Check the Points, Reading Focus, Practice More, Say What You Think	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 9 回	Unit 11 Health & Medical Issues Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out 1/2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 10 回	Unit 11 Find Out 2/2, Check the Points, Reading Focus, Practice More, Say What You Think	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 11 回	Unit 12 Environmental Issues Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out 1/2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 12 回	Unit 12 Find Out 2/2, Check the Points, Reading Focus, Practice More, Say What You Think	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 13 回	Unit 13 Economy & Industry Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out 1/2 Listen In, Check the Points, Check the Details, Find Out 1/2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分
第 14 回	Wrap-up (Unit 7-13)	事前	教科書の該当箇所を復習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 15 回	Review (Unit 7-13) 理解度確認テスト	事前	確認テストの準備をする	135 分
		事後	理解不足の箇所を復習する	135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取り組み 50%】

テキスト VELC 研究会教材開発グループ Takaaki Kumazawa, Tetsuhito Shizuka, Masamichi Mochizuki, “AMBITIONS: Elementary” （金星堂）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☑	☐	☐	☑	☑	☐	☐	☑	☑	☑	☐	☑	☑	☑	☐		☐

英語Ⅱ-1		科目コード：ENG201	
非常勤講師 山内あゆ子			
専門／学年：		全専門／2 年次	
形態：講義		単位数：2 単位	
概要		英語を使う上で欠かせない必須の 4 技能を統合的に活用しながら学び、日常生活で頻繁に使われる基本的かつ機能的な言語の習得を目指す。語彙の習得に始まり、実践的な能力の向上をはかる。	
到達目標		日常生活で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語Ⅰ」で学んだことをもとに、各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。	

授業計画			
第 1 回	Orientation 自己紹介／教科書紹介	事前 教科書を入手し、Unit 1 を予習する。 事後 英語での自己紹介の仕方を練習する。	80 分 190 分
第 2 回	Unit 1 Nice to Meet You Conversation, Grammar Assist, Grammar Checking, Vocabulary Preview	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 3 回	Unit 1 Reading, Short Conversations, Let's Write	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分 135 分
第 4 回	Unit 2 Getting Started Conversation, Grammar Assist, Grammar Checking, Vocabulary Preview	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 5 回	Unit 2 Reading, Short Conversations, Let's Write	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分 135 分
第 6 回	Unit 3 Office Tour Conversation, Grammar Assist, Grammar Checking, Vocabulary Preview	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 7 回	Unit 3 Reading, Short Conversations, Let's Write	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分 135 分
第 8 回	Unit 4 First Work Assignment Conversation, Grammar Assist, Grammar Checking, Vocabulary Preview	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 9 回	Unit 4 Reading, Short Conversations, Let's Write	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分 135 分
第 10 回	Unit 5 Small Talk with Co-Workers Conversation, Grammar Assist, Grammar Checking, Vocabulary Preview	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 11 回	Unit 5 Reading, Short Conversations, Let's Write	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分 135 分
第 12 回	Unit 6 First Contact with a Client Conversation, Grammar Assist, Grammar Checking, Vocabulary Preview	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 13 回	Unit 6 Reading, Short Conversations, Let's Write	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135 分 135 分
第 14 回	Wrap-up (Unit 1-6)	事前 教科書の該当箇所を復習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 15 回	Review (Unit 1～6) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	135 分 135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト Robert Hickling, “English Spark!” (金星堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション・技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒		☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒

科目コード: ENG202

形態：講義 単位数：2 単位

到達目標	日常生活で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語 I」で学んだことをもとに、各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。
------	---

第1回	定期試験の解説 前期の復習	事前 前期の基礎事項を確認する	80 分
		事後 試験の問題を復習する	190分
第2回	Unit 7 Getting Lost Conversation, Grammar Assist, Grammar Checking, Vocabulary Preview	事前 教科書の該当箇所を予習する	135分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135分
第3回	Unit 7 Reading, Short Conversations, Let's Write	事前 教科書の該当箇所を予習する	135分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135分
第4回	Unit 8 Final Preparations Conversation, Grammar Assist, Grammar Checking, Vocabulary Preview	事前 教科書の該当箇所を予習する	135分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135分
第5回	Unit 8 Reading, Short Conversations, Let's Write	事前 教科書の該当箇所を予習する	135分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135分
第6回	Unit 9 First Meeting Conversation, Grammar Assist, Grammar Checking, Vocabulary Preview	事前 教科書の該当箇所を予習する	135分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135分
第7回	Unit 9 Reading, Short Conversations, Let's Write	事前 教科書の該当箇所を予習する	135分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135分
第8回	Unit 10 Time Management Conversation, Grammar Assist, Grammar Checking, Vocabulary Preview	事前 教科書の該当箇所を予習する	135分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135分
第9回	Unit 10 Reading, Short Conversations, Let's Write	事前 教科書の該当箇所を予習する	135分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135分
第10回	Unit 11 Meeting Follow-Up Conversation, Grammar Assist, Grammar Checking, Vocabulary Preview	事前 教科書の該当箇所を予習する	135分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135分
第11回	Unit 11 Reading, Short Conversations, Let's Write	事前 教科書の該当箇所を予習する	135分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135分
第12回	Unit 12 A Last-Minute Requests Conversation, Grammar Assist, Grammar Checking, Vocabulary Preview	事前 教科書の該当箇所を予習する	135分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	135分
第13回	Unit 12 Reading, Short Conversations, Let's Write	事前 教科書の該当箇所を予習する	135分
		事後 授業で学習した箇所を復習する。配布するプリントを課題として次回提出。	135分
第14回	Wrap-up (Unit 7-12)	事前 教科書の該当箇所を復習する	135分
		事後 今日の授業内容を復習する	135分
第15回	Review (Unit 7~12) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする	135分
		事後 理解不足の箇所を復習する	135分

成績評価 授業態度、テスト、課題などにに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒

専門／学年：全専門／1～2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	ドイツ語初学者を対象に、音楽という分野と極めて関わりの深い言語の一つであるドイツ語の基礎を学んでいく。言葉を学ぶことを通してドイツ語文化圏への理解を深めていく。

到達目標	基本的なドイツ語の読み方、発音からはじめ、ドイツ語学習の基礎となる文法事項を理解し、簡単な文章読解、ドイツ語作文のなかで用いることができるようになることを目標とする。また基本的な挨拶や自己紹介などの会話表現を学び、短くともドイツ語でコミュニケーションをとることができるようになることを目指す。
------	--

授業計画	全 15 回、下記の通りの進行を予定するが、学習状況によって前後することがある。
------	--

第 1 回	ドイツ語とは：ヨーロッパにおけるドイツ語圏。アルファベート、母音の発音	事前 事後	教科書の該当箇所を確認 ドイツ語のアルファベート、母音の発音について確認、配布プリントの復習	60 分 150 分
第 2 回	子音の発音、挨拶、数詞、発音練習	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 子音の発音について確認、ドイツ語の挨拶、数詞を覚える	60 分 150 分
第 3 回	基礎 A-1 動詞と主語になる人称代名詞	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 人称代名詞、規則動詞の活用を確認。新規の単語を覚える。	60 分 150 分
第 4 回	基礎 A-1 疑問文、語順	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 疑問文、語順の規則を確認。練習問題	60 分 150 分
第 5 回	基礎 A-2 名詞の性と格の用法、定冠詞	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 名詞の性と格の用法について確認。定冠詞の変化を覚える。	60 分 150 分
第 6 回	基礎 A-2 名詞の性と格の用法、不定冠詞	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 名詞の性と格の用法について確認、不定冠詞の変化を覚える。練習問題	60 分 150 分
第 7 回	基礎 A-3 複数形、定冠詞類	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 名詞の複数形について確認、定冠詞類の種類と変化を覚える。	60 分 150 分
第 8 回	基礎 A-3 不定冠詞類、不規則動詞	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 不定冠詞類の種類と変化を覚える。不規則動詞の変化を覚える。練習問題	60 分 150 分
第 9 回	基礎 A-4 疑問詞、並列接続詞	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 疑問詞、並列接続詞の種類と用法を覚える。	60 分 150 分
第 10 回	基礎 A-4 男性弱変化名詞、否定冠詞 kein と nicht	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 男性弱変化名詞を確認、kein と nicht の使い方を確認。練習問題	60 分 150 分
第 11 回	基礎 A-5 命令形、不規則動詞の確認	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 命令形の作り方を覚える。不規則動詞について確認。	60 分 150 分
第 12 回	基礎 A-5 人称代名詞 2、es の用法	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 3・4 格の人称代名詞を覚える。es の用法について確認。練習問題	60 分 150 分
第 13 回	基礎 A-6 前置詞の格支配（3 格支配、4 格支配）	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 3 格支配・4 格支配の前置詞の種類、使い方を覚える。	60 分 150 分
第 14 回	基礎 A-6 前置詞の格支配（3・4 格支配）、融合形	事前 事後	教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 3・4 格支配の前置詞の種類、使い方を覚える。前置詞の融合形を確認。練習問題	60 分 150 分
第 15 回	既習事項の確認	事前 事後	これまでの範囲について、教科書・プリントを確認 前期全体を通した復習、疑問点の解消	60 分 150 分

フィードバック	授業内での課題、練習問題などについての解説を行い、学習成果をフィードバックする
---------	---

成績評価	各課の練習問題や適宜実施する確認テストの結果、授業への積極的な取り組み、期末試験の三点により総合的に評価する。
------	---

【授業内課題 25% 授業への積極的な取り組み 25% 期末試験 50%】

テキスト 神竹道士 著 『ドイツ文法ベーシック 3 三訂版』（朝日出版社）

オフィスアワー	質問や相談については授業前後の時間を基本とし、必要な場合には適宜時間を相談のうえ実施。 メールなどでの対応も可。
---------	---

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニプロジェクトスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑	☑	□	☑	□	□

専門／学年：全専門／1～2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	ドイツ語初学者を対象に、音楽という分野と極めて関わりの深い言語の一つであるドイツ語の基礎を学んでいく。言葉を学ぶことを通してドイツ語文化圏への理解を深めていく。

到達目標	基本的なドイツ語の読み方、発音からはじめ、ドイツ語学習の基礎となる文法事項を理解し、簡単な文章読解、ドイツ語作文のなかで用いることができるようになることを目標とする。また基本的な挨拶や自己紹介などの会話表現を学び、短くともドイツ語でコミュニケーションをとることができるようになることを目指す。
------	--

授業計画	全 15 回、下記の通りの進进行を予定するが、学習状況によって前後することがある。
------	---

第 1 回	基礎 A-7 形容詞の用法	事前 教科書の該当箇所を確認、前期までの範囲を復習 事後 形容詞の用法について確認、それぞれの格変化を覚える	60 分 150 分
第 2 回	基礎 A-7 形容詞の名詞化、助数詞	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 前回の格変化を確認したうえで、形容詞の名詞化、序数の使い方を理解。練習問題	60 分 150 分
第 3 回	基礎 B-1 形容詞の比較表現	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 形容詞の比較級、最上級、様々な比較表現を確認。練習問題	60 分 150 分
第 4 回	基礎 B-2 話法の助動詞、未来形	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 話法の助動詞の種類、用法を覚える。練習問題	60 分 150 分
第 5 回	基礎 B-3 動詞の 3 基本形、過去形	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 動詞の 3 基本形を理解し、重要動詞について変化を覚える。過去形の変化を確認	60 分 150 分
第 6 回	基礎 B-3 現在分詞と過去分詞	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 引き続き動詞の 3 基本形を確認、現在分詞・過去分詞の使い方を確認。練習問題	60 分 150 分
第 7 回	基礎 B-4 現在完了形	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 引き続き動詞の 3 基本形を確認、現在完了形の変化・用法を確認	60 分 150 分
第 8 回	基礎 B-4 過去完了形、未来完了形	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 引き続き動詞の 3 基本形を確認、過去完了形・未来完了形を確認。練習問題	60 分 150 分
第 9 回	基礎 B-5 分離動詞と非分離動詞	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 分離動詞について確認。非分離の前綴りを確認	60 分 150 分
第 10 回	基礎 B-5 zu 不定詞	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 zu 不定詞の用法を確認、重要な表現を覚える。練習問題	60 分 150 分
第 11 回	基礎 B-6 再帰動詞、従属の接続詞	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 再帰代名詞、再帰動詞について、従属の接続詞の用法を確認。練習問題	60 分 150 分
第 12 回	基礎 C-1 受動態	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 受動態の作り方を確認。練習問題	60 分 150 分
第 13 回	基礎 C-2 関係代名詞	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 定関係代名詞の格変化を覚える。関係文の作り方を確認	60 分 150 分
第 14 回	基礎 C-2 不定関係代名詞	事前 教科書の該当箇所を確認、前回までの範囲について教科書・プリントを復習 事後 不定関係代名詞の用法を確認。練習問題。	60 分 150 分
第 15 回	既習事項の確認	事前 これまでの範囲について、教科書・プリントを確認 事後 後期全体を通した復習、疑問点の解消	60 分 150 分

フィードバック	授業内での課題、練習問題などについての解説を行い、学習成果をフィードバックする
---------	---

成績評価	各課の練習問題や適宜実施する確認テストの結果、授業への積極的な取り組み、期末試験の三点により総合的に評価する。
------	---

【授業内課題 25% 授業への積極的な取り組み 25% 期末試験 50%】

テキスト 神竹道士 著 『ドイツ文法ベーシック 3 三訂版』（朝日出版社）

オフィスアワー	質問や相談については授業前後の時間を基本とし、必要な場合には適宜時間を相談のうえ実施。 メールなどでの対応も可。
---------	---

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑	☑	□	☑	□	□

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	フランス語を初めて学習する者を対象に、基礎的な文法や語彙、会話表現を習得する。また、会話にとって重要な要素である聞き取りの練習にも重点を置く。こうした総合的な語学学習を通し、多角的な視点でフランス語圏の文化に触れる。

到達目標	文字と綴りの関係を学び、フランス語の持つリズムに慣れることから始め、基礎的な文法事項を確実に習得し、定着させることを目指す。フランス語で簡単な自己表現ができるようになることを目標とする。
------	---

授業計画				
第 1 回	フランス語の綴りと発音 Leçon1 あいさつの表現、「お元気ですか?」の言い方、お礼・おわびの言い方	事前	教科書の音声ダウンロードし、アルファベの発音を確認する。	60 分
		事後	Leçon1 を復習する。	180 分
第 2 回	Leçon2 名詞の性と数 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon2 を復習する。	180 分
第 3 回	Leçon2 冠詞 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon2 を復習する。	180 分
第 4 回	Leçon2 提示の表現 Révisions 1	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon2 を復習する。	180 分
第 5 回	Leçon3 主語になる代名詞、-er 形の規則動詞（第 1 群規則動詞） Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon3 を復習する。	180 分
第 6 回	Leçon3 否定文の作り方 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon3 を復習する。	180 分
第 7 回	Leçon4 動詞 être の活用、用法、国籍・身分・職業などの言い方 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon4 を復習する。	180 分
第 8 回	Leçon4 疑問文の作り方、疑問文への答え方 Révisions 2	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon4 を復習する。	180 分
第 9 回	Leçon5 動詞 avoir の活用、否定の冠詞 de Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon5 を復習する。	180 分
第 10 回	Leçon5 Il y a の用法、avoir を使う慣用的な表現 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon5 を復習する。	180 分
第 11 回	Leçon6 形容詞の位置、形容詞の性と数 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon6 を復習する。	180 分
第 12 回	Leçon6 特殊な語尾変化をする形容詞、指示形容詞 Révisions3	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon6 を復習する。	180 分
第 13 回	Leçon7 動詞の種類と現在形の活用、-ir 形の規則動詞（第 2 群規則動詞）・不規則動詞（partir、sortir など）、Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon7 を復習する。	180 分
第 14 回	Leçon7 所有形容詞、時刻の表現 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon7 を復習する。	180 分
第 15 回	理解度の確認	事前	Leçon1～7 の内容を復習し、学期末試験の準備を整える。	60 分
		事後	理解が十分でなかった箇所を把握し、復習する。	180 分

フィードバック 課題や小テストについて、コメントを付けて学修成果をフィードバックする。

成績評価 概ね次の割合で総合的に評価する。
学期末試験 40%、授業での積極的な取組み 40%、課題提出 20%

テキスト 松村博史著『リエゾン 1 Liaison1』（白水社、2023 年）
その他、必要に応じプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて対応。もしくは事前にメールで日時調整をし、個別に対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	フランス語を初めて学習する者を対象に、基礎的な文法や語彙、会話表現を習得する。また、会話にとって重要な要素である聞き取りの練習にも重点を置く。こうした総合的な語学学習を通し、多角的な視点でフランス語圏の文化に触れる。

到達目標	文字と綴りの関係を学び、フランス語の持つリズムに慣れることから始め、基礎的な文法事項を確実に習得し、定着させることを目指す。フランス語で簡単な自己表現ができるようになることを目標とする。
------	---

授業計画		
第 1 回	Leçon8 動詞 aller と venir の活用、前置詞 à/de と定冠詞の縮約	事前 前期で学んだ文法事項を確認する。 60 分
	Exercices	事後 Leçon8 を復習する。 180 分
第 2 回	Leçon8 近接未来（近い未来）と近接過去（近い過去）、主語になる代名詞 on	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Révisions4	事後 Leçon8 を復習する。 180 分
第 3 回	Leçon9 動詞 faire と prendre の活用、命令文の作り方	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Exercices	事後 Leçon9 を復習する。 180 分
第 4 回	Leçon9 疑問詞を使った疑問文	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Exercices	事後 Leçon9 を復習する。 180 分
第 5 回	Leçon9 疑問形容詞 quel	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Exercices	事後 Leçon9 を復習する。 180 分
第 6 回	Leçon10 直接目的補語と間接目的補語、直接・間接目的補語の代名詞	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Exercices	事後 Leçon10 を復習する。 180 分
第 7 回	Leçon10 目的補語の代名詞を使う命令文、強勢形の代名詞	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Exercices	事後 Leçon10 を復習する。 180 分
第 8 回	Leçon10 代名動詞	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Révisions5	事後 Leçon10 を復習する。 180 分
第 9 回	Leçon11 形容詞と副詞の比較級	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Exercices	事後 Leçon11 を復習する。 180 分
第 10 回	Leçon11 形容詞と副詞の最上級	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Exercices	事後 Leçon11 を復習する。 180 分
第 11 回	Leçon11 bon と bien の比較級・最上級、attendre と répondre などの不規則動詞	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Exercices	事後 Leçon11 を復習する。 180 分
第 12 回	Leçon12 複合過去の形と用法、avoir を使う複合過去	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Exercices	事後 Leçon12 を復習する。 180 分
第 13 回	Leçon12 être を使う複合過去	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Exercices	事後 Leçon12 を復習する。 180 分
第 14 回	Leçon12 代名動詞の複合過去	事前 教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。 60 分
	Révisions6	事後 Leçon12 を復習する。 180 分
第 15 回	理解度の確認	事前 Leçon8～12 の内容を復習し、学期末試験の準備を整える。 60 分
		事後 理解が十分でなかった箇所を把握し、復習する。 180 分

フィードバック 課題や小テストについて、コメントを付けて学修成果をフィードバックする。

成績評価	概ね次の割合で総合的に評価する。 学期末試験 40%、授業での積極的な取組み 40%、課題提出 20%
テキスト	松村博史著『リエゾン 1 Liaison1』（白水社、2023 年） その他、必要に応じプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて対応。もしくは事前にメールで日時調整をし、個別に対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	☑	□	□

仏語Ⅱ-1		科目コード：FOR203	
非常勤講師 八木直子			
専門／学年：		全専門／2 年次	
形態：		単位数：2 単位	
概要		仏語Ⅰを履修した初級文法習得者を対象とし、フランス語能力をさらに伸ばしていく。語学の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」を総合的に磨き、文法をしっかりと習得するとともに定着させる。教科書の題材やフランス文化についてディスカッションを行う。	
到達目標		フランス語の基礎力を確実なものとし、自分の考えをフランス語で発信できるようになることを目指す。	

授業計画				
第 1 回	『リエゾン 1』 Leçon1～11 まとめ	事前	仏語 I で学んだ文法事項を復習する	60 分
		事後	動詞の活用を中心に覚える。	180 分
第 2 回	『リエゾン 1』 Leçon12 複合過去の形と用法、avoir を使う複合過去 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon12 を復習する。	180 分
第 3 回	Leçon12 être を使う複合過去 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon12 を復習する。	180 分
第 4 回	Leçon12 代名動詞の複合過去 Révisions6	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon12 を復習する。	180 分
第 5 回	『リエゾン 2』 Leçon1 動詞の現在形の復習 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon1 を復習する。	180 分
第 6 回	Leçon1 複合過去の復習 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon1 を復習する。	180 分
第 7 回	Leçon1 Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Le français en scène と Phrases utiles で学んだ表現を復習する。	180 分
第 8 回	Leçon2 動詞 pouvoir, vouloir, devoir の活用と用法 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon2 を復習する。	180 分
第 9 回	Leçon2 中性代名詞 en, y, le の用法 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon2 を復習する。	180 分
第 10 回	Leçon2 Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Le français en scène と Phrases utiles で学んだ表現を復習する。	180 分
第 11 回	Leçon3 未来の表現、単純未来の活用と用法 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon3 を復習する。	180 分
第 12 回	Leçon3 前未来 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon3 を復習する。	180 分
第 13 回	Leçon3 指示代名詞 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon3 を復習する。	180 分
第 14 回	Leçon3 Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Le français en scène と Phrases utiles で学んだ表現を復習する。	180 分
第 15 回	理解度の確認	事前	これまでの内容を復習し、学期末試験の準備を整える。	60 分
		事後	理解が十分でなかった箇所を把握し、復習する。	180 分

フィードバック 課題や小テストについて、コメントを付けて学修成果をフィードバックする。

成績評価 概ね次の割合で総合的に評価する。
学期末試験 40%、授業での積極的な取り組み 40%、課題提出 20%

テキスト 最初に「仏語Ⅰ」で使用した次のテキストを使用するため、初回授業は持参すること。
松村博史著『リエゾン1 Liaison1』（白水社、2023 年）

その後、松村博史、エディ・バンドロム著『リエゾン2 Liaison2』（白水社、2024 年）を使う予定だが、購入指示は授業内で行う。

オフィスアワー 授業後、教室にて対応。もしくは事前にメールで日時調整をし、個別に対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニ・プロジェクト	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

仏語Ⅱ-2		科目コード：FOR204	
非常勤講師 八木直子			
専門／学年：		全専門／2 年次	
形態：		単位数：2 単位	
概要		仏語Ⅰを履修した初級文法修得者を対象とし、フランス語能力をさらに伸ばしていく。語学の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」を総合的に磨き、文法をしっかりと習得するとともに定着させる。教科書の題材やフランス文化についてディスカッションを行う。	
到達目標		フランス語の基礎力を確実なものとし、自分の考えをフランス語で発信できるようになることを目指す。	

授業計画				
第 1 回	Leçon3 Révisions1	事前	前期で学んだ文法事項を復習する。	60 分
		事後	Leçon3 を復習する。	180 分
第 2 回	Leçon4 時・理由・条件を表す接続詞 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon4 を復習する。	180 分
第 3 回	Leçon4 「～させる」「～させておく」の言い方、所有代名詞 Exercice	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon4 を復習する。	180 分
第 4 回	Leçon4 Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Le français en scène と Phrases utiles で学んだ表現を復習する。	180 分
第 5 回	Leçon5 半過去の活用、半過去の用法 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon5 を復習する。	180 分
第 6 回	Leçon5 大過去の用法 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon5 を復習する。	180 分
第 7 回	Leçon5 Le français en scène, Phrases utiles, Révisions2	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Le français en scène と Phrases utiles で学んだ表現を復習する。	180 分
第 8 回	Lecture1 Les Français et le cinéma Leçon6 関係代名詞、強調構文	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Lecture の文章構造を復習し、音読をする。	180 分
第 9 回	Leçon6 「～と言う」「～と思う」などの言い方 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon6 を復習する。	180 分
第 10 回	Leçon7 現在分詞の使い方、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の形容詞的な用法 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon7 を復習する。	180 分
第 11 回	Leçon8 条件法現在、条件法過去 Exercices	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon8 を復習する。	180 分
第 12 回	Leçon8 選択を尋ねる疑問代名詞 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles, Révisions3	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Le français en scène と Phrases utiles で学んだ表現を復習する。	180 分
第 13 回	Leçon9 接続法現在、接続法過去、感覚動詞 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon9 を復習する。	180 分
第 14 回	Leçon10 直接話法と間接話法、時制の一致 Exercices, Le français en scène, Phrases utiles, Révisions4, Lecture2 La tour Eiffel	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Leçon10 と Le français en scène と Phrases utiles で学んだ表現を復習する。	180 分
第 15 回	Leçon10 単純過去 Révisions4, Lecture2 La tour Eiffel	事前	教科書該当箇所の単語を調べ、予習する。	60 分
		事後	Lecture の文章構造を復習し、音読をする。様々な時制の使い方を整理する。	180 分

フィードバック 課題や小テストについて、コメントを付けて学修成果をフィードバックする。

成績評価	概ね次の割合で総合的に評価する。
	学期末試験 40%、授業での積極的な取組み 40%、課題提出 20%
テキスト	松村博史、エディ・バンドロム著『リエゾン2 Liaison2』（白水社、2024 年）
	その他、必要に応じプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて対応。もしくは事前にメールで日時調整をし、個別に対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	フミニ・ナ・ツクシ・ナ・タタ	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	☑	□	□

専門／学年： 全専門／1 年次

概要 短大に入学した新入生はキャリアのビジョンをもち2年間の学修に取り組むとともに、教養を深めることが重要である。このプログラ

藝術學部

フィードバック 「音楽と自分」の授業時でフィードバックを行う。

成績評価 レポート 60% 授業への取り組み 40%

テキスト 特になし

オフィスアワー 授業終了後や事前に E メールにて質問・相談があれば対応する。

アクティブ・ラーニング音楽を題材とした発表や意見交流を通して、アクティブ・ラーニングの視点やコミュニケーションの方法等、現代を生きる市民として教養的資質を

備考

授業を通して修得できる力	
--------------	--

専門実技Ⅰ-1（ピアノ）

※音楽療法士養成に関する科目

実技科目主任（ピアノ）	准教授	倉地恵子	科目コード：IND101
-------------	-----	------	--------------

専門／学年：ピアノ専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	古典派の作品で読譜力・構成力・立体的表現力を身につける

到達目標	ピアノ奏法の基本である姿勢・打鍵・運指・脱力を習得することを目標とする。
------	--------------------------------------

授業計画	前期 12 回、各人 50 分の個人指導、および 3 回のグルーブレッスン 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
------	--

第 1 回	ガイダンス 1 年間の学習計画	事前 事後	自分の演奏で何が不足しているかを考える 1 年間の目標を設定し、勉強方針を立てる	420 分 420 分
第 2 回	基礎的なことの確認－姿勢－	事前 事後	様々な椅子の高さで演奏を試み、最適な椅子の高さを探す 椅子に座った時の姿勢を確認しながら演奏をする	420 分 420 分
第 3 回	基礎的なことの確認－打鍵－	事前 事後	ピアノアンサンブルⅠで調べた打鍵のしくみを確認する 打鍵を確認しながら、1 つ 1 つの音をしっかりと演奏する	420 分 420 分
第 4 回	基礎的なことの確認－脱力－	事前 事後	体を動かして肘・手首の脱力を試みる 肩・肘・手首に力が入らずに演奏できているかを確認をする	420 分 420 分
第 5 回	グルーブレッスン① ー前期試験に向けての勉強の仕方ー	事前 事後	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる グルーブレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 6 回	前期試験曲－読譜の確認－	事前 事後	楽語を調べ、意識をして、読譜をする 正しい読譜ができているか確認をする	420 分 420 分
第 7 回	前期試験曲－形式－	事前 事後	形式を考え、練習をする ソナタ形式について調べ、演奏に結びつける	420 分 420 分
第 8 回	前期試験曲－様式－	事前 事後	作曲時の時代背景を調べる 作曲家に与えた影響を考える	420 分 420 分
第 9 回	グルーブレッスン② 前期試験曲－表現－	事前 事後	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる グルーブレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 10 回	前期試験曲－和声感－	事前 事後	和声機能の確認をする 和音の響きを確認する	420 分 420 分
第 11 回	前期試験曲－強弱－	事前 事後	強弱の確認をする コントラストのつけ方の研究をする	420 分 420 分
第 12 回	前期試験曲－音色－	事前 事後	作曲家の要求しているニュアンスを探る 曲のキャラクターを考え、練習をする	420 分 420 分
第 13 回	グルーブレッスン③ 前期試験曲－より深い解釈－	事前 事後	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる グルーブレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 14 回	前期試験曲－より深い表現－	事前 事後	表現を掘り下げて練習をする 独自の表現ができているか確認をする	420 分 420 分
第 15 回	前期試験曲－仕上げ－	事前 事後	アーティキュレーションスラーの確認をする フレーズ感をもって演奏するように心がけて、練習をする	420 分 420 分

フィードバック	前期演奏試験の演奏について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。
---------	--------------------------------------

成績評価	実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％ 試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。
------	--

テキスト	適宜授業内に指示する。
------	-------------

オフィスアワー	各実技担当教員のレッスン室で対応する。（各実技担当教員レッスン日）
---------	-----------------------------------

アクティブ・ラーニング	3 回のグルーブレッスンを通して、お互いの曲、表現や技術面について自由に意見を述べ合う。
-------------	--

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	□	☒	☒	□	□

専門実技Ⅰ-2（ピアノ）

※音楽療法士養成に関する科目

実技科目主任（ピアノ）	准教授	倉地恵子	科目コード：IND102
-------------	-----	------	--------------

専門／学年：ピアノ専門／1 年次

形態：実技単位数：2 単位

概要ロマン派、近現代の作品で、表現能力・音楽性を身につける。

到達目標表現力・音の色彩感を養うことを目標とする。

授業計画後期 12 回、各人 50 分の個人指導、および 3 回のグループレッスン
実技演習においては、各人の進捗に合わせて授業を進める。

第 1 回	オーディションの曲－読譜の確認－	事前 楽語を調べ、意識をして読譜をする 事後 正しい読譜ができているか確認して、練習をする	420 分 420 分
第 2 回	オーディションの曲－解釈－	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 形式を考え、練習をする	420 分 420 分
第 3 回	オーディションの曲－表現－	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現する上で最適なテンポを探す	420 分 420 分
第 4 回	グループレッスン① オーディションの曲－仕上げ－	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 5 回	後期試験曲－後期試験に向けての勉強の仕方	事前 作品を決め、読譜をはじめる 事後 作曲家について調べる	420 分 420 分
第 6 回	後期試験曲－読譜の確認－	事前 楽語を調べ、意識をして読譜をする 事後 正しい読譜ができているか確認をし、練習をする	420 分 420 分
第 7 回	後期試験曲－形式－	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420 分 420 分
第 8 回	後期試験曲－様式－	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	420 分 420 分
第 9 回	後期試験曲－和声感－	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和音の響きを意識して、練習をする	420 分 420 分
第 10 回	後期試験曲－強弱－	事前 強弱の確認をして練習をする 事後 コントラストのつけ方の研究をして、練習する	420 分 420 分
第 11 回	グループレッスン② 後期試験曲－表現－	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 12 回	後期試験曲－音色－	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探り、練習をする 事後 曲のキャラクターを考えて練習をする	420 分 420 分
第 13 回	後期試験曲－細部の表現－	事前 曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする 事後 広い空間での響きを意識して、練習をする	420 分 420 分
第 14 回	後期試験曲－細部の音色－	事前 タッチの確認をして練習をする 事後 色彩感のある音を出しているか、確認をしながら、練習をする	420 分 420 分
第 15 回	グループレッスン③ 後期試験曲－仕上げ－	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分

フィードバックオーディション・後期演奏試験の演奏について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。

テキスト適宜授業内に指示する。

オフィスアワー各実技担当教員のレッスン室で対応する。（各実技担当教員レッスン日）

アクティブ・ラーニング3 回のグループレッスンを通して、お互いの曲、表現や技術面について自由に意見を述べ合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐

専門／学年：ピアノ専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	様々な作曲家特有の語法を学ぶ。

到達目標 バランス・聴きとる力を養い、学内演奏会でのホール演奏に結びつける。

授業計画	前期 12 回、各人 50 分の個人指導、および 3 回のグルーブレッスン。 実技演習においては、ピアノアンサンブルⅡ-1 の学内演奏会の曲の進度に合わせて授業を進める。
------	--

第 1 回	ガイダンス 1 年間の学習計画	事前 レパートリーに加えたい作品を選ぶ	420 分
		事後 1 年間の目標を設定し、勉強方針を立てる	420 分
第 2 回	オーディションの曲―定期演奏会オーディションに向けての勉強の仕方―	事前 作品を決め、読譜を始める	420 分
		事後 作曲家について調べる	420 分
第 3 回	オーディションの曲―読譜の確認―	事前 楽語を調べ、楽語を意識して、練習する	420 分
		事後 正しい読譜が出来ているか確認をする	420 分
第 4 回	オーディションの曲―様式・形式―	事前 作曲家の時代背景を考える	420 分
		事後 曲の形式を考える	420 分
第 5 回	グルーブレッスン① 一定期演奏会オーディションに向けての勉強の仕方―	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる	420 分
		事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分
第 6 回	オーディションの曲―和声感―	事前 和声機能の確認をして、練習をする	420 分
		事後 和音の響きを意識して、練習をする	420 分
第 7 回	オーディションの曲―強弱・音色―	事前 強弱の確認をし、作曲家の要求している音色を探る	420 分
		事後 コントラストのつけ方、曲のキャラクターを考える	420 分
第 8 回	オーディションの曲―フレーズ感―	事前 アーティキュレーションスラーの確認をする	420 分
		事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする	420 分
第 9 回	グルーブレッスン② 定期演奏会オーディション曲―表現―	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる	420 分
		事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分
第 10 回	オーディションの曲―テンポ感―	事前 表現をする上で、最適なテンポを探し、設定する	420 分
		事後 テンポの不自然なふらつきがないか、確認をする	420 分
第 11 回	学内演奏会の曲―様式―	事前 作曲時の時代背景を調べる	420 分
		事後 作曲家に与えた影響を考える	420 分
第 12 回	学内演奏会の曲―表現―	事前 表現方法を考えて、練習をする	420 分
		事後 表現をする上で、最適なテンポを探し、練習をする	420 分
第 13 回	グルーブレッスン③ 前期試験曲―より深い解釈―	事前 強弱の確認をして、練習をする	420 分
		事後 コントラストのつけ方を研究して、練習する	420 分
第 14 回	学内演奏会の曲―強弱―	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる	420 分
		事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分
第 15 回	学内演奏会の曲―仕上げ―	事前 2 人でタッチの確認をし、掘り下げた表現ができているか確認をする	420 分
		事後 声部それぞれが生きており、立体的な演奏になっているか確認をする	420 分

フィードバック 学内演奏会の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 学内演奏会 60%、課題 20%、授業態度 20%

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）

アクティブ・ラーニング 3 回のグルーブレッスンを通して、お互いの曲、表現や技術面について自由に意見を述べ合う。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

専門／学年：ピアノ専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	より高度なテクニック・より深い音楽表現・より豊かな表現力を習得する。

到達目標	楽曲にあった音色・音楽表現を追及し、オーディション・卒業演奏試験で質の高い演奏を目指す。
------	--

授業計画	後期 12 回、各人 50 分の個人指導、および 3 回のグルーブレッスン 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
------	--

第 1 回	オーディションの曲―細かいニュアンス	事前 事後	タッチの確認をして、練習する 色彩感のある音を出しているか確認して、練習する	420 分 420 分
第 2 回	オーディションの曲―響き―	事前 事後	和声の響きを聴いているか確認をして、練習する 声部それぞれが生きて、立体的な演奏になっているか確認をする	420 分 420 分
第 3 回	オーディションの曲―仕上げ―	事前 事後	曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする 掘り下げた表現ができているか確認をする	420 分 420 分
第 4 回	グルーブレッスン① オーディションの曲―仕上げ―	事前 事後	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる グルーブレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 5 回	試験曲―卒業演奏試験に向けての勉強の仕方―	事前 事後	作品を決め、読譜をする 作曲家について、調べる	420 分 420 分
第 6 回	試験曲―読譜の確認―	事前 事後	楽譜を調べ、楽譜を意識して、練習をする 正しい読譜が出来ているか、確認をする	420 分 420 分
第 7 回	試験曲―形式―	事前 事後	形式を考えて、練習をする 曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420 分 420 分
第 8 回	試験曲―様式―	事前 事後	作曲時の時代背景を調べる 作曲家に与えた影響を考える	420 分 420 分
第 9 回	試験曲―和声感―	事前 事後	和声機能の確認をして、練習をする 和音の響きを意識して、練習をする	420 分 420 分
第 10 回	試験曲―強弱―	事前 事後	強弱の確認をして、練習をする コントラストのつけ方を研究して、練習をする	420 分 420 分
第 11 回	グルーブレッスン② 試験曲―表現―	事前 事後	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる グルーブレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 12 回	試験曲―音色―	事前 事後	作曲家の要求している音色を探る 曲のキャラクターを考える	420 分 420 分
第 13 回	試験曲―細部の表現―	事前 事後	表現を掘り下げて練習をする 独自の表現ができているか確認をする	420 分 420 分
第 14 回	試験曲―細部の音色―	事前 事後	タッチの確認をする 色彩感のある音を出しているか確認をする	420 分 420 分
第 15 回	グルーブレッスン③ 試験曲―より深い解釈―	事前 事後	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる グルーブレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分

フィードバック	オーディション・卒業演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	卒業演奏試験の評価が 50 点以上であること。卒業演奏試験 60%、課題 20%、授業態度 20% 試験にレッスンへの取り組み等を加味して、総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。
------	---

テキスト	適宜、授業内に指示する。
------	--------------

オフィスアワー	各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）
---------	------------------------------

アクティブ・ラーニング	3 回のグルーブレッスンを通して、お互いの曲、表現や技術面について自由に意見を述べ合う。
-------------	--

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅰ-1（器楽）	
※音楽療法士養成に関する科目	
実技科目主任（器楽） 特任教授 飯島和久	科目コード：IND101
専門／学年：器楽専門／1 年次	
形態：実技	単位数：2 単位
概要	この授業は学習の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。

到達目標 個々の能力、状況に応じて基本を学び、ベーシックな作品から高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。前期試験に向けて計画を立て学修する。

授業計画		前期 15 回 各人 50 分の個人指導（グループレッスン含む） 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の能力を見極め、基礎的なテクニックについて適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな作品を中心に、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。		
第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	入学前の学習を確認し学習計画案を立てる	420 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 4 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（装飾法を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	他の楽器の問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分
第 5 回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、弦楽器のバロック音楽を調べる	420 分
		事後	他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 9 回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、木管楽器のバロック音楽を調べる	420 分
		事後	他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 13 回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、金管・打楽器のバロック音楽を調べる	420 分
		事後	他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、前期試験に向けて練習する	420 分

フィードバック 前期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は、各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅰ-2（器楽）

※音楽療法士養成に関する科目

実技科目主任（器楽）	特任教授 飯島和久	科目コード：IND102
------------	-----------	--------------

専門／学年：器楽専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
-------	----------

概要この授業は学習の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。

到達目標	個々の能力、状況に応じて基本を学び、ベーシックな作品から高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。後期試験に向けて計画を立て学修する。
------	---

授業計画	後期 15 回 各人 50 分の個人指導（グループレッスン含む） 以下の内容はフルート为例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の能力を見極め、基礎的なテクニックについて適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな作品を中心に、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。	
第 1 回	後期の学習計画を立てる	事前 前期の学習を確認し後期の学習計画案を立てる 420 分 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする 420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方をを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 4 回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、弦楽器の古典時代の音楽を調べる 420 分 事後 他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす 420 分
第 5 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 9 回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、木管楽器の古典時代の音楽を調べる 420 分 事後 他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす 420 分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ後期試験曲を学ぶ	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（テクニックを学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（音楽表現を学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 13 回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、金管・打楽器の古典時代の音楽を調べる 420 分 事後 他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす 420 分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する 420 分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 420 分 事後 問題箇所を確認し、後期試験に向けて練習する 420 分

フィードバック 後期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。

テキスト 各教員から教則本、楽曲等の指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は、各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	☒	☒	□	□	☒	□	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	□	□

専門／学年：器楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	専門実技Ⅱ-1 は学習の最も中心となる各自の専門実技を個人レッスン形式で学ぶものである。

到達目標 個々の能力、状況に応じて、より高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。

授業計画 前期 15 回 各人 50 分の個人指導（グルーブレッスン含む） 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。
技術の充実をめざすと共に、その応用として様々な作品をとりあげ、音楽を表現する方法について深く研究する。

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前 一年次の学習を確認し学習計画案を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分 420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 4 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（演奏スタイルを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 5 回	グルーブレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 9 回	グルーブレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（テクニクを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 13 回	グルーブレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、学内演奏会に向けて練習する	420 分 420 分

フィードバック 学内演奏会の後、実技担当教員、器楽実技教員からコメントを受ける。

成績評価 学内演奏会において評価する。評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。

テキスト 各実技教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門／学年：器楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	専門実技Ⅱ-2は学習の最も中心となる各自の専門実技を個人レッスン形式で学ぶものである。

到達目標 個々の能力、状況に応じて、より高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。

授業計画 後期 15 回 各人 50 分の個人指導（グループレッスン含む） 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。
技術の充実をめざすと共に、その応用として様々な作品をとりあげ、音楽を表現する方法について深く研究する。

第 1 回	後期の学習計画を立てる	事前	前期の学習を確認し後期の学習計画案を立てる	420 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 4 回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 5 回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 9 回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ後期試験曲を中心に	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（テクニクを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（音楽表現を学ぶ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 13 回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、卒業演奏試験に向けて練習する	420 分

フィードバック 卒業演奏試験の後、実技担当教員、器楽実技教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験・卒業演奏試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。

テキスト 各実技教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力								意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

専門実技 I-1（声楽）

※音楽療法士養成に関する科目

実技科目主任（声楽）	教授 細谷美直	科目コード：IND101
------------	---------	--------------

専門／学年：声楽専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	個人レッスンの形態で歌唱に必要な基礎技術を習得する。すなわち正しい姿勢、腹式呼吸による自然な発声を身につける。

到達目標	エチュード、イタリア古典歌曲を中心題材として歌唱の基本技術を体得することを目標とする。 声楽の技術、音楽を学び、実技試験等に向け表現力を養う。
------	--

授業計画	各人 50 分の個人指導 試験課題は、任意の歌曲 1 曲。
------	----------------------------------

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	これまでの学習内容を整理する	90 分
		事後	練習曲① 課題曲① 読譜、練習をする	210 分
第 2 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 1 姿勢、呼吸法を中心に	事前	練習曲① 課題曲① 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲② 課題曲② 読譜、練習をする	210 分
第 3 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 2 ストレッチ、発声法を中心に	事前	練習曲② 課題曲② 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲③ 課題曲③ 読譜、練習をする	210 分
第 4 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 3 母音、子音の明確化	事前	練習曲③ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲④ 課題曲④ 読譜、練習をする	210 分
第 5 回	グルーブレッスン① ー前期試験に向けてー	事前	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、曲の内容を調べる	210 分
		事後	グルーブレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 6 回	歌曲、楽譜を読み込む 1 詩（ディクション）と音（メロディー）との関わり方	事前	練習曲⑤ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	練習曲⑤ 課題曲④ 言葉の意味を調べる	210 分
第 7 回	歌曲、楽譜を読み込む 2 詩（ディクション）と音（メロディー）との関わり方	事前	練習曲⑤ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	課題曲④ 課題曲⑤ 言葉の意味を調べる	210 分
第 8 回	声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題曲を選択 前期試験を意識する	事前	課題曲④ 課題曲⑤ 詩の内容を考える	210 分
		事後	課題曲④ 課題曲⑤ テンポ、強弱等意識して練習する	210 分
第 9 回	前期試験曲を学ぶ 1 音程・リズムを正確に読む	事前	前期試験曲の言葉（単語）の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら反復練習	210 分
第 10 回	グルーブレッスン② 前期試験曲ー表現ー	事前	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、曲の内容を調べる	210 分
		事後	グルーブレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 11 回	前期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前	前期試験曲の単語、文章の意味を考える	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら反復練習	210 分
第 12 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前	前期試験曲の内容と強弱や、音楽用語の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容と強弱他を考えながら反復練習	210 分
第 13 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 2 暗譜を確かなものとする	事前	前期試験曲、伴奏者とともに暗譜練習する	210 分
		事後	前期試験曲、呼吸、テンポを伴奏者とともに確認、練習をする	210 分
第 14 回	グルーブレッスン③ ー前期試験曲を仕上げるー	事前	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、曲の内容を調べる	210 分
		事後	グルーブレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 15 回	前期のまとめ	事前	前期試験曲、暗譜をしなが	90 分
		事後	前期試験曲、暗譜の確認および演奏の完成度を上げていく	210 分

フィードバック	試演、試験後に個人面談のかたちで学修成果をフィードバックする
---------	--------------------------------

成績評価	実前期演奏試験、評価は複数の教員による採点。
------	------------------------

テキスト	コンコーネ 50 番 他 イタリア古典歌曲集 等 担当教員より、ガイダンス及び授業内にて適宜指示する。
------	---

オフィスアワー	各教員の出校日 各教員のレッスン室
---------	----------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐		☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅰ-2（声楽）

※音楽療法士養成に関する科目

実技科目主任（声楽）	教授 細谷美直	科目コード：IND102
------------	---------	--------------

専門／学年： 声楽専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
-------	----------

概要 個人レッスンの形態で、声楽の基礎技術および音楽を学ぶ。日本歌曲を含む歌唱技術と表現力を身につける。

到達目標	ディクシオン（詩・韻律）と音楽（旋律）との深い関わりを認識し、技術と表現力の向上を目標とする。 前期の学習を踏まえ、発声、エチュードの発表と日本歌曲およびイタリア歌曲を含む外国語曲にて声楽の基礎の確立を目指す。
------	--

授業計画	各人 50 分の個人指導 試験課題は、日本歌曲および自由曲。上記を題材とし、読譜力、解釈力、演奏様式を身につける
------	---

第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期試験の反省 事後 後期の課題の選曲と譜読み	210 分 210 分
第 2 回	歌唱技術の習得 1 異なる言語による作品の読譜	事前 課題曲①及び②の譜読み 事後 課題曲①及び②を音程、リズムに注意して練習する	210 分 210 分
第 3 回	歌唱技術の習得 2 異なる言語による作品の詩の内容を理解する	事前 課題曲①及び②の言葉の意味を調べる 事後 課題曲①及び②を言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 4 回	グルーブレッスン① ーオーディション曲の仕上げー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の内容を調べる 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分 210 分
第 5 回	歌唱技術の習得 3 異なる言語による作品、母音と子音の明確化	事前 課題曲③及び④の詩の内容を考える 発音練習する 事後 課題曲③及び④の詩の内容を考えながら練習 母音と子音の明確化	210 分 210 分
第 6 回	歌唱技術の習得 4 異なる言語による作品、表現法の研究、楽譜の意味を知る	事前 課題曲③及び④ 強弱、テンポの変化、音楽用語等を調べる 事後 課題曲③及び④ 表現、テンポを考えながら反復練習	210 分 210 分
第 7 回	後期試験曲を探る 読譜、音程・リズムを正確に	事前 課題曲⑤及び⑥ 譜読み 事後 課題曲⑤及び⑥ 音程、リズムを正確に読む	210 分 210 分
第 8 回	後期試験曲を選ぶ 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前 後期試験曲 発音練習母音と子音の明確化 事後 後期試験曲 表現、テンポを意識する	210 分 210 分
第 9 回	後期試験曲を学ぶ 1 表現法の研究、楽譜を読みこむ	事前 後期試験曲 言葉の意味、時代背景等調べる 事後 後期試験曲 言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 10 回	後期試験曲を学ぶ 2 テンポの変化、強弱他を意識する	事前 後期試験曲 単語、文章の意味を調べる 伴奏合わせをする 事後 後期試験曲 詩の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 11 回	後期試験曲を学ぶ 3 伴奏者とともに曲の理解を深める	事前 後期試験曲 伴奏あわせをする。 強弱他音楽用語を調べる 事後 後期試験曲 伴奏者とともに曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 12 回	グルーブレッスン② ー後期試験に向けての勉強の仕方ー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習および曲の内容を把握する 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分 210 分
第 13 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 楽曲の内容を深め、暗譜を確かなものにする	事前 後期試験曲 伴奏者とともに表現方法を工夫する 事後 後期試験曲 曲の内容を考えながら合わせ、表現力をあげる	210 分 210 分
第 14 回	伴奏者を伴い、後期試験曲を学ぶ ー表現ー	事前 呼吸、テンポ等、伴奏者と確認をする 事後 伴奏合わせを繰り返し、暗譜をする	210 分 210 分
第 15 回	グルーブレッスン③ 後期試験曲ー仕上げー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習 事後 伴奏者とともに曲の完成度を上げていく	210 分 210 分

フィードバック オーディション、定期演奏会等後に個人面談の形で、後期を振り返り、成果や次の課題を話し合う

成績評価 後期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ 50 番 他
曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日
各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

形態：実技	単位数：2 単位
概要	個人レッスンの形態で歌唱の三原則すなわち姿勢・呼吸・発声を基に、より自然な歌唱を習得する。

到達目標	1 年次に習得した歌唱法を基に、演奏表現の更なる発展をテーマとする。個々の特性にもよるが、歌曲だけでなく、オペラやオラトリオのアリア等レパートリーを広げながら発声法・技術の向上を目指す。
------	---

授業計画	各人 50 分の個人指導。学内演奏会（独唱または重唱、器楽のオブリガードを伴う楽曲を含む）に向け、技術及び表現を身につける
------	---

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	これまでの学習内容を整理する	90 分
		事後	練習曲① 課題曲① 読譜、練習をする	210 分
第 2 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 1 姿勢、呼吸法を中心に	事前	練習曲① 課題曲① 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲② 課題曲② 読譜、練習をする	210 分
第 3 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 2 ストレッチ、発声法を中心に	事前	練習曲② 課題曲② 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲③ 課題曲③ 読譜、練習をする	210 分
第 4 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 3 母音、子音の明確化	事前	練習曲③ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲④ 課題曲④ 読譜、練習をする	210 分
第 5 回	グループレッスン① 詩（ディクショ）ン）と音（メロディー）との関わり方、楽譜の意味	事前	グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 6 回	歌曲、楽譜を読み込む 詩の内容を理解する	事前	練習曲⑥ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ 言葉の意味を調べる	210 分
第 7 回	声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題曲を選択 前期試験を意識する	事前	課題曲③、課題曲④ 詩の内容を考える	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ テンポ、強弱等意識して練習する	210 分
第 8 回	前期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前	課題曲③、課題曲④ 暗譜して練習する	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ 暗譜の確認と表現法の研究	210 分
第 9 回	前期試験曲を選ぶ 読譜 音程・リズムを正確に読む	事前	前期試験曲の譜読み	210 分
		事後	前期試験曲の音程、リズムを正確に読む練習	210 分
第 10 回	グループレッスン② 母音と子音の明確化	事前	グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 11 回	前期試験曲を学ぶ 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前	前期試験曲の単語、文章の意味を考える	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら練習、楽譜の意味を考える	210 分
第 12 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前	前期試験曲の内容と強や、音楽用語の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容と強弱他を考えながら練習	210 分
第 13 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 2 問題点の認識と解決をはかる	事前	前期試験曲、伴奏合わせを繰り返す	210 分
		事後	前期試験曲、呼吸、テンポを伴奏者とともに練習	210 分
第 14 回	グループレッスン③ 前期試験曲を仕上げる	事前	前期試験曲、伴奏者とともに暗譜練習する	210 分
		事後	グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 15 回	前期のまとめ	事前	前期試験曲、暗譜をしながら伴奏合わせをくり返す	210 分
		事後	前期試験曲、暗譜の確認および演奏の完成度を上げていく	210 分

フィードバック	試演会、学内演奏会後、個人面談の形で前期を振り返り、次の課題を話し合う。
---------	--------------------------------------

成績評価	前期演奏試験、複数の教員による採点。
------	--------------------

テキスト	コンコーネ、イタリア歌曲、その他 レッスン時に指示する。
------	---------------------------------

オフィスアワー	各教員の出校日、各教員のレッスン室
---------	-------------------

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅱ-2（声楽）

実技科目主任（声楽） 教授 細谷美直

科目コード：IND202

専門／学年：声楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	個人レッスンの形態で歌唱の三原則すなわち姿勢・呼吸・発声を基に、より自然な歌唱を習得する。

到達目標 1 年次に習得した歌唱法を基に、演奏表現の更なる発展をテーマとする。個々の特性にもよるが、歌曲だけでなく、オペラやオラトリオのアリア等レパートリーを広げながら発声法・技術の向上を目指す。

授業計画 各人 50 分の個人指導。卒業課題は歌曲 1 曲、自由曲 1 曲。前期に加え、演奏の完成度を上げる

第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期試験の反省 事後 後期の課題の譜読み	210 分 210 分
第 2 回	歌唱技術の習得 1 異なる言語による作品の読譜	事前 課題曲⑤及び⑥の譜読み 事後 課題曲⑤及び⑥を音程、リズムに注意して練習する	210 分 210 分
第 3 回	歌唱技術の習得 2 異なる言語による作品の詩の内容を理解する	事前 課題曲⑤及び⑥の言葉の意味を調べる 事後 課題曲⑤及び⑥を言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 4 回	グルーブレッスン① ーオーディション曲の仕上げー	事前 グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の内容を調べる 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り復習する	210 分 210 分
第 5 回	歌唱技術の習得 4 異なる言語による作品、表現法の研究	事前 課題曲⑤及び⑥、強弱、テンポの変化、音楽用語等を調べる 事後 課題曲⑤及び⑥、表現、テンポを考えながら練習	210 分 210 分
第 6 回	後期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前 課題曲⑦ 譜読み 事後 課題曲⑦⑧音程、リズムを正確に読む	210 分 210 分
第 7 回	後期試験曲を選ぶ 読譜 音程・リズムを正確に読む	事前 課題曲⑦⑧発音練習母音と子音の明確化 事後 課題曲⑦⑧表現、テンポを意識する	210 分 210 分
第 8 回	後期試験曲を学ぶ 1 母音、子音の明確化	事前 課題曲⑦⑧単語の意味を調べる、楽譜を調べる 事後 課題曲⑦⑧単語及び詩の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 9 回	後期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前 課題曲⑦⑧曲の内容を把握する 事後 課題曲⑦⑧曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 10 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前 試験曲の言葉の意味、時代背景等調べる 事後 試験曲の言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 11 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 2 楽曲の研究を深める	事前 試験曲の単語、文章の意味を調べる 事後 試験曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 12 回	グルーブレッスン② ー後期試験に向けての勉強の仕方ー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、又は演奏される曲の内容を調べる 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り復習する	210 分 210 分
第 13 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 3 楽曲の研究を深め、暗譜をする	事前 試験曲の伴奏合わせをする 強弱や音楽用語を調べる 事後 試験曲の伴奏者とともに曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 14 回	伴奏者を伴い、後期試験曲を学ぶ ー表現ー	事前 試験曲の伴奏合わせを繰り返し、暗譜する 事後 試験曲の呼吸、テンポ等、伴奏者と確認する	210 分 210 分
第 15 回	グルーブレッスン③ 後期試験曲ー仕上げー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り練習する	210 分 210 分

フィードバック 試演会、後期試験その他後、個人面談の形で振り返る。

成績評価 後期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ、イタリア歌曲、オペラアリア等
レッスン時に指示する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	☒	□	☒	□	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	□

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード：SLF206

専門／学年：全専門／2 年次

单位数：1 单位

概要	「作曲法」とは、旋律・和声・リズムなどの音楽形成の要素を駆使してひとつの楽曲を作り上げる方法のことである。特に変奏曲を中心に分析を行う。また、変奏曲の作曲にも取り組み、音出しをする。
----	---

到達目標 簡単な作曲ができるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【変奏曲の分析】		【変奏曲の作曲】			
第1回	ガイドンス	変奏曲とは	事前 事後	変奏曲の予習 変奏曲の復習	「変奏曲」の項目を音楽事典で読む 30分 30分
第2回	変奏曲（作品a上）	（変奏A）	事前	作品a、変奏Aの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：きらきら星変奏曲	伴奏形	事後	作品a、変奏Aの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第3回	変奏曲（作品a中）	（変奏B）	事前	作品a、変奏Bの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：きらきら星変奏曲	刺繍音	事後	作品a、変奏Bの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第4回	変奏曲（作品a下）	（変奏C）	事前	作品a、変奏Cの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：きらきら星変奏曲	経過音	事後	作品a、変奏Cの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第5回	ヴァイオリンの変奏曲（作品b前半）	（変奏D）	事前	作品b、変奏Dの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	パガニーニ：24の奇想曲 第24番	倚音	事後	作品b、変奏Dの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第6回	ヴァイオリンの変奏曲（作品b後半）	（変奏E）	事前	作品b、変奏Eの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	パガニーニ：24の奇想曲 第24番	掛留音	事後	作品b、変奏Eの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第7回	変奏曲（作品c前半）	（変奏F）	事前	作品c、変奏Fの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：ピアノソナタ K.331 第1楽章	先取音	事後	作品c、変奏Fの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第8回	変奏曲（作品c後半）	（変奏G）	事前	作品c、変奏Gの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：ピアノソナタ K.331 第1楽章	逸音	事後	作品c、変奏Gの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第9回	変奏曲（作品d）	（変奏H）	事前	作品d、変奏Hの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	ヘンデル：調子のよい鍛冶屋	和声音	事後	作品d、変奏Hの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第10回	変奏曲（作品e前半） ベートーヴェン：	（変奏I）	事前	作品e、変奏Iの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	「トルコ行進曲」による変奏曲	和音	事後	作品e、変奏Iの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第11回	変奏曲（作品e後半） ベートーヴェン：	（変奏J）	事前	作品e、変奏Jの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	「トルコ行進曲」による変奏曲	移旋	事後	作品e、変奏Jの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第12回	変奏曲（作品f前半） ベートーヴェン：	（変奏K）	事前	作品f、変奏Kの予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	「わが心もはやうつろになりて」による変奏曲	拍子の変更	事後	作品f、変奏Kの復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第13回	変奏曲（作品f後半） ベートーヴェン：	変奏曲の作曲法（基礎）	事前	作品f、変奏曲の作曲法の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	「わが心もはやうつろになりて」による変奏曲		事後	作品f、変奏曲の作曲法の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第14回	変奏曲（作品g）	変奏曲の作曲法（発展）	事前	作品g、変奏曲の作曲法の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	様々な作曲家：パガニーニの主題による変奏曲		事後	作品g、変奏曲の作曲法の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第15回	変奏曲（作品h）	変奏曲の作曲法（総合）	事前	作品h、変奏曲の作曲法の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	バッハ：ベル：3声のカノン		事後	作品h、変奏曲の作曲法の復習	分析譜を見ながら音源を聴く

フィードバック 作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。

成績評価 作品提出・発表（変奏曲の作曲）50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード : SLF207

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習

单位数：1 单位

概要	「編曲法」とは、旋律に、和声・リズムなどの音楽形成の要素を駆使してひとつの楽曲を作り上げる方法のことである。 特にアンサンブル作品とフーガを中心に分析を行う。 また、ピアノ連弾（もしくは器楽＋ピアノ）への編曲にも取り組み、音出しをする。
----	--

到達目標 簡単なアンサンブル曲に編曲ができるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【アンサンブル曲の分析・編曲】	【フーガの分析】	
第1回	作品発表（グループ a）	事前 作品発表の予習	30 分
	変奏曲の作曲	事後 作品発表の復習	30 分
第2回	作品発表（グループ b）	事前 作品発表の予習	30 分
	変奏曲の作曲	事後 作品発表の復習	30 分
第3回	ピアノ連弾曲（作品 a）	事前 作品 a、作品 A の予習	30 分
	フォーレ：ドリーより「子守歌」	事後 作品 a、作品 A の復習	30 分
第4回	ピアノ連弾曲（作品 b）	事前 作品 b、作品 B の予習	30 分
	フォーレ：ドリーより「ミ・ア・ウー」	事後 作品 b、作品 B の復習	30 分
第5回	ピアノ連弾曲（作品 c）	事前 作品 c、作品 C の予習	30 分
	ドビュッシー：小組曲より「小舟にて」	事後 作品 c、作品 C の復習	30 分
第6回	ピアノ連弾曲（作品 d）	事前 作品 d、作品 D の予習	30 分
	マ・メール・ロワより「眠りの森の美女のパヴァーヌ」	事後 作品 d、作品 D の復習	30 分
第7回	声楽＋ピアノ曲（作品 e）	事前 作品 e、作品 E の予習	30 分
	成田為三：浜辺の歌	事後 作品 e、作品 E の復習	30 分
第8回	声楽＋ピアノ曲（作品 f）	事前 作品 f、作品 F の予習	30 分
	ラフマニノフ：ヴォカリーズ	事後 作品 f、作品 F 復習	30 分
第9回	ピアノ連弾曲（作品 g）	事前 作品 g、作品 G の予習	30 分
	シューベルト：軍隊行進曲 第1番	事後 作品 g、作品 G の復習	30 分
第10回	器楽＋ピアノ曲（作品 h） ベートーヴェン： ヴァイオリンソナタ 第5番「春」第1楽章	事前 作品 h、作品 H の予習	30 分
		事後 作品 h、作品 H の復習	30 分
第11回	器楽＋ピアノ曲（作品 i）	事前 作品 i、作品 I の予習	30 分
	モーツァルト：フルート協奏曲 第1番 第1楽章	事後 作品 i、作品 I の復習	30 分
第12回	アンサンブルの編曲法（基礎）	事前 アンサンブルの編曲法、作品 J の予習	30 分
		事後 アンサンブルの編曲法、作品 J の復習	30 分
第13回	アンサンブルの編曲法（発展）	事前 アンサンブルの編曲法、作品 K の予習	30 分
		事後 アンサンブルの編曲法、作品 K の復習	30 分
第14回	アンサンブルの編曲法（応用）	事前 アンサンブルの編曲法、作品 L の予習	30 分
		事後 アンサンブルの編曲法、作品 L の復習	30 分
第15回	作品発表	事前 作品発表の予習	30 分
	アンサンブルの編曲	事後 作品発表の復習	30 分

フィードバック	作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------------

成績評価 作品提出・発表{ピアノ連弾(もしくは器楽+ピアノ)の編曲} 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

音楽史-1

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎		科目コード：LEC101
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：講義		単位数：2 単位
概要	主に古代ギリシア・ローマから 19 世紀に至るまでの西洋音楽史と、日本音楽史（古代・中世）を取り扱う。とりわけ音律・音階・旋法とといった音楽の基本的な構成要素と、それによって生み出される音楽のテクスチュアとその変遷の理解に重点を置く。	
到達目標	各時代の音楽様式を理解することで、ある音楽を聴いたときに、それがいつ頃の作品であるか、またどのような文化的・歴史的背景を持っているかを考え、説明することができる。	
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。	

第 1 回	音楽史の概要	事前 事後	シラバスに目を通し、自分の興味についてまとめておく 配布プリントに載る参考文献の所在を図書館で確認する	130 分 140 分
第 2 回	古代その 1 ギリシア・ローマの文化	事前 事後	古代文明について高校世界史を復習する 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 3 回	古代その 1 音楽理論	事前 事後	プリント教材に目を通し、質問の準備をする 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 4 回	中世その 1 キリスト教文化と聖歌	事前 事後	プリント教材に目を通し、質問の準備をする 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 5 回	中世その 2 多声音楽	事前 事後	プリント教材に目を通し、質問の準備をする 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 6 回	ルネサンスその 1 ブルゴーニュ楽派とフランドル楽派	事前 事後	プリント教材に目を通し、質問の準備をする 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 7 回	ルネサンスその 2 宗教改革	事前 事後	プリント教材に目を通し、質問の準備をする 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 8 回	ルネサンスその 3 世俗声楽曲と器楽	事前 事後	プリント教材に目を通し、質問の準備をする 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 9 回	バロックその 1 オペラ	事前 事後	プリント教材に目を通し、質問の準備をする 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 10 回	バロックその 2 オラトリオとカンタータ	事前 事後	プリント教材に目を通し、質問の準備をする 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 11 回	バロックその 3 ソナタとコンチェルト	事前 事後	プリント教材に目を通し、質問の準備をする 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 12 回	バロックその 4 鍵盤音楽	事前 事後	プリント教材に目を通し、質問の準備をする 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 13 回	日本音楽史 古代	事前 事後	プリント教材に目を通し、質問の準備をする 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 14 回	日本音楽史 中世	事前 事後	プリント教材に目を通し、質問の準備をする 講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	130 分 140 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 事後	前期のノートをもとめ、試験に備える。 試験結果を振り返り、足りなかった点について復習する	130 分 140 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 定期試験を 50%、授業への取り組み（発言内容・小テスト・課題提出）を 50%とする。

テキスト 毎時プリント教材を配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて行う。

アクティブ・ラーニング 受講者は各自、授業で取り扱う音楽史全体の流れと各受講者の専攻との関係について調べ、発表する。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☑	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	□	□

音楽史-2

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎		科目コード：LEC102
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	主に 19 世紀以降の西洋音楽史と、日本音楽史（近世・近現代）を取り扱う。調性音楽の確立と発展、それに伴う器楽曲の形式の変遷と、旋法の復興、多調音楽・無調音楽の台頭までの流れを概観するとともに、第二次世界大戦後から現在に至るまでの多様な音楽文化についても触れる。	
到達目標	各時代の音楽様式を理解することで、ある音楽を聴いたときに、それがいつ頃の作品であるか、またどのような文化的・歴史的背景を持っているかを考え、説明することができる。	
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。	

第 1 回	概要「19 世紀音楽」とは何か？	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 2 回	古典派その 1 概要と啓蒙主義について	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 3 回	古典派その 2 「ソナタ形式」と器楽曲	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 4 回	古典派その 3 声楽曲と交響曲	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 5 回	ロマン派その 1 歌曲	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 6 回	ロマン派その 2 ピアノと室内楽	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 7 回	ロマン派その 3 管弦楽とオペラ	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 8 回	19 世紀から 20 世紀へ 第一次世界大戦までの音楽	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 9 回	20 世紀 両大戦間の音楽	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 10 回	20 世紀 第二次世界大戦後の西洋芸術音楽	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 11 回	20 世紀 電気・電子楽器と商業音楽	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 12 回	21 世紀の音楽 我々の生きる時代と、音楽のこれからについて	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 13 回	日本音楽史 近世	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 14 回	日本音楽史 近現代	事前	プリント教材に目を通し、質問の準備をする	130 分
		事後	講義の知見をもとに事典項目や音資料等を確認し、文章にまとめる	140 分
第 15 回	後期のまとめ	事前	後期のノートをまとめ、試験に備える	130 分
		事後	試験結果を振り返り、足りなかった点について補習する	140 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 定期試験を 50%、授業への取り組み（発言内容・小テスト・課題提出）を 50% とする。

テキスト 毎時プリント教材を配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて行う。

アクティブ・ラーニング 受講者は各自、授業で取り扱う音楽史全体の流れと各受講者の専攻との関係について調べ、発表する。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	□	□	□

科目コード: SLF101

单位数：1 单位

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、簡単なバス課題、ソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『改訂新版／学生のための和声の要点 第1巻』（サーベル社出版）
※ 和声法Ⅰのテキストは「改訂新版」を使用するので注意。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード : SLF102

専門／学年：全専門／1 年次

单位数：1 单位

概要	「和声法」とは、ある和音と後続の和音との連結の方法のことである。 決められた規則に従いつつ、与えられた旋律から美しい響きを紡ぎ出す方法を、4声体の実施によって身につける。
----	--

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、簡単なバス課題、ソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

第1回	和声法Ⅰ－Ⅰの試験の解説	事前 事後	和声法Ⅰ－Ⅰの試験の解説の予習 和声法Ⅰ－Ⅰの試験の解説の復習	30分 30分
第2回	第9章Ⅱ ⁽¹⁾ の和音	事前 事後	第9章の予習 第9章の復習	30分 30分
第3回	第10章Ⅰ ² 、Ⅴ ⁽⁷⁾	事前 事後	第10章の予習 第10章の復習	30分 30分
第4回	第10章8小節のバス課題（基礎）	事前 事後	第10章の予習 第10章の復習	30分 30分
第5回	第10章8小節のバス課題（発展）	事前 事後	第10章の予習 第10章の復習	30分 30分
第6回	第10章8小節のソプラノ課題	事前 事後	第10章の予習 第10章の復習	30分 30分
第7回	第10章8小節のバス課題（調号有）	事前 事後	第10章の予習 第10章の復習	30分 30分
第8回	第11章Ⅵの和音（基礎）	事前 事後	第11章の予習 第11章の復習	30分 30分
第9回	第11章Ⅵの和音（発展）	事前 事後	第11章の予習 第11章の復習	30分 30分
第10回	第12章Ⅴ ² －Ⅰ ⁽¹⁾ の連結	事前 事後	第12章の予習 第12章の復習	30分 30分
第11回	第13章Ⅳ（D ₂ ）の和音（Ⅳ ⁽¹⁾ －D諸和音の連結）	事前 事後	第13章の予習 第13章の復習	30分 30分
第12回	第13章Ⅳ（D ₂ ）の和音（D ₂ の運用）	事前 事後	第13章の予習 第13章の復習	30分 30分
第13回	試験の概要	事前 事後	試験の概要の予習 試験の概要の復習	30分 30分
第14回	まとめ	事前 事後	まとめの予習 まとめの復習	30分 30分
第15回	試験の解説	事前 事後	試験の解説の予習 試験の解説の復習	30分 30分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『改訂新版／学生のための和声の要点 第1巻』（サーベル社出版）
※ 和声法Ⅰのテキストは「改訂新版」を使用するので注意。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード : SLF201

形態：演習

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、借用和音を含むバス課題や、転位音を含むソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【和声】	【和声分析】			
第1回	(和声法Ⅰの復習 a) 第1章 和音	和声分析とは	事前	和声法Ⅰの復習 a の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 a の復習	誤答を解き直す 30 分
第2回	(和声法Ⅰの復習 b) 第2章 4 声体の配置	(作品 A) ブルクミュラー：第 1 曲	事前	和声法Ⅰの復習 b、作品 A の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 b、作品 A の復習	誤答を解き直す 30 分
第3回	(和声法Ⅰの復習 c) 第3章 和音機能	(作品 B) ブルクミュラー：第 2 曲	事前	和声法Ⅰの復習 c、作品 B の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 c、作品 B の復習	誤答を解き直す 30 分
第4回	(和声法Ⅰの復習 d) 第4章 D-T の連結	(作品 C) ブルクミュラー：第 3 曲	事前	和声法Ⅰの復習 d、作品 C の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 d、作品 C の復習	誤答を解き直す 30 分
第5回	(和声法Ⅰの復習 e) 第5章 T-D-T の連結	第 14 章 借用和音 (副 V の和音)	事前	和声法Ⅰの復習 e、第 14 章の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 e、第 14 章の復習	誤答を解き直す 30 分
第6回	(和声法Ⅰの復習 f) 第6章 T-T の連結	第 14 章 借用和音 (準固有和音)	事前	和声法Ⅰの復習 f、第 14 章の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 f、第 14 章の復習	誤答を解き直す 30 分
第7回	(和声法Ⅰの復習 g) 第7章 T と D 諸和音との連結	第 15 章 根音省略形	事前	和声法Ⅰの復習 g、第 15 章の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 g、第 15 章の復習	誤答を解き直す 30 分
第8回	(和声法Ⅰの復習 h) 第8章 II ¹ の和音	(作品 D) ブルクミュラー：第 4 曲	事前	和声法Ⅰの復習 h、作品 D の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 h、作品 D の復習	誤答を解き直す 30 分
第9回	(和声法Ⅰの復習 i) 第9章 I ² V ₇	(作品 E) ブルクミュラー：第 5 曲	事前	和声法Ⅰの復習 i、作品 E の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 i、作品 E の復習	誤答を解き直す 30 分
第10回	(和声法Ⅰの復習 j) 第10章 V ² - I ¹ の連結	(作品 F) ブルクミュラー：第 6 曲	事前	和声法Ⅰの復習 j、作品 F の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 j、作品 F の復習	誤答を解き直す 30 分
第11回	(和声法Ⅰの復習 k) 第11章 VI の和音	(作品 G) ブルクミュラー：第 7 曲	事前	和声法Ⅰの復習 k、作品 G の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 k、作品 G の復習	誤答を解き直す 30 分
第12回	(和声法Ⅰの復習 l) 第12章 IV ¹ の和音 (II ¹ の代用)	(作品 H) ブルクミュラー：第 8 曲	事前	和声法Ⅰの復習 l、作品 H の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 l、作品 H の復習	誤答を解き直す 30 分
第13回	(和声法Ⅰの復習 m) 第12章 IV ¹ の和音 (D ₂ の連用)	(作品 I) ブルクミュラー：第 9 曲	事前	和声法Ⅰの復習 m、作品 I の予習	テキストを読む 30 分
			事後	和声法Ⅰの復習 m、作品 I の復習	誤答を解き直す 30 分
第14回	試験の概要		事前	試験の概要の予習	30 分
			事後	試験の概要の復習	30 分
第15回	まとめ		事前	まとめの予習	30 分
			事後	まとめの復習	30 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）
※ 和声法Ⅱのテキストは「旧版」を使用するので注意。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒		☐	☐	☐	☐	☐

和声法 II-2

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF202

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習

單位數：1 單位

概要	和声法Ⅱ－１で学んだことをふまえ、さらに高度な学習へと発展する。 また、和声法で学んだ知識を実際の音楽に応用できるよう、実作品の和声分析も行う。
----	---

到達目標	和声法の基本的な知識を身につけ、借用和音を含むバス課題や、転位音を含むソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。
------	---

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【和声】		【和声分析】	
第1回	和声法Ⅱ-1の試験の解説	事前 和声法Ⅱ-1の試験の解説の予習 事後 和声法Ⅱ-1の試験の解説の復習	30分 30分
第2回	第13章 IV (S) の和音 (基礎) (作品 A) ブルクミュラー：第10曲	事前 第13章、作品 A の予習 事後 第13章、作品 A の復習	30分 30分
第3回	第13章 IV (S) の和音 (発展) (作品 B) ブルクミュラー：第11曲	事前 第13章、作品 B の予習 事後 第13章、作品 B の復習	30分 30分
第4回	第13章 IV (S) の和音 (応用) (作品 C) ブルクミュラー：第12曲	事前 第13章、作品 C の予習 事後 第13章、作品 C の復習	30分 30分
第5回	第14章 借用和音 (副Ⅴの和音 基礎) (作品 D) ブルクミュラー：第13曲	事前 第14章、作品 D の予習 事後 第14章、作品 D の復習	30分 30分
第6回	第14章 借用和音 (副Ⅴの和音 発展) (作品 E) ブルクミュラー：第14曲	事前 第14章、作品 E の予習 事後 第14章、作品 E の復習	30分 30分
第7回	第14章 借用和音 (準固有和音) (作品 F) ブルクミュラー：第15曲	事前 第14章、作品 F の予習 事後 第14章、作品 F の復習	30分 30分
第8回	第18章 転位音 (刺繍音) (作品 G) ブルクミュラー：第16曲	事前 第18章、作品 G の予習 事後 第18章、作品 G の復習	30分 30分
第9回	第18章 転位音 (経過音) (作品 H) ブルクミュラー：第17曲	事前 第18章、作品 H の予習 事後 第18章、作品 H の復習	30分 30分
第10回	第18章 転位音 (倚音) (作品 I) ブルクミュラー：第18曲	事前 第18章、作品 I の予習 事後 第18章、作品 I の復習	30分 30分
第11回	第18章 転位音 (掛留音) (作品 J) ブルクミュラー：第19曲	事前 第18章、作品 J の予習 事後 第18章、作品 J の復習	30分 30分
第12回	第18章 転位音 (修飾音) (作品 K) ブルクミュラー：第20曲	事前 第18章、作品 K の予習 事後 第18章、作品 K の復習	30分 30分
第13回	第18章 I 度上のⅤ ₇ の和音 (作品 L) ブルクミュラー：第21曲	事前 第18章、作品 L の予習 事後 第18章、作品 L の復習	30分 30分
第14回	試験の概要	事前 試験の概要の予習 事後 試験の概要の復習	30分 30分
第15回	まとめ	事前 まとめの予習 事後 まとめの復習	30分 30分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）
※ 和声法Ⅱのテキストは「旧版」を使用するので注意。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的な探究心	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	

※教育職員免許状取得に関わる科目

科目コード：SLF105

形態：講義

到達目標 簡単な形式の楽曲を分析できるようになることを目標とする。

授業計画 「学生による分析」は、受講生の状況によって曲目を決定する。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

フィードバック	作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------------

テキスト “参照資料”ブルクミュラー『25の練習曲』 ※出版社自由

備考

[illegible]

※教育職員免許状取得に関わる科目

科目コード：SLF106

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義

单位数：2 单位

概要	「楽曲分析」とは、全体をいくつかの部分に分けて吟味し、それらがどのように全体に対して働いているのかを見きわめ、再統合することである。そのため、実作品を用いて様々な形式を分析する。特にソナタ形式については受講生自らが分析し、授業内発表をする。また、ソナタ形式の作曲にも取り組み、音出しをする。
----	---

到達目標 ソナタ形式の楽曲を分析できるようになることを目標とする。

授業計画 「学生による分析」は、受講生の状況によって曲目を決定する。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【学生による分析】	【教員による分析】		
第1回	作品発表（グループ a） 2 部形式の作曲	事前	作品発表の予習	120 分
		事後	作品発表の復習	120 分
第2回	作品発表（グループ b） 2 部形式の作曲	事前	作品発表の予習	120 分
		事後	作品発表の復習	120 分
第3回	ソナタ形式（作品 a） ソナチネアルバム：第 1 曲	事前	作品 a、作品 A の予習	120 分
		事後	作品 a、作品 A の復習	120 分
第4回	ソナタ形式（作品 b） ソナチネアルバム：第 2 曲	事前	作品 b、作品 B の予習	120 分
		事後	作品 b、作品 B の復習	120 分
第5回	ソナタ形式（作品 c） ソナチネアルバム：第 3 曲	事前	作品 c、作品 C の予習	120 分
		事後	作品 c、作品 C の復習	120 分
第6回	ソナタ形式（作品 d） ソナチネアルバム：第 4 曲	事前	作品 d、作品 D の予習	120 分
		事後	作品 d、作品 D の復習	120 分
第7回	ソナタ形式（作品 e） ソナチネアルバム：第 5 曲	事前	作品 e、作品 E の予習	120 分
		事後	作品 e、作品 E の復習	120 分
第8回	ソナタ形式（作品 f） ソナチネアルバム：第 6 曲	事前	作品 f、作品 F の予習	120 分
		事後	作品 f、作品 F の復習	120 分
第9回	ソナタ形式（作品 g） ソナチネアルバム：第 7 曲	事前	作品 g、作品 G の予習	120 分
		事後	作品 g、作品 G の復習	120 分
第10回	ソナタ形式（作品 h） ソナチネアルバム：第 8 曲	事前	作品 h、ソナタ形式の作曲法の予習	120 分
		事後	作品 h、ソナタ形式の作曲法の復習	120 分
第11回	ソナタ形式（作品 i） ソナチネアルバム：第 9 曲	事前	作品 i、ソナタ形式の作曲法の予習	120 分
		事後	作品 i、ソナタ形式の作曲法の復習	120 分
第12回	ソナタ形式（作品 j） ソナチネアルバム：第 10 曲	事前	作品 j、ソナタ形式の作曲法の予習	120 分
		事後	作品 j、ソナタ形式の作曲法の復習	120 分
第13回	ソナタ形式（作品 k） ソナチネアルバム：第 11 曲	事前	作品 k、ソナタ形式の作曲法の予習	120 分
		事後	作品 k、ソナタ形式の作曲法の復習	120 分
第14回	ソナタ形式（作品 l） ソナチネアルバム：第 12 曲	事前	作品 l、ソナタ形式の作曲法の予習	120 分
		事後	作品 l、ソナタ形式の作曲法の復習	120 分
第15回	作品発表 ソナタ形式の作曲	事前	作品発表の予習	120 分
		事後	作品発表の復習	120 分

フィードバック	作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------------

成績評価 授業内発表 30%、作品提出・発表（ソナタ形式の作曲）40%、授業への積極的な取組 30%

テキスト “参照資料” 『ソナチネアルバム 1』 ※出版社自由

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
		☒	☐		☒	☐	☐		☒	☐	☐			☐	☐

ソルフェージュ-2

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF108

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習

单位数：1 单位

概要	「ソルフェージュ」とは、音楽能力の総合的な基礎訓練のことである。 そのため、聴音（単旋律、複旋律、和声、リズム、記憶）、視唱、クレ読みなどを行う。 また実作品を用いた「フォルマシオン・ミュージカル」も扱う。
----	--

到達目標	多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な音楽能力が向上することを目標とする。
------	--

授業計画	各回の授業内容は、進度により変更することがある。 新学期ガイダンスの聴音テストにより、A（発展）B（基礎）クラスを振り分ける。
------	---

	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】			
第1回	ソルフェージュ-1の試験の解説			事前 ソルフェージュ-1の試験の解説の予習 事後 ソルフェージュ-1の試験の解説の復習	30分 30分	
第2回	(聴音 a) 単旋律 a moll	複旋律 3声体 (視唱 A) 発声スケール (ジグザグ型) 発声	(クレ A) アルト譜表	事前 視唱 A、クレ A の予習 事後 聴音 a の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分 30分
第3回	(聴音 b) 単旋律 G dur	複旋律 3声体 (視唱 B) 発声スケール (ジグザグ型) ピアノ伴奏	(クレ B) アルト譜表	事前 視唱 B、クレ B の予習 事後 聴音 b の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分 30分
第4回	(聴音 c) 単旋律 e moll	複旋律 3声体 (視唱 C) ダンノーゼル C dur	(クレ C) アルト譜表	事前 視唱 C、クレ C の予習 事後 聴音 c の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分 30分
第5回	(聴音 d) 単旋律 F dur	複旋律 3声体 (視唱 D) ダンノーゼル a moll	(クレ D) アルト譜表	事前 視唱 D、クレ D の予習 事後 聴音 d の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分 30分
第6回	(聴音 e) 単旋律 d moll	複旋律 3声体 (視唱 E) ダンノーゼル G dur	(クレ E) アルト譜表	事前 視唱 E、クレ E の予習 事後 聴音 e の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分 30分
第7回	(聴音 f) 単旋律 D dur	複旋律 3声体 (視唱 F) ダンノーゼル e moll	(クレ F) アルト譜表	事前 視唱 F、クレ F の予習 事後 聴音 f の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分 30分
第8回	(聴音 g) 単旋律 h moll	複旋律 4声体 (視唱 G) ダンノーゼル F dur	(クレ G) テノール譜表	事前 視唱 G、クレ G の予習 事後 聴音 g の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分 30分
第9回	(聴音 h) 単旋律 B dur	複旋律 4声体 (視唱 H) ダンノーゼル d moll	(クレ H) テノール譜表	事前 視唱 H、クレ H の予習 事後 聴音 h の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分 30分
第10回	(聴音 i) 単旋律 g moll	複旋律 4声体 (視唱 I) ダンノーゼル D dur	(クレ I) テノール譜表	事前 視唱 I、クレ I の予習 事後 聴音 i の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分 30分
第11回	(聴音 j) 単旋律 A dur	複旋律 4声体 (視唱 J) ダンノーゼル h moll	(クレ J) テノール譜表	事前 視唱 J、クレ J の予習 事後 聴音 j の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分 30分
第12回	(聴音 k) 単旋律 fis moll	複旋律 4声体 (視唱 K) ダンノーゼル B dur	(クレ K) テノール譜表	事前 視唱 K、クレ K の予習 事後 聴音 k の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分 30分
第13回	(聴音 l) 単旋律 Es dur	複旋律 4声体 (視唱 L) ダンノーゼル g moll	(クレ L) テノール譜表	事前 視唱 L、クレ L の予習 事後 聴音 l の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	30分 30分
第14回	まとめ			事前 まとめの予習 事後 まとめの復習		30分 30分
第15回	試験の解説			事前 試験の解説の予習 事後 試験の解説の復習		30分 30分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 城多又兵衛解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』（音楽之友社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、授業担当者まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐		☒		☐	☐	☐	☐	☐

合唱Ⅰ-1・Ⅱ-1

※教育職員免許状取得に関わる科目※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 大隈優梨子	科目コード：VEN101／VEN201
-------------	---------------------

専門／学年：全専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	合唱における基本的な体の使い方、呼吸法、発声法等を総合的に学ぶ。 また、音楽にあわせ簡単なステップをふむなどし、体全体を使って表現力を育む。

到達目標	基本的なテクニック（体の使い方・しくみ、呼吸法、発声法等）を理解し、実践していく。 リハーサルを通して、合唱すること、表現することの楽しさを感じ、演奏へつなげる。また、将来にむけて、基本的な合唱指導テクニックを身につける。
------	--

授業計画	週 1 回、全 15 回 各授業内容は進度に応じて変更する場合がある。
------	--

第 1 回	ガイダンス 声種分け（パートリーダー決め）	事前 事後	自分の声が混声合唱のどのパートに相応するかを考える 各声種の役割を考える	130 分 140 分
第 2 回	合唱の基礎トレーニング ～姿勢、ストレッチ、呼吸法～	事前 事後	自分の声のパートを確認する 歌う時の姿勢や、呼吸を意識する	130 分 140 分
第 3 回	合唱の基礎トレーニング ～発音するときの口腔内、表情筋～ 練習曲①	事前 事後	練習曲①の音取りをする パートの音取りをする	130 分 140 分
第 4 回	合唱の基礎トレーニング 選曲の重要性 合唱曲①	事前 事後	選曲の意図を探る 合唱曲①を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130 分 140 分
第 5 回	課題曲を学ぶ ～パート別練習を中心に～	事前 事後	課題曲の音取りをする パートの確認と復習	130 分 140 分
第 6 回	課題曲を学ぶ ～歌詞を声に出して読む、音程、リズム～	事前 事後	課題曲の歌詞を音読する、意味を調べる 授業で指摘された所の復習	130 分 140 分
第 7 回	課題曲を学ぶ ～歌詞を具現化して表現する～ステップを踏み～	事前 事後	1 つ 1 つの言葉に動作をつけてみる 授業で学んだことの復習、ステップの確認	130 分 140 分
第 8 回	課題曲を学ぶ ～具現化した全体のイメージを統一する～	事前 事後	子音・母音に気をつけて、表情をつけて練習 授業で決めた全体のイメージを表現しながら演奏してみる	130 分 140 分
第 9 回	課題曲を学ぶ ～パート別練習及び全体練習～	事前 事後	自分のパート以外のメロディーを聞いてみる 授業で指摘された所の復習	130 分 140 分
第 10 回	定期演奏会リハーサル ～客席へ届く表現を学ぶ～	事前 事後	ブレスを使った表現について考えてみる 歌詞を表現しながら声に出して読む	130 分 140 分
第 11 回	定期演奏会リハーサル ～音楽のイントネーション（基礎）～	事前 事後	楽譜全体を見返す 授業で指摘された箇所の改善	130 分 140 分
第 12 回	定期演奏会リハーサル ～音楽のイントネーション（応用）～	事前 事後	楽譜全体を見返す 授業で指摘された箇所の改善	130 分 140 分
第 13 回	定期演奏会リハーサル ～空間、響き、発語の扱い～	事前 事後	譜面をはずして練習、空間を広く感じる 空間にあわせた子音のさばき方や発語について考える	130 分 140 分
第 14 回	定期演奏会リハーサル ～言葉の抑揚とメロディー～	事前 事後	音楽にあわせて体を動かす 授業で指摘された箇所の改善	130 分 140 分
第 15 回	まとめ	事前 事後	暗譜を進める 自分の考えをまとめる	130 分 140 分

フィードバック	授業後、リハーサル、本番後に学習成果をフィードバックする機会を設ける
---------	------------------------------------

成績評価	授業への取り組み、リハーサルの成果、レポートにて総合的に評価する
------	----------------------------------

テキスト	授業内に指示する
------	----------

オフィスアワー	授業終了後、教室にて
---------	------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

合唱Ⅰ-2・Ⅱ-2

※教育職員免許状取得に関わる科目※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 大隈優梨子

科目コード：VEN102／VEN202

専門／学年：全専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	合唱における基本的な体の使い方、呼吸法、発声法等を総合的に学ぶ。 また、音楽にあわせ簡単なステップを踏むなどし、体全体を使って表現力を育む。

到達目標	基本的なテクニック（体の使い方、しくみ、呼吸法、発声法等）を理解し、実践していく。 リハーサルを通して、合唱すること、表現することの楽しさを感じ、演奏へつなげる。また、将来にむけて基本的な合唱指導テクニックを身につける。
------	---

授業計画	週 1 回、全 15 回 各授業内容は進度に応じて変更する場合がある。
------	--

第 1 回	定期演奏会リハーサル ～リズムに合わせて発語する～	事前 歌詞を読み込む 事後 子音・母音・ロの形などに気をつけ歌詞を読む	130 分 140 分
第 2 回	定期演奏会リハーサル ～言葉の抑揚で歌う～	事前 単語を音の長さにして読みあげる 事後 授業で指摘された箇所の復習	130 分 140 分
第 3 回	定期演奏会リハーサル ～体を動かしながら表現する～	事前 リズムにあわせてステップをふんでみる 事後 授業で指摘された箇所の復習	130 分 140 分
第 4 回	定期演奏会リハーサル ～合唱指導・指揮のテクニック（基礎）～	事前 ハンドサインとは何かを考える 事後 ハンドサインを復習する	130 分 140 分
第 5 回	定期演奏会リハーサル ～合唱指導・指揮のテクニック（応用）～	事前 指揮の重要性を考える 事後 曲全体のバランスを見直す	130 分 140 分
第 6 回	定期演奏会リハーサル ～表現を広げる～	事前 表現方法を考える 事後 授業で指摘された箇所の復習	130 分 140 分
第 7 回	定期演奏会リハーサル ～広い空間をイメージした演奏をする～	事前 ホールで演奏することを想定する 事後 授業で指摘された箇所の復習	130 分 140 分
第 8 回	定期演奏会リハーサル ～広い空間での響き・発音を考える～	事前 子音・母音をゆっくり発語する 事後 授業で指摘された箇所の復習	130 分 140 分
第 9 回	定期演奏会リハーサル ～ランスルー演奏をする～	事前 本番を想定する 事後 暗譜、ステップを見直す	130 分 140 分
第 10 回	定期演奏会リハーサル ～総合練習～	事前 再度楽譜を見直す 事後 指摘された箇所の復習	130 分 140 分
第 11 回	定期演奏会の振り返り	事前 定期演奏会を振り返る 事後 合唱曲①を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130 分 140 分
第 12 回	課題曲を学ぶ ～楽曲を分析し、指揮をする～①	事前 楽譜を分析し、指揮を試みる 事後 授業で指摘を受けた個所の改善	130 分 140 分
第 13 回	課題曲を学ぶ ～楽曲を分析し、指揮をする～②	事前 楽譜を見返し、考えをまとめる。指揮を試みる。 事後 授業で指摘を受けた個所の改善	130 分 140 分
第 14 回	課題曲を学ぶ ～指揮の重要性を考える～	事前 式の重要性について考える 事後 授業で指摘された箇所の改善	130 分 140 分
第 15 回	まとめ	事前 楽譜全体を見直す 事後 授業で指摘された箇所の改善	130 分 140 分

フィードバック	授業後、リハーサル、本番後に学習成果をフィードバックする機会を設ける
---------	------------------------------------

成績評価	授業への取り組み、リハーサルの成果、レポートにて総合的に評価する
------	----------------------------------

テキスト	授業内に指示する
------	----------

オフィスアワー	授業終了後、教室にて
---------	------------

備考	定期演奏会に向け生き生きとした演奏、美しいハーモニーを追求する。
----	----------------------------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

鍵盤和声 I-1a

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF103

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	ピアノ実技と和声法で習得した技術を応用する科目として、実作の和声を楽譜から読み、鍵盤上で聴いて判別する力を養いながら、さらには旋律に対して適切な和音と伴奏形態を選択可能となる技術を身につける。 尚、I-1a と I-1b の内容はほとんど変わらないが、前者はピアノ専攻、後者は他専攻の学生がそれぞれ主な対象者となる。
到達目標	各調の三和音と属七の和音の基本形および転回形を片手あるいは両手で押さえ、メロディに対して簡易な伴奏付けをすることができるようになる。また実際の作品の分析やディスカッションを通して、伴奏付が音楽表現にどのような効果を及ぼしているのかを考察する術を身につける。
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。

第 1 回	授業内容についてのガイダンス 鍵盤和声とは何か	事前 授業計画を確認する 事後 授業内容を理解する	30 分 60 分
第 2 回	長音階 長調の主要三和音	事前 長音階の練習 事後 主要三和音の復習	30 分 60 分
第 3 回	長調 終止形	事前 属七の和音の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 4 回	長調 メロディ奏	事前 メロディの弾き方について考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 5 回	長調 メロディに和音をつける	事前 テンボ感、フレーズ感について考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 6 回	長調 和音記号による和音付	事前 和音記号の理解 事後 和音記号の復習	30 分 60 分
第 7 回	長調 リズム伴奏を考える	事前 和音付の復習 事後 コード型とアルペジオ型の反復練習	30 分 60 分
第 8 回	長調 メロディ奏→和音付→リズム伴奏	事前 伴奏型の復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 9 回	短音階 短調の主要三和音	事前 短音階の練習 事後 短音階と主要三和音の復習	30 分 60 分
第 10 回	短調 終止形・メロディ奏	事前 短音階の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 11 回	短調 和音付	事前 短調の主要三和音の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 12 回	長調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 長調の課題の復習 事後 長調のメロディを作る	30 分 60 分
第 13 回	短調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 短調の課題の復習 事後 短調のメロディを作る	30 分 60 分
第 14 回	和音型とリズム型の伴奏 課題に取り組む	事前 課題の反復練習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 15 回	和音型とリズム型の伴奏を発表する 前期総括	事前 課題の反復練習 事後 指摘のあった箇所の復習	60 分 30 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%
もとより個人差のあるピアノの演奏技術ではなく、授業の理解度や課題の実践力を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング 伴奏のアイデアを学ぶために実作の楽曲分析を行い、ディスカッションを行う。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	□	□	☒	☒	□	□	□

非常勤講師 川上啓太郎		科目コード：SLF104
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：演習	単位数：1 単位	
概要	前期以前に鍵盤和声 I・1a を履修している学生を対象とする。 これまでに学んだ基本的な技術を発展させ、初見演奏、弾き歌い、移調奏、コードネームなど、多くの場所で必要とされる事柄について学ぶ。	
到達目標	初見演奏では予見から和声構造を見抜き対応する力を、弾き歌いについてはパートごとに個別指導をする際のノウハウを身につける。 また移調奏については、調性格論の基本知識を学ぶことで、適切な調選択と、それによって生ずる問題に対応できるようになる。また基本的なコード・ネームに対応するとともに、時に適切な対旋律を加えられるようになる。	
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。	

第 1 回	初見演奏 予見について	事前	前期の復習	30 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 2 回	初見演奏 予見から演奏時の注意	事前	授業内課題以外の自己練習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 3 回	初見演奏 課題に取り組む	事前	授業内課題以外の自己練習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 4 回	弾き歌い 「弾く」と「歌う」について	事前	初見演奏の自己練習	60 分
		事後	歌う	30 分
第 5 回	弾き歌い 演奏時の注意	事前	課題の反復練習	60 分
		事後	注意の確認	40 分
第 6 回	弾き歌い 課題に取り組む	事前	バランスを考えての弾き歌い練習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 7 回	移調奏 楽譜の捉え方	事前	移調とは何かを考える	30 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 8 回	移調奏 様々な調整に移調してみる	事前	様々な調整の確認	30 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 9 回	コードネーム 仕組みについて	事前	コードネームと和音記号比べる	40 分
		事後	コードネームと和音記号の理解	50 分
第 10 回	コードネーム 仕組みを理解し和音付	事前	コードネームの仕組みの復習	40 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 11 回	コードネーム 唱歌や童謡に伴奏をつける	事前	コードネームの仕組みの復習	30 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 12 回	カウンターライン メロディとコードネームから対旋律をみつける	事前	コードネーム仕組みの復習	40 分
		事後	カウンターラインを考える	50 分
第 13 回	カウンターライン 対旋律を作る	事前	カウンターラインのルールの復習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 14 回	カウンターラインのまとめ 後期総括	事前	後期の復習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 15 回	一年間のまとめ	事前	試験課題の自己練習	60 分
		事後	一年間のまとめ	30 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%
もとより個人差のあるピアノの演奏技術ではなく、授業の理解度や課題の実践力を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング 伴奏付のアイデアを学ぶために実作の楽曲分析を行い、ディスカッションを行う。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	

鍵盤和声 I-1b

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎 科目コード：SLF103

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	ピアノ実技と和声法で習得した技術を応用する科目として、実作の和声を楽譜から読み、鍵盤上で聴いて判別する力を養いながら、さらには旋律に対して適切な和音と伴奏形態を選択可能となる技術を身につける。 尚、I-1a と I-1b の内容はほとんど変わらないが、前者はピアノ専攻、後者は他専攻の学生がそれぞれ主な対象者となる。
到達目標	各調の三和音と属七の和音の基本形および転回形を片手あるいは両手で押さえ、メロディに対して簡易な伴奏付けをすることができるようになる。また実際の作品の分析やディスカッションを通して、伴奏付が音楽表現にどのような効果を及ぼしているのかを考察する術を身につける。
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。

第 1 回	授業内容についてのガイダンス 鍵盤和声とは何か	事前 授業計画を確認する 事後 授業内容を理解する	30 分 60 分
第 2 回	長音階 長調の主要三和音	事前 長音階の練習 事後 主要三和音の復習	30 分 60 分
第 3 回	長調 終止形	事前 属七の和音の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 4 回	長調 メロディ奏	事前 メロディの弾き方について考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 5 回	長調 メロディに和音をつける	事前 テンボ感、フレーズ感について考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 6 回	長調 和音記号による和音付	事前 和音記号の理解 事後 和音記号の復習	30 分 60 分
第 7 回	長調 リズム伴奏を考える	事前 和音付の復習 事後 コード型とアルペジオ型の反復練習	30 分 60 分
第 8 回	長調 メロディ奏→和音付→リズム伴奏	事前 伴奏型の復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 9 回	短音階 短調の主要三和音	事前 短音階の練習 事後 短音階と主要三和音の復習	30 分 60 分
第 10 回	短調 終止形・メロディ奏	事前 短音階の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 11 回	短調 和音付	事前 短調の主要三和音の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 12 回	長調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 長調の課題の復習 事後 長調のメロディを作る	30 分 60 分
第 13 回	短調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 短調の課題の復習 事後 短調のメロディを作る	30 分 60 分
第 14 回	和音型とリズム型の伴奏 課題に取り組む	事前 課題の反復練習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 15 回	和音型とリズム型の伴奏を発表する 前期総括	事前 課題の反復練習 事後 指摘のあった箇所の復習	60 分 30 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%
もとより個人差のあるピアノの演奏技術ではなく、授業の理解度や課題の実践力を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

アクティブ・ラーニング 伴奏付のアイデアを学ぶために実作の楽曲分析を行い、ディスカッションを行う。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	□	□	☒	☒	□	□	□

鍵盤和声 I -2b

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF104

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	前期以前に鍵盤和声 I-1b を履修している学生を対象とする。 これまでに学んだ基本的な技術を発展させ、初見演奏、弾き歌い、移調奏、コードネームなど、多くの場所で必要とされる事柄について学ぶ。
到達目標	初見演奏では予見から和声構造を見抜き対応する力を、弾き歌いについてはパートごとに個別指導をする際のノウハウを身につける。また移調奏については、調性格論の基本知識を学ぶことで、適切な調選択と、それによって生ずる問題に対応できるようになる。また基本的なコード・ネームに対応するとともに、時に適切な対旋律を加えられるようになる。
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。

第 1 回	初見演奏 予見について	事前 前期の復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 2 回	初見演奏 予見から演奏時の注意	事前 授業内課題以外の自己練習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 3 回	初見演奏 課題に取り組む	事前 授業内課題以外の自己練習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 4 回	弾き歌い 「弾く」と「歌う」について	事前 初見演奏の自己練習 事後 歌う	30 分 60 分
第 5 回	弾き歌い 演奏時の注意	事前 課題の反復練習 事後 注意の確認	30 分 60 分
第 6 回	弾き歌い 課題に取り組む	事前 バランスを考えての弾き歌い練習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 7 回	移調奏 楽譜の捉え方	事前 移調とは何かを考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 8 回	移調奏 様々な調整に移調してみる	事前 様々な調整の確認 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 9 回	コードネーム 仕組みについて	事前 コードネームと和音記号比べる 事後 コードネームと和音記号の理解	30 分 60 分
第 10 回	コードネーム 仕組みを理解し和音付	事前 コードネームの仕組みの復讐 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 11 回	コードネーム 唱歌や童謡に伴奏をつける	事前 コードネームの仕組みの復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 12 回	カウンターライン メロディとコードネームから対旋律をみつける	事前 コードネーム仕組みの復習 事後 カウンターラインを考える	30 分 60 分
第 13 回	カウンターライン 対旋律を作る	事前 カウンターラインのルール of 復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 14 回	カウンターラインのまとめ 後期総括	事前 後期の復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 15 回	一年間のまとめ	事前 試験課題の自己練習 事後 一年間のまとめ	70 分 20 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%
もとより個人差のあるピアノの演奏技術ではなく、授業の理解度や課題の実践力を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング 伴奏付のアイデアを学ぶために実作の楽曲分析を行い、ディスカッションを行う。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐

ピアノ伴奏法

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

客員教授 星子知美

科目コード：PLE201

専門／学年：全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	演奏においてピアノ伴奏の担う役割は多岐にわたる。この授業では、主に声楽作品を取り上げ、次の観点からアプローチをおこなう。 ①詩、言葉の内容がピアノ伴奏パートにどのように反映されているかを把握する。 ②歌い手の呼吸、表現に相応しい伴奏法を考える。

到達目標	実際のピアノ伴奏の現場で役立つ数々の事柄の習得を目指す。
------	------------------------------

授業計画	第2回から第4回は、『ピアノ共演法』マーティン・カット著を基に伴奏法概論を講義する。第5回以降は、取り上げた様々な作品の解釈、演奏法等に実践的に踏み込んでいく。
------	--

第1回	全15回の講義内容計画の説明 “伴奏”について考える	事前 これまでの経験を含めて、“伴奏”について考えをまとめておく 事後 “伴奏”のポイントをまとめ、理解を深める	120分 120分
第2回	伴奏法概論(1) 言葉、呼吸について 『ピアノ共演法』マーティン・カット著 第2章、第3章の解説	事前 『ピアノ共演法』マーティン・カット著 第2章、第3章を読む 事後 授業で取り上げた曲を弾き、授業内容を復習する	120分 120分
第3回	伴奏法概論(2) 複数の登場人物、前奏・間奏・後奏について 『ピアノ共演法』マーティン・カット著 第4章、第5章の解説	事前 音楽で複数の登場人物を弾き分けるにはどうすればよいかを考える 事後 授業で取り上げた弾き分けのテクニックを楽器練習の中で実践し、授業内容を復習する	120分 120分
第4回	伴奏法概論(3) オーケストラの伴奏について 『ピアノ共演法』マーティン・カット著 第8章の解説	事前 『ピアノ共演法』マーティン・カット著 第8章を読む 事後 授業で取り上げた曲を弾き、授業内容を復習する	120分 120分
第5回	歌曲研究 日本歌曲 滝廉太郎「花」、中田喜直「夏の思い出」、團伊玖磨「花の街」等	事前 課題曲の楽譜を準備し、歌詞の意味を理解しながら譜読みをする 事後 弾きながら歌う練習をする	120分 120分
第6回	歌曲研究 イタリア古典歌曲 「アマリッリ」、「いとしい女よ」、「うつろの心」	事前 課題曲の楽譜を準備し、イタリア語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、歌い、弾いてみる	120分 120分
第7回	歌曲研究 モーツァルト「すみれ」	事前 課題曲の楽譜を準備し、ドイツ語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、歌い、弾いてみる	120分 120分
第8回	歌曲研究 ドイツ歌曲 シューベルト「糸を紡ぐグレートヒェン」、「鱈」	事前 課題曲の楽譜を準備し、ドイツ語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、取り上げた作品を聴いたり、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第9回	歌曲研究 ドイツ歌曲 シューベルト「冬の旅」	事前 シューベルト「冬の旅」について調べる ドイツ語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、取り上げた作品を聴いたり、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第10回	歌曲研究 ドイツ歌曲 シューマン「献呈」	事前 課題曲の楽譜を準備し、ドイツ語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第11回	歌曲研究 ドイツ歌曲 シューマン「女の愛と生涯」	事前 課題曲の楽譜を準備し、ドイツ語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、取り上げた作品を聴いたり、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第12回	歌曲研究 フランス歌曲 ビゼー、フォーレの作品	事前 課題曲の楽譜を準備し、フランス語の歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第13回	オペラアリア研究	事前 課題曲について、オペラの内容と歌詞の意味を調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、取り上げた作品を観たり、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第14回	合唱曲研究	事前 課題曲について調べ、譜読みをする 事後 授業内容を振り返りながら、取り上げた作品を聴いたり、伴奏譜を弾いてみる	120分 120分
第15回	まとめとレポート作成	事前 これまでの授業を振り返り、レポートの内容を考える 事後 フィードバック後、各自まとめをする	210分 30分

フィードバック	授業での課題のコメントにて、また、レポートについて添削や解説により学修成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	授業への積極的な取り組み、レポートにより総合的に評価する。(取り組み 50%、レポート 50%)
------	--

テキスト	”参照資料”マーティン・カット著『ピアノ共演法』 必要に応じてプリントなどを配布する
------	---

オフィスアワー	授業後、教室及び研究室にて受け付ける。
---------	---------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

ピアノ 特殊講義

客員教授 千野宜大

科目コード：PLE202

専門／学年：ピアノ専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	様々な時代の作曲家、作品の様式、音楽言語、の違い、又は共通性を理解し、演奏や指導に役立つ楽譜の読み方を考察する。

到達目標	自身の演奏解釈、又は指導する際にしっかりとした理由を導き出せるようにする。
------	---------------------------------------

授業計画	前半は様々な時代、様式の作品を通して読譜力を養う。 後半は授業で学んだ内容を実践し、最終授業で発表する準備を進めていく。		
第 1 回	全 15 回の講義内容計画の説明。 バロック作品（バッハ：インヴェンション）を用いて基本的な音楽文法を学ぶ①	事前 これまで学んだレパートリーの主な作品をメモにまとめる。バッハ：インヴェンションの楽譜を用意し、第 1 番を事前に弾いてみる。 事後 授業内容の復習。	135 分 135 分
第 2 回	バロック作品（バッハ：インヴェンション）を用いて基本的な音楽文法を学ぶ② 文法とテクニク的な連鎖をバッハ：平均律第 1 巻第 2 番プレリュード、ショパン：練習曲 Op.10-1 を例に学ぶ①	事前 バッハ：平均律第 1 巻第 2 番プレリュード、ショパン：練習曲 Op.10 の楽譜を用意する。Op.10-1 を実際に弾いておく。 事後 授業内容の復習	135 分 135 分
第 3 回	前授業で学んだ文法とテクニクの融合について、ツェルニー30 番、40 番より、いくつかのショパンの練習曲、ベートーヴェンの月光ソナタ第 3 楽章を用いて学ぶ。	事前 ツェルニー30 番、40 番より、ショパン：練習曲から数曲、ベートーヴェン：ソナタ「月光」第 3 楽章の楽譜を用意し、実際に弾いておく。 事後 授業内容の復習	135 分 135 分
第 4 回	ロマン派 特にショパンの作品を用いて、スペース記号、ルバート記号について学ぶ①	事前 ショパンのスケルツォ第 2 番の楽譜を用意。第 2 主題の部分弾いておく。 事後 授業内容の復習、及び自身の学習中の作品で実践してみる。	135 分 135 分
第 5 回	ロマン派 特にショパンのバラード第 3 番を用いて、スペース記号、ルバート記号について学ぶ②	事前 ショパン：バラード第 3 番の楽譜を用意。授業内容を用いて実際に弾いてみる。 事後 授業内容の復習、及び自身の学習中の作品で実践してみる。	135 分 135 分
第 6 回	前回までの授業内容の理解の確認、復習をし、出来るだけ曖昧さをクリアにする。	事前 第 1 回授業から取り上げた作品、自身のレパートリーを用いて、授業内容の理解を深め確認する。 事後 授業内容の復習	135 分 135 分
第 7 回	バロック作品音楽修辭学に繋がる宗教的ノート・イネガルについて学ぶ①	事前 バッハのシンフォニア第 9 番へ短調、平均律第 2 巻第 17 番へ短調の楽譜を用意。実際に弾いておく。 事後 授業内容の復習	135 分 135 分
第 8 回	古典派、ロマン派の作品を通して音楽修辭学に繋がるノート・イネガルの発展的応用と用途について学ぶ② へ短調の意味と分岐点について学ぶ。	事前 ショパンのソナタ第 2 番第 1 楽章の楽譜、ベートーヴェンのソナタ「熱情」、リストの超絶技巧練習曲第 10 番の楽譜を用意。事前に楽譜を見ておく。 事後 授業内容の復習	135 分 135 分
第 9 回	音量指示記号についての理解を深める。 ppp、pp、p、mp、mf、f、ff、fff の意味すること、作曲家の示す感情表現について理解する。 音量指示記号と音楽用語との併用について学ぶ。	事前 それぞれの学習中の作品の 楽譜を通して、音量指示記号に特化して考察してみる。 事後 授業内容の確認	135 分 135 分
第 10 回	これまでの授業で学んだ内容を用いて最終授業で演奏する楽曲を提出し、それぞれの曲について質問、ディスカッションする①	事前 最終授業（第 14 回、15 回目）で演奏する楽曲を決めておく。これまでの授業内容を用いて演奏解釈、アプローチを考察する。 事後 授業内容の復習	135 分 135 分
第 11 回	これまでの授業で学んだ内容を用いて最終授業で演奏する楽曲を提出し、それぞれの曲について質問、ディスカッションする②	事前 最終授業（第 14 回、15 回目）で演奏する楽曲を決めておく。これまでの授業内容を用いて演奏解釈、アプローチを考察する。 事後 授業内容の復習	135 分 135 分
第 12 回	様々な音楽様式、スタイルの起源であるバロックの三大原則について学ぶ。 前回までの授業内容についての確認、質問を通して理解を深める。	事前 授業内容の中で理解が充分でない事項を把握しまとめておく。 事後 授業内容の復習と、自身の発表する楽器で実践する。	135 分 135 分
第 13 回	前 8 回までの授業内容の復習と理解の確認。 作曲家と自分のスタンスを考える。 歴史上の偉人としてだけではなく、人間としての距離感を縮めていく。	事前 自分の最も好きな作品、作曲家を通じて、その作曲家の人間性、キャラクター、環境、健康状態などを考察し発表出来るようにしておく。 事後 授業内容を確認し、自身が勉強している作品で解釈、アプローチを改めて考える。	135 分 135 分
第 14 回	演奏の発表①	事前 発表曲の練習 事後 発表曲の練習	135 分 135 分
第 15 回	演奏の発表②	事前 発表曲の練習 事後 発表の振り返り	135 分 135 分

フィードバック	レポートについてはコメントをつけて返却を行う。
---------	-------------------------

成績評価	授業への取り組み方、授業態度、最終授業での発表、レポートで評価する。
------	------------------------------------

テキスト	”参考資料”各自で上記の楽譜を用意すること。
------	------------------------

オフィスアワー	授業後教室にて
---------	---------

アクティブ・ラーニング	・学生同士で模擬レッスンを行い、指導する立場になったときに、どのような工夫が出来るか、これまでの各々の経験をどのように生かせるか、話し合う。 ・様々な演奏を動画で視聴し、異なる演奏解釈や奏法、個性について意見交換を行う。
-------------	---

備考	最終授業の発表とは、授業の中での模擬レッスンで担当した曲を一人一曲演奏する。演奏の番でない学生は全員、一人一人の演奏について「良い点」「悪い点」を具体的に上げながら、アドバイスレポートを書いていく（演奏している本人への開示は行わない）。
----	--

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	☒	☒	□	□	☒	□	☒		□

ピアノアンサンブルⅠ

客員教授 山崎紫乃

科目コード：PEN101

専門／学年：ピアノ専門／1 年次

形態：演習 単位数：2 単位

概要 連弾を通して、他者と呼吸を合わせてひとつの音楽をつくり上げるプロセスと、古典からロマン派、近現代の作品に幅広く触れて、アンサンブルの基本を学ぶ。

到達目標 呼吸の合わせ方、バランスの取り方、合わせの練習方法や連弾のレパートリーを通して室内楽の楽しみを導き、連弾の演奏知識を身につける。アンサンブルの基本的な技術を養い、感性を磨くことを目標とする。

授業計画

第 1 回	ガイダンス 授業の進め方、連弾の練習のポイントについて	事前 必要な楽譜を用意し、これまでの経験を含めて連弾とその作品について調べ学習する	135 分
		事後 担当する曲目の読譜を始める	135 分
第 2 回	モーツァルト 4 手のためのソナタ ニ長調 K. 381 (123a) 第 3 楽章	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 3 回	ディアベルリ 小ソナタと軍隊 rondó 作品 150 より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 4 回	ベートーヴェン 行進曲 作品 45-1	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 5 回	シューベルト 軍隊行進曲 D733 第 1 番	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 6 回	ブラームス ハンガリー舞曲 第 5 番	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 7 回	ドヴォルザーク スラヴ舞曲 第 1 集 作品 46 第 7 番	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 8 回	ライネッケ ばら 作品 286 より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 9 回	モシュコフスキー スペイン舞曲 第 1 番	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 10 回	フォーレ ミ・ア・ウ 「ドリー 作品 56」より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 11 回	フォーレ ドリーの庭 「ドリー 作品 56」より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 12 回	ドビュッシー 行列 「小組曲」より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 13 回	ドビュッシー メヌエット 「小組曲」より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 14 回	三善晃 プレリユード 「ピアノ連弾組曲 音の手帳」より	事前 読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	135 分
		事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 15 回	まとめ 演奏の発表	事前 これまでの授業内容をまとめ、連弾の合わせと練習をして発表の準備をする	135 分
		事後 演奏の発表を振り返り、問題のある箇所を復習し、2 年次のアンサンブルに備える	135 分

フィードバック 授業での課題と演奏の発表について、コメント及び解説等により学修成果をフィードバックする。

成績評価 課題への取り組み 50%、授業への積極的な取り組み 50%

テキスト 適宜指示する

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング 学生同士の演奏を聴き合い、改善点や良かったところをディスカッションする

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐

ピアノアンサンブルⅡ

客員教授 山崎紫乃

科目コード：PEN201

専門／学年：ピアノ専門／2 年次

形態：演習 単位数：2 単位

概要 受講生同士パートナーを組み、連弾及び 2 台ピアノの作品を通じてアンサンブルを体験し学ぶ授業である。なるべく多くの演奏機会が持てるような課題曲構成となっている。

到達目標 アンサンブルにおいて大切な、バランス、呼吸の合わせ方、練習の仕方などを、連弾および 2 台ピアノを通じて学び、体験する。4 手のバランスの取り方で、様々に音色が変化することを聴き取り、楽曲の理解力とともに、それぞれの役割分担を考え、共演者とともに一つの音楽を作り上げていくプロセスを学ぶことを目標とする。

授業計画				
第 1 回	Jean Françaix：ルノワールによる 15 の子供の肖像画 No.1～No.7	事前	個人のパートを練習しておく。フランスについて調べる。	190 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	90 分
第 2 回	Jean Françaix: ルノワールによる 15 の子供の肖像画 No.8～No.14	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。	190 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	90 分
第 3 回	①W.A.Mozart：ドイツ舞曲 K.600 および K.605 ②F. Schubert: 4 つのレントラー D.814	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	190 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	90 分
第 4 回	C.M.von Weber: 6 つの小品 Op.3 導入	事前	個人パートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。ウェーバーについて調べる。	170 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	110 分
第 5 回	C.M.von Weber: 6 つの小品 Op.3 まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	120 分
第 6 回	R.Schumann: 12 の練習曲 Op.85 導入	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。曲の成り立ちについて調べる。	170 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	110 分
第 7 回	R.Schumann: 12 の練習曲 Op.85 まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	120 分
第 8 回	R.Schumann=C. Debussy :カノン形式による 6 つの練習曲 (2 台ピアノ) 導入	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。曲の成り立ちについて調べる。	170 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	110 分
第 9 回	R.Schumann=C. Debussy :カノン形式による 6 つの練習曲 (2 台ピアノ) まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	120 分
第 10 回	Reinhold Glière: 6 つの小品 (2 台ピアノ)	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておくグリエールについて調べる。	170 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	110 分
第 11 回	J.Brahms:ワルツ Op.39 導入	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	160 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	120 分
第 12 回	J.Brahms:ワルツ Op.39 まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	190 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する。ブラームスの他の連弾曲を聴く。	90 分
第 13 回	M. Ravel:マ・メール・ロワ 導入	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	190 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、次の授業までに修正しておく	90 分
第 14 回	M. Ravel:マ・メール・ロワ まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善できているか確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認しておく	120 分
第 15 回	発表会	事前	授業で取り上げた曲の中から 1 曲を選び、パートナーと共に準備する	220 分
		事後	発表会での演奏を振り返りパートナーと共に、改善点を話し合う	60 分

フィードバック 各自練習してきた課題曲を授業内で演奏し、それに対して教員より課題及び学修成果について個々にアドバイスを行う。

成績評価 課題への取り組み方(50%)、授業態度(50%)

テキスト 授業曲目や組み分けについては、前期授業開始前（4 月初旬）に掲示する。

オフィスアワー E メールにて相談の上、対応する。 sun.138@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング 各自練習してきた課題曲を授業内で演奏し、それに対して教員より課題及び学修成果について個々にアドバイスを行う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

器楽合奏(ウィンド)Ⅰ-Ⅰ・Ⅱ-Ⅰ

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS101／ENS201

専門／学年： 器楽専門／1～2 年次

形態：実習 単位数 1 単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 成果発表会に向け、授業時間をその練習に充て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。

第 1 回	ガイダンス・アンサンブル基礎概論	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	同属楽器アンサンブル実習 1・基礎	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	同属楽器アンサンブル実習 2・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	同属楽器アンサンブル実習 3・表現方法	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	同属楽器アンサンブル実習 4・立体的な演奏を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	同属楽器アンサンブル実習 5・精度の上げ方	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	同属楽器アンサンブル実習 6・まとめ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	混成楽器アンサンブル実習 1・混成編成概論	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	混成楽器アンサンブル実習 2・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	混成楽器アンサンブル実習 3・バランスのとり方	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	混成楽器アンサンブル実習 4・オーケストレーション	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	混成楽器アンサンブル実習 5・表現を深める	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	混成楽器アンサンブル実習 6・精度の上げ方	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	混成楽器アンサンブル実習 7・まとめ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	成果発表会	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考 曲目は都度指定する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐

器楽合奏（ウィンド）Ⅰ-2・Ⅱ-2

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS102／ENS202

専門／学年： 器楽専門／1～2 年次	
形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。
到達目標	2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に充て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。

第 1 回	楽曲リハーサル演習 1・秋のコンサート演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	楽曲リハーサル演習 2・秋のコンサート演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	楽曲リハーサル演習 3・ウィンドアンサンブル定期演奏会演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	楽曲リハーサル演習 4・秋のコンサート演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	楽曲リハーサル演習 5・秋のコンサート演奏曲・全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 6 回	楽曲リハーサル演習 6・秋のコンサート演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 7 回	楽曲リハーサル演習 7・秋のコンサート演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	楽曲リハーサル演習 8・秋のコンサート演奏曲・仕上げ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	楽曲リハーサル演習 9・定期演奏会演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 10 回	楽曲リハーサル演習 10・定期演奏会演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 11 回	楽曲リハーサル演習 11・定期演奏会演奏曲・全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 12 回	楽曲リハーサル演習 12・定期演奏会演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	楽曲リハーサル演習 13・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	楽曲リハーサル演習 14・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	楽曲リハーサル演習 15・定期演奏会演奏曲・仕上げ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考 曲目は都度指定する

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

形態：実技	単位数：1 単位
概要	アンサンブルをする場合における技術的な基本（和音におけるピッチの取り方、同種楽器・他楽器とのバランス、主旋律と副旋律、あるいは伴奏などの演奏法）を学ぶ。
到達目標	初対面同士でコミュニケーションも図りながらともに音楽をまとめ上げていけるようにする。

授業計画	・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組むこと。
------	---

第 1 回	自己紹介、グループ分け	事前 自己紹介の準備をする 事後 グループメンバー内の連絡方法を決める	50 分 50 分
第 2 回	和音を重視した優しい楽曲を学ぶ（概要）	事前 〔個人練習〕 譜読み 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 〔個人練習〕 部分練習 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 4 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 〔個人練習〕 全体練習 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 5 回	上記楽曲を仕上げる	事前 〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 事後 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 6 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要）	事前 〔個人練習〕 譜読み 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 7 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 〔個人練習〕 部分練習 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 8 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 〔個人練習〕 全体練習 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 9 回	上記楽曲を仕上げる	事前 〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 事後 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 10 回	小発表会	事前 〔グループ練習〕 ゲネプロ 事後 個人練習・反省点を振り返る	50 分 50 分
第 11 回	小発表会反省会、櫻樹祭演奏会用グループ分け	事前 グループごとに集まり反省点を振り返る 事後 新しいグループの連絡方法を決める	50 分 50 分
第 12 回	櫻樹祭演奏会用楽曲を学ぶ（概要）	事前 〔個人練習〕 譜読み 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 13 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 〔個人練習〕 部分練習 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 14 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 〔個人練習〕 全体練習 事後 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 事後 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分

フィードバック 小発表会後に演奏内容、ステージマナー等のアドバイスでフィードバックする。

成績評価	授業態度 50% 発表会等の演奏内容 50%
テキスト	特になし

オフィスアワー 授業後すぐに対応する。予約も可能

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	☒	☒	☒	□	□	□

専門／学年：器楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	前期より難易度の高い楽曲を取り上げ、よりアンサンブル力を高める。

到達目標	自分達の力である程度のレベルまで仕上げられるようにする。 ともに音楽を作る楽しさを味わえるようにする。
------	--

授業計画	・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組むこと。
------	--

第 1 回	前期の楽曲より難易度の高い楽曲を学ぶ（概要）	事前 事後	〔個人練習〕 譜読み 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 2 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	〔個人練習〕 部分練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	〔個人練習〕 全体練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 4 回	上記楽曲を仕上げる	事前 事後	〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 5 回	授業（ゲネプロ）後、櫻樹祭演奏会本番	事前 事後	〔グループ練習〕 ゲネプロ 個人練習・反省点を振り返る	50 分 50 分
第 6 回	櫻樹祭演奏会反省会、発表会グループ分け	事前 事後	グループごとに集まり反省点を振り返る 新しいグループの連絡方法を決める	50 分 50 分
第 7 回	発表会用楽曲を学ぶ（概要）	事前 事後	〔個人練習〕 譜読み 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 8 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	〔個人練習〕 部分練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 9 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	〔個人練習〕 全体練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 10 回	上記楽曲を仕上げる	事前 事後	〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 11 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要） 難易度も高い楽曲を学ぶ	事前 事後	〔個人練習〕 譜読み 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 12 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	〔個人練習〕 部分練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 13 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	〔個人練習〕 全体練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 14 回	上記楽曲を仕上げる	事前 事後	〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 15 回	授業（ゲネプロ）後、発表会本番	事前 事後	〔グループ練習〕 ゲネプロ 一年で学んだことを振り返る	50 分 50 分

フィードバック 櫻樹祭のコンサート、発表会後に演奏内容、ステージマナー等のアドバイスでフィードバックする。

成績評価	授業態度 50% 発表会等の演奏内容 50%
テキスト	特になし

オフィスアワー 授業後すぐに対応する。予約も可能

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	☒	□	□	□

副科ピアノ-1

※音楽療法士養成に関する科目

実技科目主任（ピアノ）	准教授	倉地恵子	科目コード：IND103
-------------	-----	------	--------------

専門／学年：器楽・声楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	ピアノ奏法の基本である姿勢・打鍵・正しい運指を習得する。

到達目標	基礎テクニックを身につけ、調性感を養うことを目標とする。
------	------------------------------

授業計画	前期 15 回 各人 20 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。音階練習で、正しい運指・調性感を、カデンツで和声感を学ぶ。 1 年間で基礎テクニック・和声感・対位法を学ぶ。		
第 1 回	基礎的な事の確認(1)－姿勢－	事前 ピアノの構造を調べる 事後 良い姿勢で演奏しているか確認をし、椅子の高さを考え、練習をする	105 分 105 分
第 2 回	基礎的な事の確認(2)－打鍵－	事前 1 本ずつ指が独立しているか確認をして、練習をする 事後 鍵盤の下までしっかり打鍵しているか確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 3 回	基礎的な事の確認(3)－運指－	事前 運指の基本を考える 事後 様々な調性のスケールの運指の確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 4 回	基礎的な事の確認(4)－読譜－	事前 ヘ音記号で記載されている楽譜の読譜をする 事後 ト音記号とヘ音記号で記載されている楽譜の読譜をする	105 分 105 分
第 5 回	C dur の音階の運指の確認	事前 C dur の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 C dur の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 6 回	C dur でカデンツの定型を確認	事前 C dur のカデンツの定型を指が覚えるまで練習をする 事後 カデンツの和音進行を確認する	105 分 105 分
第 7 回	a moll の音階の運指の確認	事前 a moll の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 a moll の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 8 回	a moll でカデンツの定型を確認	事前 a moll のカデンツの定型を指が覚えるまで練習をする 事後 カデンツの和音進行を確認する	105 分 105 分
第 9 回	課題に出ている音階練習	事前 課題の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 課題の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 10 回	課題に出ている音階のカデンツ練習	事前 課題の音階とカデンツの練習をする 事後 課題の音階とカデンツの練習をする	105 分 105 分
第 11 回	前期演奏試験曲(1)――読譜――	事前 試験曲を決める 事後 試験曲の正確な読譜をする	105 分 105 分
第 12 回	前期演奏試験曲(2)――リズム・ハーモニー――	事前 正確なリズムで演奏できるように練習をする 事後 ハーモニーを確認して、演奏をする	105 分 105 分
第 13 回	前期演奏試験曲(3)――強弱・表現――	事前 楽譜に書かれている指示されている事の確認をする 事後 表現しようと思っている音楽になっているかを確認する	105 分 105 分
第 14 回	前期演奏試験曲(4)――テンポ――	事前 ゆっくりとしたテンポで練習をする 事後 テンポをあげて練習をする	105 分 105 分
第 15 回	仕上げ	事前 暗譜の確認をする 事後 テンポが安定しているか確認をしながら、練習をする	105 分 105 分

フィードバック 前期演奏試験の演奏についてコメントを付けフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
実技試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。
なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による。

テキスト ハノン他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

副科ピアノ-2

※音楽療法士養成に関する科目

実技科目主任（ピアノ）	准教授	倉地恵子	科目コード：IND104
-------------	-----	------	--------------

専門／学年： 器楽・声楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
-------	----------

概要	正確な読譜力を身につけ、表現力を養う。
----	---------------------

到達目標	対位法や和声感を養い、曲にふさわしい様式感をもって演奏できることを目標とする。
------	---

授業計画		後期 15 回 各人 20 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。音階練習で、正しい運指・調性感を、カデンツで和声感を学ぶ。 副科ピアノ・1 と合わせて、1 年間で基礎テクニック・和声感・対位法を学ぶ。
第 1 回	基礎テクニックを身につける(1)－legato 奏法－	事前 音階を legato で演奏できる練習をする 事後 アルペッジョを legato で演奏できる練習をする 105 分 105 分
第 2 回	基礎テクニックを身につける(2)－staccato 奏法－	事前 手首の動きを意識する練習をする 事後 連打の練習をする 105 分 105 分
第 3 回	基礎テクニックを身につける(3)－和音の弾き方－	事前 オクターブが力を入れずに演奏できる練習をする 事後 和音がずれないように練習をする 105 分 105 分
第 4 回	和声感を養う(1)－基本的なコード－	事前 様々なコードを演奏し、和音の表情を感じとる練習をする 事後 曲の中で終止形を見つける練習をする 105 分 105 分
第 5 回	和声感を養う(2)－和音の響きを聴く－	事前 ペダルの構造を調べる 事後 ペダルの踏み方を考えながら練習をする 105 分 105 分
第 6 回	課題に出ている音階練習	事前 課題の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 課題の音階の運指を確認し、両手で練習をする 105 分 105 分
第 7 回	課題に出ている音階のカデンツの練習	事前 課題のカデンツを確認をする 事後 課題の音階とカデンツの練習をする 105 分 105 分
第 8 回	後期演奏試験曲―読譜の確認―	事前 作品を決め読譜をし、楽語を調べる 事後 正しい読譜ができているか確認をする 105 分 105 分
第 9 回	後期演奏試験曲―形式―	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉える 105 分 105 分
第 10 回	後期演奏試験曲―表現―	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現する上で最適なテンポを探す 105 分 105 分
第 11 回	後期演奏試験曲―和声感―	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和声の響きを意識して、練習をする 105 分 105 分
第 12 回	後期演奏試験曲―強弱―	事前 強弱の確認をして、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習をする 105 分 105 分
第 13 回	後期演奏試験曲―音色―	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探りながら練習をする 事後 曲のキャラクターを考えて練習をする 105 分 105 分
第 14 回	後期演奏試験曲―フレーズ感―	事前 アーティキュレーションスラーの確認をする 事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする 105 分 105 分
第 15 回	試験曲の仕上げ―まとめ－	事前 強弱・コントラストの確認をする 事後 曲のキャラクターの確認をする 105 分 105 分

フィードバック	後期演奏試験の演奏についてコメントを付けフィードバックする。
---------	--------------------------------

成績評価	学年末試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％ 学年末試験にレッスンへの積極的な取り組み等を加味して総合的に評価。 なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による。
------	---

テキスト	ハノン他、適宜授業内に指示する。
------	------------------

オフィスアワー	各担当教員のレッスン室で対応する。
---------	-------------------

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

副科声楽

※音楽療法士養成に関する科目

実技科目主任（声楽）	教授 細谷美直	科目コード：IND203
------------	---------	--------------

専門／学年：ピアノ・器楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
-------	----------

概要	歌唱に必要な基礎技術を習得する。 前期ではエチュードを中心に、後期ではイタリア古典歌曲を中心題材として、言語を伴った声楽の表現法を学ぶ。
----	---

到達目標	歌唱の基本、すなわち、正しい姿勢と腹式呼吸による、自然な発声法を習得することをテーマとする。 それぞれが持つオリジナル楽曲である「声」を研究することは、自分の個性と音楽を知ることに通じる。「声」＝「音色」の特性を生かせるような発声法および歌唱表現を習得し、音楽性を充実させることを目標とする。
------	---

授業計画	隔週 20 分の個人指導 コンコーネ他練習曲およびイタリア古典歌曲等を基本とする。
------	--

第 1 回	ガイダンス、年間の学習計画を立てる	事前 事後	コンコーネ 50 番、イタリア古典歌曲集を準備する 練習曲① 課題曲① 読譜	80 分 80 分
第 2 回	歌唱法の基礎 - 姿勢、呼吸、発声の確認 1 ストレッチ、呼吸法を中心に	事前 事後	練習曲① 課題曲① 読譜 練習曲①、② 課題曲① の練習	80 分 80 分
第 3 回	歌唱法の基礎 - 姿勢、呼吸、発声の確認 2 呼吸法、発声法を中心に	事前 事後	練習曲②、③ 課題曲① の練習 練習曲③、④ 課題曲① の練習	80 分 80 分
第 4 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 1 特に母音、子音の発音を中心に	事前 事後	練習曲③、④ 課題曲① の練習 練習曲③、④ 課題曲② の練習	80 分 80 分
第 5 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 2 母音、子音の明確化	事前 事後	練習曲④、⑤ 課題曲② の練習 練習曲⑤、⑥ 課題曲③ の練習	80 分 80 分
第 6 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 3 詩の内容を理解する	事前 事後	練習曲⑥、⑦ 課題曲③ の練習 練習曲⑥、⑦ 課題曲③ の練習	80 分 80 分
第 7 回	課題曲の選曲 課題曲 A 課題曲 B	事前 事後	課題曲 A 及び B の読譜 課題曲 A 及び B の練習	80 分 80 分
第 8 回	課題曲を学ぶ 1 楽譜の読み方を中心に	事前 事後	課題曲 A 及び B の譜読み 課題曲 A 及び B 発音を中心に練習	80 分 80 分
第 9 回	課題曲を学ぶ 2 発音を中心に	事前 事後	課題曲 A 及び B 単語の意味を調べる 課題曲 A 及び B 音楽用語を調べる	80 分 80 分
第 10 回	課題曲を学ぶ 3 歌唱表現法を中心に	事前 事後	課題曲 A 及び B 音楽用語を調べる 課題曲 A 及び B 強弱他、気をつけて反復練習	80 分 80 分
第 11 回	試演会用の楽曲のレッスン 1 選択曲を中心に	事前 事後	試演会用の楽曲の譜読み 課題曲を中心に譜読み練習	80 分 80 分
第 12 回	試演会用の楽曲のレッスン 2 呼吸やテンポの合わせ方を中心に	事前 事後	課題曲を発声及び発音に注意して練習 課題曲を発声及び発音に注意して練習	80 分 80 分
第 13 回	試演会用の楽曲のレッスン 3 暗譜をして歌う	事前 事後	課題曲を伴奏者と合わせて練習 課題曲を暗譜しながら曲の内容を意識する	80 分 80 分
第 14 回	試演会用の楽曲を仕上げる	事前 事後	課題曲を伴奏者と合わせて練習 課題曲の暗譜を確実にし内容を深める	80 分 80 分
第 15 回	総合演習	事前 事後	課題曲を伴奏者と合わせて練習 課題曲を暗譜の上、曲の完成度を高める	80 分 80 分

フィードバック	発表会終了後、コメントにてフィードバックする。
---------	-------------------------

成績評価	発表会 30% 課題 30% 授業態度 40%
------	-------------------------

テキスト	コンコーネ 50 番 イタリア古典歌曲集等、 担当教員より、授業内にて適宜指示する。
------	--

オフィスアワー	各教員の在校時間内（ただしレッスンの時間を除く） 各教員のレッスン室
---------	---------------------------------------

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐

フルートオーケストラⅠ-1・Ⅱ-1

特任教授 飯島和久 科目コード： IEN103／ IEN203

専門／学年：フルート専門／1～2 年次

形態：実技 単位数：1 単位

概要 日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。

到達目標 この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶ。

授業計画

- ・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。
- ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。
- ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と 責任の心得を持って授業に取り組む事。

第 1 回	特殊楽器を紹介・試奏 (ソプラノフルート・アルトフルート)	事前 特殊楽器について調べる 事後 ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105 分 105 分
第 2 回	特殊楽器を紹介・試奏 (バスフルート・コントラバスフルート)	事前 特殊楽器について調べる 事後 ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105 分 105 分
第 3 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (フルートの弱点を知る)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 4 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (音合わせの仕方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 5 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 6 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (ユニゾンの音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 7 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (平均律、純正律を学ぶ)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 8 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (2 声の音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 9 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (4 声の音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 10 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (担当楽器を決め、譜読みを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 11 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (時代背景、演奏法を学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 12 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (テクニクを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 13 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (バランスを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 14 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (表現を中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 15 回	発表会に向けて練習、後日発表会	事前 仕上げ 事後 発表会后、教員コメント読み後期授業に役立てる。	105 分 105 分

フィードバック 発表会での教員コメントを各自に配布する。

成績評価 発表・コンサート 20％ 課題 40％ 授業態度 40％

テキスト 北村薫著『アンサンブルエチュード』（必要部分を配布する）

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	

フルートオーケストラⅠ-2・Ⅱ-2

特任教授 飯島和久

科目コード： IEN104／ IEN204

専門／学年：フルート専門／1～2 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 日本フルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。

到達目標 この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶ。

授業計画		・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。 ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。		
第 1 回	コンサートに向け楽曲の練習 （譜読みを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 2 回	コンサートに向け楽曲の練習 （時代背景、演奏法を学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 3 回	コンサートに向け楽曲の練習 （和音を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 4 回	コンサートに向け楽曲の練習 （テクニックを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 5 回	コンサートに向け楽曲の練習 （音程を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 6 回	コンサートに向け楽曲の練習 （音色を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 7 回	コンサートに向け楽曲の練習 （バランスを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 8 回	コンサートに向け楽曲の練習 （表現を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 9 回	コンサートに向け楽曲の練習 （仕上げ練習）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分
第 10 回	ゲネプロ（曲順で練習）、櫻樹祭コンサート	事前	櫻樹祭コンサートに向けて問題箇所を練習する	105 分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分
第 11 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ （譜読みを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分
第 12 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ （時代背景、演奏法を学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分
第 13 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ （テクニックを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分
第 14 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ （表現を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分
第 15 回	ゲネプロ（曲順で練習）、授業後発表会	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	授業後の発表会でのアンケート、教員コメントを読み今後に役立てる。	105 分

フィードバック 櫻樹祭コンサート、学外でのコンサート等の演奏会等でのアンケート、また、教員コメントを各自に配布する。

成績評価 発表・コンサート 20％ 課題 40％ 授業態度 40％

テキスト 北村薫著『アンサンブルエチュード』（必要部分を配布する）

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	□	□	☒		□

声楽アンサンブルⅠ・Ⅱ

非常勤講師 栗田恵美子

科目コード：VEN103／VEN203

専門／学年：声楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	オペラの重唱曲を取り上げ、演奏するために必要な姿勢、発声法、演技法などを総合的に学ぶ。

到達目標 履修者の演技つき重唱曲を通じ、個々の作曲家、作品の特質に触れながら、舞台での自然な動きができるよう試みる。

授業計画				
第 1 回	オペラの歴史について	事前	オペラの歴史を調べる	120 分
		事後	オペラの歴史をより深く学習する	150 分
第 2 回	オペラに必要な姿勢と発声法	事前	オペラの映像資料や文献を各自で調べ、理解を深める	120 分
		事後	姿勢、発声法などより深く探求する	150 分
第 3 回	演技の基礎 実際に一人一人に演技してもらい、演技の基礎を習得する	事前	ヘンデルのオペラについて研究する	120 分
		事後	授業で学んだ演技をより深く学習する	150 分
第 4 回	演技の基礎②	事前	オペラ・ブッフアの作品を各自調べ研究する	120 分
		事後	授業で学んだ動き方を復習し、研究する	150 分
第 5 回	男性役、女性役の場合の異なる動作、動き方を体感する	事前	オペラ・セリアの作品を各自で調べ研究する	120 分
		事後	授業で学んだ動き方を復習し各自研究する	150 分
第 6 回	視覚による演技の見え方と演技法について体感する	事前	授業で取り上げたモーツァルトのオペラ作品を映像資料などにより深く研究する	120 分
		事後	授業で学んだ動き方をより深く研究する	150 分
第 7 回	オペラ重唱曲音楽練習	事前	授業以外のモーツァルトのオペラ作品を各自調べ研究する	120 分
		事後	授業で学んだ曲を復習し、くり返し練習する	150 分
第 8 回	オペラ原語付き音楽練習	事前	古典オペラ特にモンテヴェルディ、バーセル、ラモーなどの作品を各自研究する	120 分
		事後	授業で学んだ重唱曲の音楽練習及び、原語の言葉の意味を調べる	150 分
第 9 回	オペラ重唱曲、音楽練習総括	事前	ロッシーニ、ドニゼッティ、ベッリーニのオペラを研究する	120 分
		事後	重唱曲の音楽練習の復習	150 分
第 10 回	オペラ重唱曲の演技つけ	事前	ドイツ・オペラを研究する	120 分
		事後	授業での重唱曲のオペラ映像資料から演技について研究する	150 分
第 11 回	演技をともなう重唱曲 実践練習① 一組ずつ実際に演技をしながら歌唱を試みる	事前	フランス・オペラコミックとグランド・オペラを研究する	120 分
		事後	授業の重唱曲のオペラの演技を研究する	150 分
第 12 回	演技付きオペラ重唱曲実践練習②	事前	ヴェルディのオペラを研究する	120 分
		事後	課題のオペラ重唱曲を他者と協力しながら演技練習する	150 分
第 13 回	演技付きオペラ重唱曲総合練習	事前	ワーグナーのオペラを研究する	120 分
		事後	課題のオペラ重唱曲を他者と協力しながらより深く研究する	150 分
第 14 回	演技付きオペラ重唱曲総合練習まとめ 他者と協力しながら、演技つき歌唱の習得を試みる	事前	イタリア・ヴェリズモ・オペラを研究する	120 分
		事後	試験に向けてオペラ重唱曲の演技付き練習を行う	150 分
第 15 回	演技付きオペラ重唱曲の試験 他者と協力しながら演技つき歌唱の更なる習得をめざす	事前	オペレッタ、ミュージカルについて研究する	120 分
		事後	試験で歌ったオペラ重唱曲の個々の演奏についてディスカッションする	150 分

フィードバック 授業中または授業終了後、希望者に個別に対応する。

成績評価 演技付き演奏試験、授業態度などから総合的に評価する。

テキスト 必要に応じて配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング オペラの重唱曲を歌いながら演技することによってそれぞれの演技、演奏についてディスカッションする。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐

声楽特殊演習

教授 細谷美直

科目コード：VEN204

専門／学年：声楽専門／2 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	日本歌曲の継承と発展を学ぶ。 ドイツ歌曲のはじまりと代表的作品をグループレッソンの形態で演習する 声楽アンサンブル（邦人作品含）を取り上げハーモニー感覚を学ぶ
到達目標	初めてドイツ歌曲に取り組む学生に配慮し、ドイツ語の発音を中心に学ぶ それぞれの作品、作曲家、詩人への理解を深める

授業計画	声楽科 2 年生による演習を中心とした授業 各回の授業内容は進度により変更することがある
------	---

第 1 回	日本歌曲のはじまり 明治以前の日本のうた～わらべうたの世界～	事前	資料を読み、内容を理解する	120 分
		事後	内容の理解を深める	120 分
第 2 回	明治初期 近代音楽教育草創時代	事前	資料を読み、内容を理解する	120 分
		事後	内容の理解を深める	120 分
第 3 回	明治後期 文部省 唱歌の誕生	事前	資料を読み、内容を理解する	120 分
		事後	内容の理解を深める	120 分
第 4 回	大正時代 「赤い鳥」童謡運動の展開	事前	資料を読み、内容を理解する	120 分
		事後	内容の理解を深める	120 分
第 5 回	昭和初期 童謡の黄金時代	事前	資料を読み、内容を理解する	120 分
		事後	自分の考えをまとめる	120 分
第 6 回	ドイツリートのはじまり シューベルトの歌曲①	事前	課題曲について調べ、音取りをする	120 分
		事後	発音に注意しながら復習する	120 分
第 7 回	シューベルトの歌曲①、② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前	課題曲について調べ、音取りをする	120 分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	120 分
第 8 回	モーツァルトの歌曲① 作品の解釈と発音を中心に	事前	課題曲について調べ、音取りをする	120 分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	120 分
第 9 回	モーツァルトの歌曲①、② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前	課題曲について調べ、音取りをする	120 分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	120 分
第 10 回	声楽アンサンブル① 読譜、リズム、音程等を中心に	事前	課題曲について調べ、音取りをする	120 分
		事後	楽譜を用意し、音取りをすすめる	120 分
第 11 回	声楽アンサンブル① 和声感、様式感を中心に	事前	課題曲について調べ、音取りをする	120 分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	120 分
第 12 回	声楽アンサンブル① ハーモニー感を中心に	事前	課題曲について調べる	120 分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	120 分
第 13 回	声楽アンサンブル① 伴奏を伴い、表現の発展を図る	事前	これまでの曲を復習する	120 分
		事後	ピアニストと伴奏合わせを重ねる	120 分
第 14 回	声楽アンサンブル① 伴奏を伴い、表現を深める	事前	ピアニストと伴奏合わせを重ねる	120 分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	120 分
第 15 回	声楽アンサンブル① 演奏の質の向上を図る	事前	ピアニストと伴奏合わせを重ねる	120 分
		事後	録音（画）等を使い演奏を振り返る	120 分

フィードバック 発表会後に合評し、課題を見つけ今後に繋げる。

成績評価 授業への取り組み 40％、演奏 60％

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー 授業の前後、教室にて対応する

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒

民族音楽学

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 丸山洋司

科目コード：LEC201

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	この授業では、世界の様々な音楽文化をとりあげて学び、個々の地域の特質と相互の影響関係について理解を深める。「アフリカ」「南アジア」「東南アジア」という三つの地域をとりあげ、それぞれの地域の音楽文化について、視聴覚資料を用いたり、楽器の実演を交えて解説する。
到達目標	異なる音楽文化間の共通性や相違性、影響関係について、個々の学生が具体的にイメージし、理解を深めることを目指す。またグループ発表を通して、各学生が主体的に考察テーマを発見し、それについて他の学生と議論しながら調査できるようになることを目標とする。

授業計画				
第 1 回	オリエンテーション アフリカ（１）民族文化的背景	事前	教科書の p.20～24 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 2 回	アフリカ（２） 太鼓の諸相	事前	教科書の p.24～28 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 3 回	アフリカ（３） 音楽構造の特徴と原理	事前	教科書の p.28～31 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 4 回	アフリカ（４） さまざまな体鳴楽器	事前	教科書の p.31～36 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 5 回	南アジア（１） 民族文化的背景	事前	教科書の p.82～84 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 6 回	南アジア（２） 古典音楽と地方の伝統音楽	事前	教科書の p.84～86 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 7 回	南アジア（３） 古典音楽の理論と楽器	事前	教科書の p.86～90 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 8 回	南アジア（４） 古典舞踊とポピュラー音楽	事前	教科書の p.95～100 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 9 回	東南アジア（１） 東南アジアの人形芝居と音楽	事前	教科書の p.102～104 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 10 回	東南アジア（２） インドネシアのガムラン音楽	事前	教科書の p.105～109 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 11 回	東南アジア（３） 竹の音楽文化（バッターラーとラナート）	事前	教科書の p.110～112 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 12 回	東南アジア（４） 竹の音楽文化（ケーンとアングルン）	事前	教科書の p.110～112 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 13 回	学生によるプレゼンテーション（１）アフリカの伝統音楽	事前	第 12 回までの授業でとりあげた音楽ジャンルまたは楽器についての発表準備。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 14 回	学生によるプレゼンテーション（２）南アジアの伝統音楽	事前	第 12 回までの授業でとりあげた音楽ジャンルまたは楽器についての発表準備。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 15 回	学生によるプレゼンテーション（３）東南アジアの伝統音楽	事前	第 12 回までの授業でとりあげた音楽ジャンルまたは楽器についての発表準備。	220 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	60 分

フィードバック ・授業でのプレゼンテーションについて、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。
・期末レポートの内容について、各自に講評をフィードバックする。

成績評価 期末レポート 40％ プレゼンテーション 40％ 授業時の質疑応答 20％

テキスト ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999 年）
・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー ・授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。ball.60000622@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング 興味をもった音楽ジャンル、楽器について各自調べ、授業中に発表する。

備考 ・視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。
・楽器または音楽ジャンルに関する調査および参考動画を用了たプレゼンテーションを課す予定。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐

科目コード：SLF205

形態：講義

概要 「楽曲分析」とは、全体をいくつかの部分に分けて吟味し、それらがどのように全体に対して働いているのかを見きわめ、再統合する

到達目標 多様な楽曲を分析できるようになり、様々な時代の作曲家の様式について理解を深めるようになることを目標とする。

フィードバック	授業内発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。
---------	--------------------------------

テキスト 授業内指示

備考

[illegible]

【楽器法】	【管弦楽法】				
第1回	ガイダンス 管弦楽法とは 楽器の分類法	事前	ガイダンスの予習	「管弦楽法」の項目を音楽事典で読む	120分
		事後	作品Aの復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120分
第2回		事前	楽器の分類法の予習	資料を読む	120分
		事後	楽器の分類法の復習	プリントを読み直す	120分
第3回	金管楽器	事前	金管楽器の予習	資料を読む	120分
		事後	金管楽器の復習	プリントを読み直す	120分
第4回	木管楽器 エアリード	事前	木管楽器の予習	資料を読む	120分
		事後	木管楽器の復習	プリントを読み直す	120分
第5回	木管楽器 シングルリード、ダブルリード	事前	木管楽器の予習	資料を読む	120分
		事後	木管楽器の復習	プリントを読み直す	120分
第6回	弦楽器	事前	弦楽器の予習	資料を読む	120分
		事後	弦楽器の復習	プリントを読み直す	120分
第7回	鍵盤楽器	事前	鍵盤楽器の予習	資料を読む	120分
		事後	鍵盤楽器の復習	プリントを読み直す	120分
第8回	打楽器	事前	打楽器の予習	資料を読む	120分
		事後	打楽器の復習	プリントを読み直す	120分
第9回	バロックの管弦楽法（作品B） ヴィヴァルディ：協奏曲集「四季」より「春」	事前	作品Bの予習	楽譜を見ながら音源を聴く	120分
		事後	作品Bの復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120分
第10回	古典派の管弦楽法（作品C） モーツァルト：交響曲 第25番 第1楽章	事前	作品Cの予習	楽譜を見ながら音源を聴く	120分
		事後	作品Cの復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120分
第11回	古典派の管弦楽法（作品D） ベートーヴェン：交響曲 第5番「運命」第1楽章	事前	作品Dの予習	楽譜を見ながら音源を聴く	120分
		事後	作品Dの復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120分
第12回	ロマン派の管弦楽法（作品E） チャイコフスキー：交響曲 第6番「悲愴」第4楽章	事前	作品Eの予習	楽譜を見ながら音源を聴く	120分
		事後	作品Eの復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120分
第13回	近代の管弦楽法（作品F） ラヴェル：ボレロ	事前	作品Fの予習	楽譜を見ながら音源を聴く	120分
		事後	作品Fの復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120分
第14回	現代の管弦楽法（作品G） ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲	事前	作品Gの予習	楽譜を見ながら音源を聴く	120分
		事後	作品Gの復習	分析譜を見ながら音源を聴く	120分
第15回	作品発表 オーケストレーションの実施	事前	作品発表の予習		120分
		事後	作品発表の復習		120分

[illegible]

鍵盤和声Ⅱ-1

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF203

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	鍵盤和声 I-1 および I-2 が履修済であることが望ましいが、必須ではない。 伴奏付けに必要な技術を確認しながら、ピアノ書法のみならず、他の楽器を想起させるような音型などについても触れてゆく。またそれらが西洋音楽の歴史のなかでどのような変遷を辿ってきたのかを学ぶことで、音楽様式への理解を深めてゆく。
到達目標	各々の伴奏技術の上達とともに、各時代の様式——バロック、古典派、ロマン派（初期・中期・後期）、19 世紀末～20 世紀初頭のフランス音楽、そして現代ほか——の理解に基づき、鍵盤上で適切な音楽表現を実現する技術を身につける。また後期授業の鍵盤和声Ⅱ-2 における学生の各々が関心を寄せる領域への取り組みの準備も行う。
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。

第 1 回	ガイダンス 鍵盤和声基礎知識の確認	事前 各調の音階と主和音を確認する。 事後 音の響きについて考察する。	40 分 50 分
第 2 回	音階とカデンツ 即興演習	事前 各調のカデンツを確認する。 事後 即興演習の復習をする。	30 分 60 分
第 3 回	旋律・和音・リズム 移調奏	事前 リズムについて考察する。 事後 移調奏の復習をする。	30 分 60 分
第 4 回	伴奏形について 初見奏	事前 伴奏形について予習する。 事後 伴奏形を復習する。	30 分 60 分
第 5 回	数字付低音の説明と和音付け 弾き歌い	事前 和音記号を確認する。 事後 数字付低音・弾き歌いの復習演習を行う。	30 分 60 分
第 6 回	伴奏譜にメロディーをつける 主和音と属和音による伴奏づけ	事前 課題曲の伴奏形を考察する。 事後 伴奏づけの反復演習をする。	30 分 60 分
第 7 回	コードネームの説明 主要三和音を用いて伴奏づけ	事前 課題曲の伴奏づけを行う。 事後 コードネームの復習演習を行う。	30 分 60 分
第 8 回	コードネームを用いて与えられた旋律に伴奏をつける	事前 各調の主要三和音を確認する。 事後 コードネーム伴奏づけの反復練習をする。	30 分 60 分
第 9 回	モチーフを基に小曲を作る	事前 コードネームを確認し、課題譜を考察する。 事後 メロディーづけの復習演習を行う	30 分 60 分
第 10 回	伴奏形を変えて変奏曲を作る 副三和音を用いての伴奏づけ	事前 課題譜を考察する。 事後 変奏曲の反復演習を行う。	40 分 50 分
第 11 回	非和声音について 非和声音を用いての伴奏づけ	事前 副三和音を確認し、課題譜を考察する。 事後 非和声音の確認を行う。	40 分 50 分
第 12 回	借用和音について	事前 伴奏形を確認し、課題譜を考察する。 事後 借用和音の確認を行う。	40 分 50 分
第 13 回	前期の復習・補足	事前 非和声音について復習し、課題譜を考察する。 事後 伴奏づけの復習演習をする。	40 分 50 分
第 14 回	前期総合演習	事前 前期で学んだことを総合的に復習し、理解不足箇所を確認する。 事後 前期の総合演習を行い、理解度を深める。	40 分 50 分
第 15 回	まとめ	事前 前期の演習課題を総合的に復習する。 事後 前期に学習したことを再確認する。	70 分 20 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%
もとより個人差のあるピアノの演奏技術ではなく、授業の理解度や課題の実践力を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング 伴奏のアイデアを学ぶために実作の楽曲分析を行い、ディスカッションを行う。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐

鍵盤和声Ⅱ-2

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF204

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	前期の鍵盤和声Ⅱ-1 に引き続き、鍵盤上における和声表現に必要な技術を学んでゆくとともに、作品の分析も継続して行なっ てゆく。後者については、学生個々人が関心を寄せる対象に則して授業内容を決定する。とりわけ、特定の和音の持つ性質を利用 した劇的・悲劇的表現など、より具体的な技術についても実践する。
到達目標	自らの和声感覚を養い、これを鍵盤上での実践と結びつけることが第一であることに変わりはないが、単にその状況下に必要と される条件を満たすためではなく、つねにより良い音楽表現を求め、自らの感性と理性によって主体的に決定してゆく知識とコ ミュニケーション能力を身につけることを最終的な目標とする。
授業計画	各授業で取り扱うテーマは概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの実作品を分析する。また、学生が関心を寄せる対象によって内容を追加・変更する場合もある。

第 1 回	非和声音を用いて小曲を作る	事前 非和声音について確認する。	40 分
		事後 非和声音について復習する。	50 分
第 2 回	借用和音を用いての伴奏づけ	事前 借用和音を確認する。	30 分
		事後 伴奏づけの復習をする。	60 分
第 3 回	移調奏 弾き歌い	事前 弾き歌いの予習をする。	30 分
		事後 移調奏、弾き歌いの復習演習を行う。	60 分
第 4 回	借用和音を用いて主題を基に変奏曲を作る	事前 借用和音を確認し、課題譜の考察をする。	30 分
		事後 変奏曲の復習演習を行う。	60 分
第 5 回	七の和音を用いての数字付低音	事前 数字付低音について確認する。	30 分
		事後 七の和音を使った数字付低音の復習演習	60 分
第 6 回	減七の和音を用いての伴奏づけ	事前 伴奏形を確認し、課題譜の考察をする。	30 分
		事後 減七の和音の復習演習を行う。	60 分
第 7 回	主題を基に変奏曲を作る	事前 課題譜の考察をする。	30 分
		事後 変奏曲の復習演習を行う。	60 分
第 8 回	モチーフを基に小曲を作る	事前 減七の和音を確認し、課題譜の考察をする。	30 分
		事後 モチーフ奏の復習演習を行う。	60 分
第 9 回	ナボリの 6 の和音について モチーフを基に小曲を作る	事前 課題譜の考察をする。	30 分
		事後 ナボリの 6 の和音の復習演習を行う。	60 分
第 10 回	増六の和音について 主題を基に変奏曲を作る。	事前 借用和音を確認し、課題譜の考察をする。	40 分
		事後 増六の和音を確認し、変奏曲を作る反復演習を行う。	50 分
第 11 回	モチーフを基にメロディーを作る	事前 課題譜を考察する。	40 分
		事後 モチーフ奏の反復演習を行う。	50 分
第 12 回	初見奏・弾き歌い・移調奏 主題を基に小曲を作る	事前 課題譜を考察する。	40 分
		事後 課題を基に小曲を作る反復演習を行う。	50 分
第 13 回	後期の復習・補足	事前 伴奏づけの復習演習を行い、後期に学んだことと考察する。	40 分
		事後 課題曲の反復演習を行う。	50 分
第 14 回	後期総合演習	事前 後期で学んだことを総合的に復習し、理解不足箇所を確認する。	40 分
		事後 後期の総合演習を行い、理解度を深める。	50 分
第 15 回	まとめ	事前 これまでの演習課題を総合的に復習する。	70 分
		事後 学習したことを再確認する。	20 分

フィードバック 授業内での質疑や、課題の添削・コメントによって行う。

成績評価 授業への積極的な取組 50％、試験・提出物 50％
もとより個人差のあるピアノの演奏技術ではなく、授業の理解度や課題の実践力を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて行う。

アクティブ・ラーニング 伴奏のアイデアを学ぶために実作の楽曲分析を行い、ディスカッションを行う。

備考 配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐

音楽療法概論

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 阿部真貴子 科目コード：THE101

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 音楽療法は、活動における音楽の持つ力と人とのかわりを用いて、対象者を多面的に支援する。音楽療法は医療・福祉・教育など様々な領域でニーズがあり、音楽療法の技能・知識も様々な領域で応用されている。本講義では、音楽療法士養成にあたって音楽療法の知識を学ぶとともに音楽療法とは何かについて考える時間としたい。

到達目標 音楽療法とは何か、音楽療法の定義、音楽療法の歴史、音楽療法に必要な様々な理論、セッションの流れ等について学ぶ。講義を聴く・テキストを読むだけでなく、質疑応答を通して学生で意見を出し合い、より音楽療法を理解し、最終的には「音楽療法とは何か」について各自言語化・文章化できることを到達目標とする。

授業計画			
第 1 回	第1章 音楽療法の現場風景 自閉症の子どもへの音楽療法	事前	p. 2～4「第 1 章音楽療法の現場の風景」を読む。 140 分
		事後	第 1 章の内容の中で分からない用語を書きだし、調べる。 140 分
第 2 回	第 2 章 音楽療法とは カジュアルな音楽療法、フォーマルな音楽療法	事前	p. 5～8「カジュアルな音楽療法」を読む。 140 分
		事後	「カジュアルな音楽療法」の例を書きだす。 140 分
第 3 回	第 2 章 音楽療法とは フォーマルな音楽療法の条件	事前	p. 8～27「フォーマルな音楽療法の条件」を読む。 140 分
		事後	フォーマルな音楽療法の 5 つの条件の重要な部分を書きだす。 140 分
第 4 回	第 3 章 聴く音楽療法、する音楽療法 聴く音楽療法(受動的音楽療法)のいろいろ	事前	p. 28～30「聴く音楽療法」を読む。 140 分
		事後	授業中に見た音楽療法の動画の感想を提出する。 140 分
第 5 回	第 3 章 聴く音楽療法、する音楽療法 する音楽療法(能動的音楽療法)のいろいろ	事前	p. 30～42「する音楽療法」を読む 140 分
		事後	歌唱、楽器演奏、即興演奏、身体運動、作曲の中の 1 つを選びその重要性を提出。 140 分
第 6 回	第 4 章 音楽療法には効果があるのか 何をもって効果と呼ぶか、どうやって効果を確かめるか	事前	p. 43～46「音楽療法には効果があるのか」を読む。 140 分
		事後	音楽療法の効果の中の「生理学的方法」と「心理学的方法」について調べる。 140 分
第 7 回	第 4 章 音楽療法には効果があるのか 数量化できるもの、数量化できないもの	事前	p. 46～50「数量化できるもの」「数量化できないもの」を読む。 140 分
		事後	「量的研究」と「質的研究」について調べる。 140 分
第 8 回	第 5 章 音楽療法の歴史 古代における音楽と癒し。神話・歴史のエピソードに見る音楽と癒し	事前	p. 51～55「音楽療法の歴史」を読む。 140 分
		事後	古代・神話・歴史のエピソードに関する文献を探す。 140 分
第 9 回	第 5 章 音楽療法の歴史 近代的音楽療法のはじまりー米国での音楽療法の発展及び日本における近代音楽療法の歴史	事前	p. 55～59「近代的音楽療法の始まり」をよむ。 140 分
		事後	参考文献の「日本の音楽療法の動向」からさらに現在の日本の動向を調べる。 140 分
第 10 回	第 6 章 音と音楽とところとからだ 音とは何か・音を聴く・音と音楽・音楽と感情	事前	p. 60～69「音と音楽とところとからだ」を読む。 140 分
		事後	音とは何か・音と感情・音と音楽について自分の体験を書きだし、提出する。 140 分
第 11 回	第 7 章 音楽療法のさまざまなアプローチ からだへのアプローチ・ところへのアプローチ	事前	p. 70～86「からだへのアプローチ・ところへのアプローチ」を読む。 140 分
		事後	授業中に見た「応用行動分析学のアプローチ」の DVD を観て、感想を書き、提出。 140 分
第 12 回	第 7 章 音楽療法のさまざまなアプローチ ところへのアプローチ・社会へのアプローチ	事前	p. 86～105「人間主義心理学(ノードフ・ロビンズ音楽療法)」を読む。 140 分
		事後	授業中に見た「ノードフ・ロビンズ音楽療法」の動画を観て感想を書き、提出。 140 分
第 13 回	第 8 章 音楽療法が問いかけること 音楽療法発展の 2 つの方向・音楽療法の現場から、音楽について考える。	事前	p. 106～115「音楽療法が問いかけること」を読む。 140 分
		事後	音楽療法と音楽教育について自分の考えを書き、提出。 140 分
第 14 回	第 8 章 音楽療法が問いかけること 音楽療法から「個人の健康」と「社会の健康」を考える。	事前	p. 116～120「音楽療法から「個人の健康」と「社会の健康」を読む。 140 分
		事後	「個人の健康」と「社会の健康」について自分の考えを書き、提出。 140 分
第 15 回	第 8 章 音楽療法が問いかけること まとめ テキスト全域のまとめ 試験	事前	テキスト「音楽療法をまなぶ」全般から質問・疑問点を出す。 140 分
		事後	テキスト全域および試験の振り返り。 140 分

フィードバック

成績評価 筆記試験 60％、授業態度 20％、レポート等の提出 10％ 発言・質問等の積極性 10％

テキスト 二俣泉・白川ゆう子・三浦優佳著『新訂増補版 音楽療法をまなぶ』（アカデミア・ミュージック株式会社）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室、もしくはメールにて対応する。mabe@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブラーニング ・二人組になり、会話の中から相手の情報を引き出す
・動画を見た感想を言い合う
・模擬セッションに参加する
・グループワーク

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☐	☑	☐	☑	☑	☐	☐	☑	☐

高齢者の音楽療法

非常勤講師 田原ゆみ

科目コード：THE103

専門／学年：全専門／1年次

形態：講義

单位数：2 单位

概要	高齢化の進展により、高齢者を対象とした音楽療法に対するニーズや期待は年々高まっている。本授業では主に高齢者のための音楽療法に関する基本的な知識を習得するとともに、その実施方法について具体的に学ぶ。また、近年関心が高まっているホスピス・緩和ケアにおける音楽療法についても事例を交えながら学ぶ。
到達目標	高齢者のための音楽療法に関する基本的な知識を身に付け、四季に合った音楽療法プログラムの作り方とその実施方法について学ぶ。ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法について理解する。

授業計画

第1回	講師と学生の自己紹介	事前	これまでの授業で学んだことを振り返りまとめる	130分
	音楽療法の定義、歴史、日本の現状	事後	授業内容を振り返り、要点をまとめる	140分
第2回	高齢者を取りまく環境および高齢者に多く見られる疾病と障がいについて	事前	高齢者の特徴としてどのような点が挙げられるかまとめる	130分
		事後	授業内容を振り返り、高齢者の環境や疾病についてまとめる	140分
第3回	高齢者を対象とした音楽療法の治療理論	事前	これまでの授業で学んだ治療理論についてまとめる	130分
		事後	授業内容を振り返り、高齢者を対象とした音楽療法の治療理論についてまとめる	140分
第4回	高齢者を対象とした音楽療法の目標	事前	これまでの授業で学んだ音楽療法の目標についてまとめる	130分
		事後	授業内容を振り返り、高齢者を対象とした音楽療法の目標についてまとめる	140分
第5回	認知症高齢者を対象とした音楽療法	事前	認知症について調べてまとめる	130分
		事後	授業内容を振り返り、認知症高齢者の音楽療法の特徴や有効性についてまとめる	140分
第6回	神経学的リハビリテーションのための音楽療法	事前	神経学的音楽療法について調べてまとめる	130分
		事後	授業内容を振り返り、神経学的音楽療法の種類と有効性についてまとめる	140分
第7回	介護予防のための音楽療法および健康な高齢者を対象とした音楽療法	事前	介護予防について調べてまとめる	130分
		事後	授業内容を振り返り、健康な高齢者を対象とした音楽療法についてまとめる	140分
第8回	高齢者を対象とした音楽療法のプログラムの構成	事前	これまで見学したセッションのプログラムを思い出してまとめる	130分
		事後	授業内容を振り返り、高齢者を対象とした音楽療法のプログラムについてまとめる	140分
第9回	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの作成	事前	高齢者に馴染みのありそうな曲を調べてまとめる	130分
		事後	指定された四季に適合した高齢者の音楽療法プログラムを完成させる	140分
第10回	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表（1）	事前	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表準備をする	130分
		事後	自身の発表内容の改善点および他の学生の発表を聞いた感想をまとめる	140分
第11回	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表（2）およびフィードバック	事前	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表準備をする	130分
		事後	自身の発表内容の改善点および他の学生の発表を聞いた感想をまとめる	140分
第12回	ホスピス・緩和ケアの概要	事前	ホスピス・緩和ケアについて調べてまとめる	130分
		事後	授業内容を振り返り、ホスピス・緩和ケアについてまとめる	140分
第13回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の概要	事前	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法について調べてまとめる	130分
		事後	授業内容を振り返り、ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法についてまとめる	140分
第14回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の実際	事前	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の事例について調べてまとめる	130分
		事後	授業を振り返り、ホスピス・緩和ケアの音楽療法の効果や留意点についてまとめる	140分
第15回	講義内容の総括と試験	事前	これまでの授業を振り返り、要点や疑問点をまとめる	130分
		事後	授業内容と試験を振り返り、理解を深める	140分

フィードバック 授業内課題やレポートに対するコメントや添削などで適宜フィードバックをおこなう

成績評価 高齢者の音楽療法やホスピス・緩和ケアにおける音楽療法に関する基本的な知識を習得することができたか、高齢者を対象とした集団音楽療法プログラムの基礎的な作成方法を身につけることができたか、試験・課題・授業への積極的な取組を総合的に評価する。
試験 50%、授業内で指示する課題 30%、授業への積極的取組 20%

テキスト 授業内で資料を配布する
参考資料：貫行子著『新訂 高齢者の音楽療法』（音楽之友社 2009）（購入任意）

オフィスアワー 授業後に教室にて対応する

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

思春期・成人の音楽療法

※音楽療法士養成に関する科目

※実務経験を持つ教員による授業

平成9年認定音楽療法士取得以来、発達障害児童を中心に臨床を行なっている教員が、様々な領域の音楽療法に関する講義と視覚的資料を使用しながら指導を行う。

講師 中山晶世 科目コード：THE104

専門／学年：全専門／2 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 近年、音楽療法の研究は目覚ましく、様々な障害や疾患に音楽が適応され、医療分野でも認められてきている。また、様々な音楽療法において音楽の使い方や目的も異なる。それらの音楽療法を幅広く学び、音楽療法の有効性を考える。

到達目標 音楽療法は、年齢・障害・領域によって音楽の使い方、セッションの進め方、形態、評価の仕方等が変わってくる。この授業では、おもに思春期と成人の音楽療法に関して理解を深める。様々な障害や疾患に関しての知識を持ち、それらの障害や疾患に有効な音楽療法の方法を学ぶ。

授業計画 授業は、テキスト内の難解な疾患名や用語等を調べ、理解した上で音楽療法の方法を学びながら進めていく。

第 1 回	精神科での音楽療法 精神科患者の特質	事前 p.129～130 統合失調症の特質を読む。 事後 精神科病院の音楽療法を見学した感想や疑問を提出。	140 分 140 分
第 2 回	精神科での音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.117～128 精神科での音楽療法を読む。 事後 実際の展開・伴奏・プログラムの立て方・配慮点・問題行動の対処についてノートに書きだす。	140 分 140 分
第 3 回	慢性疾患の音楽療法 慢性疾患患者の特質	事前 p.168～172 慢性疾患患者の特質を読む。 事後 慢性疾患・急性疾患の差異。慢性疾患患者の心境。生活指導・医療との協同作業についてまとめる。	140 分 140 分
第 4 回	慢性疾患の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.172～179「音楽療法の目的と方法」を読む。 事後 音楽療法の適用領域・適用方法・目的・効果をまとめる。	140 分 140 分
第 5 回	心身症の音楽療法 心身症患者の特質	事前 p.195・200～201「心身症患者の特質」を読む。 事後 ストレスによる胃潰瘍や人間関係に悩み円形脱毛症などについて調べる。	140 分 140 分
第 6 回	心身症の音楽療法 音楽療法の症例を中心に	事前 p.195～200 「5 つの症例」を読む。 事後 摂食障害・高血圧症・肩関節周囲炎・過敏性腸症候群患者に対する音楽療法を学ぶ。	140 分 140 分
第 7 回	神経症・うつ状態の音楽療法 神経症・うつ状態患者の特質	事前 p.204～208「神経症・うつ状態」を読む。 事後 神経症の症状・うつ状態の症状の特質をノートにまとめる。	140 分 140 分
第 8 回	神経症・うつ状態の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.208～214「神経症・うつ状態の音楽療法」を読む。 事後 音楽療法の長所と短所・音楽療法の適応・患者と接する時の注意点をノートにまとめる。	140 分 140 分
第 9 回	発達障害の音楽療法 発達障害者の特質	事前 p.131～132「発達障害者の特質」を読む。 事後 「個人の行動に関する要因」「環境・制度に関する要因」について具体的な例を書き出す。	140 分 140 分
第 10 回	発達障害の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.133～154「音楽療法の目的と方法」を読む。 事後 地域の人たちとの交流の機会の提供・余暇活動の機会の提供と指導・不適切な行動の軽減を調べる	140 分 140 分
第 11 回	音楽療法で行う障害・疾病の理解 音楽療法士が向きあう対象者への知識	事前 p.5～12「音楽療法の実践 総論」を読む。 事後 音楽療法士が対象者に向きあう時の注意点を書き出す。	140 分 140 分
第 12 回	音楽療法で行う障害・疾病の理解 音楽療法士としての心構えと責任	事前 p.15～24「音楽療法士の治療的自我の育成」を読む。 事後 信頼され、人間的に自然体でのぞめるような音楽療法士になるための条件を書き出す。	140 分 140 分
第 13 回	認知症予防の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 「認知予防の音楽療法」について調べる宿題を出してある。 事後 認知予防の活動例を作成し、提出。	140 分 140 分
第 14 回	様々な疾患における音楽療法の効果	事前 「音楽療法の効果」について考える宿題をだしてある。 事後 1 つの領域を選び、音楽療法の効果についてレポートを提出。	140 分 140 分
第 15 回	授業のまとめ 理解度確認テスト	事前 1～14 回の復習をする。 事後 理解度確認テストの振り返り。	140 分 140 分

フィードバック 提出したノートにコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 理解度確認テスト 60％ 授業態度 20％ ノート提出 20％

テキスト 日野原重明監修『標準 音楽療法入門 下 実践編』（春秋社）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☐	☐	☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☐	☑	☑	☐	☑	☐

音楽療法技法-1

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE107

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	音楽療法では、対象者に合わせることが基本となる。例えば児童の場合、対象児の行動の速度に合わせて音楽の速度を変える。それによって対象児の理解度やセラピストとの関係性も深くなる。高齢者の場合、行動の速度が遅くなる他に声の高さも低くなる。また、音域も狭くなる。従って歌唱では、既成の曲を対象者の音域に合わせたり、速度を遅くすることが必要となる。セラピストは臨機応変に対象者に合わせるよう、努力する。

到達目標	授業の中で模擬セッションを行い、ピアノ担当者はクライアントの歌唱の音域に合わせて演奏したり、楽器演奏の速度に合わせて演奏する。「合わせる」経験を通して音楽療法に必要な、対象者とのコミュニケーションを経験する。
------	--

授業計画	楽器・声・動きを使って模擬セッション形式で進めていく。
------	-----------------------------

第 1 回	音楽療法で使われる楽器の名称・演奏方法を学ぶ。	事前 事後	自分の知っている楽器の名称を楽器表に書き入れる。 音楽療法で使われる楽器を加え、演奏方法を書き入れる。	140 分 140 分
第 2 回	音楽療法での音楽のあり方を学ぶ。	事前 事後	配布した参考資料「音楽療法での音楽のあり方」を読んでおく。 一般の演奏と音楽療法の音楽の違いをノートにまとめる。	140 分 140 分
第 3 回	模擬セッション① 既成曲(童謡や唱歌など)でピアノ(セラピスト)楽器(対象者)の 1 対 1 の演奏	事前 事後	各自、童謡や唱歌などの既成曲を決め、ピアノの練習をする。 対象者役(楽器)との演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 4 回	模擬セッション② 同形式で、対象者のテンポを合わせる。	事前 事後	前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をする。 対象者(楽器)とテンポを合わせた演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 5 回	模擬セッション③ 同形式で、対象者のテンポ・強弱を合わせる。	事前 事後	前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をする。 対象者(楽器)とテンポと強弱を合わせた演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 6 回	模擬セッション④ 同形式で、ピアノ伴奏の工夫	事前 事後	前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をし、伴奏形を工夫する。 セラピスト役が伴奏を替えることによって対象者役の何が替るのかノートに書きだす。	140 分 140 分
第 7 回	様々なリズムを組みわせて 1 曲(8 小節)を完成させる(協同作業)	事前 事後	リズムまたはリズムパターンを考えておく。 できた 8 小節を楽器で演奏し、伴奏をつける。	140 分 140 分
第 8 回	前回作成したリズムに強弱をつけ、楽器で演奏する(協同作業)	事前 事後	前回作成した 8 小節の曲に強弱をつける。 できた 8 小節を楽器で強弱をつけて演奏し、伴奏をつける。	140 分 140 分
第 9 回	前回作成したリズムにメロディをつけ、歌う(協同作業)	事前 事後	前回作成した 8 小節の曲に、メロディをつける。 メロディをつけた 8 小節に歌詞をつける。	140 分 140 分
第 10 回	セッションで使う「こんにちは」の曲を作曲する(個人)	事前 事後	子どものセッションにふさわしい「こんにちは」の曲を作る。 「こんにちは」の曲を作るにあたっての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 11 回	作曲した「こんにちは」を 1 人ずつ発表する	事前 事後	作曲した「こんにちは」の楽譜を完成させる。 1 人ずつの作品について、感想を提出。	140 分 140 分
第 12 回	即興課題 ドーリア旋法①教会旋法の説明	事前 事後	教会旋法について調べる。 ドーリア旋法について復習する。	140 分 140 分
第 13 回	即興課題 ドーリア旋法②ピアノ連弾(メロディと伴奏)でドーリア旋法に慣れる。	事前 事後	ドーリア旋法の復習 ピアノ役 2 人で連弾し、ドーリア旋法の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 14 回	即興課題 ドーリア旋法③1 人でピアノ演奏する。	事前 事後	ドーリア旋法の復習。 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第 15 回	即興課題 ドーリア旋法④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 事後	ドーリア旋法の復習。 対象者の楽器のリズムに合わせることを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分

フィードバック	模擬セッションについて、コメントを言い、学修成果をフィードバックする。
---------	-------------------------------------

成績評価	授業態度 50%、課題への取り組み 25%、協同作業内(模擬セッション内)の発言等の積極性 25%
------	---

テキスト	必要に応じてプリントなどを配布する。
------	--------------------

オフィスアワー	授業終了後教室及び E メールで対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp
---------	---

アクティブ・ラーニング	音楽療法の模擬セッションの中でピアノ役・クライアント役・ギャラリー役になってセッションを行った後、意見を出し合う。
-------------	---

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽療法技法-2

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE108

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	音楽療法で使われる音楽には既成音楽と即興音楽があり、対象者によって使い分けが必要となる。また、即興音楽には旋法や音階などの技術が必要である。それらの即興音楽を修得する方法として音楽性・即興性・表現力などを学ぶ。また、後半は、音楽療法で使われる合奏曲を、チームを組んで演奏したり、創作しながら、チームでのコミュニケーションを通して、対象者とのコミュニケーションを学ぶ。
到達目標	即興音楽は、ドーリア旋法・アラビア音階・沖縄音階を、音階楽器・連弾・ソロ演奏・対象者役の人の楽器と一緒に演奏と難易度を上げながら修得する方法で行なう。合奏はチームで合奏を行うだけが目標ではなく、チームで話し合い、楽器を決め、役割を決め、練習するまでのプロセスを通して、チームでのコミュニケーションを作ることを目標とする。
授業計画	楽器・声・動きを使って模擬セッション形式で進めていく。

第 1 回	即興課題 アラビア音階①アラビア音階の説明	事前 アラビア音階について調べる。 事後 アラビア音階を五線紙に書き、復習する。	140 分 140 分
第 2 回	即興課題 アラビア音階②ピアノ連弾(メロディと伴奏)でアラビア音階に慣れる。	事前 アラビア音階の復習。 事後 ピアノ役 2 人で連弾し、アラビア音階の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 3 回	即興課題 アラビア音階③1 人でピアノ演奏	事前 アラビア音階の復習 事後 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第 4 回	即興課題 アラビア音階④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 アラビア音階の復習 事後 対象者のリズムに合わせることを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分
第 5 回	即興課題 沖縄音階①沖縄音階の説明	事前 沖縄音階について調べる。 事後 沖縄音階を五線紙に書き、復習する。	140 分 140 分
第 6 回	即興課題 沖縄音階②ピアノ連弾(メロディと伴奏)で沖縄音階に慣れる。	事前 沖縄音階の復習 事後 ピアノ役 2 人で連弾し、アラビア音階の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 7 回	即興課題 沖縄音階③1 人でピアノ演奏	事前 沖縄音階の復習 事後 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第 8 回	即興課題 沖縄音階④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 沖縄音階の復習 事後 対象者の楽器のリズムを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分
第 9 回	合奏曲を作る(協同作業)① 音楽療法楽器を用いて既成曲(ハンガリア舞曲など)の合奏曲を作る。	事前 合奏曲を作るための既成曲を決めておく。 事後 音楽療法の使用楽器がふさわしかったかノートに書きだす。	140 分 140 分
第 10 回	合奏曲を作る(協同作業)② 音楽療法のメロディ楽器を用いて既成曲(ふるさとなど)の合奏曲を作る。	事前 合奏曲を作る為の既成曲を決めておく。 事後 既成曲にふさわしいメロディ楽器だったかノートに書きだす。	140 分 140 分
第 11 回	合奏曲を作る(協同作業)③ 絵楽譜・色音符楽譜等の視覚的教材を用いて合奏を体験する。	事前 既成曲を決め、どのような視覚教材にするか考えておく。 事後 視覚教材を完成させる。	140 分 140 分
第 12 回	合奏曲を作る(協同作業)④ 既成曲で絵楽譜を用いた合奏曲を作成する。	事前 前回作成した視覚教材を準備する。 事後 演奏し、工夫した面などについてノートに書きだす。	140 分 140 分
第 13 回	作成した絵楽譜を各グループで発表する。 発表後、意見交換をする。	事前 さらに完成させた視覚教材を準備する。 事後 発表後、意見交換した内容を書きだし、感想を提出。	140 分 140 分
第 14 回	「静かな森の大きな木」(オリジナル曲集を参考資料として配布) グループで話し合い、模擬セッションを考える(協同作業)	事前 あらかじめ参考資料より曲を決めておく。 事後 模擬セッションをするにあたって、工夫した面、難しかった面を書きだす。	140 分 140 分
第 15 回	同模擬セッションをグループごとに発表。	事前 前回決めた曲を使って模擬セッションを準備する。 事後 模擬セッション後、成功した面、反省した面を書きだし、提出する。	140 分 140 分

フィードバック 即興演奏及び合奏でのプロセスについて、コメントを言い、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%、課題への取り組み 25%、協同作業内(模擬セッション内)の発言等の積極性 25%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室及び E メールで対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 音楽療法の模擬セッション及び協同作業の中で小グループになり、積極的に意見を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

臨床心理学

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 宮澤淳滋

科目コード：NAT103

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	臨床心理学は、悩みを抱え、こころを病む人への援助に関する実践的な学問である。本講義では、心理臨床の対象となるクライアントがどのような問題を抱えているのか（さまざまな心理的問題）、心理療法理論（先人たちによるこころの見方や考え方）、心理臨床の実際（心理療法の特徴とその展開）について取り上げ、臨床心理学の基本的な考え方とその実践について理解する。

到達目標	①こころの悩み・問題に対する臨床心理学的な支援の考え方を体得し、②臨床心理学の実践の歴史の変遷について理解し、③臨床心理学の代表的な理論・技法についての知識を習得し、④グループワークを通じて、自分自身のこころのありようについて理解を深める
------	---

第 1 回	【基本的な聴く技術】臨床心理学における聴き方を習得する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートの見直し、およびワークの振り返りをして、聴き方を深める。	70 分 200 分
第 2 回	【心理学的アセスメント】臨床心理学におけるアセスメントの流れを理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、アセスメントについての理解を深める。	70 分 200 分
第 3 回	【乳幼児期から児童期までの心理学的問題】乳幼児期から児童期までの心理学的発達を考え、生じやすい問題を理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、心理学的問題についての理解を深める。	70 分 200 分
第 4 回	【児童期から青年期までの心理学的問題】児童期から青年期までの心理学的発達を考え、生じやすい問題を理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、心理学的問題についての理解を深める。	70 分 200 分
第 5 回	【青年期から老年期までの心理学的問題】青年期から老年期までの心理学的発達を考え、生じやすい問題を理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、心理学的問題についての理解を深める。	70 分 200 分
第 6 回	【臨床心理学の理論（1）パーソンセンタードアプローチ】ロジャースのパーソンセンタードアプローチについて理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、パーソンセンタードアプローチについての理解を深める。	70 分 200 分
第 7 回	【臨床心理学の理論（2）その他の人間性心理学】ロジャース後期以降のパーソンセンタードアプローチおよびその他の人間性心理学の発展を理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 グループワークを振り返り、自己理解を深める。	70 分 200 分
第 8 回	【臨床心理学の理論（3）パニック障害の認知行動療法】パニック障害を取り上げて、実際に行われる認知行動療法を理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、認知行動療法について理解する。	70 分 200 分
第 9 回	【臨床心理学の理論（4）認知行動療法の技法】認知行動療法の成立過程、考え方、技法について理解する。	事前 事後	事前に配布された資料を読む。 授業ノートを見直し、認知行動療法の実践について理解を深める。	70 分 200 分
第 10 回	【臨床心理学の理論（5）精神分析】フロイトおよびフロイト以後の精神分析について理解する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、精神分析について理解する。	70 分 200 分
第 11 回	【臨床心理学の理論（6）ユング心理学】ユング心理学の基本的な考え方を理解し、夢の扱い方を知る。	事前 事後	事前に配布された資料を読む。 授業ノートを見直し、ユング心理学について理解する。	70 分 200 分
第 12 回	【臨床心理学の理論（7）力動的心理療法の実際】精神分析やユング心理学がどのように実践されているか、事例を通して議論する。	事前 事後	事前に配布された資料を読む。 授業で話し合った内容を振り返り、理解を深める。	70 分 200 分
第 13 回	【臨床心理学の理論（8）アートセラピー】箱庭療法、描画療法などについて理解し、アートと心との関係をとらえ直す。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、アートと臨床心理学との関係を理解する。	70 分 200 分
第 14 回	【臨床心理学の理論（9）家族療法】家族療法について理解し、家族の及ぼす心への影響を議論する。	事前 事後	テキストの関連ページを読む。 授業ノートを見直し、家族療法について理解を深める。	70 分 200 分
第 15 回	【まとめ】授業のまとめ、試験について。	事前 事後	これまでの授業の内容を振り返る。 参考文献を読み、さらに理解を深める。	70 分 200 分

フィードバック リアクション・ペーパーを用い、質問・感想・意見などを受け付ける。それらに対し、授業内でフィードバックを行う。

成績評価 試験（70%）、授業への積極的な取り組み（30%）
適宜リアクション・ペーパーの提出を求める。有意義なリアクション（質問、意見、感想など）には加点して評価する。

テキスト 講義時に資料を配布する。

参照資料
下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 [改訂新版]』ミネルヴァ書房
野島一彦・岡村達也編『臨床心理学概論』遠見書房

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する。

アクティブ・ラーニング 毎時間、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイイングを実施する。

備考 この講義は、臨床心理学の全体像を概観し、こころの問題を抱えた人への援助の基本を学ぶことを目標としている。毎回テーマに沿ったグループワークを盛り込みながら、体験的に学ぶことができるように授業を進めていく。

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	□	☑	□	□	☑	□	□	☑	☑	☑	□	□		☑

副科器楽（ピアノ）

実技科目主任（ピアノ） 准教授 倉地恵子

科目コード：IND204

専門／学年： 器楽・声楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	ピアノ奏法の基本を確認し、教育実習・音楽療法実習での実践力を身につける。

到達目標	様々なピアノ曲を学び、より豊かな表現力溢れる演奏にむすびつける。年度末に発表会を行う。
------	---

授業計画	通年 15 回、20 分の個人指導。 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
------	---

第 1 回	練習曲（1）―打鍵―	事前 練習曲を 1 曲選曲して、読譜をする 事後 鍵盤の下まで打鍵しているか、確認をする	105 分 105 分
第 2 回	練習曲（2）―運指―	事前 楽譜に記されている指使いで、練習をする 事後 運指の確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 3 回	バッハの作品（1）―読譜―	事前 バッハの作品を 1 曲選曲して、読譜をする 事後 読譜の確認をする	105 分 105 分
第 4 回	バッハの作品（2）―和声感―	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和声の響きを意識して、練習をする	105 分 105 分
第 5 回	ソナタ（1）―形式―	事前 モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンのソナタから 1 曲を選び、1 楽章の読譜をする 事後 形式を考えて、練習をする	105 分 105 分
第 6 回	ソナタ（2）―表現―	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	105 分 105 分
第 7 回	ロマン派の作品（1）―強弱―	事前 ロマン派の作品を 1 曲選曲して、読譜をする 事後 強弱の確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 8 回	ロマン派の作品（2）―音色―	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探りながら、練習をする 事後 曲のキャラクターを考えながら、練習をする	105 分 105 分
第 9 回	発表会用の楽曲―読譜の確認―	事前 作品を選曲して、読譜をする 事後 楽語を調べ、読譜の確認をする	105 分 105 分
第 10 回	発表会用の楽曲―形式―	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉える練習をする	105 分 105 分
第 11 回	発表会用の楽曲―表現―	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	105 分 105 分
第 12 回	発表会用の楽曲―和声感―	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和声の響きを意識して、練習をする	105 分 105 分
第 13 回	発表会用の楽曲―強弱―	事前 強弱の確認をして、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習する	105 分 105 分
第 14 回	発表会用の楽曲―音色―	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探りながら、練習をする 事後 曲のキャラクターを考えながら、練習をする	105 分 105 分
第 15 回	発表会用の楽曲の仕上げ―まとめ―	事前 フレーズ感をもって演奏をしているか、確認をする 事後 暗譜の確認をする	105 分 105 分

フィードバック 発表会での演奏について、コメントをつけ、フィードバックする

成績評価 発表会 30% 課題への取り組み 30% 授業態度 40%

テキスト 適宜授業内に指示する

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各実技担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

副科器楽（ピアノ以外）

※音楽療法士養成に関する科目

実技科目主任（器楽）	特任教授	飯島和久	科目コード：IND204
------------	------	------	--------------

専門／学年：全専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
-------	----------

概要	ピアノ専門の学生がフルート、フルートの学生がヴァイオリン、ヴァイオリンの学生がハープ等、他の分野の楽器を個人レッスンで学ぶ事ができる。
----	---

到達目標	今日の学校教育の現場に於いては多様な音楽教育が行われている。専門以外の楽器奏法を習得し、さらに豊かな表現を目標とし、広く器楽教育の視野を持てるようにすることが望ましい。専門外の楽器を研究することは教職取得のみならず、大きな意味で、自分の音楽世界が広がっていくことであろう。15 回目の授業終了後に発表会を行う。
------	---

授業計画	2 年次で履修。年間 15 回、隔週 20 分の個人指導。以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。
------	--

第 1 回	楽器の仕組みについて	事前	選択楽器の歴史を調べ、楽器の演奏を聴く。購入する場合は事前に担当教員に必ず相談すること	105 分
第 2 回	楽器の扱い方について	事後	仕組みについて確認し、教則本等今後必要な準備をする	105 分
第 3 回	音を出してみよう（正しい持ち方）	事前	教則本を読み楽器の扱い方について調べる	105 分
第 4 回	音を出してみよう（ロングトーン）	事後	楽器の取り扱い方や掃除の仕方の確認をする	105 分
第 5 回	音を出してみよう（正しい姿勢）	事前	CD 等で演奏を聴きイメージを持つ	105 分
第 6 回	3 つの音の指を覚える	事後	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 7 回	3 つの音で楽曲のレッスン	事前	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
第 8 回	3 つの音で楽曲の仕上げ	事後	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 9 回	5 つの音の指を覚える	事前	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
第 10 回	5 つの音で楽曲のレッスン	事後	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 11 回	5 つの音で楽曲の仕上げ	事前	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
第 12 回	1 オクターブの楽曲のレッスン	事後	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 13 回	2 オクターブの楽曲のレッスン	事前	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
第 14 回	発表会用の楽曲のレッスン	事後	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 15 回	発表会用の楽曲の仕上げ	事前	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
		事後	問題箇所を確認し発表会に向けて練習する	105 分

フィードバック	発表会終了後、教員よりコメントを受ける。
---------	----------------------

成績評価	発表会 30％ 課題 30％ 授業態度 40％
------	-------------------------

テキスト	各教員から教則本の指示あり。
------	----------------

オフィスアワー	レッスン後すぐに対応
---------	------------

備考	楽器購入の際は必ず担当教員に相談のこと
----	---------------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐

ピアノ伴奏法演習 1

※音楽療法士養成に関する科目

准教授 倉地恵子

科目コード：PEN203

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習 単位数：1 単位

概要 学内演奏会に向けて、伴奏法の研究を行う。

到達目標 伴奏の重要性をあらためて感じとり、ピアノ伴奏の魅力を追及する。実践を通して、詩・言葉によってあらわされた情景や、詩・言葉から引きだされた情感を的確にピアノ伴奏で表現できることを目標とする。

授業計画 学内演奏会・定期演奏会オーディションに向けて、伴奏法の研究を行う。

第 1 回	伴奏とは	事前	日本歌曲の作曲家の流れを調べ、特色を探る	50 分
		事後	ドイツ歌曲の作曲家の流れを調べ、特色を探る	50 分
第 2 回	日本歌曲の伴奏<瀧廉太郎の作品> 詩の情景をピアノでどのように表現するか	事前	作曲家と作詩家の生涯と時代背景を調べ、読譜をする	50 分
		事後	詩の内容の確認をする	50 分
第 3 回	日本歌曲の伴奏<山田耕筰の作品> 詩の情感をピアノでどのように表現するか	事前	作曲家と作詩家の生涯と時代背景を調べ、読譜をする	50 分
		事後	詩の内容の確認をする	50 分
第 4 回	モーツァルトの歌曲の伴奏<すみれ> 細かい表現力を養う	事前	独語 1 つ 1 つの単語を調べ内容の確認をし、読譜をする	50 分
		事後	作曲家に与えた影響について考える	50 分
第 5 回	教育実習で取り上げる曲の伴奏 プレスを考える	事前	それぞれのパートの練習をする	50 分
		事後	プレスの場所の確認をする	50 分
第 6 回	教育実習で取り上げる曲の伴奏 対象者にあわせたテンポ感について	事前	弾き歌いが出来る様に練習をする	50 分
		事後	合唱部分のハーモニーを演奏できる様に練習をする	50 分
第 7 回	シューベルトの歌曲の伴奏<野ばら> 有節歌曲の伴奏について	事前	独語の単語を調べ、内容の確認をし、読譜をする	50 分
		事後	ゲーテについて調べる	50 分
第 8 回	シューベルトの歌曲の伴奏<ます> 情景の細かい表現について	事前	独語の単語を調べ、内容の確認をし、読譜をする	50 分
		事後	作曲家について調べ、詩の奥深い内容を探る	50 分
第 9 回	シューベルトの歌曲の伴奏<糸を紡ぐグレートヒエン>	事前	独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする	50 分
		事後	ゲーテの<ファウスト>について調べる	50 分
第 10 回	シューベルトの歌曲の伴奏<菩提樹>	事前	独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする	50 分
		事後	シューベルトの三大歌曲集と冬の旅について調べる	50 分
第 11 回	シューマンの歌曲の伴奏<献呈>	事前	独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする	50 分
		事後	作曲家について調べ、詩の奥深い内容を探る	50 分
第 12 回	学内演奏会の曲の伴奏 バランスについて	事前	読譜をする	50 分
		事後	ソロと伴奏の楽譜からバランスを考える	50 分
第 13 回	学内演奏会の曲の伴奏 表現について	事前	ソロの音楽表現を感じとれる様に練習をする	50 分
		事後	ソロの音楽表現に合わせられる様に練習をする	50 分
第 14 回	学内演奏会の曲の伴奏 音色について	事前	ソロの音色を感じとれる様に練習をする	50 分
		事後	ソロの音色に合わせられる様に練習をする	50 分
第 15 回	学内演奏会の曲の伴奏 仕上げ	事前	ソロの人と曲の内容を確認する	50 分
		事後	ピアノのふたの開閉状態を考える	50 分

フィードバック 学内演奏会での伴奏についてコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。

テキスト 各自で、上記の楽譜を用意する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

アクティブ・ラーニング 授業内で伴奏を担当する学生が、楽曲についてプレゼンテーションを行う。
その後、楽曲、演奏に関してディスカッションをし、一つの曲を作り上げる。

備考 学内演奏会で伴奏する予定の学生は、履修すること。受講する学生の様子を見て、曲を変更することがある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐

ピアノ伴奏法演習 2

※音楽療法士養成に関する科目

准教授 倉地恵子

科目コード：PEN204

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習 単位数：1 単位

概要 定期演奏会・卒業演奏試験に向けて、より高度な伴奏法を学ぶ。

到達目標 ソロの演奏を支えつつ、伴奏で更なる豊かな音楽を拓けていく能力を身につける。卒業後の演奏活動に役立つよう、更に実践的な伴奏法を学ぶ。

授業計画				
第 1 回	オーディションの曲の伴奏ー器楽曲ー バランス・表現・音色ー	事前	伴奏部の読譜の確認をする	50 分
		事後	ソロ楽器の特性を考える	50 分
第 2 回	オーディションの伴奏ー声楽曲ー バランス・表現・音色ー	事前	伴奏部の読譜の確認をする	50 分
		事後	歌詞の内容の確認をする	50 分
第 3 回	オーディションの曲の伴奏ー仕上げー	事前	ソロの楽譜を見ながら伴奏ができる様に練習をする	50 分
		事後	ソロの人と表現方法の再確認をする	50 分
第 4 回	イタリア古典歌曲の伴奏ープレスを感 じるー	事前	イタリア古典歌曲の様式を調べる	50 分
		事後	プレスの場所の確認をする	50 分
第 5 回	イタリア古典歌曲の伴奏ー表現についてー	事前	イタリア古典歌曲の時代背景を調べる	50 分
		事後	作曲家について調べる	50 分
第 6 回	イタリア古典歌曲の伴奏ーまとめー	事前	当時の演奏形態を考える	50 分
		事後	宗教曲のアリアについて調べる	50 分
第 7 回	合唱曲の伴奏<高田三郎の作品> 合唱曲でのピアノの役割を考える	事前	作曲家の時代背景を調べる	50 分
		事後	ピアノが表現しなくてはならない音楽を考える	50 分
第 8 回	合唱曲の伴奏<新実徳英の作品> 伴奏の響きを聴く	事前	邦人作曲家の合唱曲の流れを調べる	50 分
		事後	三善晃の作品の響きと新実徳英の作品の響きを比べてみる	50 分
第 9 回	合唱曲の伴奏 まとめ	事前	木下牧子の作品について調べる	50 分
		事後	混声合唱曲、女声合唱曲、男声合唱曲の伴奏の役割について考える	50 分
第 10 回	卒業演奏試験曲の伴奏 器楽曲 バランスについて	事前	楽語を含め、読譜の確認をする	50 分
		事後	作曲家の時代背景を調べる	50 分
第 11 回	卒業演奏試験曲の伴奏 器楽曲 表現について	事前	ピアノが表現しなくてはならない部分の練習をする	50 分
		事後	ソロと表現方法が同じであるか確認をする	50 分
第 12 回	卒業演奏試験曲の伴奏 器楽曲 音色について	事前	ソロの音色を感じとれる様に練習をする	50 分
		事後	ソロの音色に合わせられる様に練習をする	50 分
第 13 回	卒業演奏試験曲の伴奏 声楽曲 バランスについて	事前	楽語を含め、読譜の確認をする	50 分
		事後	ソロと伴奏の楽譜から、バランスを考える	50 分
第 14 回	卒業演奏試験曲の伴奏 声楽曲 表現について	事前	歌詞の内容を調べる	50 分
		事後	ピアノが表現する情景や情感を考える	50 分
第 15 回	卒業演奏試験曲の伴奏 声楽曲 音色について	事前	作曲家が要求している音色を考える	50 分
		事後	情景や情感に合った音色で演奏しているか確認をする	50 分

フィードバック 卒業演奏試験の伴奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。

テキスト 各自で、定期演奏会オーディション・卒業演奏試験で伴奏する楽譜を用意する。
必要な楽譜は、授業中に適宜配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

アクティブ・ラーニング 授業内で伴奏を担当する学生が、楽曲についてプレゼンテーションを行う。
その後、楽曲、演奏に関してディスカッションをし、一つの曲を作り上げる

備考 卒業演奏試験で伴奏する予定の学生は、履修すること。受講する学生の様子を見て、曲を変更することがある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐

ウィンド・アンサンブルⅠ-1・Ⅱ-1

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS105／ENS205

専門／学年：全専門／1～2 年次

形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標	2 回の公開演奏会、成果発表会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
------	---

授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。器楽専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。
------	--

第 1 回	授業ガイダンス 美中の美 / J.P.スーザ	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 2 回	合奏基礎 1 スケール、ユニゾン① 美中の美 / J.P.スーザ	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 3 回	合奏基礎 2 スケール、ユニゾン② 第 1 組曲 / ホルスト	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 4 回	合奏基礎 3 チューニングについて考える 第 1 組曲 / ホルスト	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 5 回	合奏基礎 4 ハーモニー① 第 1 組曲 / ホルスト	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 6 回	合奏基礎 5 ハーモニー② 第 1 組曲 / ホルスト	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 7 回	合奏基礎 6 リズム① 祝典行進曲 / 團伊玖磨	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 8 回	合奏基礎 7 リズム② 祝典行進曲 / 團伊玖磨	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 9 回	合奏基礎 9 様式について② 祝典行進曲 / 團伊玖磨	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 10 回	合奏基礎 10 セクションのアンサンブル① 陽はまた昇る / P.スパーク	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 11 回	合奏基礎 11 セクションのアンサンブル② 陽はまた昇る / P.スパーク	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 12 回	合奏基礎 12 セクションのアンサンブル③ 陽はまた昇る / P.スパーク	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 13 回	前期成果発表会リハーサル①	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 14 回	前期成果発表会リハーサル②	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 15 回	前期成果発表会	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分

フィードバック	音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組みにより評価する。
------	----------------------

テキスト	授業内に指示する。
------	-----------

オフィスアワー	授業後直ぐに対応する。予約も可能。
---------	-------------------

備考	曲目は都度指定する。
----	------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

ウィンド・アンサンブルⅠ-2・Ⅱ-2

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS106／ENS206

専門／学年：全専門／1～2 年次

形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標	年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
------	---

授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。器楽専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる
------	---

第 1 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 1・秋のコンサート演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 2 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 2・秋のコンサート演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 3 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 3・ウィンドアンサンブル定期演奏会演奏曲・ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 4 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 4・秋のコンサート演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 5 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 5・秋のコンサート演奏曲・全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 6 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 6・秋のコンサート演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 7 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 7・秋のコンサート演奏曲・精度を上げる	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 8 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 8・秋のコンサート演奏曲・仕上げ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 9 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 9・定期演奏会演奏曲・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 10 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 10・定期演奏会演奏曲・背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 11 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 11・定期演奏会演奏曲・全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 12 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 12・定期演奏会演奏曲・技術的解決方法を探る	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 13 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 13・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 14 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 14・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 15 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 15・定期演奏会演奏曲・仕上げ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分

フィードバック	音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組みにより評価する。
------	----------------------

テキスト	授業内に指示する。
------	-----------

オフィスアワー	授業後直ぐに対応する。予約も可能。
---------	-------------------

備考	曲目は都度指定する
----	-----------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

指揮法

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

※実務経験を持つ教員による授業

- ・学校や社会団体活動における吹奏楽指導・指揮を歴任、全国で指導者向けの講習も実施している。
- ・今後の学校や社会の生涯学習活動となるよう適切に寄与できる音楽指導方法を考察・実践する。

非常勤講師 福田洋介 科目コード：SLF109

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習 単位数：2 単位

概要

- ・音楽指揮における基本技法の習得
- ・身体の使い方、演奏指示の出し方の実践
- ・総譜の読み解き方、指揮・指導の実践

到達目標

- ・指揮の基本動作を体得する。
- ・授業、サークル活動、部活動などで指導する際に必要な知識を得る。
- ・指揮者・指導者として適切なコミュニケーションスキルを持つ。

授業計画			
第 1 回	指揮法概論 指揮者・指導者の役割について考察する	事前	指揮棒を準備し、持って振ってみる 120 分
		事後	これまでに指揮者・指導者から教わった言葉をキーワードを用いて箇条書きする（提出） 150 分
第 2 回	指揮法研究 1 基本図形・1 拍子と 2 拍子	事前	ボールが弾む動きを観察し、自分の手でその動きを真似る 150 分
		事後	1 拍子と 2 拍子の図形を自分で指揮し、鏡などで確認する 150 分
第 3 回	指揮法研究 2 基本図形・3 拍子と 4 拍子	事前	1 拍子と 2 拍子の復習 120 分
		事後	3 拍子と 4 拍子の図形を自分で指揮し、鏡などで確認する 150 分
第 4 回	指揮法研究 3 図形の応用 - 停止、開始	事前	アウフタクトやフェルマータがある楽曲を探す（楽譜・音源） 120 分
		事後	アウフタクトやフェルマータの前後をどう指揮するか考察・実践する 150 分
第 5 回	指揮法研究 4 図形の応用 - 速度の変化	事前	リタルダンド・アッチェレランドがある楽曲を探す（楽譜・音源） 120 分
		事後	テンポの変化をどう指揮するか考察・実践する 150 分
第 6 回	指揮法研究 5 図形の応用 - テンポと図形	事前	異なるジャンル・形式の音楽を 3 つ選び、その音楽に合わせて拍子を指揮してみる 120 分
		事後	スタイルに応じた指揮の仕方を考察・実践する 150 分
第 7 回	指揮法研究 6 指揮実践 - 課題曲を設定し 1 名ずつ指揮実践する	事前	課題曲の予習（関連資料配布） 120 分
		事後	実践の録画を参照し改善点を考察する（提出） 150 分
第 8 回	指揮法研究 7 合唱の指揮・指揮・指導のポイント	事前	合唱作品の振り方をプランする（関連資料配布） 120 分
		事後	プランした振り方から改善し、指導ポイントを探る（関連資料配布・提出） 150 分
第 9 回	指揮法研究 8 器楽の指揮・指揮・指導のポイント	事前	教育楽器とオーケストラ楽器を調べておく（関連資料配布） 120 分
		事後	振り方のプランと指導ポイントを探る（関連資料配布・提出） 150 分
第 10 回	指揮法研究 9 スコアリーディング初歩 - 吹奏楽譜をモデルに	事前	移調楽器について調べておく（関連資料配布） 120 分
		事後	簡単な楽曲分析を実践する（関連資料配布） 150 分
第 11 回	指揮法研究 10 指揮・指導の指示・適切な言葉遣い	事前	必要な指示をどのように言うか考察する（関連資料配布） 120 分
		事後	指示の仕方を整理する（関連資料配布・提出） 150 分
第 12 回	指揮法研究 11 比喻表現・表現を具体化するために	事前	説明する楽語を 3 つ選ぶ 120 分
		事後	自分の言葉で説明する（提出） 150 分
第 13 回	指揮法研究 12 図形の応用 - 変拍子、アゴーギク	事前	変拍子を使った楽曲、アゴーギクの必要がある楽曲を視唱しておく（関連資料配布） 120 分
		事後	鏡などで確認する 150 分
第 14 回	指揮法研究 13 図形の応用 - 右手と左手の役割	事前	課題指示に対する左手の指示方法を準備する（関連資料配布） 120 分
		事後	鏡などで確認する 150 分
第 15 回	指揮法研究 14 指揮実践、まとめ	事前	課題曲の予習（関連資料配布） 120 分
		事後	実践の録画を参照し改善点を考察する（提出） 120 分

フィードバック 実践と表現の実習であるため、複数の正解が出現する可能性がある。その特性を活かし各自の創造性と工夫を尊重した指導を行う。個別の質問にも丁寧に答える。

成績評価 事前学習の評価及び授業後の課題提出 50% 授業への積極的な取り組み 50%

テキスト テキストは使用しない。その都度プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング クラスの「合唱」を実際に指揮し、歌い手やピアニストに意見を聞きながら問題点を探し、講師が改善のヒントを与え、学生にその問題点を解決させる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐

教育合奏

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 福田洋介

科目コード： IEN207

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	・合奏活動(アンサンブル)の基礎について学習する。 ・リズムや音色などの音素材の組み合わせ、楽器を使う合奏、楽器を使わない合奏などを実践する。 ・複数人が集まって音楽演奏を共にする楽しさと難しさについての考察も行う。
到達目標	・合奏活動を創り上げるプロセスを体感する。 ・合奏を取り組む上で心掛けるべき事柄を理解する。 ・多様な音楽的素材に目を向けて創造力のある合奏活動を発想・展開できるようにする。

第 1 回	教育合奏概論：合奏活動の意義と楽しみについて	事前	これまでに合奏で担当した楽器を記述（提出）	120 分
		事後	合奏の疑問について記述（提出）	150 分
第 2 回	合奏法 1：ボディパーカッション演習 1－演奏法の導入	事前	課題曲の譜読み（関連資料配布）	150 分
		事後	グループでパート割りを行う	120 分
第 3 回	合奏法 2：ボディパーカッション演習 2－グループ練習	事前	グループで練習	150 分
		事後	実践の感想を記述する（提出）	120 分
第 4 回	合奏法 3：リコーダー演習導入－リコーダーの使い方（運指とタンギング）	事前	リコーダーを持参する	150 分
		事後	グループでパート割りを行う	120 分
第 5 回	合奏法 4：リコーダー合奏演習 1－グループ練習（技術）	事前	課題曲の予習（関連資料配布）	150 分
		事後	グループで改善点を話し合う	120 分
第 6 回	合奏法 5：リコーダー合奏演習 2－グループ練習（表現）	事前	課題曲の復習	150 分
		事後	グループで改善点を話し合う	120 分
第 7 回	合奏法 6：合奏演習－発表（ボディパーカッション・リコーダー合奏）	事前	グループごとに復習	150 分
		事後	実践の録画を参照し改善点を考察する（提出）	120 分
第 8 回	楽器概論 1：教育用打楽器、鍵盤楽器などの基礎知識	事前	リコーダー以外の教育楽器を持参する	150 分
		事後	教育楽器をひとつ選び、特徴的な音楽を探す（提出）	120 分
第 9 回	楽器概論 2：オーケストラ楽器の基礎知識	事前	資料の予習（関連資料配布）	150 分
		事後	オーケストラ楽器をひとつ選び、特徴的な音楽を探す（提出）	120 分
第 10 回	楽器概論 3：電気楽器・電子楽器の基礎知識	事前	資料の予習（関連資料配布）	150 分
		事後	電気楽器・電子楽器をひとつ選び、特徴的な音楽を探す（提出）	120 分
第 11 回	楽器概論 4：楽器創作演習－身近な素材を活用した打楽器の創作	事前	楽器製作(数種から任意選択)の素材を準備する	150 分
		事後	実践の感想を記述する（提出）	120 分
第 12 回	合奏法 7：リズム創作演習－製作楽器でアンサンブル実践	事前	リズム創作の素材となるリズムパターン(2・3 パターン)を準備する	150 分
		事後	実践の感想を記述する（提出）	120 分
第 13 回	合奏法 8：楽曲創作演習 1－多種の楽器を駆使した楽曲の計画・構成	事前	自分の担当希望楽器を 3 つ選択する	150 分
		事後	グループで改善点を話し合う	120 分
第 14 回	合奏法 9：楽曲創作演習 2－楽曲構成と演奏精度の向上	事前	グループで練習	150 分
		事後	グループで改善点を話し合う	120 分
第 15 回	合奏法 10：楽曲創作演習 3－合奏発表、まとめ	事前	グループで練習	240 分
		事後	実践の感想、「合奏の楽しみ」についての論述（提出）	30 分

フィードバック	グループ演習を中心とするため、複数の正解が出現する可能性がある。その特性を活かし各自の創造性と工夫を尊重した指導を行う。個別の質問にも丁寧に応える。
成績評価	事前学習の評価及び授業後の課題提出 50% 授業への積極的な取り組み 50%

テキスト	テキストは使用しない。その都度資料を配布する。
------	-------------------------

オフィスアワー	授業終了後、教室にて。
---------	-------------

アクティブ・ラーニング	リコーダー合奏を実際に指揮及び指導し、奏者の意見を聞きながら問題点を探し、講師が改善のためのヒントを与え、学生にその問題を解決させる。
-------------	---

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	□	□	□	☒	□	☒	☒	□	☒	□

日本の伝統的な歌唱法

非常勤講師 松浦奈々恵

科目コード：IEN209

専門／学年：全専門／2 年次

形態：実技 単位数：1 単位

概要 日本 の 伝統音楽である長唄を通し、歴史や発声法の修得および三味線の仕組みや演奏法を知る。

到達目標 ・長唄「勸進帳」より謡いガカリ、大薩摩を唄えるようにする。
・三味線の調弦および「寄せの合方」を弾けるようにする。日本音楽の「間」を知る。

授業計画

第 1 回	長唄の歴史。「勸進帳」の説明。「勸進帳」より、謡いガカリと大薩摩の部分「旅の衣は薩摩の〜月の都を立ち出でて」までを唄う。	事前 配布プリントを読む。 事後 授業で学んだ唄を復習して唄う。	120 分 130 分
第 2 回	長唄の伴奏楽器である三味線の歴史、仕組み、演奏法、譜面の説明。三味線の調弦、構えを出来るようにする。「さくら」を弾いてみる。(出来たら替手を入れてみる。)	事前 前回学んだ唄を復習して唄う。 事後 三味線の調弦法、構えや撥の使い方の復習をする。	120 分 130 分
第 3 回	唄の復習。引き続き「これやこの〜海津の浦に着きにけり」までを唄えるようにする。	事前 前回の唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 今回学んだ部分を復習して唄う。	120 分 130 分
第 4 回	唄の復習。引き続き「それ山伏と〜押しもんだり」までを唄えるようにする。 三味線「さくら」の復習、「佃の合方」を口三味線で言えるようにし、その後弾いてみる。	事前 「さくら」の三味線の勘所（ポジション）の復習確認をする。 事後 「佃の合方」の口三味線を暗記する。	120 分 130 分
第 5 回	唄の復習。引き続き「もとより〜読み上げけれ」までを唄えるようにする。	事前 前回までの唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 今回学んだ部分を復習して唄う。	120 分 130 分
第 6 回	唄の復習。「佃の合方」の復習。出来たら替手を入れてみる。次に勸進帳より「寄せの合方」を弾いてみる。	事前 「さくら」の復習をする。「佃の合方」の口三味線、勘所の復習確認をする。 事後 「寄せの合方」の旋律を覚える。	120 分 130 分
第 7 回	唄を始めから通して唄えるようにする。「さくら」「佃の合方」「寄せの合方」の復習。 三味線は 2 チームにて練習。	事前 前回までの唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 唄の復習をする。三味線の旋律、勘所を復習する。	120 分 130 分
第 8 回	唄の復習。三味線は 2 チームにて練習。横並びで指揮者のいない演奏形態の体験。最後に唄を全員で唄い、三味線は各チームで発表。	事前 唄の復習をする。三味線の旋律、勘所を復習する。 事後 唄と三味線の出来なかった箇所の復習をする。三味線の仕組みの復習をする。	120 分 130 分

フィードバック 学生 の 長唄および三味線の演奏に対する助言 三味線の構えや撥の当て方など、演奏技術に対する助言・評価

成績評価 長唄・三味線の実技の修得状況 60%並びに取り組みの様子 30% 定期試験の結果 10%

テキスト ※適宜授業内配布。「勸進帳（研精譜）」 三味線合方（文化譜）

オフィスアワー 講義時間の前後

アクティブ・ラーニング 三味線体験の際に、本手と替手の各パートを小さなグループに分かれて合奏をする。それによって指揮がいらない中で息を合わせたり、相手に合わせる感覚を感じてもらい 一体感を作る。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	

和楽器研究法

非常勤講師	深海あいみ	科目コード：SCH202
専門／学年：	全専門／2 年次	
形態：講義	単位数：1 単位	
概要	テキスト『箏エチュード』を用いて、毎回準備運動から始め、呼吸・身体を使い方、構え、調弦などの基礎事項の習熟を目指しながら、特に音楽授業で教材として用いられている《さくらさくら》と《六段の調べ》の演奏を中心に知識と技能を身に付けていく。	

到達目標	学習指導要領に示された和楽器を用いた授業実践を行うために必要な和楽器演奏の技能を、息や身体を使い方、唱歌を用いた具体的な指導法など、指導上のポイントを身に付けながら箏を用いた学習指導の技能を中心に身に付ける。
------	--

授業計画	4 回×2 日間の集中講義で行う。
------	-------------------

第 1 回	上半身の力を抜き、箏を楽に弾くための準備運動。爪の選び方。構え方。	事前 事後	『箏エチュード』の全体に目を通してくる。 『箏エチュード』pp. 1-19 を熟読し、身体を使い方を復習する。	130 分 140 分
第 2 回	準備運動。構え方の演習。調弦を正確に素早くとる。	事前 事後	『箏エチュード』pp. 20-27 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』pp. 20-27 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 3 回	準備運動。箏に馴れる。箏に向かう姿勢を身に付ける。《さくらさくら》の演奏。	事前 事後	『箏エチュード』pp. 28-33 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』pp. 28-33 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 4 回	準備運動。箏に馴れる。呼吸と身体を使い方。親指で下降、人差し指・中指で上行。	事前 事後	『箏エチュード』pp. 34-35 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』pp. 34-35 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 5 回	準備運動。箏に馴れる。口唱歌と共に《さくらさくら》のバリエーションを学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』pp. 36-43 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』pp. 36-43 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 6 回	準備運動。《六段の調べ》初段の冒頭部分。息と身体を使って弾く。引き色、押し手。	事前 事後	『箏エチュード』pp. 70-73 を読み、予習をしてくる。 《六段の調べ》初段の冒頭部分を復習する。	130 分 140 分
第 7 回	準備運動。《六段の調べ》初段独奏を通して、授業で生徒に気付かせたいポイントを学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』p. 115 の 50 番 を、イメージトレーニングしてくる。 《六段の調べ》初段のレッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 8 回	発表会。《六段の調べ》の独奏。	事前 事後	《六段の調べ》を練習してくる。 『箏エチュード』の練習曲に挑戦する。	130 分 140 分

フィードバック	毎時間のレッスンの中で、適宜フィードバックを行う。
---------	---------------------------

成績評価	毎回の授業に向かう姿勢（40％）発表会での演奏の内容（60％）
------	---------------------------------

テキスト	深海さとみ著『箏エチュード』 邦楽ジャーナル 必要な楽譜はプリントを配付する。
------	--

オフィスアワー	講義の前後の時間で行う。
---------	--------------

備考	できれば、箏爪を購入することが望ましい。購入希望者には、始めのレッスン時にサイズに合わせた爪をつくり販売できるようにする。
----	---

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☑	☑	☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☑	☐	☐	☑	☑	☐	☑

音楽療法総合演習-1
※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世		科目コード：THE201
専門／学年：全専門／2 年次		
形態：実習	単位数：1 単位	
概要	音楽療法実践において重要な事は、対象者とセラピストとそして音楽がどのように係わって良い時間を作っていくかである。また、音楽療法において対象者の行動が良い方向に変化していつているかも正しい視点で判断しなければならない。このような正しい視点を総合的に高めることが本科目の目的である。	
到達目標	音楽療法総合演習では、実践の前段階として実習時やテキストに出て来る事例のビデオ等を使用しながら、セラピストの音楽の提供の仕方、対象者への対応の仕方、さらに対象者の動き、表情、音楽に対する反応、楽器の使い方などを客観的に観察する力を養うことを目標とする。	
授業計画	高齢者施設での音楽療法実習。	

第 1 回	ビデオ観察方法と記録の取り方	事前 参考資料を配布。読む。	140 分
第 2 回	第 1 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 授業中に観たビデオを記録したものをきちんとした形に書き直す。	140 分
		事前 前回のビデオの取り方を復習する。	140 分
第 3 回	第 2 回高齢者施設での実習準備	事後 第 1 回実習のビデオを記録したものを基に活動や関わりを見直す。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習 歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 4 回	第 2 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 先読みの仕方、ピアノの弾き方などについて復習。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備。	140 分
第 5 回	第 3 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 第 2 回実習のビデオを記録したものを基に活動やピアノ伴奏について見直す。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習 、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 6 回	第 3 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 歌唱練習、ピアノの弾き方などについて復習。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備。	140 分
第 7 回	第 4 回高齢者施設での実習準備	事後 第 3 回実習のビデオを記録したものを基に活動や関わりについて見直す。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 8 回	第 4 回高齢者施設での実習のビデオを観る	事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、リーダーの役割について復習。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 9 回	第 5 回高齢者施設での実習準備	事後 第 4 回実習のビデオを記録したものを基に関わり方やピアノ伴奏について見直す。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 10 回	第 5 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、活動について復習。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 11 回	第 6 回高齢者施設での実習準備	事後 第 5 回実習のビデオを記録したものを基にリーダーの役割、関わり方について見直す。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 12 回	第 6 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、活動について復習。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 13 回	第 7 回高齢者施設での実習準備	事後 第 6 回実習のビデオを記録したものを基にピアノ伴奏、関わり方について見直す。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 14 回	第 7 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、リーダーの役割について復習。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 15 回	第 8 回高齢者施設での実習準備	事後 第 7 回実習のビデオを記録したものを基に歌唱、ピアノ伴奏について見直す。	140 分
		事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、関わり方について復習。	140 分

フィードバック 提出した実習記録及び事例に関するノートについて、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 実習記録の提出 30%、積極的な発言 30%、歌唱練習・ピアノ伴奏練習・他の実習準備への積極性 40%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室または E メールにて対応 akynkym@aiores.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 実習で撮ったビデオを観たあと、反省点や良かった点を話し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽療法総合演習-2
※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世 科目コード：THE202

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習 単位数：1 単位

概要 音楽療法実践において重要な事は、対象者とセラピストとそして音楽がどのように係わって良い時間を作っていくかである。また、音楽療法において対象者の行動が良い方向に変化していつているかも正しい視点で判断しなければならない。このような正しい視点を総合的に高めることが本科目の目的である。

到達目標 音楽療法総合演習では、実践の前段階として実習時やテキストに出て来る事例のビデオ等を使用しながら、セラピストの音楽の提供の仕方、対象者への対応の仕方、さらに対象者の動き、表情、音楽に対する反応、楽器の使い方などを客観的に観察する力を養うことを目標とする。

授業計画 児童の音楽療法実践のビデオを見ながら客観的にセラピストと対象者について観察する。

第 1 回	第 8 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 2 回	実習のまとめ	事後 第 8 回実習のビデオを記録したものを基に関わり方について見直す。	140 分
第 3 回	「応用行動分析学的アプローチ」の参考資料を配布	事後 8 回分のビデオの記録をまとめる。 事後 ビデオ記録の不備の部分を訂正し、提出。	140 分 140 分
第 4 回	「応用行動分析学アプローチ」とは	事前 参考資料から「応用行動分析学的アプローチの特徴」を書きだす。 事後 「応用行動分析学的アプローチ」のポイントを書きだす。	140 分 140 分
第 5 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例①「こだわりの強い子の場合」	事前 事例①「こだわりの強い子の場合」を読む。 事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分 140 分
第 6 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例②「聴覚過敏の子の場合」	事前 事例②「聴覚過敏の子の場合」を読む。 事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分 140 分
第 7 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例③「注意欠陥多動症候群の子の場合」	事前 事例③「注意欠陥多動症候群の子の場合」を読む。 事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分 140 分
第 8 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例④「初めての場面で苦手な子の場合」	事前 事例④「初めての場面で苦手な子の場合」を読む。 事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分 140 分
第 9 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑤「集中が短く、多動の子の場合」	事前 事例⑤「集中が短く、多動の子の場合」を読む。 事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分 140 分
第 10 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑥「周囲にある刺激に注意が向かない子の場合」	事前 事例⑥「周囲にある刺激に注意が向かない子の場合」を読む。 事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分 140 分
第 11 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑦「拒否や逃避のための不適切なコミュニケーションが多い子の場合」	事前 事例⑦「拒否や逃避のための不適切なコミュニケーションが多い子の場合」を読む。 事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分 140 分
第 12 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑧「コミュニケーションを取るのが難しい子の場合」	事前 事例⑧「コミュニケーションを取るのが難しい子の場合」を読む。 事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分 140 分
第 13 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑨「興味の範囲が狭く、人との関わりが取りにくい子の場合」	事前 事例⑨「興味の範囲が狭く、人との関わりが取りにくい子の場合」を読む。 事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分 140 分
第 14 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑩⑪「模倣が苦手な子の場合」「自発性が低く、自傷行動のある子の場合」	事前 事例⑩「模倣が苦手な子の場合」事例⑪「自発性が低く、自傷行動のある子の場合」を読む。 事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分 140 分
第 15 回	授業のまとめ 理解度確認試験	事前 高齢者・児童の事例を復習。 事後 試験の振り返り。	140 分 140 分

フィードバック 提出した実習記録及び事例に関するノートについて、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 30%、理解度確認試験 40%、積極的な発言 20%、記録の提出 10%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室または E メールにて対応 akynkym@aiores.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 参考資料の事例を通して学んだこと及び音楽療法が日常生活にどのように活かせるか話し合う。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	□	☒	☒	☒	□	□	☒	□	□	☒	☒	☒	□	☒	□

音楽療法実習（事前指導）

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世		科目コード：THE105
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：実習	単位数：実習・事前指導・事後指導で 3 単位	
概要	音楽療法実習及び介護実習を行うに当たって心がけなければならない事について学ぶ。また、音楽療法実習及び介護実習の目的や内容について理解する。	
到達目標	実習の準備として、実習の心得・実習施設についての領域及び内容、障害や病気についての知識を学ぶ。音楽面では、模擬セッションを通して、使用する曲の楽器奏法また対象者に合わせる楽器奏法を学ぶ。	
授業計画	各音楽療法実習場面・介護実習場면을把握し、実習に備える。	

第 1 回	音楽療法実習・介護実習を行なうに当たっての心得	事前 参考資料配布。読む。	130 分
		事後 実習に関する心得について復習する。	140 分
第 2 回	音楽療法実習施設・介護実習施設の説明 今年度の音楽療法実習・介護実習の時間	事前 参考資料を配布。読む。	130 分
		事後 実習に行く施設、時間数、時期、回数を把握しノートに記入。	140 分
第 3 回	音楽療法実習マニュアルノート配布 各実習施設の注意事項	事前 マニュアルノートを読む。	130 分
		事後 施設名一覧、注意事項、音楽療法実習日誌、介護実習日誌について把握する。	140 分
第 4 回	介護実習日誌の書き方指導 日誌提出についての指導	事前 介護実習日誌を読む。	130 分
		事後 授業で車椅子体験し、それを介護実習日誌に記入し、提出。	140 分
第 5 回	音楽療法実習日誌の書き方を指導	事前 音楽療法実習日誌を読む。	130 分
		事後 授業中、音楽療法のビデオを観て、それを音楽療法実習日誌に記入し、提出。	140 分
第 6 回	ビデオの撮り方指導	事前 参考資料配布。読む。	130 分
		事後 授業中、実際の音楽療法場면을観て、ビデオの撮り方を把握したことを書きだす。	140 分
第 7 回	「高齢者の音楽療法」	事前 参考資料配布。読む。	130 分
		事後 高齢者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	140 分
第 8 回	「発達障害者の音楽療法」	事前 参考資料配布。読む。	130 分
		事後 発達障害者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	140 分
第 9 回	「精神科の音楽療法」	事前 参考資料配布。読む。	130 分
		事後 精神科患者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	140 分
第 10 回	認知症について調べ、発表する	事前 認知症について調べ、ノートに書き出す。	130 分
		事後 他の人の発表を聴き、自分のノートに書き加える。	140 分
第 11 回	発達障害・知的障害等について調べ、発表する。	事前 発達障害・知的障害について調べ、ノートに書き出す。	130 分
		事後 他の人の発表を聴き、自分のノートに書き加える。	140 分
第 12 回	統合失調症、その他精神科の疾患について調べ。発表する。	事前 統合失調症、その他精神科の疾患について調べ、ノートに書き出す。	130 分
		事後 他の人の発表を聴き、自分のノートに書き加える。	140 分
第 13 回	高齢者施設での実習準備・リーダーの役割を中心に。	事前 高齢者の音楽療法でのリーダーの役割を考える。	130 分
		事後 リーダーの役割をノートに書き出す。	140 分
第 14 回	高齢者施設での実習準備・ピアノ伴奏を中心に。	事前 ピアノ伴奏練習。	130 分
		事後 ピアノ伴奏練習(移調、伴奏形の工夫)。	140 分
第 15 回	授業まとめ 理解度確認テスト	事前 事前指導授業で学んだことを復習する。	130 分
		事後 理解度確認テストの振り返り。	140 分

フィードバック 日誌等の提出及び実習準備のピアノ等の課題について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 理解度確認テスト 50％、授業態度 15％、クラス内での協調性 15％、実習準備の課題遂行 20％

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐		☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽療法実習（事後指導）

※音楽療法士養成に関する科目

講師	中山晶世	科目コード	THE106
----	------	-------	--------

専門／学年：全専門／2 年次

形態：実習	単位数：実習・事前指導・事後指導で 3 単位
-------	------------------------

概要	1 年次後半より行なってきた音楽療法実習及び介護実習は、引き続き、事後指導の時間を使って高齢者介護施設を訪問し、8 回に亘り、音楽療法実習を行う。学生によって計画し、実施する実習として重要な実習であることを自覚する。誠心誠意利用者様のためにより良い音楽の時間となるよう努力する。
----	---

到達目標	終了している音楽療法実習・介護実習・コンサートを振り返るとともに、継続している実習や今後予定している実習がより学びの多い実習となるよう、音楽療法についての理解を深める。さらに疑問点などについて話し合う。
------	---

授業計画	実習に備えて、高齢者の音楽療法セッション技術を高める。また、利用者様との触れ合いを体験する。
------	--

第 1 回	第 1 回実習準備	事前 事後	プログラム作成、歌詞カード作成、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 歌唱練習、ピアノ伴奏	130 分 140 分
第 2 回	第 1 回実習実施 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌詞カード準備、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 3 回	第 2 回実習準備 前回の実習の反省を踏まえて準備する。	事前 事後	プログラム計画。歌唱練習、ピアノ伴奏練習 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、次回の実習準備	130 分 140 分
第 4 回	第 2 回実習実施。 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 5 回	第 3 回実習準備 利用者様の様子を中心に検討。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 利用者様の椅子の位置、学生の座る位置について考える。	130 分 140 分
第 6 回	第 3 回実習実施。 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 7 回	第 4 回実習準備 リーダーの声、ピアノの音量について検討。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 リーダーの話しの内容、声の大きさ、ピアノの音量について考える。	130 分 140 分
第 8 回	第 4 回実習実施。 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 9 回	第 5 回実習準備 利用者様の対応について検討	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 利用者様の様子を観て、どのように関わればいいか考える。	130 分 140 分
第 10 回	第 5 回実習実施。 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 11 回	第 6 回実習準備 リーダーの役割、ピアノの役割について考える。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 音楽療法セッションの中でリーダーはどのようなことが必要か、ピアノは何かが必要か考える。	130 分 140 分
第 12 回	第 6 回実習実施。 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 13 回	第 7 回実習準備 リーダー・ピアノ以外の学生の役割（利用者様の隣に座り、一緒に歌うだけでいいのか）	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 アシスタントとしての学生の役割について考える。	130 分 140 分
第 14 回	第 7 回実習実施 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌唱指導、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 15 回	第 8 回実習実施 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入	130 分 140 分

フィードバック 実習実施後の日誌提出について、コメントをつけて学修成果をフィードバックする。

成績評価 実習での他メンバーとの協調性 40％、歌唱・ピアノ練習への意欲 25％、プログラム計画などの創造性 25％、日誌提出 10％

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽科教科教育法

※教育職員免許状取得に関わる科目
※実務経験を持つ教員による授業
小、中学校における管理職等の経験を生かして、教育事象を実践的に読み解く授業を行う。

教授 内田有一		科目コード：SCH101
専門／学年： 全専門／1 年次		
形態：講義	単位数 2 単位	
概要	学習指導要領における表現と鑑賞の目的を理解し、教材研究の方法、指導案作成の方法、指導案を具現化するための教育技術について学ぶ。ICT を活用した学習を豊富に行い、ICT を活用した指導技術の獲得を図る。	
到達目標	この科目では、授業における実践力を獲得するために表現と鑑賞に関する教材研究の方法、指導案作成の方法、実践的指導方法を習得する。	

授業計画		
第 1 回	音楽科教育の理念と目的 学習指導要領の変遷と学力観 歌唱教材の指導法	事前 新中学校学習指導要領音楽編を読んでくる。 160 分
		事後 新中学校学習指導要領解説音楽編をもう一度読み、理解を深める。 110 分
第 2 回	中学校共通教材による歌唱指導と評価の具体 GIGA スクール構想における ICT 活用	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」における共通歌唱教材を歌っておく。 160 分
		事後 講義で配付した資料を基に共通歌唱教材における深い学びについて自己の考えをまとめる。 110 分
第 3 回	混声合唱の指導と評価の具体	事前 混声合唱「夢の世界を」の教材性について考えておく。 160 分
		事後 混声合唱の指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 4 回	日本の伝統音楽による歌唱指導方法と評価の具体 GIGA スクール構想における ICT 活用	事前 「勧進帳」より指示された長唄の一節を歌えるようにしておく。 160 分
		事後 伝統音楽の歌唱指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 5 回	器楽指導方法（リコーダー）と評価の具体 GIGA スクール構想における ICT 活用	事前 事前に指示されたリコーダー曲を吹けるようにしておく。 160 分
		事後 リコーダーの指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 6 回	器楽指導方法（電子楽器）と評価の具体	事前 事前に配付する電子楽器に関する資料を読んでおく。 160 分
		事後 電子楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 7 回	器楽指導方法（和楽器：箏）と評価の具体 GIGA スクール構想における ICT 活用	事前 事前に配付する和楽器に関する資料を読んでおく。 160 分
		事後 和楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 8 回	創作学習方法（指導要領ア、イ）と評価の具体 GIGA スクール構想における ICT 活用	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」にある創作教材について理解しておく。 160 分
		事後 講義で配付した資料を基に創作指導と評価ついて自己の考えをまとめる。 110 分
第 9 回	鑑賞指導方法（知覚・感受と批評）と評価の具 GIGA スクール構想における ICT 活用体	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」から一曲鑑賞教材を選び、聴いておく。 160 分
		事後 講義で配付した資料を基に鑑賞指導における知覚・感受について自己の考えをまとめる。 110 分
第 10 回	鑑賞指導方法（生活や社会における意味）と評価 GIGA スクール構想における ICT 活用の具体	事前 自己の生活にとって意味のある楽曲を選んでおく。 160 分
		事後 自己が選んだ楽曲の生活や社会における意味を考える。 110 分
第 11 回	教材研究と指導案の作成	事前 学生自身の教材分析から、指導の中心事項を整理しておく。 160 分
		事後 講義内容を踏まえて指導案のアイデアを練り上げる。 110 分
第 12 回	指導案の検討及び優れた授業の条件	事前 指導案のアイデアから、具体的な柱立てをしておく。 160 分
		事後 講義における指導案検討を踏まえ、指導案を練り上げる。 110 分
第 13 回	表現の模擬授業と批評	事前 表現の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。 160 分
		事後 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。 110 分
第 14 回	鑑賞の模擬授業と批評 プレゼンテーション型鑑賞	事前 鑑賞の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。 160 分
		事後 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。 110 分
第 15 回	振り返りとまとめ	事前 優れた授業を支える教育技術について、講義資料を基に考えておく。 160 分
		事後 指導案構成能力及び教育技術の習得について今後の見通しをもつ。 110 分

フィードバック リフレクションペーパーを通して学修者にフィードバックする。

成績評価 学習指導案（60％）、リフレクションペーパーの評価（40％）、授業の取り組みを総合して評価する。

テキスト 令和 3 年度版『中学校学習指導要領解説音楽編』『中学生の音楽 1』『中学生の音楽 2・3 上』『中学生の器楽』（教育芸術社）
参考書・参考資料 必要に応じて配付する。

オフィスアワー 事前にメールで予約し、常時対応する。

アクティブ・ラーニング 模擬授業を学生同士でピアレビューするとともに、教員の指導と合わせてリフレクションを行う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・ 自然の理解	音楽実践 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	コミュニケーション スキル	音楽応用 スキル	論理的思考 力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・自 己管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自発 的発力	グローバル な視野	社会的責 任・倫理観	生涯学習 意識	
☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐

教育原理

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 廣枝優子

科目コード：SCH102

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれらの相互の関係を理解する。授業はディスカッションやリフレクションペーパー等も適宜取り入れ、学修したことに対する自分の考えをまとめたり、意見交流をしたりすることで、教育に関する幅広い知識を身に付けられるようにする。

到達目標 教育の基本的概念は何か、教育理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それがどのように現れてきたのかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのようにして捉えられ、変遷してきたのかを理解する。また、これまでの教育の流れを受けて現代の学校教育に関する制度的・経営的事項について、基礎的な知識を身に付け、それらに関連する課題を理解する。

授業計画		
第 1 回	教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標	事前 シラバスから授業の概要ならびに目標を確認し、教育とは何か考えをまとめる。 100 分 事後 講義を通して理解したことを踏まえ、教育の本質や目標についてまとめる。 180 分
第 2 回	教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係ー子ども・教員・家庭・学校ー	事前 教育を成り立たせる要素について調べ、考えを述べられるようにする。 140 分 事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、教育の相互関係についてまとめる。 140 分
第 3 回	家族と社会による教育の歴史	事前 家族と社会、教育の関係について調べ、考えを述べられるようにする。 140 分 事後 講義を通して理解したことを踏まえ、教育の歴史についてまとめる。 140 分
第 4 回	近代教育制度の成立と展開	事前 近代の教育制度について調べ、内容を理解する。 140 分 事後 講義を通して理解したことを踏まえ、教育制度の成立についてまとめる。 140 分
第 5 回	現代社会における教育課題ー歴史的視点からの考察ー	事前 現代社会における教育の課題について、自分の考えを述べられるようにする。 140 分 事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、歴史的な視点から考察する。 140 分
第 6 回	家庭や子どもに関わる教育の思想	事前 家庭や子どもと、教育の関係について調べ、考えを述べられるようにする。 140 分 事後 講義を通して理解したことを踏まえ、家庭や子どもについての教育思想をまとめる。 140 分
第 7 回	学校や学習に関わる教育の思想	事前 学校や学習について調べ、考えを述べられるようにする。 140 分 事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、学校や学習についてまとめる。 140 分
第 8 回	代表的な教育家の思想	事前 代表的な教育家について調べ、思想を整理する。 140 分 事後 講義を通して理解したことを踏まえ、興味深い教育家の思想についてまとめる。 140 分
第 9 回	公教育の原理及び理念	事前 公教育の理念について調べ、考えを述べられるようにする。 140 分 事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、公教育についてまとめる。 140 分
第 10 回	公教育制度を構成している教育関係法規	事前 公教育に関する法規を調べ、内容を理解する。 140 分 事後 講義を通して理解したことを踏まえ、公教育の制度や関係法規についてまとめる。 140 分
第 11 回	教育制度を支える教育行政の理念と仕組や諸問題	事前 教育行政の理念や仕組について調べ、課題について考える。 140 分 事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、教育行政の諸問題について考察する。 140 分
第 12 回	地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法	事前 地域との連携・協働による学校教育活動について調べ、まとめる。 140 分 事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、学校教育活動についてまとめる。 140 分
第 13 回	開かれた学校づくりが進められてきた経緯ー地域との連携を基としてー	事前 開かれた学校づくりについて調べ、内容を理解する。 140 分 事後 講義を通して理解したことを踏まえ、地域との連携についてまとめる。 140 分
第 14 回	危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性ー学校管理下で発生する問題、事故及び災害の実情ー	事前 学校管理下で発生する問題、事故及び災害について調べ、まとめる。 140 分 事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、学校安全の必要性についてまとめる。 140 分
第 15 回	生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題ー安全管理及び安全教育の両面からの具体的な取組ー	事前 学校における安全上の課題について、考えを述べられるようにする。 140 分 事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、安全管理、安全教育を考察する。 140 分

フィードバック リフレクションペーパーやレポートのコメントを通して、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取組やリフレクションペーパー等提出物（40%）、最終レポート（60%）を目安に総合的に評価する。

テキスト 毎回、資料を提示する。

オフィスアワー 授業終了後や事前に E メールにて質問・相談があれば対応する。

アクティブ・ラーニング 教育の基本概念や理念等についてのディスカッションを通して、教育に関する幅広い知識を習得する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒

教職概論

※教育職員免許状取得に関わる科目
※実務経験を持つ教員による授業
小中学校教諭、教育行政、管理職の経験を生かし、教職に必要な資質・能力を理解する授業を行う。

准教授 廣枝優子		科目コード：SCH104
専門／学年： 全専門／1 年次		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	学校教育や教職の社会的意義、職業的特徴等について、講義、討論等を通して知識を得ると共に、教職という仕事について深く考え、理解する。	
到達目標	現代社会における教職の重要性や我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。また、公教育の目的と教職の職業的特徴を理解する。更に教員に求められる役割や資質能力、服務上・身分上の義務、並びに学校が内外の専門家と連携することや、チーム学校として組織的に対応する重要性を理解する。	

授業計画		
第 1 回	教職の職業的特徴の理解	事前 報道やインターネット情報から読みとれる現代の教師像について、語るができるようにする。 160 分
		事後 現代の教員を取り巻く環境や課題点について、ディスカッションを基に自分の捉え方をまとめる。 110 分
第 2 回	現代社会における教育の重要性 教員の存在意義と公教育の目的	事前 教員の存在意義について、自己の経験を基に考えをまとめる。 160 分
		事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、公教育の目的について考え、まとめる。 110 分
第 3 回	学習指導要領の変遷と新学習指導要領 今日の我が国の学校教育の意義	事前 学習指導要領総則を読み、その変遷について調べる。 160 分
		事後 学習指導要領と学力観の関係について、考察する。 110 分
第 4 回	音楽科教育の意義と歴史	事前 音楽教育の意義と歴史に関する箇所を読み、概要を把握する。 160 分
		事後 音楽教育の歴史の変遷をまとめる。 110 分
第 5 回	いじめ等生徒指導における組織的取組	事前 生徒指導やいじめについて、関心がある事例や報道を読み、自分の考えをまとめる。 160 分
		事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、いじめ防止の視点からまとめる。 110 分
第 6 回	発達障害を有する児童・生徒への組織的対応	事前 特別な支援を要する生徒指導についての資料を読み、課題を把握する。 160 分
		事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、インクルーシブ教育の視点からまとめる。 110 分
第 7 回	GIGA スクール構想における ICT を活用した主体的・対話的・深い学びを具現化するための教師としての資質・能力	事前 中教審の資料から主体的・対話的・深い学びの箇所を読み、概要を把握する。 160 分
		事後 講義を通して理解したことを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連させてまとめる。 110 分
第 8 回	チーム学校 の概念と具体 専門家との連携 教師のマネジメント力	事前 提示された資料から、専門家との連携に関して概要を理解する。 160 分
		事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、チーム学校と関連させてまとめる。 110 分
第 9 回	地域との連携 地域の中の学校として果たす役割	事前 コミュニティスクール等の資料から、地域との連携に関して概要を理解する。 160 分
		事後 講義を通して理解したことを踏まえ、コミュニティスクールの視点からまとめる。 110 分
第 10 回	教員の服務上・身分上の義務 教育法規に照らして事例を検証	事前 服務事故の事例を読み、どこに問題があるのかを考える。 160 分
		事後 教員研修の資料や事例から、教員の服務と身分について考えをまとめる。 110 分
第 11 回	教員の職務の全体像と、教員として必要な基礎的な資質能力の理解 コンプライアンス	事前 提示された資料から、コンプライアンスに関して概要を理解する。 160 分
		事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、コンプライアンスの視点からまとめる。 110 分
第 12 回	保健安全教育 一生活安全・交通安全・災害安全・保健安全一	事前 安全教育についての資料を読み、どのようなプログラムが必要か、自分の考えをまとめる。 160 分
		事後 安全プログラムに関して、講義で指示された課題に取り組む。 110 分
第 13 回	教員研修の意義と制度上の位置付け、並びに専門職としての責任	事前 各県の教育委員会のホームページを開き、どのような教員研修があるのかを調べる。 160 分
		事後 なぜ、教員の研修が重要であるのかを、ディスカッションを基に自分の考えをまとめる。 110 分
第 14 回	学校事故と安全管理、危機管理	事前 危機管理の資料から、事故防止のためにどのような対策が必要か、自分の考えをまとめる。 160 分
		事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、学校事故と危機管理についてまとめる。 110 分
第 15 回	生徒から、保護者から、地域から信頼される教師像	事前 今までの学修から、生徒・保護者・地域から信頼される学校について、自分の考えをまとめる。 160 分
		事後 振り返りを通して、教員としての資質向上の見通しをもつ。 110 分

フィードバック リフレクションペーパーやレポートのコメントを通して、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取組やリフレクションペーパー等提出物（40%）、最終レポート（60%）を目安に総合的に評価する。

テキスト 毎回、資料を提示する。

オフィスアワー 授業終了後や事前に E メールにて質問・相談があれば対応する。

アクティブ・ラーニング 学校教育の意義や教職の役割等についてのディスカッションを通して、教育の目的と教職の職業的特徴に関する幅広い知識を習得する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	□	☑		□

教育心理学

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 佐藤典子

科目コード：SCH105

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 教育心理学とは、教育の諸問題について心理学的に研究し、その研究成果から得られた有益な知見や技術を、教育活動に提供する科学である。本授業では、発達と学習の基礎理論を中心に講義を行い、動機づけや教育評価等についての基礎知識の説明も行う。ほぼ毎回の授業終了時に、知識確認のための小課題を行う。講義内容に即した演習も行う予定である。

到達目標 ・心身の発達に対する内外要因の相互作用、発達の代表的理論を説明できる。／・心身の発達（運動、言語、認知、社会性）の特徴を説明できる。／・様々な学習の形態・概念及びその過程に関する代表的理論の基礎を説明できる。／・主体的学習を支える動機づけや学習評価の在り方を説明できる。／・心身の発達を踏まえ、主体的学習活動を支える指導の基礎となる考え方を説明できる。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション～教育心理学を学ぶ意義～	事前 教科書序章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	20 分 60 分
第 2 回	発達の原理	事前 教科書第 1 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 3 回	乳児期の発達	事前 教科書第 2 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 4 回	幼児期の発達	事前 教科書第 3 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 5 回	児童期の発達	事前 教科書第 4 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 6 回	青年期の発達	事前 教科書第 5 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 7 回	発達と教育	事前 教科書第 6 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 8 回	学習の理論 1（条件づけ）	事前 教科書第 7 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 9 回	学習の理論 2（認知説）	事前 教科書第 8 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 10 回	学習と記憶	事前 教科書第 9 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 11 回	動機づけ	事前 教科書第 1 0 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 12 回	学力と知能	事前 教科書第 1 1 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 13 回	学習指導法／教育評価	事前 教科書第 1 2 章および第 1 3 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 14 回	学級集団と教師	事前 教科書第 1 4 章を読む。 事後 授業ノートの復習。	40 分 60 分
第 15 回	最終試験とまとめ	事前 教科書および授業ノートの確認。 事後 試験の振り返りと自分の解答の正否確認。	60 分 40 分

フィードバック 授業内で行う課題については、次週の授業内において口頭でフィードバックを行う。

成績評価 試験の成績と授業への取り組み等を総合しておこなう。授業への取り組みおよび小課題（25 点）、レポート（25 点）、最終試験（50 点）。

テキスト 柏崎秀子（編著）『教職ベーシック 発達・学習の心理学〔新 2 版〕』（北樹出版）
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて対応する。

備考 人間の子どもの時期は他の動物に比べて長い。「学ぶため」に長い子ども期を与えられているのだ。人間の発達過程と学習する心の仕組みを知り、生涯を通じた「学びを支える教育」について考える機会にしたい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒

発達心理学

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 佐藤典子

科目コード：SCH106

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	発達とは、個体が受胎から成熟して死に至るまで、その内的心理的傾向（能力、性格等）がどのように変化するのかを指す。発達心理学は、まずこうした事象を客観的に記述していきながら、同時に、自らを含め人間をどのように教育すればよいかという実践的問題とも関連をもつ。授業の目標は、発達の基礎原理を理解しながら人の生涯発達についての全体像を把握することである。
到達目標	1．発達の基礎理論について理解する。 2．生涯発達の観点から、各時期における身体・運動機能の発達、言語発達、認知（思考）の発達、感情の発達、社会性の発達について、具体的な内容を理解する。
授業計画	

第 1 回	オリエンテーション ～発達とはなにか～	事前 シラバスに目を通し、この科目履修の目的を明確にする。 事後 この科目の学習計画を立てる。	40 分 60 分
第 2 回	発達の定義と原理	事前 教科書第 1 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 3 回	発達心理学の歴史と先駆者たち	事前 教科書第 1 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 4 回	胎児期・乳児期の発達（1）身体・運動機能、認知の発達	事前 教科書第 2 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 5 回	胎児期・乳児期の発達（2）感情および社会性の発達	事前 教科書第 2 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 6 回	幼児期の発達（1）身体・運動機能、認知の発達	事前 教科書第 3 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 7 回	幼児期の発達（2）感情および社会性の発達	事前 教科書第 3 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 8 回	児童期の発達（1）身体・運動機能、認知の発達	事前 教科書第 4 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 9 回	児童期の発達（2）感情および社会性の発達	事前 教科書第 4 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 10 回	青年期の発達（1）身体・運動機能、認知の発達	事前 教科書第 5 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 11 回	青年期の発達（2）感情および社会性の発達	事前 教科書第 5 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 12 回	成人期・高齢期の発達（1）成人期の発達	事前 教科書第 6 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 13 回	成人期・高齢期の発達（2）高齢期の発達	事前 教科書第 6 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 14 回	成人期・高齢期の発達（3）成人期・高齢期の発達のまとめ	事前 教科書第 6 章の該当箇所を読む。 事後 授業ノートを見直しておく。	60 分 40 分
第 15 回	最終試験およびまとめ	事前 授業ノートを見直しておく。 事後 試験の解答を自分で確認・振り返る。	80 分 20 分

フィードバック 授業内で行う課題については、次週の授業内において口頭でフィードバックを行う。

成績評価 試験の成績と授業への取り組み等を総合しておこなう。授業への取り組みおよび小課題（25 点）、レポート（25 点）、最終試験（50 点）。

テキスト 渡辺 弥生（監修）『完全カラー図解 よくわかる発達心理学』（ナツメ社）

オフィスアワー 授業後、教室にて対応する。

備考 人間の発達に関心を持ち、人の一生を考え、先人の考えを踏まえつつ勉強していくことが望まれる。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒

※教育職員免許状取得に関わる科目

科目コード: SCH107

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義

概要	本授業では、特別支援教育の理念や制度、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の特性、教室の中で求められる支援や合理的配慮などについて学ぶ。学生自身が受けてきた教育を対象化するとともに、特別支援教育の現状を調べまとめる活動を通して、特別支援教育を身近な問題として捉える。また、障害の疑似体験を通して、特別な支援のニーズを理解し、教室における支援を検討する。
----	--

到達目標	1) 学校に在籍する幼児児童生徒の多様な状況を踏まえ、特別支援教育の必要性、制度の概要、支援の仕組み等を理解する。 2) 特別な支援を必要とする幼児児童生徒の障害の特性や心身の発達を理解するとともに、教育課程や支援のために整備されてきた仕組みを踏まえ、具体的な支援の方法を例示する。
------	---

授業計画 特別支援教育を身近な問題と捉えられるよう自分たちの経験、現実起こっている問題を取り上げ、ディスカッションやグループワークで掘り下げるとともに講義により体系的な理解を図る。現場で発達障害のある子どもと出会ったとき、対応するための基本的な知識を身に付けるとともに、コミュニケーションスキルや情報活用能力等課題解決力の基礎を養うことを目指す。

第1回	特別支援教育の理念と制度～場からニーズへ～ グループディスカッション「私の経験した特別支援教育」	事前	テキスト p.18～20 を読む。支援を必要とする子どもの学校での様子を書き出す。	140 分
		事後	特別支援教育の理念と多様な学びの場や主な支援の仕組みを整理する。	140 分
第2回	特別支援教育の現状～支援を必要とする子どもたちへ～ グループワーク「特別支援教育の現状を調べる」	事前	テキスト p.12～17 を読む。	140 分
		事後	特別支援教育の現状を踏まえ、グループで調査したことを整理する。	140 分
第3回	支援を必要とする子どもの理解（発達障害や軽度知的障害、母国語や貧困問題等によるニーズ） グループワーク「障害疑似体験を通して」	事前	テキスト p.86～87 を読む。	140 分
		事後	発達障害等の障害特性を理解するとともに疑似体験の感想をまとめる。	140 分
第4回	小・中学校等における特別支援教育（学校と地域の支援体制）	事前	テキスト p.71～84 を読む。	140 分
		事後	校内委員会や特別支援教育コーディネーター、地域の教育資源等の役割を整理する。	140 分
第5回	特別支援学校の教育（教育課程、障害による教育の特徴と自立活動の指導）	事前	テキスト p.114～117 を読む。	140 分
		事後	障害に対応した特別支援学校の教育の特徴と自立活動について整理する。	140 分
第6回	一貫した支援の仕組み（就学先決定の仕組み、個別的教育支援計画等） ディベート「適切な就学先は小学校？特別支援学校？」	事前	テキスト p.36～39 を読む。	140 分
		事後	就学先決定の仕組みや個別的教育支援計画の意義や内容を整理する。	140 分
第7回	教室における支援の実態（個別の指導計画、合理的配慮） グループワーク「個別の指導計画の作成」	事前	テキスト p.40～44 を読む。	140 分
		事後	授業で取り上げた事例の学習上又は生活上の困難さの要因を整理する。	140 分
第8回	教室における支援の在り方と特別支援教育の課題	事前	特別支援教育総合研究所の合理的配慮データベースにアクセスし、3 事例を読む。	140 分
		事後	授業で取り上げた事例の個別の指導計画をまとめて提出する。	140 分

フィードバック 第4回及び第8回終了後に提出するワークシート（レポートを含む）にコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 ワークシート（レポートを含む）の内容 75% ディスカッション、調査、グループワークでの主体性・協調性 25%

テキスト 改訂版「教員と教員になりたい人のための 特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる。」
(小林倫代編・著 藤井茂樹 広瀬由美子 星祐子 著 Gakken)

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。

アクティブ・ラーニング 第1回：自分の学校生活を思い浮かべ、支援を必要とする子どもの学校での様子をグループで話し合う。グループで調査テーマを一つ決める。
第2回：第1回で決めたテーマについてテキスト、インターネット等を活用して調査し、発表する。
第3回：発達障害を疑似体験する。疑似体験を通して、感じたことをグループで話し合う。
第5回：医療的ケアを必要とする子どもの就学先として小学校がふさわしいか、特別支援学校がふさわしいかディベートをする。
第7回、第8回：事例について障害による困難さや考えられる支援を話し合い、各自が個別の指導計画を作成する。

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

教育課程総論

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 廣枝優子

科目コード：SCH107

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	学習指導要領を基準として編成される各学校における教育課程について、その意義や編成の方法を理解する。そして、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を考える。

到達目標	学校教育における教育課程が有する役割・機能・意義を学ぶとともに、教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントする方法を身に付ける。
------	--

授業計画	
第 1 回	教育課程・カリキュラムとは何か
第 2 回	教育課程の基本原理
第 3 回	教育課程編成の原理
第 4 回	教育課程編成の目的
第 5 回	近代日本における教育課程の変遷
第 6 回	学習指導要領の性格と位置付け
第 7 回	学習指導要領の変遷と社会的背景（１）経験主義・系統主義
第 8 回	学習指導要領の変遷と社会的背景（２）教育の現代化・教育の人間化
第 9 回	学習指導要領の変遷と社会的背景（３）生きる力
第 10 回	学習指導要領の変遷と社会的背景（４）確かな学力
第 11 回	カリキュラム・マネジメントの考え方
第 12 回	社会に開かれた教育課程
第 13 回	教育課程の編成の方法（１）教科・領域を横断する計画
第 14 回	教育課程の編成の方法（２）単元・学期・学年をまたぐ計画
第 15 回	教育課程や指導計画の検討
	事前 シラバスから授業の概要ならびに目標を確認し、教育課程とは何か考えをまとめる。100 分
	事後 教育課程に関する資料や講義内容を復習し、課題に取り組む。150 分
	事前 教育課程について調べ、質問や意見等をまとめる。100 分
	事後 講義を通して理解したことを踏まえ、教育課程の基本原理についてまとめる。150 分
	事前 指示された資料を読み、教育課程編成について質問や意見等をまとめる。100 分
	事後 カリキュラムの類型の資料や講義の内容を復習し、課題に取り組む。150 分
	事前 指示された資料を読み、教育課程編成の目的について質問や意見等をまとめる。100 分
	事後 講義や討論で理解を深めたことを踏まえ、教育課程の具体的な目的についてまとめる。150 分
	事前 近代日本の教育に関する資料収集をし、質問や意見等をまとめる。100 分
	事後 講義を通して理解したことを踏まえ、教育課程の変遷についてまとめる。150 分
	事前 学習指導要領を読み、その性格や位置付けについて調べる。100 分
	事後 学習指導要領に関して、授業内で提示された課題を考察し、まとめる。150 分
	事前 戦後日本の教育に関する資料収集をする。100 分
	事後 経験主義と系統主義について、授業内で提示された課題を考察し、まとめる。150 分
	事前 1960 年代前後の日本の教育に関する資料収集をする。100 分
	事後 教育の現代化・人間化について、授業内で提示された課題を考察し、まとめる。150 分
	事前 1990 年代、2000 年代の日本の教育に関する資料収集をする。100 分
	事後 生きる力について、授業内で提示された課題を考察し、まとめる。150 分
	事前 2000 年代以降の日本の教育に関する資料収集をする。100 分
	事後 確かな学力について、授業内で提示された課題を考察し、まとめる。150 分
	事前 カリキュラム・マネジメントに関する資料収集をし、質問や意見等をまとめる。100 分
	事後 カリキュラム・マネジメントについて授業内で提示された課題に取り組む。150 分
	事前 教育課程が社会において果たしている役割や機能について、意見をまとめる。150 分
	事後 社会に開かれた教育課程について、授業内で提示された課題を考察し、まとめる。150 分
	事前 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する例を作成する。100 分
	事後 授業内で示された他の例も参考にして、授業内容をまとめる。150 分
	事前 単元・学期・学年をまたいだ指導計画の例を作成する。100 分
	事後 授業内で示された他の例も参考にして授業内容をまとめる。150 分
	事前 これまでの授業で示された教育課程・指導計画を評価する方法について考察する。100 分
	事後 授業で学んだことを教育実習や教職に就いた時にどのように活用するかをまとめる。150 分

フィードバック リフレクションペーパーやレポートのコメントを通して、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取組やリフレクションペーパー等提出物（40%）、最終レポート（60%）を目安に総合的に評価する。

テキスト 『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』文部科学省

オフィスアワー 授業終了後や事前に E メールにて質問・相談があれば対応する。

アクティブ・ラーニング学習指導要領や教育課程等についてのディスカッションを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方を習得する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

道徳教育指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 廣枝優子

科目コード：SCH109

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習 単位数：2 単位

概要 道徳教育の意義や内容について理解し、指導計画、教材研究及び学習指導案を作成する。また、模擬授業を通して、実践的指導能力や道徳教育を行うための方法や技術（ICT 活用の技術）を身に付ける。

到達目標 道徳科学習指導要領から、その意義や内容について理解し、学習指導案や関連するワークシートを構想し、作成することができる。また、模擬授業を実践し、互いの授業について意見交流する中で、実践的指導能力を身に付ける。

授業計画		
第 1 回	道徳とは何か 道徳の本質	事前 学習指導要領の総説を読み、用語や道徳教育について調べる。 90 分 事後 講義を通して理解したことを踏まえ、道徳教育についてまとめる。 180 分
第 2 回	道徳教育の歴史と道徳教育の現代的課題	事前 学習指導要領の総説を読み、改訂の経緯や現代的課題について調べる。 90 分 事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、道徳教育の歴史についてまとめる。 180 分
第 3 回	中学生の道徳性の発達	事前 学習指導要領の道徳科の内容に関する箇所を読み、中学生の道徳性について調べる。 90 分 事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、発達の視点から道徳性をまとめる。 180 分
第 4 回	学習指導要領における道徳教育の目標	事前 学習指導要領の道徳教育の目標に関する箇所を読み、道徳的価値について調べる。 90 分 事後 講義を通して理解したことを踏まえ、道徳教育に求められることについてまとめる。 180 分
第 5 回	道徳教育・道徳科の指導計画と全体計画	事前 学習指導要領の指導計画作成に関する箇所を読み、指導計画・全体計画について調べ 90 分 事後 講義を通して理解したことを踏まえ、指導計画を作成する。 180 分
第 6 回	道徳教育・道徳科における指導方法（ICT を活用した指導も含む）	事前 学習指導要領の道徳科の指導に関する箇所を読み、指導の多様な展開について調べる。 90 分 事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、指導方法についてまとめる。 180 分
第 7 回	道徳科授業の現状と課題	事前 学習指導要領の道徳科の指導に関する箇所を読み、配慮事項について調べる。 90 分 事後 講義や討論を通して理解を深めたことを踏まえ、道徳科の課題についてまとめる。 180 分
第 8 回	学習指導案の作成 授業のねらい及び学習過程を明確にし、学習指導案を作成する。	事前 学習指導要領の道徳科の評価に関する箇所を読み、意義や方法について調べる。 90 分 事後 講義を通して理解したことを踏まえ、学習指導案を見直し、修正する。 180 分
第 9 回	模擬授業の実践(1) 中学校における道徳科の模擬授業(1)・振り返り	事前 学習指導案作成のための教材を用意する。 90 分 事後 作成した学習指導案と模擬授業での課題と改善策を考える。 180 分
第 10 回	模擬授業の実践(2) 中学校における道徳科の模擬授業(2)・振り返り	事前 学習指導案作成のための教材を用意する。 90 分 事後 作成した学習指導案と模擬授業での課題と改善策を考える。 180 分
第 11 回	模擬授業の実践(3) 中学校における道徳科の模擬授業(3)・振り返り	事前 学習指導案作成のための教材を用意する。 90 分 事後 作成した学習指導案と模擬授業での課題と改善策を考える。 180 分
第 12 回	模擬授業の実践(4) 中学校における道徳科の模擬授業(4)・振り返り	事前 学習指導案作成のための教材を用意する。 90 分 事後 作成した学習指導案と模擬授業での課題と改善策を考える。 180 分
第 13 回	模擬授業の実践(5) 中学校における道徳科の模擬授業(5)・振り返り	事前 学習指導案作成のための教材を用意する。 90 分 事後 作成した学習指導案と模擬授業での課題と改善策を考える。 180 分
第 14 回	模擬授業の実践(6) 中学校における道徳科の模擬授業(6)・振り返り	事前 学習指導案作成のための教材を用意する。 90 分 事後 作成した学習指導案と模擬授業での課題と改善策を考える。 180 分
第 15 回	グループ討議（模擬授業の振り返りと改善策について）	事前 模擬授業の課題や改善策についてまとめる。 90 分 事後 道徳科の授業担当者としての心構えを省察する。 180 分

フィードバック リフレクションペーパーやレポート、学習指導案、模擬授業に対するコメントや助言を通して、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取組やリフレクションペーパー等提出物(30%)、学習指導案の作成と模擬授業の実践（50%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。

テキスト 『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編』文部科学省

オフィスアワー 授業終了後や事前に E メールにて質問・相談があれば対応する。

アクティブ・ラーニング 道徳教育の意義や授業づくり、模擬授業等についてのディスカッションを通して、実践的指導能力を身に付ける。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	□

※教育職員免許状取得に関わる科目

科目コード：SCH207

形態：講義 課題解決的な授業展開で講義・演習・討論 単位数：2 単位

概要	到達目標の内容について，様々な中学校の実践事例を検討しながら，講義と模擬授業を通して指導の具体を理解する。
----	---

到達目標	特別活動は、学級活動、生徒会活動、学校行事の三つの内容によって構成されており、特に学級活動は学級担任が指導する生徒指導の要である。特別活動の見方・考えを働かせた実践的な指導方法の習得を目標とする。「総合的な学習の時間」の趣旨を理解し、生徒の探究的な学びを実現する教科横断的かつ、地域・専門家等との連携を図った実践的指導能力の育成を図る。
------	---

授業計画 毎時間の課題に対して、講義と討論を中心に進める。

第1回	特別活動の教育的意義及び家庭、地域、社会とのつながり	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、目標を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことを考察し、まとめる。	110 分
第2回	特別活動の特質と内容 学級活動・生徒会活動・学校行事	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、内容を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことを考察し、まとめる。	110 分
第3回	「学校や学級での生活づくり」のねらいと指導の具体	事前 事前に配付する資料を読み、生活づくりの概念を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことを自己指導力の視点から考察し、まとめる。	110 分
第4回	「学業と進路」のねらいと指導の具体	事前 事前に配付する資料を読み、進路指導の概念を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことをキャリア教育の視点から考察し、まとめる。	110 分
第5回	生徒会活動の内容と目標	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、生徒会活動の概要を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことを人間形成の視点から考察し、まとめる。	110 分
第6回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事）	事前 事前に配付する資料を読み、学校行事（儀式・文化・健康安全・体育）の具体を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。	110 分
第7回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（旅行・集団宿泊行事、勤労生産・奉仕的行事）	事前 事前に配付する資料を読み、学校行事（旅行・宿泊・勤労・奉仕）の具体を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。	110 分
第8回	学級活動の指導案作成	事前 事前に配付する指導案を読み、概要を理解しておく。	160 分
		事後 講義における批評を生かし、指導案を練り上げる。	110 分
第9回	『総合的な学習の時間』の趣旨を理解する	事前 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 pp. 1-17 を読んでくる。	160 分
		事後 講義を通して理解した総合的な学習の時間の趣旨をまとめる。	110 分
第10回	「探究的な見方・考え方」について、事例を通して理解する	事前 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 pp. 103-119 を読んでくる。	160 分
		事後 講義を通して理解した「探究的な見方・考え方」についてまとめる。	110 分
第11回	教科横断的な学習の事例を通して、「総合的な学習の時間」を考える	事前 配付資料を基に、横断的な学習の指導事例を検索し、発表する準備をしておく。	160 分
		事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	110 分
第12回	SDG s 関連の「総合的な学習の時間」の事例を検討する	事前 SDG s 関連の総合的な学習の時間の事例を検索する。	160 分
		事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	110 分
第13回	地域や専門家と連携した「総合的な学習の時間」の事例を検討する	事前 地域や専門家と連携した総合的な学習の時間の事例を検索する。	160 分
		事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	110 分
第14回	生徒の「探究的な見方・考え方」を育む「総合的な学習の時間」の指導計画をグループで検討し、作成する。	事前 取り組んでみたい実践について、概要をまとめてくる。	160 分
		事後 グループで検討した総合的な学習の時間の指導計画をまとめる。	110 分
第15回	作成した「総合的な学習の時間」の指導計画を発表し、全員で検討する。	事前 授業内でのプレゼンテーションの準備をする。	160 分
		事後 発表と討議を通して学び考えたことを、最終レポートにまとめる。	110 分

フィードバック リフレクションを学修者にフィードバックする。

成績評価 特別活動：レポート 60% リフレクションペーパー40% 授業への取り組みを総合して評価する。
総合的な学習の時間：レポート 60% リフレクションペーパー40% 授業への取り組みを総合して評価する。

テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』
文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』

参考書・参考資料 講義の際に配付する

オフィスアワー 事前にメールで予約し、常時対応する。

アクティブ・ラーニング 生徒指導におけるロールプレイング、キャリア学習の模擬授業を行う。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒

音楽科授業演習

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授	内田有一	科目コード：SCH206
----	------	--------------

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：講義	単位数 2 単位
-------	----------

概要 音楽科教育法で習得した教材研究と教育方法を活用し、表現と鑑賞の模擬授業を通して授業力を身に付ける。

到達目標	この科目では、授業における実践的指導能力を獲得するために表現と鑑賞に関する指導案を作成し、授業実践ができることをねらいとする。
------	---

授業計画

第 1 回	歌唱教材の模擬授業（変声期を踏まえた指導方法）	事前 事後	新中学校学習指導要領音楽編を読んでくる。 新中学校学習指導要領解説音楽編をもう一度読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 2 回	中学校歌唱共通教材の模擬授業①（@の歌、赤とんぼ、夏の思い出）	事前 事後	教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」における共通歌唱教材を歌っておく。 講義で配付した資料を基に共通歌唱教材における深い学びについて自己の考えをまとめる。	160 分 110 分
第 3 回	混声合唱の模擬授業	事前 事後	混声合唱「夢の世界を」の教材性について考えておく。 混声合唱の指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 4 回	日本伝統的な歌唱の模擬授業	事前 事後	「勅進帳」より指示された長唄の一節を歌えるようにしておく。 伝統音楽の歌唱指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 5 回	リコーダーを用いた器楽学習の模擬授業	事前 事後	事前に指示されたリコーダー曲を吹けるようにしておく。 リコーダーの指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 6 回	電子楽器を用いた器楽学習の模擬授業 情報機器活用（MIDI、インターネット活用）	事前 事後	事前に配付する電子楽器に関する資料を読んでおく。 電子楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 7 回	箏を用いた器楽学習の模擬授業	事前 事後	事前に配付する和楽器に関する資料を読んでおく。 和楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 8 回	リズム、旋律づくりの模擬授業	事前 事後	教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」にある創作教材について理解しておく。 講義で配付した資料を基に創作指導と評価ついて自己の考えをまとめる。	160 分 110 分
第 9 回	構成を生かした創作学習の模擬授業	事前 事後	教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」にある創作教材について理解しておく。 講義で配付した資料を基に創作指導と評価ついて自己の考えをまとめる。	160 分 110 分
第 10 回	生活や社会における意味を考える創作学習の模擬授業	事前 事後	自己の生活にとって意味のある楽曲を選んでおく。 自己が選んだ楽曲の生活や社会における意味を考える。	160 分 110 分
第 11 回	鑑模の模擬授業と批評 プレゼンテーション型鑑賞①	事前 事後	学生自身の教材分析から、指導の中心事項を整理しておく。 講義内容を踏まえて指導案のアイデアを練り上げる。	160 分 110 分
第 12 回	鑑模の模擬授業と批評 プレゼンテーション型鑑賞②	事前 事後	指導案を構想しておく 講義内容を踏まえて指導案の展開を練り上げる。	160 分 110 分
第 13 回	指導案の検討及び優れた授業の条件	事前 事後	指導案のアイデアから、具体的な柱立てをしておく。 講義における指導案検討を踏まえ、指導案を練り上げる。	160 分 110 分
第 14 回	表現の模擬授業と批評	事前 事後	表現の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。	160 分 110 分
第 15 回	振り返りとまとめ	事前 事後	優れた授業を支える教育技術について、講義資料を基に考えておく。 指導案構成力及び教育技術の習得について今後の見通しをもつ。	160 分 110 分

フィードバック 模擬授業の指導助言を授業内にてフィードバックする。

成績評価 指導案評価（70%）、授業への取組（30%）

テキスト 『平成 29 年告示中学校学習指導要領解説音楽編』 令和 7 年度版『中学生の音楽 1』『中学生の音楽 2・3 上』『中学生の器楽』（教育芸術社）
参考書・参考資料 必要に応じて配付する。

オフィスアワー 別紙周知してあるオフィスアワーにて対応。事前にメールにて相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	□	□	☑	☑	☑	☑	☑	□	☑	□	□	□

教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一		科目コード：SCH11
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、教育の目的に適した指導技術を実践しながら理解し身につける。そして、情報通信技術の活用の意義と理論や、効果的に活用した学習指導や校務の在り方について理解し、生徒に情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための指導法を学ぶ。	
到達目標	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。さらに情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方、並びに生徒に情報モラルを含む情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。	
授業計画	前半では教育方法に関する理論、後半では情報通信技術の活用を中心に説明し、授業を行う際に必要となる技術や方法についての実践も含めて体得していく。	

第 1 回	教育方法の基礎的理論と実践	事前	これまでの学校生活において「良い授業」だと感じたものを思い出しておく。	100 分
		事後	授業で配布された資料を読んでおく。	180 分
第 2 回	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方―主体的・対話的で深い学びの実現について―	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 3 回	授業を構成する基礎的な要件とは―学級・生徒・教員・教室・教材についてのグループ討論―	事前	授業で指示された課題に取り組む。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 4 回	学習評価の基礎的な考え方―学力と教育評価―	事前	授業で指示された課題に取り組む。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 5 回	授業を行う上での基礎的な技術―指示・発問のワークショップ―	事前	各自望ましい話し方と板書について考え、必要に応じて調べておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 6 回	基礎的な学習指導理論を踏まえた学習指導案の作成―目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価基準等の観点から―	事前	前回の授業をふまえて実際に行う模擬授業の準備をする。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 7 回	情報通信技術の活用の意義と在り方（１）社会的背景や急速な技術発展を踏まえた授業改善（個別最適な学び、協働的な学び、主体的・対話的で深い学びの実現）	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 8 回	情報通信技術の活用の意義と在り方（２）特別の支援を必要とする生徒に対する留意点	事前	学習指導案作成に必要な資料を各自で収集しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 9 回	情報通信技術の活用の意義と在り方（３）ICT 支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方や学校における ICT 環境の整備の在り方	事前	学習指導案作成に必要な資料を各自で収集しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 10 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導（ワークショップ）―育成を目指す資質・能力や学習場面に応じたデジタル教材の作成・利用を含む指導事例―	事前	情報機器の操作方法を調べ、教材作成のための資料を各自で収集しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 11 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導（グループディスカッション）―学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用した指導や学習評価、教育情報セキュリティの重要性―	事前	これまでの授業を踏まえて実際に行う模擬授業の準備をする。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 12 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導（模擬授業）―遠隔・オンライン教育の意義と関連するシステムの使用法―	事前	これまでの授業を踏まえて実際に行う模擬授業の準備をする。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 13 回	情報通信技術を効果的に活用した校務の推進の在り方―統合型校務支援システムとは―	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 14 回	生徒の情報モラルを含む情報活用能力育成のための基礎的な指導法（１）各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における横断的な情報活用能力の育成	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 15 回	生徒の情報モラルを含む情報活用能力育成のための基礎的な指導法（２）各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の特性に応じた指導の事例研究	事前	授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめておく。	200 分
		事後	教育実習や学校体験活動などですぐに使えるように、まとめておく。	80 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート（60%）、リフレクション（40%）、授業の取り組みの態度、以上より総合的に評価する。

テキスト 音楽科教科教育法で用いる教科書

オフィスアワー 事前のメールによる予約により、常時相談を受け付ける。

アクティブ・ラーニング 模擬授業を通して、発問、指示の具体について学ぶとともに教育技術と教育的タクトの関係を理解する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

生徒・進路指導課

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一／ 科目コード：SCH112

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義 単位数 2 単位

概要 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動であることを理解する。また、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が知識的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としていることを理解する。

到達目標 学校において他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくための実践的指導能力を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

授業計画 前半は生徒指導について、後半は進路指導・キャリア教育について、模擬授業、ロールプレイングを用いた授業を展開する。

第 1 回	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の機能	事前 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導に何があるか思い出す。 事後 生徒指導の 3 機能について自己の考えをまとめる。	100 分 180 分
第 2 回	集団指導・個別指導の方法原理	事前 生徒指導提要における集団指導・個別指導の内容を読んでおく。 事後 集団指導・個別指導の原理と実践例についてまとめる。	140 分 140 分
第 3 回	生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方（担当：内田）	事前 事前に示された教育相談事例について、教育相談の手だけを考える 事後 模擬授業を通して、「見取る」ことの意味を考察する。	140 分 140 分
第 4 回	学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取り組み	事前 生徒指導提要における生徒指導の組織的対応について内容を理解しておく。 事後 組織的対応の模擬授業を通して、実践上の課題を考察する。	140 分 140 分
第 5 回	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方ならびに児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方	事前 事前に示された事例について、教師としての視点から手だてを考える。 事後 自己存在感を獲得するための手だてについて考察する。	140 分 140 分
第 6 回	校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容	事前 生徒指導提要における校則・懲戒・体罰に関わる法令の内容を理解しておく。 事後 校則の意義、体罰と懲戒の違いについて考察する。	140 分 140 分
第 7 回	暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の対応の視点及び模擬授業	事前 事前に示した実践事例について手だてを考えて置く 事後 模擬授業を振り返り、アドラーの勇気付け理論から考察する。	140 分 140 分
第 8 回	インターネットや性に関する寛大、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や専門家や関係機関との連携の在り方	事前 生徒指導提要におけるインターネット、性の問題を読み、理解しておく。 事後 チーム学校における専門機関との連携について考察する。	140 分 140 分
第 9 回	教育課程における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置付け	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 10 回	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方	事前 これまでの学校生活でどのような進路指導・キャリア教育を受けてきたか思い出しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 11 回	進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 12 回	職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 13 回	全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 14 回	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義、ポートフォリオの活用の在り方	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 15 回	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめておく。	180 分 100 分

フィードバック リフレクションペーパーについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート（60%）、リフレクションペーパー（40%）、授業の取り組みから総合的に評価する。

テキスト 文部科学省『生徒指導提要 令和 4 年 12 月』（2022）東洋館
文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』（2011）※https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html よりダウンロードして使用する。

オフィスアワー 事前にメールで予約し、常時対応する。

アクティブ・ラーニング 模擬授業、ロールプレイングを用いて実践的指導能力の習得を図る。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑		☑	□	☑	☑	□	□	□

教育相談

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授	内田有一	科目コード：SCH113
----	------	--------------

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	生徒を理解し、一人ひとりの個性に応じた支援ができるように、教育相談の目的と方法について理解を深め、基本的な相談スキルを実践的に学習する。主な問題行動への対応を学ぶと共に、適切に教育相談を実践するための実践的指導能力を養う。

到達目標	教育相談を実施するために必要な知識や技法、態度を身につける。具体的には①生徒が呈する心身の症状や不適応行動の理解、②カウンセリング理論の理解と相談スキルの習得、③教育相談の実施方法の理解、④教師としての心構えと態度を身に付けることを目標とする。
------	--

授業計画				
第 1 回	ガイダンス：授業の方法や進め方の理解 学校における教育相談の意義～問題への全体的・総合的アプローチ	事前	テキストの関連ページを読む。	70 分
		事後	教育相談の意義についてまとめる。	200 分
第 2 回	アセスメントに関する基礎的理解	事前	テキストの関連ページを読む。	70 分
		事後	特に発達障がいに関する概念を整理する。	200 分
第 3 回	保幼小連携の接続期支援と子どもの理解	事前	テキストの関連ページを読む。	60 分
		事後	小1プロブレムの具体について調べてまとめる。	210 分
第 4 回	小中高の接続期支援と子どもの理解	事前	テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。	70 分
		事後	小学校のスタートカリキュラム、中1ギャップについて整理する。	200 分
第 5 回	カウンセリングの基礎理論	事前	テキストの関連ページを読む。	70 分
		事後	実際の面談を想定して、どこでどの技能を用いるか整理する。	200 分
第 6 回	相談のプロセス	事前	テキストの関連ページを読む。	60 分
		事後	相談関係を支える要素について考える。	210 分
第 7 回	模擬教育相談①	事前	テキストの関連ページを読む。	60 分
		事後	模擬教育相談を通し自己の課題を見出す。	210 分
第 8 回	コンサルテーションと自己ディネーションの理解と方法	事前	テキストの関連ページを読む。	130 分
		事後	最新の文科省「児童生徒の問題行動調査結果」からコーディネートの在り方を考える	140 分
第 9 回	模擬教育相談②	事前	模擬教育相談①で見出し自己の課題に基づき、方略を考える。	70 分
		事後	模擬授業②の振り返りを行う。	200 分
第 10 回	学校で行う教育相談と行内体制、関係機関との連携	事前	テキストの関連ページを読む。	70 分
		事後	保健室登校、不登校の対応を考える。	200 分
第 11 回	開発的・予防的カウンセリングの理解と方法	事前	テキストの関連ページを読む。	50 分
		事後	不登校、いじめに対す開発的、予防的カウンセリングの在り方を考える。	220 分
第 12 回	学校教育における集団的アプローチ	事前	テキストの関連ページを読む。	60 分
		事後	学級づくりにおける集団的アプローチについて考える。	210 分
第 13 回	多様なニーズにある子どもの教育相談と支援体制	事前	テキストの関連ページを読む。	70 分
		事後	多様なニーズについて新聞記事を読む。	200 分
第 14 回	集団不適応への支援と地域における専門家との連携や制度の活用	事前	テキストの関連ページを読む。	60 分
		事後	関係機関が行う業務について調べる。	210 分
第 15 回	家族への支援と地域における専門家と連携や制度の活用	事前	テキストの関連ページを読む。	70 分
		事後	子供の貧困問題について新聞記事から考える。	200 分

フィードバック 課題はコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験（レポート）60%、リフレクション 40%、ロールプレイング等授業へのの取り組み積極性、以上を総合的に評価する。

テキスト 鳥海順子・吉永睦子共著：「子ども理解と教育相談～移行期支援の視点から～」（東洋館出版社）

オフィスアワー 事前のメールによる予約により、常時相談を受け付ける。

アクティブ・ラーニング 場面設定による教育相談のロールプレイングを行い、実践的指導能力の育成を図る。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	☑	□	□	☑	☑	☑	☑	☑	□	□	☑	□

※教育職員免許状取得に関わる科目

科目コード：SCH203

形態：講義

单位数：5 单位

概要	事前学習では、服務、学習指導案の書き方、教科の指導法等に関する深化を行い、教育実習に向けての資質・能力の向上を図る。事後は、実習を通して把握した課題について学修する見通しをもたせる。
----	---

到達目標	短期大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技能等、音楽科授業を始め教育活動全般における実践力を育成するとともに、生徒理解を含め、学校教育の実際を体験的に理解する。また、教育者としての愛情と使命感を深め、今後の学修の課題を把握する。
------	---

授業計画

第1回	教育実習に臨む心構えと最低限身に付けるべき知識・技能の確認	事前 事後	実習に関する手引きを読み、概要を把握する。 実習にあたっての見通しをまとめることを通して、実践への準備をする。	160 分 110 分
第2回	wordを使用して、最新の学習指導案を作成する。(歌唱)	事前 事後	実習協力校から指示されている歌唱教材について分析する。 指導案を基に発問、指示を考える。	160 分 110 分
第3回	wordを使用して、最新の学習指導案を作成する。(器楽)	事前 事後	実習協力校から指示されている器楽教材について分析する。 指導案を基に発問、指示を考える。	160 分 110 分
第4回	wordを使用して、最新の学習指導案を作成する。(創作)	事前 事後	実習協力校から指示されている創作教材について分析する。 指導案を基に発問、指示を考える。	160 分 110 分
第5回	wordを使用して、最新の学習指導案を作成する。(鑑賞)	事前 事後	実習協力校から指示されている鑑賞教材について分析する。 指導案を基に発問、指示を考える。	160 分 110 分
第6回	生徒指導の具体	事前 事後	実習協力校における生徒との関わり方について考える。 講義を通して学んだ生徒との関わり方を基に、実践への準備をする。	160 分 110 分
第7回	教育実習1週目(指導教諭の授業観察と記録、学校経営方針・学校組織体制の理解)	事前 事後	実習校のグランドデザインを読み、学校の教育目標を理解する。 指導教諭の授業から学んだことを考察し、まとめる。	160 分 110 分
第8回	教育実習2週目(生徒の実態並びに課題の把握)	事前 事後	生徒の実態を指導教諭の指導により把握する。 授業実習の振り返りから、課題を見出す。	160 分 110 分
第9回	教育実習3週目(学級担任、教科担任の補助的な役割を担う)	事前 事後	学級担任、教科担任の実務を把握する。 補助的な実務を振り返り、課題を見出す。	160 分 110 分
第10回	教育実習を振り返り、学んだこと、考えたこと、今後の課題等について交流し整理する。	事前 事後	実習日誌から学んだこと、課題を整理する。 講義、討論を通して今後の課題解決のための見通しをもつ。	160 分 110 分
第11回	歌唱・器楽の授業の評価について、実際の授業場面を想定して考える。	事前 事後	実習における具体的な歌唱・器楽の授業場면을整理する。 講義を通して学んだ視点を生かし、授業分析と評価の具体を検討する。	160 分 110 分
第12回	鑑賞の授業の評価について、実際の授業場面を想定して考える。	事前 事後	実習における具体的な鑑賞の授業場면을整理する。 講義を通して学んだ視点を生かし、授業分析と評価の具体を検討する。	160 分 110 分
第13回	創作の授業の評価について、実際の授業場面を想定して考える。	事前 事後	実習における具体的な創作の授業場면을整理する。 講義を通して学んだ視点を生かし、授業分析と評価の具体を検討する。	160 分 110 分
第14回	学級担任としての仕事と使命について整理する。体験をもとにまとめ、交流し整理する。	事前 事後	実習における具体的な担任の実務を整理する。 意見交流を通して学んだことまとめる。	160 分 110 分
第15回	振り返りを通して教育実習で把握した課題と今後の学修計画をまとめる。	事前 事後	教育実習日誌を基に、課題を整理する。 講義で学んだ視点を生かして、課題解決に向けた見通しをもつ。	160 分 110 分

フィードバック リフレクションペーパーや指導案、発表への助言やコメントを通して、学修成果をフィードバックする。

成績評価 学習指導案の評価（20%）、実習校からの評価（80%）から評価する。

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編 実習日誌 教科書（実習先で使用のもの）

参考書・参考資料 「指導と評価の一体化のための参考資料【中学校・音楽】」(国立教育政策研究所)

オフィスアワー 授業終了後や事前に E メールにて質問・相談があれば対応する。

アクティブ・ラーニング教科指導や生徒理解等についてのディスカッションやロールプレイを通して、実践的指導能力を育成する。

ング
備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

※教育職員免許状取得に関わる科目

科目コード : SCH204

形態：講義 単位数：2 単位

到達目標 全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとし、教育的愛情をもって生徒に接し、学修内容を生きた力として発揮できるようにする。

第1回	教職の意義及び専門職としての資質・能力	事前 教育実習を通して感じた教師という仕事について、箇条書きでまとめる。	160分
		事後 講義や討論の内容で、専門職としての資質・能力について重要な点をまとめる。	110分
第2回	教員の職務と学校現場における課題解決（いじめ、SNS、不登校等への対応）	事前 教育実習で感じた学校現場における課題について、箇条書きでまとめる。	160分
		事後 講義や討論の内容で、教員の職務について重要な点をまとめる。	110分
第3回	チーム学校及びコミュニティスクールの実践	事前 教育実習で感じた「チーム学校」または「チームでの組織」について、箇条書きでまとめる。	160分
		事後 講義や討論の内容で、チームでの連携・協働について重要な点をまとめる。	110分
第4回	教師としての人権意識及び発達障害を有する生徒への対応	事前 人権についての資料を読み、質問や意見等をまとめる。	160分
		事後 講義やロールプレイの内容で、人権意識について重要な点をまとめる。	110分
第5回	生活指導と道徳の指導	事前 生徒指導、道徳指導についての資料を読み、指導においての課題をまとめる。	160分
		事後 講義やロールプレイの内容で、生徒指導において重要な点をまとめる。	110分
第6回	安全管理及び学校の危機管理	事前 安全教育についての資料を読み、質問や意見等をまとめる。	160分
		事後 講義や討論の内容で、学校の危機管理について重要な点をまとめる。	110分
第7回	GIGA スクール構想における個別最適化学習と協働的学習の一体化	事前 GIGA スクール構想に関する資料を読み、質問や意見等をまとめる。	160分
		事後 講義や討論の内容で、個別最適化学習と協働的学習において重要な点をまとめる。	110分
第8回	教育原理・知識と実践のつながりについてのグループ討論	事前 教育原理の講義で使用した資料・ノートを用意し、復習する。	160分
		事後 講義や討論の内容で、教育現場での実践において重要な点をまとめる。	110分
第9回	教育課程の意義及び編成の方法についての事例研究	事前 教育課程総論の学びを振り返る。	160分
		事後 取り上げた教育課程の事例内容において、重要な点をまとめる。	110分
第10回	教育に関する社会的・制度的課題についての事例研究	事前 教育に関する社会的・制度的課題について関心がある事例や報道をまとめる。	160分
		事後 取り上げた社会的・制度的事例の内容で重要な点をまとめる。	110分
第11回	教育におけるメディアリテラシー	事前 SNSの情報について、調べおく。	160分
		事後 メディアリテラシーの課題について、自分の考えをまとめる。	110分
第12回	音楽科教育の授業づくり	事前 教育実習で得た教科教育の課題を整理しておく。	160分
		事後 音楽科の授業づくりについて、重要な点をまとめる。	110分
第13回	学級経営（学級づくり）案の作成・グループ討論	事前 教育実習等で使用した資料を用意し、学級経営案作成の準備をする。	160分
		事後 学級経営案の手直しを行い、完成させる。	110分
第14回	進路選択に資する各種の機会の提供についてのロールプレイング	事前 進路指導論の講義で使用した資料・ノートを用意し、復習する。	160分
		事後 役割演技を行った進路選択相談の内容で重要な点をまとめる。	110分
第15回	生徒から、保護者から、地域から信頼される教師の在り方についての討論	事前 教師像についての資料を読み、課題問題に取り組む。	160分
		事後 討論後の自己の課題を把握する。	110分

成績評価 授業への取組やリフレクションペーパー等提出物（50%）、最終レポート（50%）から評価する。

テキスト ・ 毎回、授業用資料を提示する。

アクティブ・ラーニング 学校危機管理や安全管理等、学校教育の具体について、ディスカッションやロールプレイを通して検討し、実務的能力を獲得する。
ICTを活用した授業を通して、ICTスキルの向上を図る。

備考

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒

※教育職員免許状取得に関わる科目
※実務経験を持つ教員による授業

准教授 廣枝優子 科目コード: SCH205

科目コード：SCH205

形態：講義

概要	現代の多様化する学校現場の現状を踏まえ、学級経営の在り方や担任の役割について理解するとともに、具体的な事例から担任として
----	--

フィードバック リフレクションペーパーやレポートのコメントを通して、学修成果をフィードバックする。

「学習指導の士法と担任の役割」は、このページの右側に添えておく。必要知識や技能の教育実践力を習得する

備考

授業を通して修得できる力			
知識・技能・態度	知識・技能の活用	意欲・経験・多様性	

科目コード : SLF112

单位数：1 单位

到達目標 「鍵盤和声Ⅰ」の授業を受講するために必要な知識を身につけることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

テキスト 授業内指示

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

哲学と倫理

非常勤講師 小泉博明

科目コード : HUM301

専門／学年 : 全専門／専攻科 1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	現代の諸課題というテーマの中で、生と死をめぐる倫理的な問題について、「生命倫理」を学ぶことを通して、哲学と倫理の基礎的な知識を習得する。また、身近な自らに関わる問題として主体的に考察する。他者に対して思いやりの態度を身に付ける。

到達目標	「生命倫理」に関連する基本的な用語の意味を説明することができる。先端医療技術の開発による多様な倫理的な諸問題について議論することができる。キュアを中心とした医療に対する批判から、ケアの倫理について説明できる。生命倫理の諸問題を理解し、自らに関わる問題として意識を持ち、日本の文化的な背景にも配慮しながら考察することができる。
------	--

授業計画				
第 1 回	脳死と臓器移植 テキスト（テーマ 11）臓器提供におけるオプティミズムについて考える。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 2 回	人体の資源化・商品化 テキスト（テーマ 12）精子や卵子の提供の勧誘があれば、どのように対応すれば良いのか考えよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 3 回	尊厳死と安楽死 テキスト（テーマ 14）安楽死に賛成する主張と反対する主張の双方の根拠を検討してみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 4 回	終末期医療 テキスト（テーマ 15）望ましい終末期医療のあり方とはどのようなものか、考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 5 回	インフォームド・コンセント テキスト（テーマ 16）医療におけるパターナリズムを完全に排除すべきかどうか考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 6 回	生殖補助医療技術 テキスト（テーマ 5）生殖補助医療技術を利用することで、生まれてくる子どもにどんな影響を及ぼすのか、考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 7 回	出生前診断・着床前診断 テキスト（テーマ 6）親は生まれてくる子どもを自分の希望によって選択してよいと考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 8 回	優生思想 テキスト（テーマ 7）生殖に関する個人の選択や決定は、どのくらい認められるべきかを考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 9 回	遺伝子・DNA・ゲノム テキスト（テーマ 1）遺伝子、DNA、ゲノムの関係を整理した上で、「遺伝的な平等性と多様性」について、自分なりに考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 10 回	バイオテクノロジー テキスト（テーマ 2）バイオテクノロジーの活用にはどのような倫理的問題があるだろうか、異なる立場から具体的に考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 11 回	ヒトゲノム テキスト（テーマ 3）人間の遺伝子を特許の対象とすることは是非を考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 12 回	ヒトと人格 テキスト（テーマ 4）人間の生命の間に、生きる価値や道徳的地位の違いを何らかのかたちで、もうけてはいないだろうか、考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 13 回	医療資源の配分 テキスト（テーマ 9）医療費における公的負担と患者個人の負担との割合はどうあるべきか、考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 14 回	医療倫理の四原則 テキスト（テーマ 18）医療に関する倫理的な問題を、医療倫理の四原則を用いて考えてみよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、課題を整理し、自らの考えをまとめる。	180 分
第 15 回	生命倫理とは・まとめ 生命倫理の授業を通じて、自らの死生観、人生観を確立しよう。	事前	テキストを事前に熟読し、難しい用語について調べておくこと。	90 分
		事後	テキストを読み返し、自らの死生観、人生観を確立する。	180 分

フィードバック リアクションペーパー・課題に対し、次週の授業でコメントを行い、受講生の意見を共有し省察する。

成績評価 講義に対するリアクションペーパー(20%)や、テーマごとの課題レポート(80%)により、総合的に評価する。

テキスト 小泉博明他『テーマで読み解く 生命倫理』教育出版 （授業時に教科書として使用する）

オフィスアワー 質問などがある場合には授業終了後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□

美術史基礎

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：HUM302

専門／学年： 全専門／専攻科1 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	西洋美術を中心に造形作品の基本的な見方を学ぶ。多くの文化施設が集まる上野に位置した本学園の立地条件を生かし、教室で講義を受けるばかりでなく、美術館・博物館での実作品の鑑賞も行いながら、造形作品を見る目を養い、これをより深く理解するための基礎的知識を身につける。
到達目標	絵画を中心に造形作品のかたちの見方、作品のかたちが表わす意味の読み方、さらには作品と作品をめぐる人々や社会との関係を学ぶ。また、さまざまな主題の作品を鑑賞する中で、古代から現代にいたる西洋美術のおおまかな流れも理解する。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション：授業概要、成績評価に関する説明ほか 上野の美術館・博物館について（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 2 回	美術作品を「見る」（講義・演習・演習解説）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義・演習内容の復習 150 分
第 3 回	人物像：西洋美術における理想的人物像（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 4 回	人物像：肖像画（講義・演習）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 5 回	人物像：肖像画（演習解説・講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義・演習内容の復習 150 分
第 6 回	人物像（美術館での作品鑑賞）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 鑑賞作品と鑑賞体験のまとめ 150 分
第 7 回	宗教画：キリスト教美術とは（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 8 回	宗教画：礼拝像（講義・演習）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 9 回	宗教画：礼拝像（演習解説・講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義・演習内容の復習 150 分
第 10 回	物語画（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 11 回	宗教画・物語画（美術館での作品鑑賞）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 鑑賞作品と鑑賞体験のまとめ 150 分
第 12 回	風景画（講義・演習）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義内容の復習 150 分
第 13 回	風景画（演習解説・講義） 静物画（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義・演習内容の復習 150 分
第 14 回	静物画（講義・演習・演習解説）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 講義・演習内容の復習 150 分
第 15 回	風景画・静物画：美術館での作品鑑賞	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習 120 分
		事後 鑑賞作品と鑑賞体験のまとめ 150 分

フィードバック 授業内に実施する演習（レポート）については解説を行う。

成績評価	主に授業内演習（レポート）（4・5 回程度を予定）と期末レポートにより、美術作品を見る力、および鑑賞体験について適切に記述する能力をはかる。 【評価配分（目安）：授業内演習 50%、期末レポート 40%、授業への積極的な取り組み 10%】
テキスト	教科書は使わない。 参考資料：秋山聰、田中正之監修・著 『西洋美術史』（美術出版ライブラリー 歴史編） 美術出版社 2021 年 （美術史のための情報ソース等については、授業の中で随時紹介する。）

オフィスアワー 質問や相談等は原則、授業時間内に受付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	□	☑	☑	□	□	□	☑	□	□

准教授 廣枝優子 科目コード: NAT301

形態：講義

概要 指導者であれ、親であれ、子どもの教育において心を洞察し、心を育てる原理は同じである。子どもの心をどのように洞察し、また心

到達目標	教育相談の技法を理解し、子ども理解の理論と具体をロールプレイングによって学ぶ。またアドラーの勇気づけの理論とその具体を学び、子どもへの適切な関わり方を身に付ける。
------	---

第1回	子どもの心理の発達	事前	子どもの心理発達について、興味・関心のあることをまとめる。	135分
		事後	心理の発達の概要をまとめる。	135分
第2回	子どもの心に起きる問題	事前	子どもの心に起きる問題を見いだす。	135分
		事後	9歳の壁についてまとめる。	135分
第3回	子ども理解の原理	事前	子ども理解に関する資料を読む。	135分
		事後	記号論から子ども理解の原理をまとめる。	135分
第4回	カウンセリングマインドとは何か	事前	カウンセリングマインドに関する資料を読む。	135分
		事後	カウンセリングマインドについてまとめる。	135分
第5回	子ども理解の方法	事前	子ども理解に関する資料を読む。	135分
		事後	子どもの行動にはわけがあるというテーマでリフレクションペーパーを作成する。	135分
第6回	ロールプレイングによる対話的学習 1 基本的信頼感の獲得	事前	ロールプレイングの準備をする。	135分
		事後	ロールプレイングの振り返りをリフレクションペーパーにまとめる。	135分
第7回	ロールプレイングによる対話的学習 2 自己肯定感を高める	事前	ロールプレイングの準備をする。	135分
		事後	ロールプレイングの振り返りをリフレクションペーパーにまとめる。	135分
第8回	ロールプレイングによる対話的学習 3 自尊感情をもたせる	事前	ロールプレイングの準備をする。	135分
		事後	ロールプレイングの振り返りをリフレクションペーパーにまとめる。	135分
第9回	ロールプレイングによる対話的学習 4 アドラーの勇気づけ	事前	ロールプレイングの準備をする。	135分
		事後	ロールプレイングの振り返りをリフレクションペーパーにまとめる。	135分
第10回	ロールプレイングによる対話的学習 5 アドラーの共同体感覚	事前	ロールプレイングの準備をする。	135分
		事後	ロールプレイングの振り返りをリフレクションペーパーにまとめる。	135分
第11回	ロールプレイングによる対話的学習 6 キャリア形成における心の問題	事前	ロールプレイングの準備をする。	135分
		事後	ロールプレイングの振り返りをリフレクションペーパーにまとめる。	135分
第12回	ロールプレイングによる対話的学習 7 非常時における心の問題	事前	ロールプレイングの準備をする。	135分
		事後	ロールプレイングの振り返りをリフレクションペーパーにまとめる。	135分
第13回	エリクソンの発達課題と心の問題	事前	エリクソンの発達課題に関して資料を読む。	135分
		事後	アイデンティティについて、まとめる。	135分
第14回	現代社会における心の問題	事前	現代社会における心の問題を発見する。	135分
		事後	心の問題における解決について考察する。	135分
第15回	Well-being と心 個人の発表	事前	発表内容を考える。	135分
		事後	振り返りをレポートにまとめる。	135分

成績評価 授業への取組やリフレクションペーパー等提出物（40%）、最終レポート（60%）を目安に総合的に評価する。

テキスト 毎回、資料を提示する。

アクティブ・ラーニング 子どもへの理解や教育相談等について、ディスカッションやロールプレイを通して学び、子どもへの適切な関わり方を身に付ける。

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会、自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション・技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

英語コミュニケーションⅠ-1

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG301

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	コミュニケーションをしながら文法を学ぶ。英語を使う「典型的な場面」を設定し、その中で言語形式を習得する。自信を持って英語を駆使用する力を養う。

到達目標	授業、就職、旅行、買い物、アルバイト、人生相談など、身近で興味深い話題を題材に、リアルな英語表現でコミュニケーションの向上を図る。
------	---

授業計画				
第 1 回	Orientation, Unit 1 I Commute by Train Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書を入手し、Unit 1 を予習する	40 分
		事後	教科書を入手し、Unit 1 を予習する	50 分
第 2 回	Unit 1 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	50 分
第 3 回	Unit 2 What Are You Going to Do This Weekend? Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 4 回	Unit 2 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第 5 回	Unit 3: Have You Ever Volunteered? Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 6 回	Unit 3 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第 7 回	Unit 4 Is There a Bank Near Here? Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 8 回	Unit 4 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第 9 回	Unit 5: Could I Join Your Class? Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 10 回	Unit 5 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第 11 回	Unit 6: You Should Apply for the Program Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 12 回	Unit 6 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第 13 回	Unit 7: What Do the Plans Include? Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する	50 分
第 14 回	Unit 7 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40 分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50 分
第 15 回	Review Chapters 1-7 理解度確認テスト	事前	理解度確認テストの準備をする	40 分
		事後	理解不足の箇所を復習する	50 分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取り組み 50%】

テキスト Tomoko Takada, Diane H. Nagatomo, “Say It Now”：Grammar for Communication” 金星堂

その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

アクティブ・ラーニング ペアワークを活かしたアクティブな学びを通じて、能動的な英語習得を目指す。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□	□

英語コミュニケーションⅠ-2

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG301

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 前期に引き続き、コミュニケーションをしながら文法を学ぶ。英語を使う「典型的な場面」を設定し、その中で言語形式を習得する。自信を持って英語を駆使する力を養う。

到達目標 授業、就職、旅行、買い物、アルバイト、人生相談など、身近で興味深い話題を題材に、リアルな英語表現でコミュニケーションの向上を図る。

授業計画				
第1回	Unit 8 My New Apartment is Safer than My Old One Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する	50分
第2回	Unit 8 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	50分
第3回	Unit 9 Typing Is Easy for Me! Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する	50分
第4回	Unit 9 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50分
第5回	Unit 10: I Have Many things to Learn Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する	50分
第6回	Unit 10 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50分
第7回	Unit 11 If I Travel Abroad, I'll Take a Group Tour Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する	50分
第8回	Unit 11 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50分
第9回	Unit 12: Osamu Tezuka Is Admired by Many People Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する	50分
第10回	Unit 12 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50分
第11回	Unit 13: Here Is a Book Showing Various Recipes! Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する	50分
第12回	Unit 13 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50分
第13回	Unit 14: There Is a Candidate Who I Want to Support Listen to the Dialogue, Grammar for Communication Grammar Exercise	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する	50分
第14回	Unit 14 Writing Exercise, Read and Speak	事前	教科書の該当箇所を予習する	40分
		事後	今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出	50分
第15回	Review Chapters 8-14 理解度確認テスト	事前	理解度確認テストの準備をする	40分
		事後	理解不足の箇所を復習する	50分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取り組み 50%】

テキスト Tomoko Takada, Diane H. Nagatomo, “Say It Now”：Grammar for Communication” 金星堂

その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

アクティブ・ラーニング ペアワークを活かしたアクティブな学びを通じて、能動的な英語習得を目指す。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□	□

英語コミュニケーションⅡ-1

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG401

専門／学年：全専門／専攻科 2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要

教科書で扱われる各国の概要を理解し、重要な語句を確認する。ターゲットとなる文法を学び、会話例を実際に運用し、日常生活でよく使われる表現を学ぶ。各ユニットのまとめとして「Presentation」を行い、発信する英語力を定着させ、自信を持って英語を駆使する力を養う。

到達目標

相手の立場を理解し、情報を的確に伝え、また説得や意見交換できることをゴールとする。自分の意見を平易に「通じる」英語で表現するとともに、相手の意見にも的確に英語で応じることができる。

授業計画

第 1 回	Orientation, Unit 1 Italy: The Start of Pizza Margherita 動詞 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書を入手し、Unit 1 を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	40 分 50 分
第 2 回	Unit 1 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	40 分 50 分
第 3 回	Unit 2 Malaysia: The Name of Kuala Lumpur 人称代名詞・冠詞 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	40 分 50 分
第 4 回	Unit 2 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	40 分 50 分
第 5 回	Unit 3 The UK: The Beatles Audition 助動詞 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	40 分 50 分
第 6 回	Unit 3 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	40 分 50 分
第 7 回	Unit 4 Egypt: Exploring the Great Sphinx 受動態 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	40 分 50 分
第 8 回	Unit 4 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	40 分 50 分
第 9 回	Unit 5 Germany: Founders of Adidas and Puma 現在完了 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	40 分 50 分
第 10 回	Unit 5 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	40 分 50 分
第 11 回	Unit 6 New Zealand: The Haka Dance Legacy 進行形 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	40 分 50 分
第 12 回	Unit 6 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	40 分 50 分
第 13 回	Unit 7 Thailand: The Land of Smiles 比較級 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	40 分 50 分
第 14 回	Unit 7 y Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	40 分 50 分
第 15 回	Review Chapters 1-7 理解度確認テスト	事前 理解度確認テストの準備をする。 事後 理解不足の箇所を復習する。	40 分 50 分

フィードバック

授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価

授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取り組み 50%】

テキスト

Akihiko Sato, Richard Heselton, “English Across the World”, 成美堂

オフィスアワー

授業開始前もしくは終了後、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	☑	□	□

英語コミュニケーションⅡ-2

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG402

専門／学年： 全専門／専攻科 2 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 前期に引き続き教科書で扱われる各国の概要を理解し、重要な語句を確認する。ターゲットとなる文法を学び、会話例を実際に運用し、日常生活でよく使われる表現を学ぶ。各ユニットのまとめとして「Presentation」を行い、発信する英語力を定着させ、自信を持って英語を駆使する力を養う。

到達目標 相手の立場を理解し、情報を的確に伝え、また説得や意見交換できることをゴールとする。自分の意見を平易に「通じる」英語で表現するとともに、相手の意見にも的確に英語で応じることができる。

授業計画

第 1 回	Unit 8 The USA: The Gift of the Statue of Liberty 最上級 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	60 分 210 分
第 2 回	Unit 8 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	90 分 180 分
第 3 回	Unit 9 Finland: Saunas Worldwide 不定詞・動名詞 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	90 分 180 分
第 4 回	Unit 9 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	90 分 180 分
第 5 回	Unit 10 Belgium: The Logo of GODIVA 使役動詞 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	90 分 180 分
第 6 回	Unit 10 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	90 分 180 分
第 7 回	Unit 11 Kenya: The Secret of Distance Runners 仮定法 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	90 分 180 分
第 8 回	Unit 11 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	90 分 180 分
第 9 回	Unit 12 France: The House of Coco Chanel 関係代名詞 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	90 分 180 分
第 10 回	Unit 12 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	90 分 180 分
第 11 回	Unit 13 Ireland: The Guinness Book and Beer 接続詞 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	90 分 180 分
第 12 回	Unit 13 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	90 分 180 分
第 13 回	Unit 14 Peru: The Lost City of the Incas 前置詞 Vocabulary, Word Mapping, Target Grammar, Conversation with Listening 1	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	90 分 180 分
第 14 回	Unit 14 Conversation with Listening 2, Presentation	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。Presentation を書いて提出。	90 分 180 分
第 15 回	Review Chapters 8-14 理解度確認テスト	事前 理解度確認テストの準備をする。 事後 理解不足の箇所を復習する。	180 分 90 分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取り組み 50%】

テキスト Akihiko Sato, Richard Heselton, “English Across the World”, 成美堂

オフィスアワー 業開始前もしくは終了後、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

アクティブ・ラーニング ペアワークを活かしたアクティブな学びを通じて、能動的な英語習得を目指す。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	□		□

専門／学年： ピアノ専門／専攻科１年次

形態：実技	単位数 2単位
概要	技術と感性を磨き、知識に裏付けられた表現を学ぶ。

到達目標	それぞれの作品に即した様式、音色、タッチを自ら探求し、より深い表現力を習得する。
------	--

授業計画		前期 15 回、各人 60 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
第 1 回	ガイダンス 1 年間の学習計画を立てる	事前 レパートリーに加えたい作品を選ぶ 事後 前期の目標を設定し、勉強方針を立てる 420 分
第 2 回	前期試験曲 作品の概要、時代背景	事前 読譜をはじめる 事後 作曲家について調べる 420 分
第 3 回	前期試験曲 読譜の確認	事前 作品の様式を意識しながら、読譜を進める 事後 正しい読譜ができているか確認をする 420 分
第 4 回	前期試験曲 楽譜の読み込み	事前 作曲家の時代背景を考える 事後 記譜の細部まで意識して、作曲家の意図を考えながら練習をする 420 分
第 5 回	前期試験曲 アーティキュレーションと奏法	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 様式に即した奏法を確認して、練習をする 420 分
第 6 回	前期試験曲 フレーズ感と脱力	事前 アーティキュレーション、スラーの確認をして、練習をする 事後 フレーズ感をもって演奏しているか確認をして、練習をする 420 分
第 7 回	前期試験曲 和声感	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和声の響きを意識して、練習をする 420 分
第 8 回	前期試験曲 形式・様式	事前 作曲家の要求している音色を探り、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉えて、練習をする 420 分
第 9 回	前期試験曲 強弱とコントラスト	事前 強弱の確認をして、練習をする 事後 コントラストの付け方の研究をして、練習をする 420 分
第 10 回	前期試験曲 細かいニュアンス	事前 タッチの確認をして、練習をする 事後 色彩感のある音を出しているか確認をして、練習をする 420 分
第 11 回	前期試験曲 テンポ感	事前 最終的なテンポを設定する 事後 テンポの不自然なふらつきがないか確認をして、練習をする 420 分
第 12 回	前期試験曲 響きを聴く	事前 和声の響きを聴いているか確認をして、練習をする 事後 声部それぞれが生きて立体的な演奏になっているか確認をして、練習をする 420 分
第 13 回	前期試験曲 仕上げ 1	事前 表現を掘り下げて、練習をする 事後 独自の表現ができているか確認をして、練習をする 420 分
第 14 回	前期試験曲 仕上げ 2	事前 曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする 事後 細部の確認をする 420 分
第 15 回	前期試験曲 仕上げ 3	事前 問題点の最終確認と反復練習 事後 全体の流れを確認する 420 分
フィードバック	前期演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。	

成績評価	実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％、課題 20％、授業態度 20％ 試験にレッスンへの取り組みを加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。
テキスト	適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 教員のレッスン室で対応する。(教員レッスン日)

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	□	☒	☒	□	☒	☒	□	□

専門／学年： ピアノ専門／専攻科 1 年次

形態：実技	単位数 2 単位
概要	技術と感性を磨き、知識に裏付けられた表現を学ぶ。

到達目標	それぞれの作品に即した様式、音色、タッチを自ら探求し、より深い表現力を習得する。
------	--

授業計画	後期 15 回、各人 60 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
------	---

第 1 回	オーディションの曲 読譜の確認	事前	楽語を調べ、意識をして読譜をする	420 分
		事後	正しい読譜ができているか確認をする	420 分
第 2 回	オーディションの曲 様式・形式	事前	作曲時の時代背景を調べる	420 分
		事後	形式を考えて練習をする	420 分
第 3 回	オーディションの曲 表現	事前	表現方法を考えて練習をする	420 分
		事後	表現する上で最適なテンポを探り、練習をする	420 分
第 4 回	オーディションの曲 仕上げ	事前	作曲家の要求している音色を探り、練習をする	420 分
		事後	曲のキャラクターを考えて練習をする	420 分
第 5 回	自由曲 後期試験に向けて、技術面・表現面の向上のための課題に取り組む 1	事前	技術面・表現面での自分の弱点や課題点を把握し、新たに取り組みたい曲を選ぶ	420 分
		事後	読譜と弾き込み	420 分
第 6 回	自由曲 後期試験に向けて、技術面・表現面の向上のための課題に取り組む 2	事前	課題克服のための練習の仕方を考え、工夫する	420 分
		事後	自由曲の仕上げ	420 分
第 7 回	後期試験曲 読譜の確認	事前	後期試験曲の楽語を調べ、読譜をする	420 分
		事後	正しい読譜ができているか確認をする	420 分
第 8 回	後期試験曲 形式・様式	事前	曲の大きな流れや様式に合った表現を考え、練習をする	420 分
		事後	作曲家の時代背景を調べる	420 分
第 9 回	後期試験曲 表現	事前	アーティキュレーション、スラーなどの細部も確認して、練習をする	420 分
		事後	表現する上で最適なテンポを探す	420 分
第 10 回	後期試験曲 和声感	事前	和声機能の確認をして練習をする	420 分
		事後	和音の響きを意識して練習をする	420 分
第 11 回	後期試験曲 強弱	事前	強弱の確認をして練習をする	420 分
		事後	コントラストの付け方の研究をして練習をする	420 分
第 12 回	後期試験曲 音色	事前	作曲家の要求しているニュアンスを探り、練習をする	420 分
		事後	曲のキャラクターを考えて練習をする	420 分
第 13 回	後期試験曲 細部の表現	事前	音色・コントラストを考えて、練習をする	420 分
		事後	フレーズ感をもって演奏をしているか確認をして練習をする	420 分
第 14 回	後期試験曲 細部の音色	事前	タッチの確認をして練習をする	420 分
		事後	色彩感のある音を出しているか確認をして、練習をする	420 分
第 15 回	後期試験曲 仕上げ	事前	和音の響きを聴いているか確認をして練習をする	420 分
		事後	声部それぞれが生きて立体的な演奏になっているか確認をして練習をする	420 分

フィードバック オーディション・後期演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％、課題 20％、授業態度 20％
試験にレッスンへの取り組みを加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 教員のレッスン室で対応する。(教員レッスン日)

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	□	☒	☒	□	☒	☒	□	□

専門実技研究Ⅱ-1（ピアノ）

実技科目主任（ピアノ） 准教授 倉地恵子 科目コード：IND401

専門／学年： ピアノ専門／専攻科2年次

形態：実技	単位数 2単位
概要	様々なタッチの研究をし、色彩感溢れた音色と表現を追求する。

到達目標 学内演奏会にて、ホールの広い空間での響きを聴き、研究の成果を発揮する。

授業計画	前期 15 回、各人 60 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
------	---

第1回	ガイダンス 1年間の学習計画を立てる	事前 レパートリーに加えたい作品を選ぶ	420分
		事後 前期の目標を設定し、勉強方針を立てる	420分
第2回	学内演奏会の曲 作品の概要、時代背景	事前 読譜をはじめる	420分
		事後 作曲家について調べる	420分
第3回	学内演奏会の曲 読譜の確認	事前 作品の様式を意識しながら、読譜を進める	420分
		事後 正しい読譜ができているか確認をする	420分
第4回	学内演奏会の曲 楽譜の読み込み	事前 作曲家の時代背景を考える	420分
		事後 記譜の細部まで意識して、作曲家の意図を考えながら練習をする	420分
第5回	学内演奏会の曲 アーティキュレーションと奏法	事前 表現方法を考えて、練習をする	420分
		事後 様式に即した奏法を確認して、練習をする	420分
第6回	学内演奏会の曲 フレーズ感と脱力	事前 アーティキュレーション、スラーの確認をして、練習をする	420分
		事後 フレーズ感をもって演奏しているか確認をして、練習をする	420分
第7回	学内演奏会の曲 和声感	事前 和声機能の確認をして、練習をする	420分
		事後 和声の響きを意識して、練習をする	420分
第8回	学内演奏会の曲 形式・様式	事前 作曲家の要求している音色を探り、練習をする	420分
		事後 曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420分
第9回	学内演奏会の曲 強弱とコントラスト	事前 強弱の確認をして、練習をする	420分
		事後 コントラストの付け方の研究をして、練習をする	420分
第10回	学内演奏会の曲 細かいニュアンス	事前 タッチの確認をして、練習をする	420分
		事後 色彩感のある音を出しているか確認をして、練習をする	420分
第11回	学内演奏会の曲 テンポ感	事前 最終的なテンポを設定する	420分
		事後 テンポの不自然なふらつきがないか確認をして、練習をする	420分
第12回	学内演奏会の曲 響きを聴く	事前 和声の響きを聴いているか確認をして、練習をする	420分
		事後 声部それぞれが生きて立体的な演奏になっているか確認をして、練習をする	420分
第13回	学内演奏会の曲 仕上げ 1	事前 表現を掘り下げて、練習をする	420分
		事後 独自の表現ができているか確認をして、練習をする	420分
第14回	学内演奏会の曲 仕上げ 2	事前 曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする	420分
		事後 細部の確認をする	420分
第15回	学内演奏会の曲 仕上げ 3	事前 広い空間での響きを意識して、練習をする	420分
		事後 全体の流れを確認する	420分

フィードバック 学内演奏会の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 学内演奏会の評価が、50点以上であること。定期試験 60%、課題 20%、授業態度 20%

評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 教員のレッスン室で対応する。（教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	□	☒	☒	□	☒	☒	□	□

専門／学年： ピアノ専門／専攻科2年次

形態：実技	単位数 2単位
概要	様々なタッチの研究をし、色彩感溢れた音色と表現を追求する。

到達目標 修了演奏試験においてスケールの大きな説得力のある演奏ができることを目標とする。

授業計画	後期 15 回、各人 60 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
------	---

第 1 回	オーディションの曲 読譜の確認	事前	楽語を調べ、意識をして読譜をする	420 分
		事後	正しい読譜ができているか確認をする	420 分
第 2 回	オーディションの曲 様式・形式	事前	作曲時の時代背景を調べる	420 分
		事後	形式を考えて練習をする	420 分
第 3 回	オーディションの曲 表現	事前	表現方法を考えて練習をする	420 分
		事後	作曲家の要求している音色を探り、練習をする	420 分
第 4 回	オーディションの曲 仕上げ	事前	広い空間での響きを意識した音・表現を探る	420 分
		事後	曲のキャラクターを考えて練習をする	420 分
第 5 回	修了演奏試験曲 読譜の確認	事前	楽語を調べ、意識をして読譜をする	420 分
		事後	正しい読譜ができているか確認をする	420 分
第 6 回	修了演奏試験曲 形式・様式	事前	作曲時の時代背景を調べる	420 分
		事後	形式を考えて練習をする	420 分
第 7 回	修了演奏試験曲 表現	事前	表現方法を考えて練習をする	420 分
		事後	表現する上で最適なテンポを探り、練習をする	420 分
第 8 回	修了演奏試験曲 和声感	事前	和声機能の確認をして練習をする	420 分
		事後	和音の響きを意識して練習をする	420 分
第 9 回	修了演奏試験曲 強弱	事前	強弱の確認、曲の構成を意識し練習をする	420 分
		事後	コントラストの付け方の研究をして練習をする	420 分
第 10 回	修了演奏試験曲 音色	事前	作曲家の要求しているニュアンスを探り、練習をする	420 分
		事後	曲のキャラクターを考えて練習をする	420 分
第 11 回	修了演奏試験曲 ペダルの確認	事前	自分の演奏を客観的に聴き、ペダルの使用法について考える	420 分
		事後	効果的なペダリングの研究	420 分
第 12 回	修了演奏試験曲 細部の表現	事前	音色、コントラストをを考えて、練習をする	420 分
		事後	フレーズ感をもって演奏をしているか確認をして練習をする	420 分
第 13 回	修了演奏試験曲 細部の音色	事前	タッチの確認をして練習をする	420 分
		事後	色彩感のある音を出しているか確認をして、練習をする	420 分
第 14 回	修了演奏試験曲 仕上げ 1	事前	和音の響きを聴いているか確認をして練習をする	420 分
		事後	声部それぞれが生きて立体的な演奏になっているか確認をして練習をする	420 分
第 15 回	修了演奏試験曲 仕上げ 2	事前	試演行ってその演奏を自分で客観的に聴き、仕上げをする	420 分
		事後	広い空間での響きを意識した音・表現を探り、本番での演奏をイメージする	420 分

フィードバック オーディション・修了演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 修了演奏試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％、課題 20％、授業態度 20％
評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。

テキスト 適宜授業内に指示する

オフィスアワー 教員のレッスン室で対応する。（教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐

形態：実技	単位数 2単位
概要	この授業は学修の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。 短大で学んだ基礎を元に、より高度な技術、表現方法を体得する。

到達目標	専攻科1年前期の課題はバロック。演奏するパートのみを学ぶのではなく、バロック音楽の特徴でもある対位法と通奏低音も学ぶ。 試験前は数曲学修し、その中から一曲を選択し試験に臨むこと。（この内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある）
------	---

授業計画	以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の進度により適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな楽曲、また、より高度な楽曲に挑戦し、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。		
第1回	前期の学修計画を立てる	事前 短大時代の学修を確認し学修計画案を立てる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な楽譜等準備をする	420分 420分
第2回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第3回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第4回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ（装飾法を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第5回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第6回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第7回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第8回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。試験曲を決める	420分 420分
第9回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第10回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第11回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ（装飾法を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第12回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第13回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第14回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第15回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、前期試験に向けて練習する。	420分 420分

フィードバック 前期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験評価が50点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室およびレッスン室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1回あたりの時間数（事前・事後）は各実技担当教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	基礎・応用スキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	□	☒	□	☒	☒	☒	☒	□	☒	□	□	□

形態：実技	単位数 2 単位
概要	この授業は学修の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。 短大で学んだ基礎を元に、より高度な技術、表現方法を体得する。

到達目標	専攻科1年次後期の課題は古典時代。演奏するパートのみを学修するのではなく、多くの音楽的所産を生み出した古典派音楽の特徴を学ぶこと。試験前は数曲学修し、その中から一曲を選択し試験に臨むこと。（この内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある）
------	---

授業計画	以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の進度により適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな楽曲、また、より高度な楽曲に挑戦し、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。			
第1回	後期の学修計画を立てる	事前	前期の学修を確認し、後期の学修計画案を立てる	420 分
		事後	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な楽譜等準備をする	420 分
第2回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派時代の楽曲を数曲学ぶ（時代背景を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第3回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第4回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第5回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第6回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第7回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第8回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。試験曲を決める	420 分
第9回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第10回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第11回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第12回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第13回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第14回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第15回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、後期試験に向けて練習する。	420 分

フィードバック 後期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験評価が 50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室およびレッスン室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は各実技担当教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

専門／学年： 器楽専門／2 年次

形態：実技	単位数 2 単位
概要	この授業は学修の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。 専攻科 1 年次で学んだ基礎を元に、より高度な技術、表現方法を体得する。

到達目標	専攻科 2 年次前期の課題はロマン派。演奏するパートのみを学修するのではなく、感情や主観などを表現に出してゆくロマン派音楽の特徴を学ぶこと。試験前は数曲学修し、その中から一曲を選択し学内演奏会に臨むこと。（この内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある）
------	---

授業計画	以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の進度により適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな楽曲、また、より高度な楽曲に挑戦し、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。			
第 1 回	前期の学修計画を立てる	事前	一年次後期の学修を確認し、前期の学修計画案を立てる	420 分
		事後	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な楽譜等準備をする	420 分
第 2 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード ロマン派の楽曲を数曲学ぶ（時代背景を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 3 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード ロマン派の楽曲を数曲学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 4 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード ロマン派の楽曲を数曲学ぶ（テクニックを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 5 回	グルーブレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 6 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード ロマン派の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 7 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード ロマン派の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 8 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード ロマン派の楽曲を数曲学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。試験曲を決める	420 分
第 9 回	グルーブレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 10 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 11 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 12 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 13 回	グルーブレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 14 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 15 回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（ホールリハーサル）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、学内演奏会に向けて練習する。	420 分

フィードバック 学内演奏会の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験評価が 50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室およびレッスン室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は各実技担当教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	フミ・テクノロジー・人材	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

形態：実技	単位数 2 単位
概要	この授業は学修の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。 専攻科1年次で学んだ基礎を元に、より高度な技術、表現方法を体得する。

到達目標	専攻科2年次後期の課題は近代・現代音楽。演奏するパートのみを学修するのではなく、印象派や抽象的な音楽の近・現代の特徴を学ぶこと。試験前は数曲学修し、その中から一曲を選択し修了演奏試験に臨むこと。（この内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある）
------	--

授業計画	以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の進度により適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな楽曲、また、より高度な楽曲に挑戦し、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。			
第1回	後期の学修計画を立てる	事前	2年次前期の学修を確認し、後期の学修計画案を立てる	420分
		事後	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な楽譜等準備をする	420分
第2回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 近代・現代音楽の楽曲を数曲学ぶ（時代背景を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第3回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 近代・現代音楽の楽曲を数曲学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第4回	グルーブレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第5回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 近代・現代音楽の楽曲を数曲学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第6回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 近代・現代音楽の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第7回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 近代・現代音楽の楽曲を数曲学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第8回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 近代・現代音楽の楽曲を数曲学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。修了演奏試験曲を決める	420分
第9回	グルーブレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第10回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 修了演奏試験用の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第11回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 修了演奏試験用の楽曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第12回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 修了演奏試験用の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第13回	グルーブレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第14回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 修了演奏試験用の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分
第15回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 修了演奏試験用の楽曲を学ぶ（ホールリハーサル）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、修了演奏試験に向けて練習する。	420分

フィードバック 修了演奏試験後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験評価が 50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室およびレッスン室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は各実技担当教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	フミ・テクノロジー・人材	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	□	☒	□	☒	☒	☒	☒	□	☒	□	□	□

専門／学年： 声楽専門／専攻科1年次

形態：実技	単位数 2単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	より高度な声楽的発声を習得する。演奏技術、表現力の向上を目指す。 個々の声のカテゴリーに合ったレパートリーの拡大をはかる。
------	--

授業計画	15回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材としての確な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。			
第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前	これまでの学修を確認し学習計画を練る	90 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜などの準備をする	210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 呼吸法、発声法を中心に	事前	発声練習を重ね、次のレッス予定のエチュード、歌曲の譜読みをする	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 3 回	エチュード・歌曲 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前	次のレッス予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前	次のレッス予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 5 回	グルーブレッスン① 詩の内容を理解する	事前	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、および演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グルーブレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次のレッス予定の楽曲の練習を重ねる（歌詞の意味を調べる）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 オペラ・アリアやオラトリオ・ミサ曲等の宗教作品を中心に学習	事前	次のレッス予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 8 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、前期試験の演奏曲目を選択する	事前	次のレッス予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 9 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前	次のレッス予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 10 回	グルーブレッスン② 言語、和声感、様式感を中心に 問題点の認識と解決をはかる	事前	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、および演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グルーブレッスンでの演奏を振り返り、練習する	210 分
第 11 回		事前	次のレッス予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 12 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前	伴奏合わせを重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 13 回	ピアノ伴奏を伴い暗譜を確かなものとする	事前	伴奏合わせを重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 14 回	グルーブレッスン③ ピアノ伴奏とともに演奏の質を高める	事前	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、および演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グルーブレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分
第 15 回	前期試験の予行演習をする	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分

フィードバック 前期試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次への課題を話し合う。

成績評価 前期演奏試験による成績 75%、授業への積極的な取り組み 25%

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 授業後各教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門／学年： 声楽専門／専攻科1 年次

形態：実技	単位数 2 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	より高度な声楽的発声を習得する。演奏技術、表現力の向上を目指す。 個々の声のカテゴリーに合ったレパートリーの拡大をはかる。
------	--

授業計画	15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材としての確な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。		
第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 3 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 4 回	グルーブレッスン① ーオーディション曲の仕上げー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分 210 分
第 5 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 6 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 7 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前 課題曲の練習を重ねる（言葉のディクシオンに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 8 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 課題曲の練習を重ねる（言葉のディクシオンに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 9 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 課題曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 10 回	グルーブレッスン② 問題点の認識と解決をはかる	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習 事後 グループレッスンでの演奏を振り返り、復習する	210 分 210 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 12 回	ピアノ伴奏を伴い暗譜を確かなものとする	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 伴奏合わせを重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 14 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ ー表現ー	事前 呼吸、テンポ等伴奏者と確認する 事後 伴奏合わせを繰り返し、暗譜をする	210 分 210 分
第 15 回	グルーブレッスン③ 後期試験曲一仕上げー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習 事後 伴奏者とともに曲の完成度を上げていく	210 分 210 分

フィードバック 後期試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う。

成績評価 学年末演奏試験による成績 75％、授業への積極的な取り組み 25％

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 授業後、各教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	□	☒	□	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	□

形態：実技	単位数 2単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	発声および演奏技術、表現力をさらに深く研究する。 最終年次生としてのレパートリーの拡大をはかり、その演奏の完成度を高める。
------	--

授業計画	15回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材としての確な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。			
第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前	これまでの学修を確認し学習計画を練る	90 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法・発声法を中心に	事前	発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 3 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 5 回	グルーブレッスン① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む 表現の発展	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 オペラ・アリアやオラトリオ・ミサ曲等の宗教作品を中心に学習	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言葉のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 8 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言葉のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 9 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言葉のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 10 回	グルーブレッスン② 上記に基づき演奏の深化をはかる	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 11 回	問題点の認識と解決をはかる	事前	事前にピアニストと伴奏合わせをする（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 12 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前	事前にピアニストと伴奏合わせをする	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 13 回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる 日本歌曲を含む	事前	伴奏合わせを重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 14 回	グルーブレッスン③ 学修成果録音準備	事前	伴奏合わせを重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 15 回	学内演奏会の予行演習をする 学修成果録音準備	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の是正をはかる	210 分

フィードバック 学内演奏会後に個人面談の形で振り返り、成果、及び問題点を洗い出す。

成績評価 学内演奏会の成績による成績 75％、授業への積極的な取組み 25％

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 授業後、各教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	フミニ・ナツシヨウ・人材	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

形態：実技	単位数 2 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。
到達目標	発声および演奏技術、表現力をさらに深く研究する。 最終年次生としてのレパートリーの拡大をはかり、その演奏の完成度を高める

授業計画	15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材としての確な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。		
第 1 回	前期の成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 3 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究①	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 4 回	グループレッスン① 異なる時代、異なる言語による作品の比較研究②	事前 自分の声に合うオペラのレパートリーを考える 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 5 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 6 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 7 回	各々の声の κατηγορία を踏まえ、複数の課題楽曲を選択する（後期分）	事前 課題曲の練習を重ねる（言語のディクシ ョンに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 8 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（後期分）	事前 課題曲の練習を重ねる（言葉のディクシ ョンに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 9 回	上記に基づき演奏の深化をはかる（後期分）	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 10 回	問題点の認識と解決を図る（後期分）	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（後期分）	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 12 回	グループレッスン② 暗譜を確かなものとする（後期分）	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 14 回	暗譜の上、演奏の完成度を高める 修了演奏に向けて	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 15 回	グループレッスン③ 修了演奏に向けて	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分

フィードバック 修了演奏試験後に個人面談の形で振り返り、これまでの成果や今後の音楽との関わり方等を話し合う。

成績評価 修了演奏試験の成績 75%、授業への積極的な取り組み 25%

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 授業後、各教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニ・プロジェクト	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

修了演奏研究

専門／学年：器楽専門／専攻科2年次

形態：演習	単位数 2単位
概要	これまでに学修で身につけた知識・理解や技能をもとに総合的な学修をおこない、問題発見・解決に必要な論理的・創造的思考力を解決し、修了演奏試験に向けての準備をする。

到達目標 短期大学2年間、専攻科2年間の集大成として楽曲を選曲し、修了演奏試験まで問題発見し、それを解決することを目標とする。

授業計画					
第1回	学修成果録音曲の研究 様式	楽曲分析①	事前	楽曲分析①の予習	楽譜を見ながら音源を聴く 120分
			事後	楽曲分析①の復習	分析譜を見ながら音源を聴く 120分
第2回	学修成果録音曲の研究 形式	楽曲分析②	事前	楽曲分析②の予習	楽譜を見ながら音源を聴く 120分
			事後	楽曲分析②の復習	分析譜を見ながら音源を聴く 120分
第3回	学修成果録音曲の研究 語法	楽曲分析③	事前	楽曲分析③の予習	楽譜を見ながら音源を聴く 120分
			事後	楽曲分析③の復習	分析譜を見ながら音源を聴く 120分
第4回	学修成果録音曲の研究（説明書指導）④		事前	事前に第3回までの研究内容の概要をまとめる。	120分
			事後	授業に基づき説明書を作成する。	120分
第5回	学修成果録音曲の研究（説明書指導）⑤		事前	説明書作成上の疑問点を整理する。	120分
			事後	説明書を完成させる。	120分
第6回	学修成果録音曲の指導 ① 伴奏合わせ		事前	演奏するソロパートのみならず、伴奏譜を研究し、しっかりイメージを創る。	120分
			事後	タイミング、音楽表現などの問題点を洗い出し、録音に向けての準備をする。	120分
第7回	学修成果録音曲の指導 ② 学修成果録音		事前	録音する場所で合わせ練習、仮録音をしてマイクの位置などを確認する。	120分
			事後	録音したものをよく聴き、ミスなどをチェック、場合によっては後日再録音をする。	120分
第8回	学修成果録音曲の研究（面接指導）⑥		事前	レポート内容についての質問に答えられるように準備する。	120分
			事後	面接を通して課題を把握する	120分
第9回	学修成果録音曲の研究（面接指導）⑦		事前	課題解決をして面接の準備をする。	120分
			事後	自己評価を通して次の課題を見出す。	120分
第10回	修了演奏試験曲の研究 様式、形式	楽曲分析①	事前	楽曲分析①の予習	楽譜を見ながら音源を聴く 120分
			事後	楽曲分析①の復習	分析譜を見ながら音源を聴く 120分
第11回	修了演奏試験曲の研究 語法	楽曲分析②	事前	楽曲分析②の予習	楽譜を見ながら音源を聴く 120分
			事後	楽曲分析②の復習	分析譜を見ながら音源を聴く 120分
第12回	修了演奏試験曲の研究（修了演奏小論文指導）③		事前	小論文原稿の説明準備をする。	120分
			事後	自己の課題を見出し、小論文の見直しを行う。	120分
第13回	修了演奏試験曲の研究（修了演奏小論文指導）④		事前	自己の課題解決による小論文原稿を準備する。	120分
			事後	課題を基に見直しをもって完成させる。	120分
第14回	修了演奏試験曲の指導 ① 伴奏合わせ		事前	演奏するソロパートのみならず、伴奏譜を研究し、しっかりイメージを創る。	120分
			事後	タイミング、音楽表現などの問題発見をして、試験に向けての準備をする。	120分
第15回	修了演奏試験曲の指導 ② ホールリハーサル		事前	通常の試験会場とホールとの違いをイメージし、ホールリハーサルに備える	120分
			事後	ホールでの伴奏楽器とのバランス、響を感じ取り、試験に向かって準備する。	120分

フィードバック 毎回の課題に対し教員からのコメントをフィードバックとする。

成績評価 修了演奏試験 80%、レポート 20%

テキスト 修了演奏試験曲楽譜

オフィスアワー 授業の前後 メールでも予約できる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・ 自然の理解	音楽実技 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	コミュニケーション スキル	音楽応用 スキル	論理的思考 力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・自 己管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自 発的発信力	グローバル な視野	社会的責 任・倫理観	生涯学習 意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

合唱と指導Ⅰ-1・Ⅱ-1

非常勤講師 大隈優梨子

科目コード：VEN301／VEN401

専門／学年： 全専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要	合唱における基本的な歌唱法、姿勢、ストレッチ、呼吸法、発声法や曲についての知識を学ぶ、演奏会に向けて実践練習を重ねる実習形式の講義である。

到達目標	ハーモニーを作りあげるプロセスを体得し、様々な合唱様式や表現方法を学ぶことを目標とする。 また、合唱の指導を実践し、自分の考えやイメージを相手に正しく伝える力、問題点をみつけ、解決する力を身につける。
------	---

授業計画		
第 1 回	ガイダンス「声種分け」	事前 自分がどのパートに相応しいか考える 事後 音域、音色について考える 40 分 50 分
第 2 回	合唱の基礎トレーニング 1「呼吸、ストレッチ、姿勢」	事前 合唱曲の譜読みをする 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分
第 3 回	合唱の基礎トレーニング 2「子音、母音、口腔内について」	事前 呼吸、ストレッチをする 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分
第 4 回	合唱の基礎トレーニング 3「表情筋を感じる」	事前 顔の筋肉を動かしてみる 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分
第 5 回	合唱の基礎トレーニング 4「歌うポジションで母音を発語する」	事前 話すポジションと歌うポジションの違いを考える 事後 授業内で指摘された箇所の練習 40 分 50 分
第 6 回	合唱の基礎トレーニング 5「練習曲①をハミングで歌う」	事前 巻き舌、ハミングを練習する 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分
第 7 回	合唱の基礎トレーニング 6「練習曲①を母音をつけて歌う」	事前 練習曲①をさらう 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分
第 8 回	定期演奏会リハーサル「パートリーダーの重要性」	事前 パートリーダーの役割について考える 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分
第 9 回	定期演奏会リハーサル「ハンドサイン」	事前 ハンドサインとは何かを考える 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分
第 10 回	定期演奏会リハーサル「言葉の抑揚で歌う」	事前 歌詞を読んてくる 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分
第 11 回	定期演奏会リハーサル「発音について」	事前 発音記号について調べる 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分
第 12 回	定期演奏会リハーサル「体をつかって表現する」	事前 曲に合わせて体をうごかす 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分
第 13 回	定期演奏会リハーサル「合唱指導のテクニック」	事前 合唱指導とは何かを考える 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分
第 14 回	定期演奏会リハーサル「合唱を指揮する（基礎）」	事前 指揮者の重要性を考える、指揮を試してみる 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分
第 15 回	定期演奏会リハーサル「合唱を指揮する（応用）」	事前 実際に指揮を試してみる 事後 授業内で指摘された所の練習 40 分 50 分

フィードバック リハーサル及び演奏会后コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 リハーサル及び演奏会の評価 60％ 授業への積極的な取り組み 40％

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩時間に講義室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	☑	☑	□	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	□	☑

合唱と指導 I -2・II-2

非常勤講師 大隈優梨子

科目コード：IND302／IND402

専門／学年： 全専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要	合唱における基本的な歌唱法、姿勢、ストレッチ、呼吸法、発声法や曲についての知識を学ぶ。 演奏会に向けて実践練習を重ねる実習形式の講義である。

到達目標	ハーモニーを作りあげるプロセスを体得し、様々な合唱様式や表現方法を学ぶことを目標とする。 また、合唱の指導を実践し、自分の考えやイメージを相手に正しく伝える力、問題点をみつけ解決する力を身につける。
------	--

授業計画				
第 1 回	合唱曲を暗譜する	事前	楽譜を見直す	40 分
		事後	言葉の抑揚に気をつけて音読する	50 分
第 2 回	曲を仕上げていく 1 ステップ、言葉のさばき	事前	暗譜確認、ステップ確認	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 3 回	曲を仕上げていく 2 表現力を身につけ、空間を広げる	事前	自分で指揮をしながら演奏する	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 4 回	曲を仕上げていく 3 それぞれのイメージをまとめる	事前	楽譜を見直しイメージを具現化する	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 5 回	総合練習 ホールを想定した演奏を考える	事前	本番をイメージして演奏する	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 6 回	総合練習 ランスルー	事前	ホールでの演奏をイメージする	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 7 回	ホールリハーサル 1 総合練習、移動の確認	事前	本番を想定する	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 8 回	ホールリハーサル 2 総合練習、楽譜の見直し	事前	歌詞をリズム読みし、ステップを踏む	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 9 回	定期演奏会のリハーサル及び本番	事前	暗譜の確認	40 分
		事後	本番を振り返る	50 分
第 10 回	定期演奏会のふりかえり	事前	本番で一番印象に残ったことを考える	40 分
		事後	選曲を考える	50 分
第 11 回	選曲の重要性	事前	ア・カベラの楽曲を聴いてみる	40 分
		事後	授業で指摘を受けた所の練習	50 分
第 12 回	ア・カベラの楽曲の指揮をする 1	事前	課題曲の譜読み、分担	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 13 回	ア・カベラの楽曲の指揮をする 2	事前	課題曲を指揮する	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 14 回	ア・カベラの楽曲の指揮をする 3	事前	課題曲を練習する	40 分
		事後	授業で指摘された所の練習	50 分
第 15 回	まとめ～合唱指導テクニック・指導者の重要性～	事前	指導者の重要性を考える	40 分
		事後	全体のバランスを考える	50 分

フィードバック 授業前後の指導にて、学修成果をフィードバックする機会を設ける。

成績評価 リハーサル及び演奏会の評価、授業への積極的な取り組みなどで評価

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩時間に講義室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒

日本音楽史概説-1

非常勤講師 櫻井利佳

科目コード：LED301

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：講義	単位数 2単位
概要	日本に現存する様々な史料の検討を通じて日本音楽の歴史を文化史のなかに位置づけ、日本音楽史の文化的・音楽的特徴を理解する。西洋との共通性や差異を考え、双方を相対化しながら、日本の音の文化的嗜好性、音楽家の社会的立場、芸能の場と音づくりとの相関などの具体相を明らかにする。緻密な鑑賞により日本の音楽の本質に沿った耳を鍛え、伝統音楽に対する認識を各自が確立する。
到達目標	日本における音楽の場の豊かな歴史を十分に理解し、学習後の演奏・創作・鑑賞などの音楽生活に生かすことができる。各自が日本文化の担い手の一人としての自覚を持ち、将来の日本文化の在り方について考えを深める。講義を通じて調査力や言語による表現力を強化し、社会人としての活躍に際しての基礎力を自覚的に高める。

授業計画		
第1回	ガイドンス。音楽の端緒 1. 言葉から音楽へ 諸国の言語の特徴（強弱、高低、長短）と童歌、遊び歌の分析 日本音楽史総論	事前 シラバスを通覧し、疑問点を把握する。 30 分 事後 図書館に行き、利用方法や紹介された参考文献の所在を一通り確認する。 240 分
第2回	音楽の端緒 2. 労働から音楽へ 作業歌とリズムの分析	事前 提示された参考文献に目を通し質問の準備をする。 100 分 事後 万博、美術、音楽それぞれの要点を掴み、講義で提示された音楽を鑑賞・分析する。 170 分
第3回	音楽の端緒 3. 輸入された宗教音楽 雅楽と声明の歴史と史料。規範意識と記譜・音律整備。東西の宗教歌。	事前 配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 100 分 事後 唐の楽を将来した意義、国際化社会と音楽との関係について文章でまとめる。 170 分
第4回	雅楽 楽器と種目 正倉院楽器と現代の編成	事前 配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 100 分 事後 楽器編成について調査する。 170 分
第5回	雅楽 平安時代の文化と音楽家	事前 「音楽史料」の多様性について事前調査をし、種類をリストアップする。 100 分 事後 御遊の意義と時代背景、音楽家について要点をまとめる。 170 分
第6回	雅楽 楽譜と音組織 平安雅楽と現代雅楽の比較分析	事前 配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 100 分 事後 記譜法の変化を復習し、平安時代の雅楽と現代雅楽の違いについてまとめる。 170 分
第7回	雅楽 音楽説話 鎌倉時代の楽道と音楽家	事前 配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 100 分 事後 音楽家の認識や思想、社会的役割について、文学や視聴を通して理解を深める。 170 分
第8回	声明 声楽の源流 四箇法要の鑑賞と分析	事前 配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 100 分 事後 法会のなかの声明の役割を振り返り、鑑賞により音楽的特徴を捉える。 170 分
第9回	講式 語り物の源流 涅槃講式の鑑賞と分析	事前 配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 100 分 事後 法会のなかの講式の役割を振り返り、鑑賞により音楽的特徴を捉える。 170 分
第10回	琵琶法師と琵琶楽の歴史 史料分析	事前 配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 100 分 事後 声明から派生した語り物芸能について、歴史と文化史的意義を考察する。 170 分
第11回	平家語りの歴史と平家正節	事前 配布された資料を通読し、質問の準備をする。 100 分 事後 琵琶法師の歴史を振り返り、日本の琵琶楽の変遷をまとめる。 170 分
第12回	平家語りの鑑賞と分析	事前 配布された資料を通読し、質問の準備をする。 100 分 事後 鑑賞により平家語りの音楽的特徴や表現の工夫を捉分析する。 170 分
第13回	中世寺院と諸芸能	事前 配布された資料を通読し、質問の準備をする。 100 分 事後 寺院の音楽史上の役割をまとめておく。鑑賞した音楽を分析する。 170 分
第14回	古代から中世前期までの音楽家	事前 配布された資料を通読し、掲載された音楽家について調べておく。 100 分 事後 各音楽家とその事績を文章でまとめる。 170 分
第15回	日本の音楽の特徴 まとめ	事前 配布された資料を通読し、質問の準備をする。 100 分 事後 レポート指導を踏まえ、中世までの日本の音楽についてレポートを執筆する。 170 分

フィードバック 提出物の添削や質問への回答を通してフィードバックを行う。

成績評価	授業へ参加態度および課題への取り組み（毎時の復習クイズ、講義内の質疑応答、講義内の口頭発表、受講生同士の望ましいコミュニケーション、小レポートや調査への取り組みなど）50%、期末レポート 50%（シラバスに提示した事後学習により身についた学力を問う）
テキスト	講義時に次のプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日 11:00-12:00 日本音楽史研究所

備考 博物館見学、各種音楽芸能の鑑賞をかならず行うため、公開・公演の事前確認を各自こまめに行うこと。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	☑	☑	□	□	□	☑	□	☑	□	□	□	☑	□	□

日本音楽史概説-2

非常勤講師 櫻井利佳

科目コード：LEC302

専門／学年： 全専門／専攻科1 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	日本に現存する様々な史料の検討を通じて日本音楽の歴史を文化史のなかに位置づけ、日本音楽史の文化的・音楽的特徴を理解する。西洋との共通性や差異を考え、双方を相対化しながら、日本の音の文化的嗜好性、音楽家の社会的立場、芸能の場と音づくりとの相関などの具体相を明らかにする。緻密な鑑賞により日本の音楽の本質に沿った耳を鍛え、伝統音楽に対する認識を各自が確立する。
到達目標	日本における音楽の場の豊かな歴史を十分に理解し、学習後の演奏・創作・鑑賞などの音楽生活に生かすことができる。各自が日本文化の担い手の一人としての自覚を持ち、将来の日本文化の在り方について考えを深める。講義を通じて調査力や言語による表現力を強化し、社会人としての活躍に際しての基礎力を自覚的に高める。

授業計画		
第1回	中世 能楽 1：能楽の変遷。	事前 シラバスを通覧し、疑問点を把握する。 30 分 事後 能楽史の要点を整理する。図書館で紹介された参考文献の所在を一通り確認する。 240 分
第2回	中世 能楽 2：世阿弥と禪文化。能楽論。	事前 配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 100 分 事後 講義で提示された史料を読み、能楽論における禪の影響を考察する。 170 分
第3回	中世 能楽 3：謡と囃子 謡の鑑賞と分析。	事前 配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 100 分 事後 囃子、謡それぞれの役割を調べ、自分なりに文化史的意義を考察する。 170 分
第4回	中世 能楽 4：能楽の鑑賞と分析 (DVD)	事前 鑑賞曲について事前調査をしておく。 100 分 事後 能・狂言と現代の芸能との関係話し合う (グループワーク)。 170 分
第5回	近世 江戸時代の文化と三味線音楽の歴史。	事前 配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 100 分 事後 参考文献を用いて三味線音楽についてまとめる。 170 分
第6回	近世の劇場音楽 竹本義太夫と近松門左衛門。	事前 配布されたテキストを通覧し、質問の準備をする。 100 分 事後 時代を風靡する近世芸能について、その要因について考察する。 170 分
第7回	近世の劇場音楽 文案の鑑賞と分析。	事前 鑑賞曲について事前調査をしておく。 100 分 事後 視聴した曲を分析し、理解を深める。 170 分
第8回	近世の劇場音楽 歌舞伎踊、時代物と世話物。	事前 歌舞伎について事典項目を読み、基本的事項を理解しておく。 100 分 事後 歌舞伎の変遷をまとめ、文案との関係を掴む。 170 分
第9回	近世の劇場音楽 文運東漸 江戸の町人文化と二大悪所。	事前 配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 100 分 事後 町人文化と芸能との関わりについて考察し、文章でまとめる。 170 分
第10回	近世の劇場音楽 舞踊音楽としての長唄。	事前 配布されたテキストを通覧し、平安時代の文化について理解しておく。 100 分 事後 鑑賞した長唄の特徴を分析し、多様な演目について調査する。 170 分
第11回	近世の劇場音楽 歌舞伎鑑賞	事前 鑑賞曲について事前調査をしておく。 100 分 事後 鑑賞した演目の特徴を分析する。 170 分
第12回	箏の歴史 宮廷、寺、座敷。	事前 配布された資料を通読し、質問の準備をする。 100 分 事後 170 分
第13回	箏曲の鑑賞と分析。	事前 配布された資料を通読し、語彙を調べておく。 100 分 事後 講義で扱った考古学史料に基づき、先史日本の音楽の在りようを文章でまとめる。 170 分
第14回	宮城道雄以降 ジャポニズム。	事前 美術館に行き、ジャポニズムについて作品事例を確認しておく。 100 分 事後 万博、美術、音楽それぞれの要点を掴み、講義で提示された音楽を鑑賞・分析する。 170 分
第15回	まとめ。日本の音楽文化の総括。	事前 レポート作成。 100 分 事後 レポート指導を踏まえ、補筆修正する。 170 分

フィードバック 提出物の添削や質問への回答を通してフィードバックを行う。

成績評価	授業へ参加態度および課題への取り組み（毎時の復習クイズ、講義内の質疑応答、講義内の口頭発表、受講生同士の適切なコミュニケーション、小レポートや調査への取り組みなど） 50%、期末レポート 50%（シラバスに提示した事後学習により身についた学力を問う）
テキスト	講義時に次のプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日 11:00-12:00 日本音楽史研究所

備考 博物館見学、芸日本能の鑑賞をかならず行うため、公開・公演情報をこまめに確認すること。

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	☑	☑	□	□	□	□	□	☑	□	□	□	☑	□	□

音樂理論特殊講義-1

准教授 三宅康弘

科目コード : SLF401

専門／学年：全専門／専攻科 2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	和声法Ⅰ・Ⅱや楽曲分析Ⅰ・Ⅱで学んだことをふまえ、現代の作曲家の小品を楽曲分析し、授業内発表をする。 ソルフェージュで学んだことをふまえ、さらに発展したソルフェージュを行う。 また、学位授与申請で使用する曲を楽曲分析し、授業内発表をする。
到達目標	和声法と楽曲分析の知識を統合させ、総合的な音楽になることを目指す。

授業計画	各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	--------------------------

	【学生による分析】	【ソルフェージュ／教員による分析】		
第1回	ガイダンス 音楽理論とは	事前 ガイダンスの予習 事後 ガイダンスの復習	「音楽理論」の項目を音楽事典で読む	120 分 120 分
第2回	(作品 a) ギロック：こどものためのアルバム 第1曲	事前 作品 a、作品 A の予習 事後 作品 a、作品 A の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第3回	(作品 b) ギロック：こどものためのアルバム 第2曲	事前 作品 b、作品 B の予習 事後 作品 b、作品 B の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第4回	(作品 c) ギロック：こどものためのアルバム 第3曲	事前 作品 c、作品 C の予習 事後 作品 c、作品 C の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第5回	(作品 d) ギロック：こどものためのアルバム 第4曲	事前 作品 d、作品 D の予習 事後 作品 d、作品 D の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第6回	(作品 e) ギロック：こどものためのアルバム 第5曲	事前 作品 e、作品 E の予習 事後 作品 e、作品 E の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第7回	(作品 f) ギロック：こどものためのアルバム 第6曲	事前 作品 f、作品 F の予習 事後 作品 f、作品 F の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第8回	(作品 g) ギロック：こどものためのアルバム 第7曲	事前 作品 g、作品 G の予習 事後 作品 g、作品 G の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第9回	(作品 h) ギロック：こどものためのアルバム 第8曲	事前 作品 h、作品 H の予習 事後 作品 h、作品 H の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第10回	(作品 i) ギロック：こどものためのアルバム 第9曲	事前 作品 i、作品 I の予習 事後 作品 i、作品 I の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第11回	(作品 j) ギロック：こどものためのアルバム 第10曲	事前 作品 j、作品 J の予習 事後 作品 j、作品 J の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第12回	(作品 k) ギロック：こどものためのアルバム 第11曲	事前 作品 k、作品 K の予習 事後 作品 k、作品 K の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第13回	(作品 l) ギロック：こどものためのアルバム 第12曲	事前 作品 l、作品 L の予習 事後 作品 l、作品 L の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第14回	(作品 m) ギロック：こどものためのアルバム 第13曲	事前 作品 m、作品 M の予習 事後 作品 m、作品 M の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120 分 120 分
第15回	まとめ	事前 まよめの予習 事後 まよめの復習		120 分 120 分

フィードバック 分析発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。

成績評価 分析発表 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

音樂理論特殊講義-2

准教授 三宅康弘

科目コード : SLF402

専門／学年：全専門／専攻科2年次

形態：講義

單位數：2 單位

概要	音楽理論特殊講義－1で学んだことをふまえ、あらためてロマン派の作曲家の小品を楽曲分析し、授業内発表をする。 ソルフェージュで学んだことをふまえ、さらに発展したソルフェージュを行う。
----	---

到達目標 和声法と楽曲分析の知識を統合させ、総合的な音楽になることを目指す。

授業計画

各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【学生による分析】	【ソルフェージュ／教員による分析】		
第1回	ガイダンス ロマン派の音楽とは	事前 ガイダンスの予習 事後 ガイダンスの復習	「ロマン派」の項目を音楽事典で読む	120分 120分
第2回	(作品 a) シューマン：子供の情景 第1曲	事前 作品 a、作品 A の予習 事後 作品 a、作品 A の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第3回	(作品 b) シューマン：子供の情景 第2曲	事前 作品 b、作品 B の予習 事後 作品 b、作品 B の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第4回	(作品 c) シューマン：子供の情景 第3曲	事前 作品 c、作品 C の予習 事後 作品 c、作品 C の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第5回	(作品 d) シューマン：子供の情景 第4曲	事前 作品 d、作品 D の予習 事後 作品 d、作品 D の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第6回	(作品 e) シューマン：子供の情景 第5曲	事前 作品 e、作品 E の予習 事後 作品 e、作品 E の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第7回	(作品 f) シューマン：子供の情景 第6曲	事前 作品 f、作品 F の予習 事後 作品 f、作品 F の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第8回	(作品 g) シューマン：子供の情景 第7曲	事前 作品 g、作品 G の予習 事後 作品 g、作品 G の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第9回	(作品 h) シューマン：子供の情景 第8曲	事前 作品 h、作品 H の予習 事後 作品 h、作品 H の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第10回	(作品 i) シューマン：子供の情景 第9曲	事前 作品 i、作品 I の予習 事後 作品 i、作品 I の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第11回	(作品 j) シューマン：子供の情景 第10曲	事前 作品 j、作品 J の予習 事後 作品 j、作品 J の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第12回	(作品 k) シューマン：子供の情景 第11曲	事前 作品 k、作品 K の予習 事後 作品 k、作品 K の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第13回	(作品 l) シューマン：子供の情景 第12曲	事前 作品 l、作品 L の予習 事後 作品 l、作品 L の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第14回	(作品 m) シューマン：子供の情景 第13曲	事前 作品 m、作品 M の予習 事後 作品 m、作品 M の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く	120分 120分
第15回	まとめ	事前 まとめの予習 事後 まとめの復習		120分 120分

フィードバック 分析発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。

成績評価 分析発表 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐

音楽教育方法論-1

※実務経験を持つ教員による授業

小学校、中学校における管理職等の経験を生かして、教育と人間形成、社会とのつながりを理論的、実践的に読み解き、課題解決力を養う授業を行う。

教授 内田有一 科目コード：LEC303

専門／学年： 全専門／専攻科 1 年次

形態：講義 単位数 2 単位

概要 オルフ、ダルクローズ、コダーイ、古川のふりづくりなど教育メソッドを比較し、それぞれの原理を理解する。学生自身が関心のある分野（合唱、吹奏楽等）の教育方法（メソッド）に関する情報を収集し、批判的な検討を通して実践に活用できることを目指すアクティブラーニングを展開する。

到達目標 完成された教育方法は存在しないことを理解し、様々な音楽教育の方法における原理を活用して、社会において音楽教育に関わる際、学習者に合わせて教育方法を創出していく能力を獲得する。

授業計画		
第 1 回	イントロダクション	事前 これまでの学修から世界の特色ある音楽教育法について調べておく。 60 分 事後 興味・関心を持った音楽教育法について資料を集める。 100 分
第 2 回	オルフの音楽教育	事前 オルフに関する資料を収集し、調べておく。 100 分 事後 オルフの音楽的発達の原理についてまとめる。 100 分
第 3 回	ダルクローズの音楽教育	事前 ダルクローズに関する資料を収集し、調べておく。 100 分 事後 ダルクローズの音楽教育活動の特徴についてまとめる。 100 分
第 4 回	コダーイ・メソッド	事前 コダーイ・メソッドの資料を収集し、調べておく。 100 分 事後 ソルフェージュ教育の充実に必要なことについてまとめる。 100 分
第 5 回	ハンドサインと移動ド	事前 幼児期の音楽教育に関する資料を収集し、調べておく。 100 分 事後 コダーイ・メソッドと現代の音楽教育との関連について考察する。 100 分
第 6 回	古川のふしづくり教育	事前 事前配付資料を読む。 100 分 事後 経験の再構成についてまとめる。 100 分
第 7 回	J.マーセルの音楽的成長	事前 事前配付資料を読む。 100 分 事後 発達の経験についてまとめる。 100 分
第 8 回	日本の西洋音楽受容と音楽教育①明治期	事前 音楽教育史資料を読む 120 分 事後 西洋音楽受容 4 つのルートについてまとめる。 150 分
第 9 回	日本の西洋音楽受容と音楽教育②大正～戦中	事前 西洋音楽史資料を読む 110 分 事後 童謡運動についてまとめる。 160 分
第 10 回	日本の西洋音楽受容と音楽教育③戦後	事前 西洋音楽史資料を読む。 110 分 事後 戦後の音楽教育の特徴をまとめる。 160 分
第 11 回	日本の伝統音楽をどのように教えるか（能）	事前 詞章を読む。 110 分 事後 伝統音楽教育の意義を考える。 160 分
第 12 回	ICT を活用した音楽教育の可能性	事前 ICT について調べる。 110 分 事後 ICT の可能性についてまとめる。 160 分
第 13 回	学生の発表に基づく対話型の学習～合唱の教育方法について	事前 発表の準備をする。 110 分 事後 個が生きる教育方法について考察する。 160 分
第 14 回	学生の発表に基づく対話型の学習～器楽の教育方法について	事前 発表の準備をする。 110 分 事後 技術と音楽表現の関わりについて考察する。 160 分
第 15 回	音楽はいかに生活に関わるのか	事前 音楽が生活に関わる事例について考える。 110 分 事後 音楽が生活に関わる意味について考える。 160 分

フィードバック レフレクションペーパーにてフィードバックを継続的に行う。

成績評価 リフレクションペーパー40%、レポート 60%

テキスト 授業の際に資料を配布する。

オフィスアワー 事前にメールで予約し、常時対応する。

アクティブ・ラーニング 教育方法について発表し、批判的思考力を用いて検討する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒

音楽教育方法論-2

※実務経験を持つ教員による授業

小学校、中学校における管理職等の経験を生かして、教育と人間形成、社会とのつながりを理論的、実践的に読み解き、課題解決力を養う授業を行う。

教授 内田有一 科目コード：LEC304

専門／学年： 全専門／専攻科 1 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	教育方法は教育の歴史の中でどのような意味をもって生成されたか考察する。原理を理解する。社会教育における音楽指導者としてのキャリア形成向けに、模擬指導によるピアレビューを通して実践的指導能力の獲得を目指す。

到達目標 音楽教育方法論-1 の発展として、実践的指導能力の獲得と、その理論的な理解ができる。

授業計画		
第 1 回	音楽教育における自己調整	事前 自己調整に関する資料を読む。 事後 メタ認知についてまとめる。 110 分 160 分
第 2 回	エル・システマの分析	事前 エル・システマに関する資料を読む。 事後 エル・システマの理念について考察する。 110 分 160 分
第 3 回	合唱指導の問題点と解決策	事前 事前配付資料を読む。 事後 実践化の課題を考察する。 110 分 160 分
第 4 回	吹奏楽指導の問題点と解決策	事前 事前配付資料を読む。 事後 実践化の課題を考察する。 110 分 160 分
第 5 回	部活動の地域移行①実態把握	事前 インターネットから情報収集する。 事後 実態をまとめる。 110 分 160 分
第 6 回	部活動の地域移行②課題把握と解決策の検討	事前 部活動における課題を考える。 事後 解決策をまとめる。 110 分 160 分
第 7 回	部活動の地域移行③先進地域の事例研究	事前 インターネットから情報収集する。 事後 事例の考察をまとめる。 110 分 160 分
第 8 回	地域が支える音楽教育の在り方	事前 事前配付資料を読む。 事後 地域の音楽活動、教育の考察をする。 110 分 160 分
第 9 回	指導におけるアドラー心理学の応用	事前 アドラーについて資料を読む。 事後 勇気付けについてまとめる。 60 分 100 分
第 10 回	学生による発表とディスカッション①	事前 発表準備、資料の作成をする。 事後 ディスカッションの振り返りをする。 100 分 100 分
第 11 回	学生による発表とディスカッション②	事前 発表準備、資料の作成をする。 事後 ディスカッションの振り返りをする。 100 分 100 分
第 12 回	学生による発表とディスカッション③	事前 発表準備、資料の作成をする。 事後 ディスカッションの振り返りをする。 100 分 100 分
第 13 回	地域における音楽教育の事例研究①	事前 事前資料を読む。 事後 事例研究の考察をする。 100 分 100 分
第 14 回	地域における音楽教育の事例研究②	事前 事前資料を読む。 事後 事例研究の考察をする。 100 分 100 分
第 15 回	生涯学習としての音楽教育の在り方	事前 生涯学習の資料を読む。 事後 生涯学習をテーマにレポートにまとめる。 100 分 150 分

フィードバック レフレクションペーパーにてフィードバックを継続的に行う。

成績評価 リフレクションペーパー40%、レポート 60%

テキスト 授業の際に資料を配布する。

オフィスアワー 事前にメールで予約し、常時対応する。

アクティブ・ラーニング 問題発見と課題解決に発表とディスカッションを通して取り組む。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒

子どもと音楽教育-1

※実務経験を持つ教員による授業

公立小中学校の教諭、管理職経験をもつ教員が、音楽科教育及び特別活動の実務経験を活かし、小学生対象の参加型音楽プログラムの企画、実行を指導する。

教授 内田有一

科目コード: LEC401

対象コース／専門／学年：全専門 2 年次

形態：講義（アウトリーチを含む）

单位 2

概要	学校教育における課外活動や社会教育と連携した音楽教育、及び音楽教室における音楽教育を扱う。J. マーセルの発達の経験の視点から、生涯にわたって音楽や音楽文化に豊かに関わる資質・能力を形成する音楽教育の在り方について考察する。また、教育施設等へのアウトリーチを通して、地域における音楽文化創出に関して実践的に学ぶ。
----	--

到達目標	発達の経験の理論から、学校、社会における音楽教育に関する実践的指導能力を獲得する。また学校等へのアウトリーチを通じた社教 育と関連した実践的課題解決能力を獲得する。
------	---

授業計画

第1回	音楽教育と人間形成～J.マーセルの発達の経験から～	事前 J. マーセル「音楽教育と人間形成」を読む。 事後 マーセルのいう発達の経験についてまとめる。	110 分 160 分
第2回	アウトリーチとは何か	事前 事前配付資料を読む。 事後 アウトリーチの教育的意義をまとめる。	110 分 160 分
第3回	アウトリーチにおけるエンゲージとは何か	事前 事前配付資料を読む。 事後 エンゲージの概念をまとめる。	110 分 160 分
第4回	アウトリーチ対象施設への聞き取り調査	事前 質問事項を整理する。 事後 聞き取り調査による情報についてまとめる	110 分 160 分
第5回	アウトリーチの目的とねらいを明確化する	事前 アウトリーチのねらいを考える。 事後 アウトリーチのねらいと目的について文章でまとめる。	110 分 160 分
第6回	エル・システムを検討する～エルシステムジャパンの活動から～	事前 エル・システムの動画を視聴する。 事後 生きがいのための音楽教育について考察する。	110 分 160 分
第7回	アウトリーチのプログラムを検討する（情報収集）	事前 対話型授業に向けて、考えをまとめる。 事後 プログラムをまとめる。	110 分 160 分
第8回	アウトリーチのプログラムを検討する。（参加型プログラム）	事前 インターネットにおける情報を見つけておく。 事後 参加型プログラム案を作成する。	110 分 160 分
第9回	アウトリーチプログラムを対象施設に説明し、意見を聴取する（オンラインによる対話）	事前 対話型授業に向けて、自身の考えをまとめる。 事後 対象施設のニーズについて考察する。	110 分 160 分
第10回	アウトリーチ対象施設のニーズに基づき、プログラムを再検討する。	事前 対話型授業に向けて、考えをまとめる。 事後 演奏協力者への依頼を行う。	110 分 160 分
第11回	予定楽曲の分析、およびセッションのねらいを検討する。	事前 予定楽曲を用意する。 事後 セッションのねらいをまとめる。	110 分 160 分
第12回	アウトリーチの実施案検討	事前 実施案を作成する。 事後 実施案を完成させ、提出する。	110 分 160 分
第13回	アウトリーチリハーサル	事前 リハーサルの準備 事後 リハーサルの振り返り	110 分 160 分
第14回	アウトリーチ実践	事前 演奏準備を授業外に行う。 事後 振り返りを行う。	110 分 160 分
第15回	アウトリーチの振り返り（対話型授業）	事前 振り返りをもとに発表内容を考える。 事後 アウトリーチの価値について考察する。	110 分 160 分

フィードバック レフレクションペーパーにてフィードバックを継続的に行う。

成績評価 企画・運営文書等 60%、アウトリーチ振返レポート 20%、取り組み 20%、リフレクションを総合して評価する。

テキスト その都度資料を配付する。

オフィスアワー メールにて予約し、常時対応する。

アクティブ・ラーニング 教育施設との打合せや実践活動により、課題解決能力を習得する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒

公立小中学校の教諭、管理職経験をもつ教員が、音楽科教育及び特別活動の実務経験を活かし、小学生対象の参加型音楽プログラムの企画、実行を指導する。

科目コード: LEC402

形態：講義（アウトリーチを含む）

单位 2

到達目標	発達の経験の理論から、学校、社会における音楽教育に関する実践的指導能力を獲得する。また学校等へのアウトリーチを通じた社教育と関連した実践的課題解決能力を獲得する。
------	---

第1回	前期の成果と課題から、目標を設定する。	事前 前期の振り返りレポートを読む。 事後 目標の具現化についてをまとめる。	110 分 160 分
第2回	アウトリーチ事例研究①a cappella	事前 事前配付資料を読む。 事後 事例の考察をまとめる。	110 分 160 分
第3回	アウトリーチ事例研究②音の輪プロジェクト	事前 事前配付資料を読む。 事後 事例の考察をまとめる。	110 分 160 分
第4回	アウトリーチ事例研究③病院施設へのアウトリーチ	事前 事前配付資料を読む。 事後 事例の考察をまとめる。	110 分 160 分
第5回	アウトリーチ対象施設への聞き取り調査	事前 質問事項を整理する。 事後 聞き取り調査による情報についてまとめる	110 分 160 分
第6回	前期の振り返りからアウトリーチの目的とねらいを再構成する。	事前 アウトリーチのねらいを考える。 事後 アウトリーチのねらいと目的について文章でまとめる。	110 分 160 分
第7回	アウトリーチのプログラムを検討する（情報収集）	事前 対話型授業に向けて、考えをまとめる。 事後 プログラムをまとめる。	110 分 160 分
第8回	アウトリーチのプログラムを検討する。（参加型プログラム）	事前 インターネットにおける情報を見つけておく。 事後 参加型プログラム案を作成する。	110 分 160 分
第9回	アウトリーチプログラムを対象施設に説明し、意見を聴取する（オンラインによる対話）	事前 対話型授業に向けて、自身の考えをまとめる。 事後 対象施設のニーズについて考察する。	110 分 160 分
第10回	アウトリーチ対象施設のニーズに基づき、プログラムを再検討する。	事前 対話型授業に向けて、考えをまとめる。 事後 演奏協力者への依頼を行う。	110 分 160 分
第11回	予定楽曲の分析、およびセッションのねらいを検討する。	事前 予定楽曲を用意する。 事後 セッションのねらいをまとめる。	110 分 160 分
第12回	アウトリーチの実施案検討	事前 実施案を作成する。 事後 実施案を完成させ、提出する。	110 分 160 分
第13回	アウトリーチのリハーサル	事前 リハーサルの準備 事後 リハーサルの振り返り	110 分 160 分
第14回	アウトリーチ実践	事前 演奏準備を授業外に行う。 事後 振り返りを行う。	110 分 160 分
第15回	アウトリーチの振り返り（対話型授業）ⅠとⅡを総合的に省察する。	事前 振り返りをもとに発表内容を考える。 事後 アウトリーチの価値について考察する。	110 分 160 分

フィードバック レフレクションペーパーにてフィードバックを継続的に行う。

成績評価 企画・運営等文書 60%、アウトリーチ振返レポート 20% 取り組み 20%、リフレクションを総合して評価する。

テキスト その都度配付する

オフィスアワー 事前にメールで予約し、常時対応する。

アクティブ・ラーニング 教育施設との打合せや実践活動により、課題解決能力を習得する。

備考

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・ 自然	音楽実技 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	コミュニケーション・ スキル	音楽応用 スキル	論理的思考 力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・自己 管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自 発的発露力	グローバルな 視野	社会的責任・倫理観	生涯学習 意識
☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒

ピアノアンサンブル研究 I-1

実技科目主任（ピアノ）	准教授	倉地恵子	科目コード：PEN301
専門／学年：ピアノ専門／専攻科1年次			

形態：実技	単位数	1単位
概要		
モーツァルト・シューベルトの連弾曲のテンポ感、ニュアンス、表現について学ぶ。		

到達目標	連弾曲を様々な角度から掘り下げ、内容の濃い演奏を目指す。
------	------------------------------

授業計画	前期15回、各人30分の個人指導。 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。レパートリーは、必要に応じて変更することがある。
------	--

第1回	ガイダンス	1年間の学習計画を立てる	事前	これまでに勉強したアンサンブルの曲を書き出す	140分
			事後	1年間の目標を設定し勉強方針を立てる	140分
第2回	モーツァルトの連弾曲	テンポ感	事前	KV381 ソナタ ニ長調の読譜をする	140分
			事後	作曲時の時代背景を調べる	140分
第3回	モーツァルトの連弾曲	様式	事前	KV358 ソナタ 変ロ長調の読譜をする	140分
			事後	作曲時の時代背景を調べる	140分
第4回	モーツァルトの連弾曲	表現	事前	KV401 フーガ ト短調の読譜をする	140分
			事後	表現方法を考えて練習をする	140分
第5回	モーツァルトの連弾曲	ニュアンス	事前	KV497 ソナタ ヘ長調の読譜をする	140分
			事後	モーツァルトの要求しているニュアンスをを考えて練習する	140分
第6回	モーツァルトの連弾曲	響き	事前	KV357 アレグロ ト長調の読譜をする	140分
			事後	響きを感じとる練習をする	140分
第7回	モーツァルトの連弾曲	バランス	事前	KV501 アンダンテと変奏曲 ト長調の読譜をする	140分
			事後	全体のバランスをを考えて練習をする	140分
第8回	モーツァルトの連弾曲	まとめ	事前	KV521 ソナタ ハ長調の読譜をする	140分
			事後	作品のイメージを感じとる練習をする	140分
第9回	シューベルトの連弾曲	テンポ感	事前	シューベルトの連弾曲ボロネーズより1曲を選び読譜をする	140分
			事後	ボロネーズのリズムを感じとる練習をする	140分
第10回	シューベルトの連弾曲	様式	事前	シューベルトの連弾曲ソナタより1曲を選び読譜をする	140分
			事後	作曲時の時代背景を調べる	140分
第11回	シューベルトの連弾曲	表現	事前	幻想曲 ヘ長調 Op.103 の読譜をする	140分
			事後	表現方法を考えて練習をする	140分
第12回	シューベルトの連弾曲	ニュアンス	事前	変奏曲より1曲を選び読譜をする	140分
			事後	作曲家の要求しているニュアンスをを考えて練習をする	140分
第13回	シューベルトの連弾曲	響き	事前	行進曲より1曲を選び読譜をする	140分
			事後	音の響き、和声感を感じとる練習をする	140分
第14回	シューベルトの連弾曲	バランス	事前	アレグロ イ短調 Op.144 の読譜をする	140分
			事後	バランスを考え、聴きとり、すぐ反応できる練習をする	140分
第15回	シューベルトの連弾曲	まとめ	事前	ロンド イ長調 Op.107 の読譜をする	140分
			事後	作品のイメージを感じとる練習をする	140分

フィードバック	授業内での課題に対して、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。
---------	-------------------------------------

成績評価	授業態度により、評価をする。課題 50%、授業態度 50%
------	-------------------------------

テキスト	適宜授業内に指示する。
------	-------------

オフィスアワー	担当教員のレッスン室で対応する。
---------	------------------

備考

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	

ピアノアンサンブル研究 I-2

実技科目主任（ピアノ） 准教授 倉地恵子

科目コード：PEN302

専門／学年： ピアノ専門／専攻科 1 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要	フランス作品に取り組み、パートナーとの呼吸、音色、フレーズ感の合わせ方を更に学ぶ。連弾曲のレパートリーを研究し、様々な様式の連弾曲に取り組む。

到達目標 連弾曲を様々な角度から掘り下げ、内容の濃い演奏を目指す。

授業計画	後期 15 回、各人 30 分の個人指導。 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。レパートリーは、必要に応じて変更することがある。
------	--

第 1 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 テンポ感	事前	ドビュッシー『小組曲』またはフォーレ『ドリー』から 1 曲選び、読譜する	140 分
		事後	曲の時代背景と作曲家について調べる	140 分
第 2 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 音色	事前	タッチと音色について、自分のイメージを明確にする	140 分
		事後	パートナーと合わせをし、タッチや音色について、確認する	140 分
第 3 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 フレーズ感	事前	取り組む作曲家の他の楽器編成の作品（オーケストラや弦楽・器楽作品）を聴く	140 分
		事後	パートナーと合わせをし、呼吸やフレーズ感を合わせる練習をする	140 分
第 4 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 ニュアンス、ペダルの使い方	事前	強弱や細かいニュアンスに気を付けて、練習をする	140 分
		事後	パートナーと合わせをし、強弱やニュアンスを生かすペダリングを練習する	140 分
第 5 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 バランス	事前	全体の流れとバランスを意識して、練習をする	140 分
		事後	パートナーと合わせをし、お互いの響きを聴きながら 2 人で 1 つの音楽を作る	140 分
第 6 回	連弾 自由曲① テンポ感	事前	連弾曲のレパートリーを調べ、勉強する曲を選ぶ	140 分
		事後	曲の時代背景と作曲家について調べる	140 分
第 7 回	連弾 自由曲① 様式・形式	事前	形式を考えて、練習をする	140 分
		事後	パートナーと合わせをし、曲の構成と様式について話し合う	140 分
第 8 回	連弾 自由曲① 表現	事前	表現方法を考えて練習をする	140 分
		事後	パートナーと合わせをし、呼吸やフレーズ感を合わせる練習をする	140 分
第 9 回	連弾 自由曲① ニュアンス	事前	強弱や細かいニュアンスに気を付けて、練習をする	140 分
		事後	パートナーと合わせをし、強弱やニュアンスを生かすペダリングを練習する	140 分
第 10 回	連弾 自由曲① バランス	事前	全体の流れとバランスを意識して、練習をする	140 分
		事後	パートナーと合わせをし、お互いの響きを聴きながら 2 人で 1 つの音楽を作る	140 分
第 11 回	連弾 自由曲② テンポ感	事前	勉強する曲を選び、読譜を進める	140 分
		事後	曲の時代背景と作曲家について調べる	140 分
第 12 回	連弾 自由曲② 様式・形式	事前	形式を考えて、練習をする	140 分
		事後	パートナーと合わせをし、曲の構成と様式について話し合う	140 分
第 13 回	連弾 自由曲② 表現	事前	表現方法を考えて練習をする	140 分
		事後	パートナーと合わせをし、呼吸やフレーズ感を合わせる練習をする	140 分
第 14 回	連弾 自由曲② ニュアンス	事前	強弱や細かいニュアンスに気を付けて、練習をする	140 分
		事後	パートナーと合わせをし、強弱やニュアンスを生かすペダリングを練習する	140 分
第 15 回	連弾 自由曲② バランス	事前	全体の流れとバランスを意識して、練習をする	140 分
		事後	パートナーと合わせをし、お互いの響きを聴きながら 2 人で 1 つの音楽を作る	140 分

フィードバック 授業内での課題に対して、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価をする。課題 50%、授業態度 50%

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	□	□	☒	□

ピアノアンサンブル研究Ⅱ-1

実技科目主任（ピアノ）	准教授	倉地恵子	科目コード：PEN401
専門／学年：ピアノ専門／専攻科2年次			

形態：実技	単位数	1単位
概要 モーツァルトとブラームスの2台ピアノ曲のテンポ感・ニュアンス・表現について学ぶ。		

到達目標	より深い音楽表現を求めて、一体感と音楽的喜びを感じられる演奏を目指す。
------	-------------------------------------

授業計画	前期15回、各人30分の個人指導。 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。レパートリーは、必要に応じて変更することがある。
------	--

第1回	ガイダンス	1年間の学習計画を立てる	事前	2台ピアノのレパートリーを調べ、1年間で取り組みたい曲を数曲あげておく	140分
			事後	1年間の目標を設定し、勉強方針を立てる	140分
第2回	モーツァルト	2台ピアノ曲	事前	2台のピアノの為のソナタ KV448 ニ長調 第1楽章の読譜をする	140分
	テンポ感		事後	テンポが一定でふらつかない練習をする	140分
第3回	モーツァルト	2台ピアノ曲	事前	2台のピアノの為のソナタ KV448 ニ長調 第2楽章の読譜をする	140分
	様式		事後	作曲時の時代背景を調べる	140分
第4回	モーツァルト	2台ピアノ曲	事前	2台のピアノの為のソナタ KV448 ニ長調 第3楽章の読譜をする	140分
	表現		事後	表現方法を考えて演奏する	140分
第5回	モーツァルト	2台ピアノ曲	事前	ラルゲットとアレグロ 変ホ長調の読譜をする	140分
	ニュアンス		事後	作曲家の要求しているニュアンスを考えて演奏する	140分
第6回	モーツァルト	2台ピアノ曲	事前	KV426 フーガ ハ短調の読譜をする	140分
	響き		事後	力強く華やかな展開を感じとる練習をする	140分
第7回	モーツァルト	2台ピアノ曲	事前	オペラ「魔笛」序曲 KV620 の読譜をする	140分
	バランス		事後	オーケストラの響きを2台ピアノで表現する練習をする	140分
第8回	モーツァルト	2台ピアノ曲	事前	自動オルガンの為の小品（幻想曲）ヘ短調 KV608 の読譜をする	140分
	まとめ		事後	連弾曲との違いを感じとり演奏に結びつける	140分
第9回	ブラームス	2台ピアノ曲	事前	ブラームスのワルツ、ハンガリー舞曲から2〜3曲選び、読譜する	140分
	テンポ感		事後	オーケストラや弦楽・器楽など、違う編成の演奏を聴き、イメージを膨らませる	140分
第10回	ブラームス	2台ピアノ曲	事前	作曲時の時代背景を調べる	140分
	様式		事後	パートナーとフレーズの歌い方やタッチをお互い感じ取る練習をする	140分
第11回	ブラームス	2台ピアノ曲	事前	表現方法を考えて演奏する	140分
	表現		事後	パートナーと合わせをし、お互いの呼吸と流れを感じ取る練習をする	140分
第12回	ブラームス	2台ピアノ曲	事前	作曲家の要求しているニュアンスを考えて演奏する	140分
	ニュアンス		事後	パートナーと合わせをし、作曲家の求める細かい表現を探る	140分
第13回	ブラームス	2台ピアノ曲	事前	力強く華やかな展開を感じとる練習をする	140分
	響き、バランス		事後	パートナーと合わせをし、二人の響きとバランスを客観的に聴く	140分
第14回	ブラームス	2台ピアノ曲	事前	2台ピアノで立体感のある響きを表現できるように意識をして練習する	140分
	より大きな表現		事後	パートナーと合わせをし、オーケストラのような表現を追求する	140分
第15回	ブラームス	2台ピアノ曲	事前	全体の流れとバランスを意識して、練習をする	140分
	仕上げ		事後	パートナーと合わせをし、お互いの響きを聴きながら2人で1つの音楽を作る	140分

フィードバック	授業内での課題に対して、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。
---------	-------------------------------------

成績評価	授業態度により、評価をする。課題 50%、授業態度 50%
------	-------------------------------

テキスト	適宜授業内に指示する。
------	-------------

オフィスアワー	担当教員のレッスン室で対応する。
---------	------------------

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニ・プロジェクト	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐		☐	☒	☐	☐	☐	☒

ピアノアンサンブル研究Ⅱ-2

実技科目主任（ピアノ） 准教授 倉地恵子

科目コード：PEN402

専門／学年： ピアノ専門／専攻科2年次

形態：実技	単位数 1単位
概要	ピアノアンサンブル作品の研究を深め、2 台ピアノの表現の可能性を更に迫及する。ピアノ協奏曲にも取り組み、ソリストとしての奏法だけではなく、オーケストラパートをピアノで演奏する技術も学ぶ。

到達目標 より深い音楽表現を求めて、一体感と音楽的喜びを感じられる演奏を目指す。

授業計画	後期 15 回、各人 30 分の個人指導。 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。レパートリーは、必要に応じて変更することがある。
------	--

第 1 回	2 台ピアノ 自由曲① テンガ感	事前 2 台ピアノのレパートリーを調べ、取り組む曲を選ぶ 事後 作曲時の時代背景、作曲家について調べる	140 分 140 分
第 2 回	2 台ピアノ 自由曲① 様式、形式	事前 曲の様式を考えながら、弾きこむ 事後 パートナーとフレーズの歌い方やタッチをお互い感じ取る練習をする	140 分 140 分
第 3 回	2 台ピアノ 自由曲① 表現	事前 表現方法を考えて演奏する 事後 パートナーと合わせをし、お互いの呼吸と流れを感じ取る練習をする	140 分 140 分
第 4 回	2 台ピアノ 自由曲① 強弱、ニュアンス	事前 作曲家の要求しているニュアンスを考えて練習する 事後 パートナーと合わせをし、作曲家の求める細かい表現を探る	140 分 140 分
第 5 回	2 台ピアノ 自由曲① 響き・バランス	事前 曲の展開を感じながら、音の響きを意識して練習をする 事後 パートナーと合わせをし、二人の響きとバランスを客観的に聴く	140 分 140 分
第 6 回	2 台ピアノ 自由曲② テンガ感、様式	事前 新たに取り組む曲の読譜を進める 事後 作曲時の時代背景、作曲家について調べる	140 分 140 分
第 7 回	2 台ピアノ 自由曲② 表現	事前 表現方法を考えて演奏する 事後 パートナーと合わせをし、お互いの呼吸と流れを感じ取る練習をする	140 分 140 分
第 8 回	2 台ピアノ 自由曲② 響き・バランス	事前 曲の展開を感じながら、音の響きを意識して練習をする 事後 パートナーと合わせをし、二人の響きとバランスを客観的に聴く	140 分 140 分
第 9 回	2 台ピアノ 自由曲② より大きな表現	事前 2 台ピアノで立体感のある響きを表現できるように意識をして練習する 事後 パートナーと合わせをし、オーケストラのような表現を追求する	140 分 140 分
第 10 回	ピアノ協奏曲 自由曲 テンガ感	事前 新たに取り組むピアノ協奏曲の担当パートを読譜する 事後 作曲時の時代背景、作曲家について調べる	140 分 140 分
第 11 回	ピアノ協奏曲 自由曲 様式、形式	事前 曲の様式を考えながら、弾きこむ 事後 オーケストラのスコアを参照し、伴奏パートのイメージを明確にする	140 分 140 分
第 12 回	ピアノ協奏曲 自由曲 表現	事前 表現方法を考えて演奏する 事後 パートナーと合わせをし、お互いの呼吸と流れを感じ取る練習をする	140 分 140 分
第 13 回	ピアノ協奏曲 自由曲 強弱、ニュアンス	事前 作曲家の要求しているニュアンスを考えて練習する 事後 パートナーと合わせをし、作曲家の求める細かい表現を探る	140 分 140 分
第 14 回	ピアノ協奏曲 自由曲 響き・バランス	事前 曲の展開を感じながら、音の響きを意識して練習をする 事後 パートナーと合わせをし、二人の響きとバランスを客観的に聴く	140 分 140 分
第 15 回	ピアノ協奏曲 自由曲 仕上げ	事前 ソリストとしての奏法と、オーケストラパートの奏法の違いを考える 事後 立体感のある演奏を目指し、仕上げをする	140 分 140 分

フィードバック 授業内での課題に対して、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価をする。課題 50%、授業態度 50%

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

応用ピアノ伴奏法演習-1	
実技科目主任（ピアノ） 准教授 倉地恵子	科目コード：PLE301
専門／学年： 全専門／専攻科1年次	
形態：演習	単位数 1単位
概要	声楽曲と器楽曲の楽曲を幅広く扱い、伴奏の様々な役割について見ていく。呼吸法、フレージング、音色、ペダルの使用法についても研究する。
到達目標	ピアノの可能性を最大限に生かし、高度なアンサンブル能力を身につけることを目標とする。

授業計画				
第1回	伴奏とは 1年間の学習計画を立てる	事前	これまでの伴奏の経験を振り返り、伴奏の役割について考える	140分
		事後	バッハのヴァイオリンソナタ ロ短調 第1楽章のソリストと伴奏の関係を考える	140分
第2回	器楽曲の伴奏 様式	事前	バッハのヴァイオリンソナタ ロ短調 第1、2楽章を読譜する	140分
		事後	第2楽章の様式を確認する	140分
第3回	器楽曲の伴奏 ポリフォニー	事前	バッハのヴァイオリンソナタ ロ短調 第3楽章を読譜する	140分
		事後	ポリフォニーをよく聴き、練習をする	140分
第4回	山田耕作の作品『かやの木山の』 伴奏の役割について考える	事前	歌詞を読み、読譜する	140分
		事後	実際にソリストのパートを歌い、伴奏の必要性を考える	140分
第5回	木下牧子の作品『竹とんぼに』 アンサンブルを考える	事前	歌詞を読み、読譜する	140分
		事後	伴奏の音色について考える	140分
第6回	スカルラッチェの歌曲の伴奏『陽はすでにガンジス川から』 イタリア語のリズムを感じる	事前	歌詞を読んで内容を理解し、読譜する	140分
		事後	イタリア語のリズム、ブレスの合わせ方について考える	140分
第7回	シューベルトの歌曲『音楽を寄せて』 伴奏の低音部との二重唱	事前	歌詞を読んで内容を理解し、読譜する	140分
		事後	ペダルの使い方を考える	140分
第8回	シューベルトの歌曲『菩提樹』 情景の細かい表現について	事前	歌曲「冬の旅」について調べ、読譜する	140分
		事後	歌詞と音楽の関係について考える	140分
第9回	モーツァルト『フィガロの結婚』より『恋とはどんなものかしら』 オーケストラの音を表現する	事前	フィガロの結婚について調べ、読譜する	140分
		事後	ピッツィカートとレガートを同時に表現する	140分
第10回	トスティーの歌曲の伴奏『理想の人』 和声感	事前	歌詞を読んで内容を理解し、読譜する	140分
		事後	和声を感じ、曲の流れの作り方を意識する	140分
第11回	学内演奏会の曲の伴奏 バランスについて	事前	読譜をする	140分
		事後	ソロと伴奏の楽譜からバランスを考える	140分
第12回	学内演奏会の曲の伴奏 表現について	事前	ソロの音楽表現を感じとれる様に練習をする	140分
		事後	ソロの音楽表現に合わせられる様に練習をする	140分
第13回	学内演奏会の曲の伴奏 音色について	事前	ソロの音色を感じとれる様に練習をする	140分
		事後	ソロの音色に合わせられる様に練習をする	140分
第14回	学内演奏会の曲の伴奏 ブレスについて	事前	自分で実際に歌い、歌詞のリズムとブレスを確認する	140分
		事後	流れを失わずに自然なブレスの間が取れるように練習をする	140分
第15回	学内演奏会の曲の伴奏 仕上げ	事前	ソロの人と曲の内容を確認する	140分
		事後	ピアノのふたの開閉状態を考える	140分

フィードバック 授業内での課題の演奏、および学内演奏会での伴奏についてコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。課題 50%、授業態度 50%

テキスト 各自で、上記の楽譜を用意する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	□

応用ピアノ伴奏法演習-2

実技科目主任（ピアノ） 准教授 倉地恵子

科目コード：PLE302

専門／学年： 全専門／専攻科 1 年次

形態：演習	単位数 1 単位
概要	声楽曲と器楽曲の様々な楽曲を幅広く扱い、伴奏の様々な役割について見ていく。読譜、初見、奏法についても、さらなる向上を図る。

到達目標 ピアノの可能性を最大限に生かし、高度なアンサンブル能力を身につけることを目標とする。

授業計画			
第 1 回	オーディションの器楽曲の伴奏 バランス、表現、音色について	事前	伴奏部の読譜の確認をする 140 分
		事後	ソロ楽器の特性を考える 140 分
第 2 回	オーディションの器楽曲の伴奏 仕上げ	事前	音量やペダリングにも気を配り、アンサンブルを考える 140 分
		事後	ピアノのふたの開閉状態を考える 140 分
第 3 回	オーディションの声楽曲の伴奏 バランス、表現、音色について	事前	伴奏部の読譜の確認をする 140 分
		事後	歌詞の内容の確認をする 140 分
第 4 回	オーディションの声楽曲の伴奏 仕上げ	事前	ソロの人と曲の内容を確認する 140 分
		事後	広い空間での演奏を想定し、ソロの人との音のバランスをイメージする 140 分
第 5 回	自由曲①	事前	声楽曲、器楽曲、合唱曲の中から勉強したい曲を選び、読譜する 140 分
		事後	ソロパートと伴奏との関わりと役割について考える 140 分
第 6 回	自由曲②	事前	声楽曲、器楽曲、合唱曲の中から勉強したい曲を選び、読譜する 140 分
		事後	ソロパートと伴奏との関わりと役割について考える 140 分
第 7 回	合唱曲の伴奏（三善晃の作品） 合唱曲でのピアノの役割を考える	事前	作曲家の時代背景を調べる 140 分
		事後	ピアノが表現しなくてはならない音楽を考える 140 分
第 8 回	合唱曲の伴奏（新実徳英の作品） 伴奏の響きを聴く	事前	法人作曲家の合唱曲の流れを調べる 140 分
		事後	三善晃の作品の響きと新実徳英の作品の響きを比べてみる 140 分
第 9 回	合唱曲の伴奏 まとめ	事前	木下牧子の作品について調べる 140 分
		事後	混声合唱曲、女声合唱曲、男声合唱曲の伴奏の役割について考える 140 分
第 10 回	演奏試験曲の伴奏 器楽曲 バランスについて	事前	楽語を含め、読譜の確認をする 140 分
		事後	作曲家の時代背景を調べる 140 分
第 11 回	演奏試験曲の伴奏 器楽曲 表現について	事前	ピアノが表現しなくてはならない部分の練習をする 140 分
		事後	ソロと表現方法が同じであるか確認をする 140 分
第 12 回	演奏試験曲の伴奏 器楽曲 音色について	事前	ソロの音色を感じとれる様に練習をする 140 分
		事後	ソロの音色に合わせられる様に練習をする 140 分
第 13 回	演奏試験曲の伴奏 声楽曲 バランスについて	事前	楽語を含め、読譜の確認をする 140 分
		事後	ソロと伴奏の楽譜から、バランスを考える 140 分
第 14 回	演奏試験曲の伴奏 声楽曲 表現について	事前	歌詞の内容を調べる 140 分
		事後	ピアノが表現する情景や情感を考える 140 分
第 15 回	演奏試験曲の伴奏 声楽曲 音色について	事前	作曲家が要求している音色を考える 140 分
		事後	情景や情感に合った音色で演奏しているか確認をする 140 分

フィードバック 授業内での課題の演奏、および演奏試験での伴奏についてコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。課題 50%、授業態度 50%

テキスト 各自で、上記の楽譜を用意する。

オフィスアワー 各自で、上記の楽譜を用意する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐

ピアノ指導法研究-1

准教授 倉地恵子

科目コード：PLE401

専門／学年： ピアノ専門／専攻科2 年次

形態：演習	単位数 1 単位
概要	前期は、主に幼児の導入期から中期にかけての指導法を中心に、学習者の年齢、性格、レベルに合った適切な指導ができることを目指す。教材にも幅広く触れ、その活用法を学ぶ。学生による分析、発表、演奏も行う。

到達目標	国内外の様々な音楽教育の形態を見ていくことにより、ピアノ指導者として多角的な視野を持つこと、そしてそれをピアノ演奏にも生かすことを目標とする。
------	---

授業計画				
第 1 回	ピアノ指導者としての基本姿勢とは 指導法概論	事前	これまで受けてきた指導を振り返り、指導者として必要なことを考える	140 分
		事後	授業内容を振り返り、指導とコミュニケーションについて考える	140 分
第 2 回	導入期の指導 ピアノに向かう姿勢、手や腕の脱力、音色の追及	事前	導入期の技術面の指導で大切なことを具体的に考える	140 分
		事後	授業内容を理解し、様々なケースを想定して考える	140 分
第 3 回	導入期の指導 読譜と基礎を身につけるための習慣づけ	事前	導入期の指導で大切な習慣づけについて考える	140 分
		事後	授業内容を理解し、様々なケースを想定して考える	140 分
第 4 回	導入期の指導 ソルフェージュ、楽典	事前	導入期にソルフェージュや楽典を学ぶ必要性について考える	140 分
		事後	様々なソルフェージュの教材の活用法について考える	140 分
第 5 回	初級教本・教材について 代表的な各教本・教材のねらいと特徴、活用法を考察する	事前	自分が使用したことのある教本・教材について見直す	140 分
		事後	授業内容を復習し、それぞれのメソッドのメリットとデメリットを考える	140 分
第 6 回	基礎テクニック、エチュード ハノン、チェルニー、モショコフスキーなど	事前	自分が使用したことのある教材を見直す	140 分
		事後	日々の基礎練習について考える	140 分
第 7 回	バイエル、ブルグミュラーについて ディスカッション	事前	バイエルの特徴、そしてブルグミュラーの 25 の練習曲の活用法を考える	140 分
		事後	これらの教材の使い方を考える	140 分
第 8 回	J.S.バッハの小品 ポリフォニー作品の指導法について	事前	アンナ・マグダレーナのためのクラヴィーア小曲集について調べる	140 分
		事後	2 声のポリフォニー作品の指導の仕方を更に考える	140 分
第 9 回	シューマン《ユーゲントアルバム》Op.68 表現法、技術的アプローチ	事前	《ユーゲントアルバム》について調べる	140 分
		事後	授業内で扱った曲を弾いてみて、表現方法について考える	140 分
第 10 回	カバレフスキー《こどものためのピアノ小曲集》Op.39 表現法、技術的アプローチ	事前	《こどものためのピアノ小曲集》Op.39 について調べる	140 分
		事後	カバレフスキーの音色、タッチについて考える	140 分
第 11 回	バルトーク《ミクロコスモス》 ポリフォニー、リズム	事前	《ミクロコスモス》の成り立ち、作曲された背景を調べる	140 分
		事後	バルトークの様式やリズムについて調べる	140 分
第 12 回	ピアノ教育論 ネイガウス、アンスガー・ヤンケなど	事前	ネイガウス、ヤンケについて調べる	140 分
		事後	授業内容を理解し、情報を整理する。最後に発表する曲を決める	140 分
第 13 回	小品教材 チャイコフスキー、プロコフィエフなど	事前	ロシアの作曲家による、子供のための作品について調べる	140 分
		事後	授業内で扱った曲を実際に弾き、曲想や音色について考える	140 分
第 14 回	小品教材 三善晃、湯山昭、平吉毅州など	事前	日本人作曲家について調べる	140 分
		事後	授業内で扱った曲を実際に弾き、曲想や音色について考える	140 分
第 15 回	発表 第 8 回以降見てきた作曲家の作品から 1 曲選んで演奏し、指導のポイントを発表する	事前	発表の準備をする	140 分
		事後	授業内で扱った曲を実際に弾き、曲想や音色について考える	140 分

フィードバック 授業内での課題、発表の際にコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方 50% 発表 50%

テキスト 授業内で指示する。

オフィスアワー 授業終了後、教室で行う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・ 自然の理解	音楽実技 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	コミュニケーション スキル	音楽応用 スキル	論理的思考 力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・自 己管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自 発的発信力	グローバル な視野	社会的責 任・倫理観	生涯学習 意識	
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	

ピアノ指導法研究-2

准教授 倉地恵子

科目コード：PLE402

専門／学年： ピアノ専門／2 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	後期は日本と世界の音楽教育に触れ、マスタークラスの動画を視聴してディスカッションをするなど、様々な視点から指導法を追及する。様々な教材とその活用法を学び、学生による分析、発表、演奏も行う。

到達目標	国内外の様々な音楽教育の形態を見ていくことにより、ピアノ指導者として多角的な視野を持つこと、そしてそれをピアノ演奏にも生かしていくことを目標とする。
------	--

授業計画				
第 1 回	大人の指導法 レパートリーについて	事前	大人を指導する場合のレパートリーについて考える	140 分
		事後	大人の人の学びのプロセスを考える	140 分
第 2 回	ソナチネ・古典ソナタ 様式、構成、技術面での指導法	事前	古典作品の指導法について考える	140 分
		事後	授業内容を理解し、情報を整理する。	140 分
第 3 回	日本の指導者 安川加寿子ほか	事前	安川加寿子について調べる	140 分
		事後	日本の音楽教育について理解し、自分の意見をまとめる	140 分
第 4 回	世界の指導者① コルトー、ルフェビュールほか	事前	コルトーについて調べる	140 分
		事後	日本の音楽教育との違いについて考える	140 分
第 5 回	フランスの音楽教育 音色、テクニク	事前	フランス音楽教育について、知っていることをあげておく	140 分
		事後	フランスと日本の音楽教育の相違点について考える	140 分
第 6 回	ロシアの音楽教育 音色、テクニク	事前	ロシアの音楽教育について、知っていることをあげておく	140 分
		事後	ロシアと日本の音楽教育の相違点について考える	140 分
第 7 回	世界のマスタークラス① 視聴したのち、ディスカッションをする	事前	マスタークラスの曲を前もって見ておく（前週に配布予定）	140 分
		事後	ディスカッションの内容を振り返る	140 分
第 8 回	世界のマスタークラス② 視聴したのち、ディスカッションをする	事前	マスタークラスの曲を前もって見ておく(前週に配布予定)	140 分
		事後	ディスカッションの内容を振り返る	140 分
第 9 回	世界の指導者② ギーゼキング、フィッシャーほか	事前	フィッシャーについて調べる	140 分
		事後	授業内で学んだことを理解し、自分の意見をまとめる	140 分
第 10 回	J.S.バッハ フランス組曲 奏法、アーティキュレーション、運指	事前	古典舞曲について調べ、読譜する	140 分
		事後	それぞれの舞曲の特徴を復習する	140 分
第 11 回	モーツァルト ソナタ第 11 番 KV.331 第 1 楽章 変奏曲の指導について	事前	読譜し、変奏曲の奏法について考える	140 分
		事後	授業内容を振り返り、整理する	140 分
第 12 回	ショパン 前奏曲 Op.28-15 『雨だれ』 テンポ感、音色の変化、バランス	事前	『雨だれ』を読譜し、テンポ感、音色について考える	140 分
		事後	授業内容を理解し、情報を整理する	140 分
第 13 回	発表の準備 曲目の決定と、指導ポイントの考察	事前	発表する曲目を決め、楽譜の細部を見ていく	140 分
		事後	指導ポイントの確認	140 分
第 14 回	アンサンブルの指導 連弾曲	事前	シューベルトの連弾曲について調べる	140 分
		事後	連弾の指導について考える	140 分
第 15 回	発表 学生の選んだ曲を演奏し、具体的な指導のポイントを発表する	事前	発表の準備をする	140 分
		事後	自分の理想の指導の形について考える	140 分

フィードバック 授業内での課題、発表の際にコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方 50% 発表 50%

テキスト 授業内で指示する。

オフィスアワー 授業終了後、教室で行う。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	☒	☒	□	☒	□	☒	☒	□	☒	□

器楽アンサンブル研究(ウィンド)Ⅰ-Ⅰ・Ⅱ-Ⅰ

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS301／ENS401

専門／学年： 器楽専門／専攻科1～2 年次

形態：実習 単位数 1 単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 成果発表会に向け、授業時間をその練習に充て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。

第 1 回	ガイダンス・アンサンブル基礎概論	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	同属楽器アンサンブル実習 1・基礎	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	同属楽器アンサンブル実習 2・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	同属楽器アンサンブル実習 3・表現方法	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	同属楽器アンサンブル実習 4・立体的な演奏を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	同属楽器アンサンブル実習 5・精度の上げ方	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	同属楽器アンサンブル実習 6・まとめ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	混成楽器アンサンブル実習 1・混成編成概論	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	混成楽器アンサンブル実習 2・練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	混成楽器アンサンブル実習 3・バランスのとり方	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	混成楽器アンサンブル実習 4・オーケストレーション	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	混成楽器アンサンブル実習 5・表現を深める	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	混成楽器アンサンブル実習 6・精度の上げ方	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	混成楽器アンサンブル実習 7・まとめ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	成果発表会	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考 曲目は都度指定する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐

器楽アンサンブル研究（ウィンド）Ⅰ-2・Ⅱ-2

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS302／ENS402

専門／学年： 器楽専門／専攻科1～2 年次	
形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。
到達目標	2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に充て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。

第 1 回	楽曲リハーサル演習 1・ 秋のコンサート演奏曲・ ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	楽曲リハーサル演習 2・ 秋のコンサート演奏曲・ 練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	楽曲リハーサル演習 3・ ウィンドアンサンブル定期演奏会演奏曲・ ガイダンス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	楽曲リハーサル演習 4・ 秋のコンサート演奏曲・ 背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	楽曲リハーサル演習 5・ 秋のコンサート演奏曲・ 全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 6 回	楽曲リハーサル演習 6・ 秋のコンサート演奏曲・ 技術的解決方法を探る	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 7 回	楽曲リハーサル演習 7・ 秋のコンサート演奏曲・ 精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	楽曲リハーサル演習 8・ 秋のコンサート演奏曲・ 仕上げ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	楽曲リハーサル演習 9・ 定期演奏会演奏曲・ 練習方法を考察する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 10 回	楽曲リハーサル演習 10・ 定期演奏会演奏曲・ 背景を理解する	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 11 回	楽曲リハーサル演習 11・ 定期演奏会演奏曲・ 全曲の通し練習	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 12 回	楽曲リハーサル演習 12・ 定期演奏会演奏曲・ 技術的解決方法を探る	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	楽曲リハーサル演習 13・ 定期演奏会演奏曲・ 精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	楽曲リハーサル演習 14・ 定期演奏会演奏曲・ 精度を上げる	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	楽曲リハーサル演習 15・ 定期演奏会演奏曲・ 仕上げ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるための取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考 曲目は都度指定する

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

器楽アンサンブル研究Ⅰ-1・Ⅱ-1（その他の楽器）

実技科目主任（器楽） 特任教授 飯島和久

科目コード：IEN301/IEN401

専門／学年：器楽専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	アンサンブルをする場合における技術的な基本（和音におけるピッチの取り方、同種楽器・他楽器とのバランス、主旋律と副旋律、あるいは伴奏などの演奏法）を学ぶ。専攻科ではより高度な楽曲を学ぶ。

到達目標	初対面同士でもコミュニケーションも図りながらともに音楽をまとめ上げていけるようにする。 専攻科ではお互い意見を出しあい楽曲を仕上げてゆけるようにする。
------	--

授業計画	・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組むこと。	
------	---	--

第1回	自己紹介、グループ分け	事前	自己紹介の準備をする	50分
		事後	グループメンバー内の連絡方法を決める	50分
第2回	和音を重視した優しい楽曲を学ぶ(概要)	事前	〔個人練習〕譜読み	50分
		事後	〔個人練習〕復習して理解を深める	50分
第3回	上記の楽曲の基礎を学ぶ(部分練習)	事前	〔個人練習〕部分練習	50分
		事後	〔個人練習〕復習して理解を深める	50分
第4回	上記の楽曲の基礎を学ぶ(全体練習)	事前	〔個人練習〕全体練習	50分
		事後	〔個人練習〕復習して理解を深める	50分
第5回	上記楽曲を仕上げる	事前	〔グループ練習〕全体練習(仕上げ)	50分
		事後	〔グループ練習〕復習して理解を深める	50分
第6回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ(概要)	事前	〔個人練習〕譜読み	50分
		事後	〔個人練習〕復習して理解を深める	50分
第7回	上記の楽曲の基礎を学ぶ(部分練習)	事前	〔個人練習〕部分練習	50分
		事後	〔個人練習〕復習して理解を深める	50分
第8回	上記の楽曲の基礎を学ぶ(全体練習)	事前	〔個人練習〕全体練習	50分
		事後	〔個人練習〕復習して理解を深める	50分
第9回	上記楽曲を仕上げる	事前	〔グループ練習〕全体練習(仕上げ)	50分
		事後	〔グループ練習〕復習して理解を深める	50分
第10回	小発表会	事前	〔グループ練習〕ゲネプロ	50分
		事後	個人練習・反省点を振り返る	50分
第11回	小発表会反省会、櫻樹祭演奏会用グループ分け	事前	グループごとに集まり反省点を振り返る	50分
		事後	新しいグループの連絡方法を決める	50分
第12回	櫻樹祭演奏会用楽曲を学ぶ(概要)	事前	〔個人練習〕譜読み	50分
		事後	〔個人練習〕復習して理解を深める	50分
第13回	上記の楽曲の基礎を学ぶ(部分練習)	事前	〔個人練習〕部分練習	50分
		事後	〔個人練習〕復習して理解を深める	50分
第14回	上記の楽曲の基礎を学ぶ(全体練習)	事前	〔個人練習〕全体練習	50分
		事後	〔個人練習〕復習して理解を深める	50分
第15回	前期のまとめ	事前	〔グループ練習〕全体練習(仕上げ)	50分
		事後	〔グループ練習〕復習して理解を深める	50分

フィードバック 小発表会後に演奏内容、ステージマナー等のアドバイスでフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%
発表会等の演奏内容 50%

テキスト 特になし

オフィスアワー 授業後すぐに対応する。予約も可能

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

専門／学年：器楽専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	前期より難易度の高い楽曲を取り上げ、よりアンサンブル力を高める。 専攻科では自ら楽曲も選曲し場合によっては編曲もできるようにする。

到達目標	自分達の力である程度のレベルまで仕上げられるようにする。 ともに音楽を作る楽しさを味わえるようにする。
------	--

授業計画	・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組むこと。
------	---

第 1 回	前期の楽曲より難易度の高い楽曲を学ぶ（概要）	事前 事後	〔個人練習〕 譜読み 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 2 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	〔個人練習〕 部分練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	〔個人練習〕 全体練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 4 回	上記楽曲を仕上げる	事前 事後	〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 5 回	授業（ゲネプロ）後、櫻樹祭演奏会本番	事前 事後	〔グループ練習〕 ゲネプロ 個人練習・反省点を振り返る	50 分 50 分
第 6 回	櫻樹祭演奏会反省会、発表会グループ分け	事前 事後	グループごとに集まり反省点を振り返る 新しいグループの連絡方法を決める	50 分 50 分
第 7 回	発表会用楽曲を学ぶ（概要）	事前 事後	〔個人練習〕 譜読み 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 8 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	〔個人練習〕 部分練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 9 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	〔個人練習〕 全体練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 10 回	上記楽曲を仕上げる	事前 事後	〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 11 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要） 難易度も高い楽曲を学ぶ	事前 事後	〔個人練習〕 譜読み 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 12 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	〔個人練習〕 部分練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 13 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	〔個人練習〕 全体練習 〔個人練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 14 回	上記楽曲を仕上げる	事前 事後	〔グループ練習〕 全体練習（仕上げ） 〔グループ練習〕 復習して理解を深める	50 分 50 分
第 15 回	授業（ゲネプロ）後、発表会本番	事前 事後	〔グループ練習〕 ゲネプロ 一年で学んだことを振り返る	50 分 50 分

フィードバック 櫻樹祭のコンサート、発表会後に演奏内容、ステージマナー等のアドバイスでフィードバックする。

成績評価	授業態度 50% 発表会等の演奏内容 50%
テキスト	特になし

オフィスアワー 授業後すぐに対応する。予約も可能

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	☒	□	□	□

専門／学年： 器楽専門／専攻科1年次

形態：演習	単位数 1単位
概要	短期大学部2年間ではバロック、古典、ロマン、近代を中心に学んだが、専攻科では特に現代曲について追求する。 「現代音楽」は現代のすべての音楽ではなく、ある特定な音楽のことを示す。現代音楽の奏法、演奏法を習得する。

到達目標	現代音楽を演奏するためには特殊な技術を習得する必要がある。この器楽特殊研究では特殊技術を習得し作品を研究することを目標とする。
------	---

授業計画	専門により内容・進度が異なる場合もある。
------	----------------------

第1回	オリエンテーション 現代音楽についての概要	事前	現代音楽とは何か調べる	140分
		事後	いつの時代から現代音楽なのか歴史を調べる	140分
第2回	ハーモニックス① 演奏方法を学ぶ	事前	ハーモニックスとは何かを調べる	140分
		事後	ハーモニックスの練習をする	140分
第3回	ハーモニックス② 楽曲で演奏してみる	事前	ハーモニックスの楽曲を仕上げる	140分
		事後	ハーモニックスをまとめる	140分
第4回	フラッター奏法① 演奏方法を学ぶ	事前	フラッター奏法とは何かを調べる	140分
		事後	フラッター奏法の練習をする	140分
第5回	フラッター奏法② 楽曲で演奏してみる	事前	フラッター奏法の楽曲を仕上げる	140分
		事後	フラッター奏法をまとめる	140分
第6回	ヴォイス① 演奏方法を学ぶ	事前	ヴォイスとは何かを調べる	140分
		事後	ヴォイスの練習をする	140分
第7回	ヴォイス② 楽曲で演奏してみる	事前	ヴォイスの楽曲を仕上げる	140分
		事後	ヴォイスをまとめる	140分
第8回	重音① 演奏方法を学ぶ	事前	重音とは何かを調べる	140分
		事後	重音の練習をする	140分
第9回	重音② 楽曲で演奏してみる	事前	重音の楽曲を仕上げる	140分
		事後	重音をまとめる	140分
第10回	ホイッスルトーン① 演奏方法を学ぶ	事前	ホイッスルトーンとは何かを調べる	140分
		事後	ホイッスルトーンの練習をする	140分
第11回	ホイッスルトーン② 楽曲で演奏してみる	事前	ホイッスルトーンの楽曲を仕上げる	140分
		事後	ホイッスルトーンをまとめる	140分
第12回	キークラップ① 演奏方法を学ぶ	事前	キークラップとは何かを調べる	140分
		事後	キークラップの練習をする	140分
第13回	キークラップ② 楽曲で演奏してみる	事前	キークラップの楽曲を仕上げる	140分
		事後	キークラップをまとめる	140分
第14回	その他の現代奏法 演奏方法を学ぶ、楽曲で演奏してみる	事前	他の現代奏法を探す	140分
		事後	他の現代奏法をまとめる	140分
第15回	まとめ 現代奏法が必要な理由	事前	今まで学んだ全ての現代奏法を復習する	140分
		事後	今後、現代奏法を使用する場面を考える	140分

フィードバック 各現代奏法の楽曲演奏について常にフィードバックされる。

成績評価 楽曲演奏 25%、取り組み 50%、レッスン態度 25%

テキスト 教員の指示による。

オフィスアワー 授業前後、教員のレッスン室で実施
メールで予約も可能

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐

科目コード: ILE401

形態：演習

単位数 1 単位

形態：演習

単位数 1 単位

到達目標	授業で実際の指導を受講することで実践的な指導力を身につけているか確認。教育者、アンサンブル指導者、大合奏指導者として理論と知識を総合的に考え指導法を学ぶ。小・中・高、社会人への指導を想定し、現場で求められる指導を身につけることを目標とする。
------	--

第1回	個人レッスンの指導法①	事前	初めて専門のレッスンを受けた頃を思い出して書き留めておく	135分
	個人レッスン概論（児童からシニアまで）	事後	児童からシニアまでの指導法の違いをまとめる	135分
第2回	個人レッスンの指導法②	事前	初めて使用した教則本を用意し思い出してみる	135分
	教則本の選び方	事後	多種ある教本を楽譜店で探してみる	135分
第3回	個人レッスンの指導法③	事前	レッスンで必要なことを考える	135分
	レッスンの進め方（初・中級編）	事後	生徒それぞれのレッスン実施法を考える	135分
第4回	個人レッスンの指導法④	事前	個人レッスンのあり方について考える	135分
	個人レッスンの指導法まとめ	事後	レッスン室の環境をどのように整えるか考える	135分
第5回	個人レッスンの指導法④	事前	どのように募集するか考える	135分
	個人レッスンの指導法まとめ	事後	どのように運営するか考える	135分
第6回	アンサンブルの指導法②	事前	楽譜店やインターネットでアンサンブルの種類を把握する	135分
	曲の選曲法	事後	レベルに合った楽譜を探してみる	135分
第7回	アンサンブルの指導法③	事前	レッスン内容を考える	135分
	アンサンブル指導の進め方（初級編）	事後	初級者アンサンブルの指導をまとめる	135分
第8回	アンサンブルの指導法④	事前	レッスン内容を考える	135分
	アンサンブル指導の進め方（中・上級編）	事後	中・上級アンサンブル指導をまとめる	135分
第9回	アンサンブルの指導法⑤	事前	アンサンブル指導について質問を考える	135分
	アンサンブルの指導法まとめ	事後	アンサンブル指導法をまとめてみる	135分
第10回	吹奏楽等大合奏の指導法①	事前	大合奏の作り方を考える	135分
	大合奏概論と運営	事後	大合奏運営をイメージする	135分
第11回	吹奏楽等大合奏の指導法②	事前	専門以外の木管楽器の仕組みを調べる	135分
	得意分野以外の楽器を知る（弦楽器・木管編）	事後	木管楽器の仕組みをまとめる	135分
第12回	吹奏楽等大合奏の指導法③	事前	専門以外の金管・打楽器の仕組みを調べる	135分
	得意分野以外の楽器を知る（金管・打楽器編）	事後	金管楽器の仕組みをまとめる	135分
第13回	吹奏楽等大合奏の指導法④	事前	大合奏の配置を調べる	135分
	吹奏楽等大合奏の指導法まとめ	事後	大合奏の指導法をまとめる	135分
第14回	コンサートの企画と当日までのスケジュール	事前	コンサートまでのスケジュールをメモしてみる	135分
	チラシ、プログラム作成、会場打ち合わせ等	事後	本番当日までの準備をまとめてみる。	135分
第15回	指導法のまとめ	事前	指導とは何かを考える	135分
	まとめと今後の指導法	事後	今後の指導法を考える	135分

成績評価 授業に臨む姿勢・発言 50% 発表 50%

テキスト 必要なときに教員が用意する。

オフィスアワー 授業前後に対応。またメールでも対応している。

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐

副科実技（ピアノ）									
実技科目主任（ピアノ） 准教授 倉地恵子									
専門／学年： 器楽・声楽専門／専攻科1年次									
形態：実技									
単位数 2単位									
概要 ピアノ演奏に必要な技術を高め、曲の様式に合った音色と表現を追求する。									

到達目標	音楽への理解をより深めて、各自の専門領域で生かすことを目標とする。年度末に発表会を行う。
------	--

授業計画	隔週 20 分のグループ指導
------	----------------

第 1 回	1 年間の学習計画を立てる	事前	これまで学んできたレパートリーをまとめ、今後取り組みたい曲を選ぶ	105 分
第 2 回	基礎テクニックの確認 脱力、アーティキュレーションを中心に	事後	1 年間の目標を設定し、そのための課題と勉強方針を明確にする	105 分
		事前	レガート、スタッカート奏法、脱力について考え、ハノンの練習をする	105 分
		事後	手首の力の抜き方を確認し、スケールとアルペジオの練習をする	105 分
第 3 回	バロック・古典の曲に取り組む 読譜の確認	事前	作品を決め読譜をし、楽語を調べる	105 分
第 4 回	バロック・古典の曲に取り組む 形式・様式	事後	正しい読譜ができているか確認をする	105 分
		事前	曲が作曲された時代、作曲家について調べる	105 分
		事後	曲の構成を分析する	105 分
第 5 回	バロック・古典の曲に取り組む 和声感	事前	和声機能を確認して、練習する	105 分
第 6 回	自由曲 読譜の確認	事後	曲に合ったテンポを探索し、仕上げる	105 分
		事前	読譜をし、楽語を調べる	105 分
		事後	正しい読譜ができているか確認をする	105 分
第 7 回	自由曲 アーティキュレーション、音色	事前	楽譜から作曲家の意図を読み取り、アーティキュレーションなどの細部を見る	105 分
第 8 回	自由曲 強弱	事後	フレーズ感をもって演奏しているか確認をして、練習する	105 分
		事前	強弱の確認をして、練習をする	105 分
		事後	コントラストの付け方を考える	105 分
第 9 回	ペダリングの確認 踏みタイミングと、効果的な使い方について	事前	打鍵とペダルの関係について、確認する	105 分
第 10 回	発表会用の楽曲 読譜の確認	事後	音をよく聴き、ペダルを踏みかえる練習をする	105 分
		事前	読譜をし、楽語を調べる	105 分
		事後	正しい読譜ができているか確認をする	105 分
第 11 回	発表会用の楽曲 形式・様式	事前	曲が作曲された背景を調べる	105 分
第 12 回	発表会用の楽曲 表現	事後	曲の構成を分析する	105 分
		事前	表現方法を考えて、練習をする	105 分
		事後	表現する上で最適なテンポを探す	105 分
第 13 回	発表会用の楽曲 和声感	事前	和声機能の確認をして、練習をする	105 分
第 14 回	発表会用の楽曲 テンポ感	事後	暗譜しながら、曲の内容を意識する	105 分
		事前	最終的なテンポを設定する	105 分
		事後	暗譜を確実にし、弾き込む	105 分
第 15 回	発表会用の楽曲 仕上げ	事前	曲のイメージを明確に持ち、弾き込む	105 分
		事後	曲の完成度を高める	105 分

フィードバック 発表会での演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする

成績評価 発表会 30%、課題への取り組み 30%、授業態度 40%

テキスト ハノン他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐

専門／学年：ピアノ・器楽専門／専攻科１年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	実技グループレッスン形態で行う。 短期大学の副科声楽で学んだ基礎を元に、個々のレベルに合わせ、更に発展した声楽の歌曲などを学ぶ。

到達目標 色々な言語の歌曲などの語感や美しさに触れ、繊細な感性と自然で美しい歌唱法を習得する。

授業計画 年間 15 回、隔週 20 分のグループレッスン。個々のレベルにあった練習曲(コンコーネ 50 番又はコンコーネ 25 番)の伴奏付き歌唱、イタリア歌曲、ドイツリート、フランス歌曲、オペラなどからレベルにあった曲の伴奏付き歌唱。

第 1 回	個々のレベルに合わせて、練習曲、歌曲オペラなどから曲目を選択して、歌唱と言葉を学ぶ	事前 音楽練習	80 分
		事後 課題曲目の、ディクシヨンの練習、音楽練習	80 分
第 2 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱①	事前 個々の課題曲の練習①	80 分
		事後 個々の課題曲の練習①の復習	80 分
第 3 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱②又は、課題の曲が仕上がった場合は、新しい曲決める	事前 個々の課題曲の練習②	80 分
		事後 個々の課題曲の練習②の復習	80 分
第 4 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱③	事前 個々の課題曲の練習③	80 分
		事後 個々の課題曲の練習③の復習	80 分
第 5 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱④	事前 個々の課題曲の練習④	80 分
		事後 個々の課題曲の練習④の復習	80 分
第 6 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑤	事前 個々の課題曲の練習⑤	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑤の復習	80 分
第 7 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑥	事前 個々の課題曲の練習⑥	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑥の復習	80 分
第 8 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑦	事前 個々の課題曲の練習⑦	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑦の復習	80 分
第 9 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑧	事前 個々の課題曲の練習 ⑧	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑧の復習	80 分
第 10 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑨	事前 個々の課題曲の練習⑨	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑨の復習	80 分
第 11 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑩	事前 個々の課題曲の練習⑩	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑩の復習	80 分
第 12 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱⑪	事前 個々の課題曲の練習⑪	80 分
		事後 個々の課題曲の練習⑪の復習	80 分
第 13 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱の仕上げ	事前 個々の課題曲の仕上げ	80 分
		事後 個々の課題曲の仕上げ	80 分
第 14 回	個々の課題曲の伴奏付き歌唱の総仕上げ	事前 個々の課題曲の総仕上げ	80 分
		事後 個々の課題曲の総仕上げ	80 分
第 15 回	個々の課題曲総まとめ	事前 個々の課題曲総まとめ	80 分
		事後 個々の課題曲の総まとめ	80 分

フィードバック コンコーネ、個々の課題曲の楽曲に通じて歌唱表現や、テクニックを学ぶ。

成績評価 授業の積極的な取り組みなどから総合的に判断する。

テキスト 短期大学で購入した楽譜を使う。又は、適宜楽譜を配布する。

オフィスアワー レッスン室にてレッスン後行う。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション・技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

声楽アンサンブル研究Ⅱ

非常勤講師 栗田恵美子

専門／学年： 声楽専門／専攻科２年次

形態：実技	単位数 １単位
概要	オペラの重唱曲を取り上げ、演奏法の解釈、歌唱法、歌唱表現を学び、演技付きオペラ重唱曲を総合的に学ぶ。

到達目標	オペラの重唱曲を通じ、オペラに必要な歌唱テクニック、舞台での自然な動きを身につけ、更なる演奏技術の習得を目指す。
------	--

授業計画		
第 1 回	オペラ重唱曲のパート決めと音楽稽古①	事前 課題のオペラ作品を各自調べ研究する。 130 分 事後 重唱曲を復習し、原語の意味を調べる 140 分
第 2 回	オペラ重唱曲の音楽稽古②	事前 重唱曲の音楽練習とオペラの文献を調べ理解を深める 130 分 事後 課題のオペラの作品を鑑賞する。又、重唱曲の復習 140 分
第 3 回	オペラ重唱曲の音楽稽古③	事前 重唱曲の音楽練習 130 分 事後 課題のオペラの別の演出の作品を鑑賞し、演技の違いや歌い方など研究する 140 分
第 4 回	オペラの重唱曲の音楽稽古④	事前 重唱曲の音楽練習 130 分 事後 課題のオペラの別の演出の作品を鑑賞し、より深く歌唱法、演技を研究する。 140 分
第 5 回	オペラの重唱曲の荒立ち①	事前 重唱曲の音楽練習 130 分 事後 課題の重唱曲の演技の復習し、動き方を研究する 140 分
第 6 回	オペラ重唱曲の荒立ち②	事前 重唱曲の音楽練習と演技練習 130 分 事後 授業の復習と演技付き歌唱練習を練習する 140 分
第 7 回	オペラ重唱曲の演技付き歌唱稽古①	事前 演技付き歌唱練習 130 分 事後 演技付き歌唱の復習 140 分
第 8 回	オペラ重唱曲の演技付き歌唱稽古②	事前 演技付き歌唱練習 130 分 事後 演技付き歌唱の復習 140 分
第 9 回	オペラ重唱曲の演技付き歌唱稽古③	事前 演技付き歌唱練習 130 分 事後 他者とお互いに協力しながら演技練習をする 140 分
第 10 回	オペラ重唱曲の演技付き歌唱稽古④	事前 演技付き歌唱練習 130 分 事後 他者とお互いに協力しながら演技練習をする 140 分
第 11 回	オペラ重唱曲の演技付き歌唱稽古⑤	事前 演技付き歌唱練習 130 分 事後 他者とお互いに協力しながらより深く演技を研究する 140 分
第 12 回	オペラ重唱曲の演技付き歌唱仕上げ	事前 演技付き歌唱練習 130 分 事後 他者とお互いに協力しながら自然に演技が出来る様、繰り返し練習する 140 分
第 13 回	オペラ重唱曲の総まとめ①	事前 演技付き歌唱練習 130 分 事後 試演会に向けて演技付き重唱曲の復習 140 分
第 14 回	オペラ重唱曲の総まとめ②	事前 試演会に向けて演技付き重唱曲の練習 130 分 事後 試演会に向けて演技付き重唱曲の復習 140 分
第 15 回	試演会	事前 試演会に向けて重唱曲の練習 130 分 事後 総まとめ 140 分

フィードバック 試演会后、お互いの演奏にディスカッションする。

成績 試演会の演奏 70%、授業の態度 30%

テキスト 総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて配布する。

オフィスアワー 授業後レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐

重唱Ⅱ

教授 細谷美直

科目コード：VEN404

専門／学年： 声楽専門／専攻科2年次

形態：実技	単位数 1単位
概要	個人またはグループレッスンの形態。 アンサンブルを組む共演者（楽器奏者等）を伴い様々な時代の重唱を学び発表する。

到達目標	他声部を良く聴き、発声に留意しハーモニーをつくる。 ミサ曲・オラトリオ／オペラ作品／その他の重唱曲、それぞれの音楽的な構造、詩の内容、また役柄、役割等を踏まえ、それに相応しい表現を身につける。
------	---

授業計画				
第 1 回	ガイダンス 前期の学修計画を立てる	事前	重唱Ⅰの成果の確認	140 分
		事後	履修計画を確認し、具体的な計画を立てる	140 分
第 2 回	ミサ曲・オラトリオ作品より 1 読譜、発音を中心に	事前	読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する	140 分
		事後	詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分
第 3 回	ミサ曲・オラトリオ作品より 2 和声感、様式感を中心に	事前	読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する	140 分
		事後	詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分
第 4 回	ミサ曲・オラトリオ作品より 3 作品の理解を深める	事前	重唱曲の練習を進める	140 分
		事後	授業内で指摘を受けた点の改善	140 分
第 5 回	イタリア・オペラ作品より 1 読譜、発音を中心に	事前	読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する	140 分
		事後	詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分
第 6 回	イタリア・オペラ作品より 2 和声感、様式感を中心に	事前	読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する	140 分
		事後	詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分
第 7 回	イタリア・オペラ作品より 3 作品の理解を深める	事前	重唱曲の練習を進める	140 分
		事後	授業内で指摘を受けた点の改善	140 分
第 8 回	ドイツ・オペラ作品より 1 読譜、発音を中心に	事前	読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する	140 分
		事後	詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分
第 9 回	ドイツ・オペラ作品より 2 和声感、様式感を中心に	事前	読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する	140 分
		事後	詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分
第 10 回	ドイツ・オペラ作品より 3 作品の理解を深める	事前	重唱曲の練習を進める	140 分
		事後	授業内で指摘を受けた点の改善	140 分
第 11 回	日本のオペラ作品を中心に読譜し 作品の理解を高める	事前	読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する	140 分
		事後	詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分
第 12 回	日本のオペラ作品を深く掘り下げ 表現を高める	事前	重唱曲の練習を進める	140 分
		事後	授業内で指摘を受けた点の改善	140 分
第 13 回	取り上げた作品の中から試演会での発表曲を選ぶ	事前	選択した曲の楽語、単語の意味、詩の内容を再確認し練習する	140 分
		事後	授業内での問題点を確認し、解決を図る	140 分
第 14 回	試演会に向けて作品の習熟を深める 演奏の質の向上を図る	事前	選択曲をそれぞれの共演者と合わせ練習をする	140 分
		事後	選択曲をそれぞれの共演者と合わせ練習をし、向上を図る	140 分
第 15 回	試演会発表と合評 まとめ	事前	選択曲それぞれの暗譜の確認と表現法の研究をする	140 分
		事後	選択曲それぞれの演奏の質を高める	140 分

フィードバック 試演会を実施した後、成果と課題を話し合う。

成績評価 試演会 70％ 授業への積極的な取り組み 30％

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業終了後、担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑	☑	□	□	□

歌曲研究Ⅱ

教授 細谷美直

科目コード：VLE401

専門／学年： 声楽専門／専攻科2年次

形態：演習	単位数 1単位
概要	課題曲に加え、各々が選んだドイツ歌曲をグループレッソンの形態で演習する。

到達目標	比較的歌いやすいドイツ歌曲を選び、 歌唱のためのドイツ語の発音を中心に学ぶ。 それぞれの作品、作曲家、詩人への理解を深める。
------	---

授業計画	モーツァルト、シューベルト、シューマン等の歌曲の中から各受講者の声に合った曲を選び、それぞれ3～5曲を目標に演習する。 課題曲以外で各々が選んだドイツ歌曲を演習する。
------	--

第1回	試聴会、曲決め ドイツ語の発音法	事前	ドイツ歌曲（初心者はイタリア語の作品でも良い）を1曲準備する	140分
		事後	ドイツ語の発音法の復習	130分
第2回	シューベルトの歌曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前	課題曲について調べ、音取りをする	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第3回	シューベルトの歌曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前	課題曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第4回	シューベルトの歌曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前	課題曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第5回	モーツァルトの歌曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前	課題曲について調べ、音取りをする	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第6回	モーツァルトの歌曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前	選択曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第7回	モーツァルトの歌曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前	課題曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第8回	シューマン、ブラームス歌曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前	課題曲について調べ、音取りをする	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第9回	シューマン、ブラームス歌曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前	課題曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第10回	シューマン、ブラームス歌曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前	課題曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第11回	各自選択曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前	選択曲について調べ、音取りをする	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第12回	各自選択曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前	選択曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第13回	各自選択曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前	選択曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第14回	発表会のための練習	事前	発表する曲を選び、発音、詩の内容に留意しながら歌唱練習をする	140分
		事後	授業で指摘を受けた点を改善する	130分
第15回	発表会（作品研究の発表、並びに演奏）	事前	伴奏者と合わせを重ね発表会の準備をする	140分
		事後	録音を聴き反省	130分

フィードバック 試演会後に合評し、課題を見つけ今後に繋げる。

成績評価 試演会 70％ 授業への積極的な取り組み 30％

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー 授業終了後、担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニ・プロジェクト	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☑	☐	☑	☐	☑	☐	☑	☐	☐	☐	☐	☑	☑	☐	☐

民族音楽学特殊講義

非常勤講師 丸山洋司

科目コード：LEC305

専門／学年：全専門／専攻科 1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	本授業では、民族音楽学の視点と研究方法について、世界のさまざまな音楽を対象に行われた研究例を参照しながら考察する。地域別・ジャンル別にそれぞれの音楽文化を概説するのではなく、「響きと身体」「伝承と政策」「社会の中の音楽」という 3 つの視点から、複数の音楽文化を横断的に捉える研究の可能性を探る。
到達目標	民族音楽学という学問のもつ視点と方法を理解し、各自が関心を持っている音楽について、独自の視点から調査、研究することができるようになる。民族音楽学は、日本や欧米の音楽をふくめ、地球上のあらゆる音楽を扱う学問であることを理解し、その面白さに気づくようになる。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション：民族音楽学の視点と方法	事前 教科書 p.2～3 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 2 回	音楽と身体（１）ガムラン合奏における音楽的身体	事前 教科書 p.8～15 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 3 回	音楽と身体（２）音楽的身体の社会的形成	事前 教科書 p.15～18 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 4 回	聴こえるものと見えるもの（１）音を書き留めることの恣意性	事前 教科書 p.36～39 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 5 回	聴こえるものと見えるもの（２）記譜の方法によって変化する聴き方	事前 教科書 p.40～46 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 6 回	伝統芸能の伝承（１）伝承を助ける道具としての口唱歌	事前 教科書 p.62～68 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 7 回	伝統芸能の伝承（２）新しい伝承方法の模索	事前 教科書 p.68～71 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 8 回	無形文化財と韓国の文化政策（１）宗廟祭礼楽の「正当性」	事前 教科書 p.90～94 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 9 回	無形文化財と韓国の文化政策（２）巫俗儀礼から生まれたワールドミュージック	事前 教科書 p.95～99 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 10 回	東京藝術大学小泉資料室見学	事前 小泉資料室のホームページで展示されている楽器について予備調査する。 120 分 事後 見学时に最も興味を持った楽器について調べて情報をまとめる。 160 分
第 11 回	ローカルとグローバル（１）脱テリトリー化とハイパースペース	事前 教科書 p.130～136 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 12 回	ローカルとグローバル（２）文化伝承とハイパースペース	事前 教科書 p.136～139 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 13 回	グローバル化と著作権	事前 教科書 p.140～149 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 14 回	音・声・ことば（１）山歌に響く歌声	事前 教科書 p.50～57 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分
第 15 回	音・声・ことば（２）掛唄に響くことば	事前 教科書 p.57～59 を読んで理解し、関連する文献や動画を調べる。 120 分 事後 授業で取り上げた用語、視点や研究方法について、各自調べ、理解を深める。 160 分

- フィードバック
- ・授業時に教科書の内容についてどのように理解したかを発表してもらい、それに対してフィードバックする。

・教科書の内容に関わる文献や動画などを調べ、授業時に発表してもらい、その内容についてフィードバックする。

・授業時の発言や発表 50％ 期末レポート 50％

成績評価

テキスト

- 教科書
- ・徳丸吉彦監修、増野亜子編『民族音楽学 12 の視点』（音楽之友社、2016 年）

・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

- ・授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。 ball.60000622@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング

- ・学生は教科書の内容に関わる文献や動画を調べ、授業時に発表する。

備考

- ・東京藝術大学の小泉文夫資料室で楽器を閲覧する時間を設ける。実施日については学生と相談の上決める。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐

音楽心理学特殊講義

非常勤講師 佐藤典子

科目コード：LEC306

専門／学年：全専門／専攻科1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽心理学とは、音楽的行動（聴取、演奏など）とそれに随伴する精神活動についてのメカニズムの科学的な理解・説明を目指す心理学である。本講義では、現代の広範な音楽心理学を深く理解するため、関連諸領域の影響を含めた音楽心理学の源流、および多彩な変遷と展開について、新たな研究トピックスを交えつつ講じていく。主要テーマは、音楽の認知・感情・演奏の基礎的・応用的研究。
到達目標	演奏、音楽教育、音楽療法など、音楽的行動・活動に携わる学習者に必要な音楽心理学の基礎知識を身に付けるとともに、その研究法を学び、最前線の研究動向を知る中から、現在の音楽心理学の特徴および音楽教育、音楽療法との関係性などを俯瞰し、現場でも役に立つ力を養う。
授業計画	テキストとプリントを用いながら、以下の内容で講義とディスカッションを含む授業を行なう。

第 1 回	オリエンテーションへ講義の目的・内容・進め方など～	事前 事後	シラバスに目を通し、この科目履修の目的を明確にする。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 2 回	音楽心理学の歴史、研究法、主要なテーマ	事前 事後	テキスト第 1 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 3 回	音響学と聴覚心理学からの影響	事前 事後	テキスト第 2 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 4 回	楽音の知覚をテーマとする諸研究	事前 事後	テキスト第 3 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 5 回	旋律およびリズムの認知をテーマとする諸研究	事前 事後	テキスト第 4 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 6 回	音楽と記憶の関係をテーマとする諸研究	事前 事後	テキスト第 5 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 7 回	音楽と他の認知能力との関係～モーツァルト効果を中心として～	事前 事後	テキスト第 6 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 8 回	音楽と感情をテーマとする諸研究	事前 事後	テキスト第 7 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 9 回	音楽行動の発達をテーマとする諸研究	事前 事後	テキスト第 8 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 10 回	音楽活動に関する脳研究からのアプローチ	事前 事後	テキスト第 9 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 11 回	演奏に関する実証的研究とその応用	事前 事後	テキスト第 1 0 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 12 回	音楽の好みや個人特性との関係をテーマとする諸研究	事前 事後	テキスト第 1 1 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 13 回	音楽心理学と音楽療法との関係性	事前 事後	テキスト第 1 2 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 14 回	音楽の産業領域における位置づけに関わる諸研究	事前 事後	テキスト第 1 3 章を読んでおく。 ノートの整理と振り返りを行ない、コメントを提出する。	110 分 160 分
第 15 回	最終試験とまとめ	事前 事後	ノート全体の整理と振り返りを行なう。 試験の解答を自分で確認・振り返る。	110 分 160 分

フィードバック 授業後に、ほぼ毎回コメントの提出を求める。次の授業でコメントに対するフィードバックを行なう。

成績評価 試験の成績と授業への取り組み等を総合しておこなう。授業への取り組みおよび小課題（25 点）、レポート（25 点）、最終試験（50 点）。

テキスト 星野悦子（編著）『音楽心理学入門』誠信書房

オフィスアワー 授業後の教室にて対応する。メールでの質問も受け付ける。

備考 授業の進捗等によっては内容の順序が前後することもあり得る。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐		☒

室内楽Ⅰ-1・Ⅱ-1

特任教授 飯島和久

科目コード：IEN303／IEN403

専門／学年： 全専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要	「室内楽」では異なる楽器同士の学生と相談の上、室内楽曲を取り上げ授業を進める。その中で各楽器の特性や演奏法の違いを理解し、旋律と副旋律、伴奏の表現の違いを研究する。また時代背景も考慮し、その時代様式に即した表現方法を研究する。

到達目標	室内楽曲の演奏を通して異なる楽器同士のアンサンブルを、音色、音程、アタック、ニュアンス、和声を考慮し、アンサンブルの中で自分の役割を理解して演奏できるようになることを目標とする。
------	---

授業計画	・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で、自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。 ・必ずメンバーで合わせ練習をしてから授業に臨むこと。
------	--

第1回	オリエンテーション 取り上げる楽曲の選定	事前 古典の弦楽四重奏を数曲聴いてから授業に参加する 事後 演奏メンバーで話し合い、合わせの日程を決める	135 分 135 分
第2回	バロック音楽① 作品の時代背景や様式について	事前 必ずメンバーで合わせ練習をしてから授業に臨むこと 事後 各自時代背景を復習する	135 分 135 分
第3回	バロック音楽② 各楽器の音色の違いによる表現方法について	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自表現方法を復習する	135 分 135 分
第4回	バロック音楽③ 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自発音やニュアンスの表現法について復習する	135 分 135 分
第5回	バロック音楽④ 和声を考えた音程のとり方	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自和声を考えた音程のとり方を復習する	135 分 135 分
第6回	バロック音楽⑤ 形式を考慮した楽曲の完成	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自演奏形式を復習する	135 分 135 分
第7回	古典派音楽① 作品の時代背景や様式について	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自時代背景を復習する	135 分 135 分
第8回	古典派音楽② 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自表現方法を復習する	135 分 135 分
第9回	古典派音楽③ 和声を考えた音程のとり方	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自和声を考えた音程のとり方を復習する	135 分 135 分
第10回	古典派音楽④ 形式を考慮した楽曲の完成	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自演奏形式を復習する	135 分 135 分
第11回	発表会で演奏する楽曲① 作品の時代背景や様式について	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自時代背景を復習する	135 分 135 分
第12回	発表会で演奏する楽曲② 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自表現方法を復習する	135 分 135 分
第13回	発表会で演奏する楽曲③ 和声を考えた音程のとり方	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自和声を考えた音程のとり方を復習する	135 分 135 分
第14回	発表会で演奏する楽曲④ 形式を考慮した楽曲の完成	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自演奏形式を復習する	135 分 135 分
第15回	リハーサル 発表会に向けて仕上げる	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 発表会に向けて個人練習、合わせ練習をする。	135 分 135 分

フィードバック 発表会后教員からコメントを受けることでフィードバックとする。

成績評価 発表会の演奏 25％ 授業態度 25％ 授業の取り組み 50％

テキスト 教員からの指示あり

オフィスアワー 授業前後、メールでも予約を受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐

室内楽 I-2・II-2

特任教授 飯島和久

科目コード： IEN304／IEN404

専門／学年： 全専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要	「室内楽」では異なる楽器同士の学生と相談の上、室内楽曲を取り上げ授業を進める。その中で各楽器の特性や演奏法の違いを理解し、旋律と副旋律、伴奏の表現の違いを研究する。また時代背景も考慮し、その時代様式に即した表現方法を研究する。

到達目標	室内楽曲の演奏を通して異なる楽器同士のアンサンブルを、音色、音程、アタック、ニュアンス、和声を考慮し、アンサンブルの中で自分の役割を理解して演奏できるようになることを目標とする。
------	---

授業計画 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で、自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。

第1回	後期オリエンテーション 取り上げる楽曲の選定	事前	ロマン派、近代音楽の弦楽四重奏を数曲聴いてから授業に参加する	135分
		事後	演奏メンバーで話し合い合わせの予定を決める	135分
第2回	ロマン派音楽① 作品の時代背景や様式について	事前	必ずメンバーで合わせ練習をしてから授業に臨むこと	135分
		事後	各自時代背景を復習する	135分
第3回	ロマン派音楽② 各楽器の音色の違いによる表現方法について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自表現方法を復習する	135分
第4回	ロマン派音楽③ 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自発音やニュアンスの表現法について復習する	135分
第5回	ロマン派音楽④ 和声考えた音程のとり方	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自和声考えた音程のとり方を復習する	135分
第6回	ロマン派音楽⑤ 形式を考慮した楽曲の完成	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自演奏形式を復習する	135分
第7回	近代音楽① 作品の時代背景や様式について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自時代背景を復習する	135分
第8回	近代音楽② 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自表現方法を復習する	135分
第9回	近代音楽③ 和声考えた音程のとり方	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自和声考えた音程のとり方を復習する	135分
第10回	近代音楽④ 形式を考慮した楽曲の完成	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自演奏形式を復習する	135分
第11回	発表会で演奏する楽曲① 作品の時代背景や様式について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自時代背景を復習する	135分
第12回	発表会で演奏する楽曲② 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自表現方法を復習する	135分
第13回	発表会で演奏する楽曲③ 和声考えた音程のとり方	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自和声考えた音程のとり方を復習する	135分
第14回	発表会で演奏する楽曲④ 形式を考慮した楽曲の完成	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	各自演奏形式を復習する	135分
第15回	リハーサル 発表会に向けて仕上げる	事前	メンバーで合わせ練習を実施	135分
		事後	発表会に向けて個人練習、合わせ練習をする。	135分

フィードバック 発表会后教員からコメントを受けることでフィードバックとする。

成績評価 発表会の演奏 25% 授業態度 25% 授業の取り組み 50%

テキスト 教員からの指示あり

オフィスアワー 授業前後、メールでも予約を受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐

ウィンド・アンサンブル研究Ⅰ-1・Ⅱ-1

特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介

科目コード：ENS305／ENS405

専門／学年：全専門／専攻科 1～2 年次

形態：実習

単位数 1 単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 2 回の公開演奏会、成果発表会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。器楽専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

第 1 回	授業ガイダンス 美中の美 / J.P.スーザ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	合奏基礎 1 スケール、ユニゾン① 美中の美 / J.P.スーザ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	合奏基礎 2 スケール、ユニゾン② 第 1 組曲 / ホルスト	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	合奏基礎 3 チューニングについて考える 第 1 組曲 / ホルスト	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	合奏基礎 4 ハーモニー① 第 1 組曲 / ホルスト	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	合奏基礎 5 ハーモニー② 第 1 組曲 / ホルスト	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	合奏基礎 6 リズム① 祝典行進曲 / 團伊玖磨	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	合奏基礎 7 リズム② 祝典行進曲 / 團伊玖磨	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	合奏基礎 9 様式について② 祝典行進曲 / 團伊玖磨	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	合奏基礎 10 セクションのアンサンブル① 陽はまた昇る / P.スパーク	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	合奏基礎 11 セクションのアンサンブル② 陽はまた昇る / P.スパーク	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	合奏基礎 12 セクションのアンサンブル③ 陽はまた昇る / P.スパーク	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	前期成果発表会リハーサル①	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	前期成果発表会リハーサル②	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	前期成果発表会	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考 曲目は都度指定する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐

ウィンド・アンサンブル研究Ⅰ-2・Ⅱ-2																
特任教授 飯島和久／特任教授 福田洋介										科目コード：ENS306／ENS406						
専門／学年：全専門／専攻科 1～2 年次																
形態：実習					単位数 1 単位											
概要		多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。														
到達目標		年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。														
授業計画		履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。器楽専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる														
第 1 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 1・秋のコンサート演奏曲・ガイダンス	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。										50 分			
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。										50 分			
第 2 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 2・秋のコンサート演奏曲・練習方法を考察する	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。										50 分			
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。										50 分			
第 3 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 3・ウィンドアンサンブル定期演奏会演奏曲・ガイダンス	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。										50 分			
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。										50 分			
第 4 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 4・秋のコンサート演奏曲・背景を理解する	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。										50 分			
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。										50 分			
第 5 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 5・秋のコンサート演奏曲・全曲の通し練習	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。										50 分			
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。										50 分			
第 6 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 6・秋のコンサート演奏曲・技術的解決方法を探る	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。										50 分			
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。										50 分			
第 7 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 7・秋のコンサート演奏曲・精度を上げる	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。										50 分			
		事後	指摘された箇所の反復練習。										50 分			
第 8 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 8・秋のコンサート演奏曲・仕上げ	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。										50 分			
		事後	指摘された箇所の反復練習。										50 分			
第 9 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 9・定期演奏会演奏曲・練習方法を考察する	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。										50 分			
		事後	指摘された箇所の反復練習。										50 分			
第 10 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 10・定期演奏会演奏曲・背景を理解する	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。										50 分			
		事後	指摘された箇所の反復練習。										50 分			
第 11 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 11・定期演奏会演奏曲・全曲の通し練習	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。										50 分			
		事後	指摘された箇所の反復練習。										50 分			
第 12 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 12・定期演奏会演奏曲・技術的解決方法を探る	事前	公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。										50 分			
		事後	指摘された箇所の反復練習。										50 分			
第 13 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 13・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前	公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。										50 分			
		事後	指摘された箇所のさらなる反復練習。										50 分			
第 14 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 14・定期演奏会演奏曲・精度を上げる	事前	公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。										50 分			
		事後	指摘された箇所のさらなる反復練習。										50 分			
第 15 回	基礎合奏・楽曲レパートリー研究 15・定期演奏会演奏曲・仕上げ	事前	公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。										50 分			
		事後	指摘された箇所のさらなる反復練習。										50 分			
フィードバック		音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。														
成績評価		授業への積極的な取り組みにより評価する。														
テキスト		授業内に指示する。														
オフィスアワー		授業後直ぐに対応する。予約も可能。														
備考		曲目は都度指定する														

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考 曲目は都度指定する

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐

フルートオーケストラ研究Ⅰ-Ⅰ・Ⅱ-Ⅰ

特任教授
 飯島和久

科目コード
 : IEN307／IEN407

専門／学年： 器楽専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技		単位数 1 単位		
概要	日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。			
到達目標	この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶことを目標とする。専攻科生は短大時に経験していない特殊楽器を2種類は演奏できるようにする。			
授業計画	・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。 ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。			
第1回	特殊楽器を紹介・試奏 （ソプラノフルート・アルトフルート）（短大時に吹かなかった楽器を試奏）	事前	特殊楽器について調べる	105 分
		事後	ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105 分
第2回	特殊楽器を紹介・試奏 （バスフルート・コントラバスフルート）（短大時に吹かなかった楽器を試奏）	事前	特殊楽器について調べる	105 分
		事後	ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105 分
第3回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （フルートの弱点を知る）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第4回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （音合わせの仕方）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第5回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （音程の合わせ方）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第6回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （ユニゾンの音程の合わせ方）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第7回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （平均律、純正律を学ぶ）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第8回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （2声の音程の合わせ方）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第9回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （4声の音程の合わせ方）	事前	テキストの予習（コンサートフルートで確認をする）	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第10回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （担当楽器を決め、読譜を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第11回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （時代背景、演奏法を学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第12回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （テクニックを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第13回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （バランスを中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第14回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （表現を中心に学ぶ）	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第15回	発表会に向けて練習、後日発表会	事前	仕上げ	105 分
		事後	発表会后、教員コメント読み後期授業に役立てる。	105 分

フィードバック 毎回の課題に対し教員からのコメントをフィードバックとする。

成績評価 発表・コンサート 20％ 課題 40％ 授業態度 40％

テキスト 教員からの指示あり。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	□	□	☒	□

フルートオーケストラ研究Ⅰ-2・Ⅱ-2

特任教授 飯島和久

科目コード： IEN308／ IEN408

専門／学年： 器楽専門／専攻科 1～2 年次

形態：実技 単位数 1 単位

概要 日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。

到達目標 この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶことを目標とする。専攻科生は短大時に経験していない特殊楽器を 2 種類は演奏できるようにする。

授業計画			・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。 ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と 責任の心得を持って授業に取り組む事。		
第 1 回	コンサートに向け楽曲の練習 (譜読みを中心に学ぶ)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 2 回	コンサートに向け楽曲の練習 (時代背景、演奏法を学ぶ)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 3 回	コンサートに向け楽曲の練習 (和音を中心に学ぶ)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 4 回	コンサートに向け楽曲の練習 (テクニックを中心に学ぶ)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 5 回	コンサートに向け楽曲の練習 (音程を中心に学ぶ)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 6 回	コンサートに向け楽曲の練習 (音色を中心に学ぶ)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 7 回	コンサートに向け楽曲の練習 (バランスを中心に学ぶ)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 8 回	コンサートに向け楽曲の練習 (表現を中心に学ぶ)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105	分
第 9 回	コンサートに向け楽曲の練習 (仕上げ練習)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105	分
第 10 回	ゲネプロ (曲順で練習)、櫻樹祭コンサート	事前	櫻樹祭コンサートに向けて問題箇所を練習する	105	分
		事後	題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105	分
第 11 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (譜読みを中心に学ぶ)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105	分
第 12 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (時代背景、演奏法を学ぶ)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105	分
第 13 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (テクニックを中心に学ぶ)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105	分
第 14 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (表現を中心に学ぶ)	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105	分
第 15 回	ゲネプロ (曲順で練習)、授業後発表会	事前	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105	分
		事後	授業後の発表会でのアンケート、教員コメントを読み今後に役立てる。	105	分

フィードバック 毎回の課題に対し教員からのコメントをフィードバックとする。

成績評価

発表・コンサート 20％ 課題 40％ 授業態度 40％

テキスト

教員からの指示があり

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

声楽特殊研究

教授 細谷美直

科目コード：VLE402

専門／学年： 全専門／専攻科 2 年次

形態：演習	単位数 1 単位
概要	前半は日本歌曲の継承と発展を学ぶ 後半にドイツ歌曲のはじまりと代表的作品をグループレッソンの形態で演習する

到達目標	日本歌曲においては品詞による歌い分けにより自然な歌唱を目指す ドイツ歌曲は歌唱のためのドイツ語の発音を中心に学ぶ
------	---

授業計画	各回の授業内容は進度により変更することがある
------	------------------------

第 1 回	明治以前の日本のうた ～わらべうたの世界～	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 内容の理解を深める	30 分 30 分
第 2 回	近代音楽教育草創時代 母音の純化について	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 内容の理解を深める	30 分 30 分
第 3 回	唱歌の誕生 母音と準母音について	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 内容の理解を深める	30 分 30 分
第 4 回	童謡運動の展開 鼻濁音と促音について	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 内容の理解を深める	30 分 30 分
第 5 回	童謡の黄金時代とそれ以降 半母音および様々な子音の扱いについて	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 自分の考えをまとめる	30 分 30 分
第 6 回	日本歌曲の成立と創世記 滝廉太郎、山田耕作、信時潔、成田為三 他	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 発音に注意しながら復習する	30 分 30 分
第 7 回	日本歌曲の継承期 清瀬保二、橋本國彦、平井康三郎 他	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	30 分 30 分
第 8 回	日本歌曲の展開期 石桁真礼生、中田喜直、團伊玖磨 他	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	30 分 30 分
第 9 回	ドイツリートのはじまり シューベルトの歌曲 An die Musik	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	30 分 30 分
第 10 回	シューベルトの歌曲 An die Musik 作品の解釈と発音を中心に	事前 課題曲について調べる 事後 楽譜を用意し、音取りをする	30 分 30 分
第 11 回	ベートーヴェン、モーツァルトの歌曲 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	30 分 30 分
第 12 回	ベートーヴェン、モーツァルトの歌曲 作品の解釈と発音を中心に	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	30 分 30 分
第 13 回	学習したドイツ歌曲の復習 発表曲を選択する	事前 これまでの曲の復習をする 事後 ピアニストと伴奏合わせを重ねる	30 分 30 分
第 14 回	選択したドイツ歌曲の復習 ピアニストと伴奏合わせをする	事前 ピアニストと伴奏合わせを重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	30 分 30 分
第 15 回	発表（試験形式）とまとめ	事前 ピアニストと伴奏合わせを重ねる 事後 発表と講評（演奏を振り返る）	30 分 30 分

フィードバック 発表会後に合評し、課題を見つけ今後に繋げる。

成績評価 授業への取り組み 40％ 演奏 60％

テキスト 授業内で提示する。

オフィスアワー 授業終了後、担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒